

**平成 29 年度
市政世論調査結果報告書**

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で48回目を迎えます。市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らしや居住意向について」「人権全般に関する意識について」「ごみの分別・減量について」「景観（風景）について」「多文化共生のまちづくりについて」「男女共同参画について」「市内の公共交通について」「公共施設等のあり方について」「自治基本条例について」「医療費適正化（医療費通知）について」「市民農園について」「自殺防止について」「越谷市への愛着度について」「越谷市フィルムコミッション事業について」「越谷市の商店街について」「地域福祉（地域で支え合うしくみづくり）について」「老人福祉センターについて」「広報について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様にご心より御礼申し上げます。

平成29年11月

越谷市長 高橋 努

目次

第1章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第2章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第3章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 人権全般に関する意識について	17
3. ごみの分別・減量について	17
4. 景観（風景）について	17
5. 多文化共生のまちづくりについて	18
6. 男女共同参画について	18
7. 市内の公共交通について	18
8. 公共施設等のあり方について	19
9. 自治基本条例について	19
10. 医療費適正化（医療費通知）について	19
11. 市民農園について	19
12. 自殺防止について	20
13. 越谷市への愛着度について	20
14. 越谷市フィルムコミッション事業について	20
15. 越谷市の商店街について	20
16. 地域福祉（地域で支え合うしくみづくり）について	21
17. 老人福祉センターについて	21
18. 広報について	21
19. 越谷市の施策について	21

第4章 調査結果の詳細	23
1. 暮らしや居住意向について	25
(1) 現在の暮らし向き	25
(2) 居住意向	31
(3) 転居意向の理由	37
2. 人権全般に関する意識について	43
(1) 基本的人権の意識	43
(2) 人権意識の変化	45
(3) 関心のある人権問題	47
(4) 人権侵害を感じたこと	49
(5) 人権侵害を感じた内容	51
3. ごみの分別・減量について	53
(1) ごみの分別区分	53
(2) ごみを出す時に困ったこと	55
(3) 高齢者のごみの出し方	57
(4) ごみの減量及びリサイクルのためにしていること	59
4. 景観（風景）について	61
(1) 景観（風景）の満足度	61
(2) 行政に望むこと	63
5. 多文化共生のまちづくりについて	65
(1) 外国人市民とのつき合い	65
(2) 外国人市民との関係で困った経験	67
(3) 「多文化共生」という言葉の認知度	69
(4) 「多文化共生のまち」づくりに市が力を入れること	71
6. 男女共同参画について	73
(1) 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか	73
(2) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の有無－身体に対する暴力を受けた－	75
(3) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の有無－恐怖を感じる脅迫を受けた－	77
(4) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の有無－精神的な嫌がらせを受けた－	79
(5) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の有無－性的な行為を強要された－	81
(6) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けたときの相談の有無	83
(7) 相談した人（場所）	85
(8) 相談しなかった理由	87
7. 市内の公共交通について	89
(1) 公共交通の利用有無	89
(2) 公共交通の満足度	91

8. 公共施設等のあり方について	93
(1) 「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度	93
(2) 「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考え	95
(3) 「越谷市公共施設等総合管理計画」にそうすべきと思わない理由	97
9. 自治基本条例について	99
(1) 「越谷市自治基本条例」の認知度	99
(2) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ	101
(3) 市政への関心度	103
(4) 市政に関心を持ってもらうために必要なもの	105
10. 医療費適正化（医療費通知）について	107
(1) 加入保険	107
(2) 医療費通知の確認	109
(3) 医療費通知を受け取って思うこと	111
11. 市民農園について	113
(1) 「市民農園」での野菜づくり意向の有無	113
(2) 「市民農園」を利用するうえで重視する点	115
(3) 「市民農園」に求める設備やサービス	117
(4) 「市民農園」を利用したいと思う利用料金	119
12. 自殺防止について	121
(1) 死にたいと思ったこと	121
(2) 死にたいと思った理由	123
(3) 相談する人	125
(4) 自殺防止対策の相談窓口の認知度	127
(5) 効果的な自殺防止対策	129
13. 越谷市への愛着度について	131
(1) 越谷市への愛着	131
(2) 愛着がある理由	133
(3) 越谷市の誇れるもの	135
14. 越谷市フィルムコミッション事業について	137
(1) フィルムコミッション事業が地域活性化に貢献するか	137
(2) 貢献を期待する内容	139
(3) 貢献すると思う撮影場所	141
15. 越谷市の商店街について	143
(1) 商店街主催イベント等の認知度	143
(2) イベント等の商店街利用への影響	146
(3) 商店街の満足度	148
(4) 商店街に期待すること	154

1 6. 地域福祉（地域で支え合うしくみづくり）について	156
(1) 地域で困っている人がいた場合	156
(2) 地域で助け合うしくみに必要なもの	158
1 7. 老人福祉センターについて	160
(1) 老人福祉センターの認知度	160
(2) 老人福祉センターに期待すること	162
1 8. 広報について	164
(1) 市政情報を得ているもの	164
(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの	166
(3) 広報こしがや「お知らせ版」の感想	168
(4) 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点	170
(5) 広報こしがや「季刊版」の感想	171
(6) 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点	173
1 9. 越谷市の施策について	174
(1) よくなってきたと感じるもの	174
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	177
(3) 自由回答	180

第5章 調査票	185
----------------	------------

第 1 章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (6) 調査期間：平成29年6月23日～平成29年7月7日

3. 回収状況

	票数	回収率
配布数	5,000	
回収数	2,494	49.88%
有効回収数	2,492	49.84%

4. 調査項目

調 査 項 目
(1) 基本属性（問1～問7） (2) 暮らしや居留意向について（問8～問9-2） (3) 人権全般に関する意識について（問10～問13-2） (4) ごみの分別・減量について（問14～問17） (5) 景観（風景）について（問18～問19） (6) 多文化共生のまちづくりについて（問20～問23） (7) 男女共同参画について（問24～問26-3） (8) 市内の公共交通について（問27～問28） (9) 公共施設等のあり方について（問29～問30-2） (10) 自治基本条例について（問31～問33） (11) 医療費適正化（医療費通知）について（問34～問35-2） (12) 市民農園について（問36～問36-4） (13) 自殺防止について（問37～問40） (14) 越谷市への愛着度について（問41～問42） (15) 越谷市フィルムコミッション事業について（問43～問43-3） (16) 越谷市の商店街について（問44～問45） (17) 地域福祉（地域で支え合うしくみづくり）について（問46～問47） (18) 老人福祉センターについて（問48～問49） (19) 広報について（問50～問53-2） (20) 越谷市の施策について（問54～問55）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1丁目・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生愛宕町、蒲生南町、蒲生1～4丁目、蒲生西町1～2丁目、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、西方1～2丁目、相模町1～7丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、流通団地1～4丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計的に算出できる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b : 信頼度95%の標本誤差

N : 母集団のサイズ

n : 有効回収数 (=2,492)

P : サンプルの回答比率

ただし、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

上記の式に今回の数値をあてはめると、標本誤差は下表のようになる。

回答比率(P) 基数(n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±1.0%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.4%	±1.4%
2,492	±0.9%	±1.2%	±1.6%	±1.8%	±1.9%	±2.0%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.8%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.4%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

(小数点以下第2位を四捨五入)

7. 集計結果の有意性について

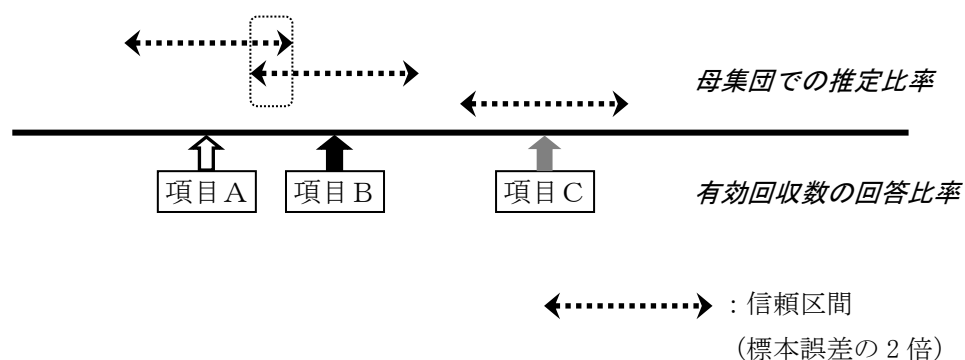
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,492票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差は±2.0%となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差±2.0%分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 2.0\%$ (=48.0%~52.0%) という一定の幅を持った値(信頼区間)として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が4.0%(標本誤差の2倍)以上でなければ意味をなさない(有意性を持たない)ものとなる(下図参照)。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票そこそこの回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において±9.8%となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数が2,492票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間(今回の調査の場合は4.0%程度)未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

<項目Bは項目Aよりも優位に高いとはいえない場合>



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、**数値の合計は100%を前後する場合がある。**
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 図表中の「-」は該当者なしを表す。
- (7) 割合の表記については、下記のとおり。
例 40%台

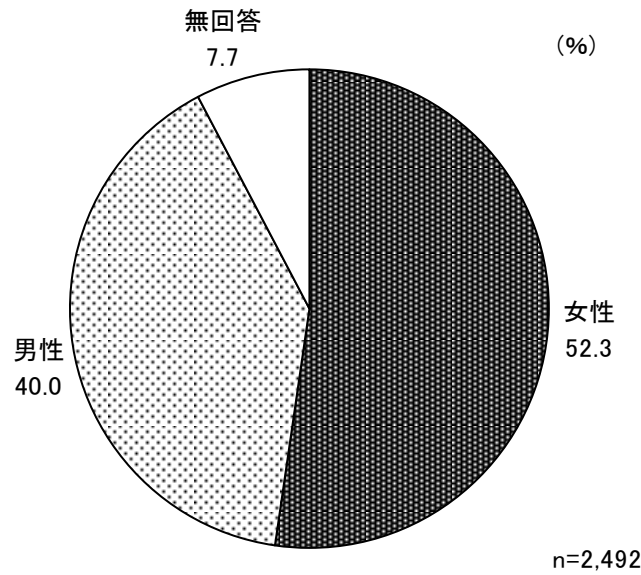
表記	約4割（4割）	4割強	4割半ば	5割弱	約5割（5割）
範囲	39.0～41.9% (40.0%)	42.0～43.9%	44.0～46.9%	47.0～48.9%	49.0～51.9% (50.0%)

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

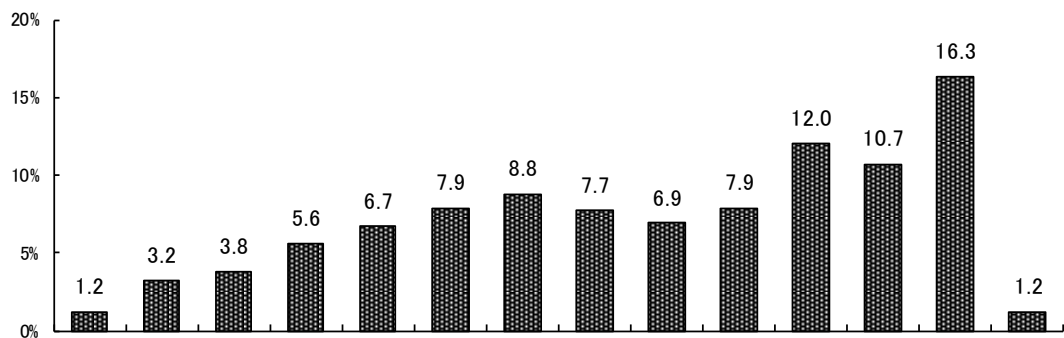
1. 性別

問1. あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)



2. 年代

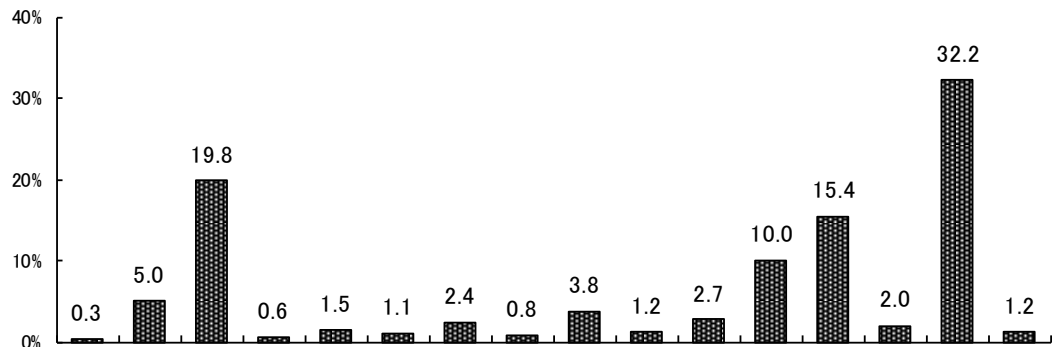
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)



	調査数	18歳	20歳	22歳	24歳	26歳	28歳	30歳	32歳	34歳	36歳	38歳	40歳	42歳	44歳	無回答
合計	2,492(人)	29	80	95	139	168	198	219	193	173	198	298	266	406	30	
	100(%)	1.2	3.2	3.8	5.6	6.7	7.9	8.8	7.7	6.9	7.9	12.0	10.7	16.3	1.2	
女性	1,304(人)	11	37	53	86	99	107	121	110	100	101	150	137	186	6	
	100(%)	0.8	2.8	4.1	6.6	7.6	8.2	9.3	8.4	7.7	7.7	11.5	10.5	14.3	0.5	
男性	996(人)	18	40	39	49	67	86	87	78	69	83	120	98	155	7	
	100(%)	1.8	4.0	3.9	4.9	6.7	8.6	8.7	7.8	6.9	8.3	12.0	9.8	15.6	0.7	
無回答	192(人)	-	3	3	4	2	5	11	5	4	14	28	31	65	17	
	100(%)	-	1.6	1.6	2.1	1.0	2.6	5.7	2.6	2.1	7.3	14.6	16.1	33.9	8.9	

3. 職業

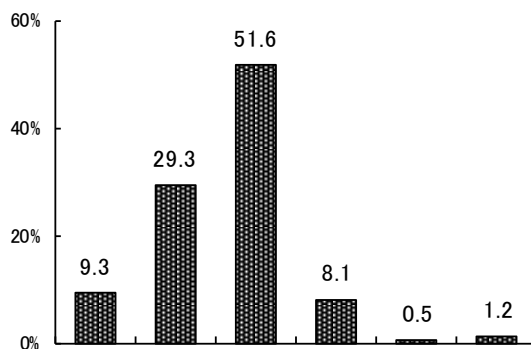
問3. あなたのご職業は次のうちどれに当たりますか。(〇は1つ)



	調査数	農業	市内会社員	市外会社員	小売店自営業	建築関係自営業	製造関係自営業	サービス関係自営業	自由業	公務員	団体職員	学生	家事従業	パートタイマー	その他	無職	無回答
合計	2,492(人)	8	124	494	16	37	27	59	19	95	29	68	248	384	50	803	31
	100(%)	0.3	5.0	19.8	0.6	1.5	1.1	2.4	0.8	3.8	1.2	2.7	10.0	15.4	2.0	32.2	1.2

4. 世帯の状況

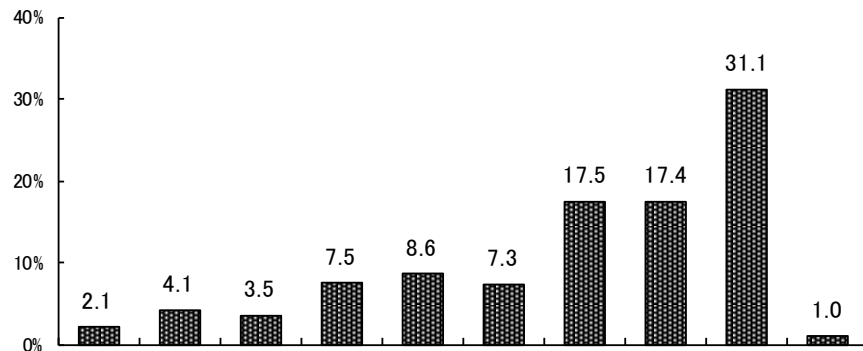
問4. あなたの世帯は次のうちどれに当たりますか。(〇は1つ)



	調査数	単身世帯(ひとり暮らし)	一世帯世帯(兄弟姉妹のみ)	二世帯世帯(親子など)	三世帯世帯(親と子と孫など)	その他	無回答
合計	2,492(人)	233	729	1,286	201	13	30
	100(%)	9.3	29.3	51.6	8.1	0.5	1.2

5. 居住年数

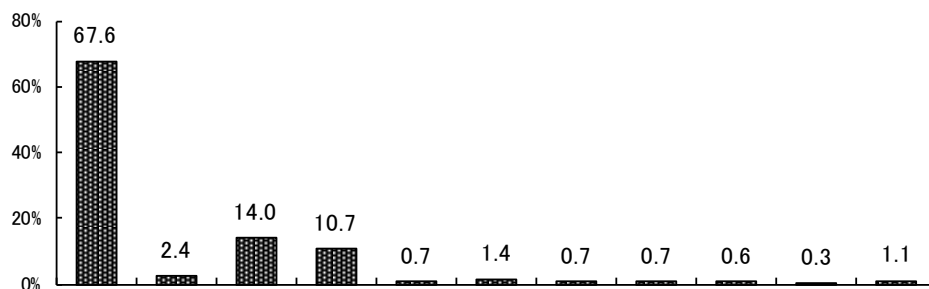
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



	調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40年以上	無回答
合計	2,492(人)	53	101	88	188	214	181	435	433	774	25
	100(%)	2.1	4.1	3.5	7.5	8.6	7.3	17.5	17.4	31.1	1.0

6. 居住形態

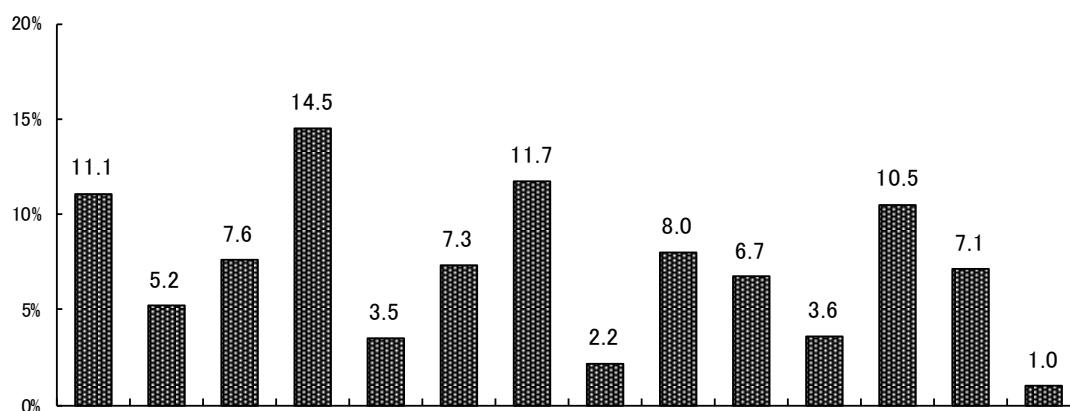
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	アパート	民間賃貸マンション・アパート	マンション	公団・公社等分譲マンション	公団・公社等賃貸マンション	社宅・官舎	宿舎	間借り・下宿・寮・寄宿舎	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合計	2,492(人)	1,685	59	348	266	17	34	18	17	14	7	27			
	100(%)	67.6	2.4	14.0	10.7	0.7	1.4	0.7	0.7	0.6	0.3	1.1			

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合計	2,492(人)	277	130	189	361	86	183	292	56	199	168	90	261	176	24
	100(%)	11.1	5.2	7.6	14.5	3.5	7.3	11.7	2.2	8.0	6.7	3.6	10.5	7.1	1.0

第3章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

現在の暮らし向きについては、「十分満足している」と「十分とはいえないが一応満足している」を合わせた『満足』は5割強となっている。

今後の居住意向については、「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は7割強となっている。

『転居意向』の主な理由は、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」「交通の便が悪いので」「現在、住んでいる住宅が狭いので」がそれぞれ1割強と多くなっている。

2. 人権全般に関する意識について

今の日本社会における基本的人権については、「十分尊重されている」と「やや尊重されている」を合わせた『尊重されている』は6割半ばとなっている。

10年前と比べた一人ひとりの人権意識については、「変わっていない」が4割強、「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』が約4割となっている。

関心のある人権問題については、「高齢者の人権問題」が4割強と最も多く、「インターネット上における人権問題」が4割弱と続く。

日常生活の中で人権が侵害されたと感じたことがあるかについては、「ある」が約2割となっており、その内容は「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」がともに5割弱となっている。

3. ごみの分別・減量について

ごみの分別区分については、「ちょうど良い」が9割弱と最も多くなっている。

ごみを出す時に困ったことについては、「ごみをカラスに荒らされるので困っている」が約4割と最も多く、「ごみ収集用のかごの出し入れが大変である」が2割強と続く。

高齢者のごみの出し方については、「今までどおりステーション方式でよい」が4割半ばと最も多く、「ごみを出すことが困難な世帯のみ無料の戸別収集を行う」が4割弱と続く。

ごみの減量及びリサイクルのためにしていることについては、「古紙類や空き缶などを資源回収に出している」が7割強と最も多く、「マイバッグを使用し、レジ袋をもらわないようにする」「詰替え製品を利用する」がともに5割半ばと続く。

4. 景観（風景）について

住まいの地区の景観（風景）の満足度は、「満足している」と「十分とはいえないが、概ね満足している」を合わせた『満足』が7割弱となっている。

良い景観（風景）のまちをつくるため行政に望むものでは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が4割強と最も多く、「目標や基本方針を住民に示す」が約4割と続く。

5. 多文化共生のまちづくりについて

近くに住む外国人市民とのつき合いについては、「近くに住んでいない、または近くに住んでいるかどうかわからない」が約7割と最も多く、「あいさつをする程度のつきあいがある」と「親しくつきあっている」を合わせた『つきあいがある』は1割半ばとなっている。

近くに住む外国人市民との関係で困った経験については、「特になし」が7割半ばとなっている。

「多文化共生」という言葉の認知度については、「聞いたことがあり、意味も理解している」と「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」を合わせた『聞いたことがある』は約6割となっている。

「多文化共生のまち」づくりに市が力を入れることについては、「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」が5割半ばと最も多く、「外国人市民に対して、日本語の学習を支援する」「外国人と日本人の交流やイベントを行う」がともに3割強と続く。

6. 男女共同参画について

1日の生活で希望どおりの時間配分ができているかについては、「そう思う」と「どちらかといえればそう思う」を合わせた『そう思う』は6割弱となっている。

これまでに配偶者・パートナー・恋人から受けた暴力（ドメスティック・バイオレンス）「以下DV」については、「何度もあった」と「1～2度あった」を合わせた『あった』で、「暴言・人格否定・長期間の無視・交友関係や行き先など細かく監視等の、精神的な嫌がらせを受けた」が1割半ばと最も多く、「殴る・蹴る・物を投げつける・突き飛ばす等の、身体に対する暴力を受けた」が1割強と続く。

DVを受けたときの相談の有無については、「相談した」が3割半ば、「相談できなかった」と「相談しようとは思わなかった」を合わせた『相談しなかった』が6割となっている。

DVを受けたときに相談した人（場所）では、「家族・親せき」が6割弱と最も多く、「友人・知人」が5割強と続く。一方、相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が5割半ばと最も多く、「相談しても無駄だと思ったから」が約3割と続く。

7. 市内の公共交通について

鉄道は「常に利用している」が3割弱と最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は約8割となっている。

バスは「たまに利用している」が3割強と最も多く、『満足』は5割半ばとなっている。

タクシーは「たまに利用している」と「全く利用しない」がともに約4割と多く、『満足』は約6割となっている。

8. 公共施設等のあり方について

「越谷市公共施設等総合管理計画」については、「知らない」が7割半ばとなっている。

「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考えは、「そうすべきと思う」と「どちらかといえばそうすべきと思う」を合わせた『そうすべきと思う』は約6割となっている。一方、「そうすべきとは思わない」と「どちらかといえばそうすべきとは思わない」を合わせた『そうすべきとは思わない』と回答した人の理由は、「維持費がかからないよう工夫すればいいと思うから」が約4割と最も多く、「公共施設の場所が遠くなると思うから」「地域の活力が失われると思うから」がともに3割半ばと続く。

9. 自治基本条例について

「越谷市自治基本条例」については、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は約1割で、「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけについては、「広報こしがや」が8割強と最も多くなっている。

市政への関心については、「とても関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた『関心がある』は約5割となっている。

市政に関心を持ってもらうために必要なものについては、「市政に関する情報をわかりやすく公開する」が約6割と最も多く、「市政に関する情報を公開する機会を増やす」が4割弱と続く。

10. 医療費適正化（医療費通知）について

加入保険については、「被用者保険」が4割弱と最も多く、「国民健康保険組合」が2割半ばと続く。

医療費通知の内容については、「確認している」が7割強で、医療費通知を受け取ったことで「健康な身体づくりを意識しようと思う」「医療機関への適正な受診を心がけようと思う」がともに7割弱となっている。

11. 市民農園について

「市民農園」で、畑を借りて野菜づくりをしたいと思う人は約2割となっている。

「市民農園」を利用するうえで重視する点は「場所」が8割弱と最も多く、求める設備やサービスは「水道施設」が7割半ばと最も多くなっている。また、利用したいと思う利用料金は「年間10,000円～20,000円未満」が8割強となっている。

1 2. 自殺防止について

今までに「死にたい」と思ったことがある人は約2割で、その理由は「家庭問題」が3割強と最も多く「仕事問題」「経済・生活問題」がともに約3割と続く。

「死にたい」と思うくらい悩んだときには「誰にも相談しないと思う」が約3割となっている。市には自殺防止対策の相談窓口があることを知っている人は約2割となっている。

自殺防止に最も効果的な対策については、「健康や病気に関する相談」が2割半ばと最も多く、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」が2割強と続く。

1 3. 越谷市への愛着度について

越谷市への愛着については、「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』は7割強となっている。

愛着がある理由は、「交通の利便性がよく、都内等に近い」が約7割と最も多く、「ショッピング施設や商店街が豊富」が5割弱と続く。

越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」が約6割と最も多く、「南越谷阿波踊り」が4割強と続く。

1 4. 越谷市フィルムコミッション事業について

フィルムコミッション事業が地域活性化に貢献するかについては、「思う」と「少し思う」を合わせた『思う』は6割強となっている。

貢献すると思う人が期待する内容では、「市の知名度向上」が7割半ばと最も多く、「地域経済効果」が4割強と続く。

貢献すると思う撮影場所は、「商業施設（商店街・イオンレイクタウン・越谷ツインシティなど）」が6割半ばと最も多く、「水や緑の豊かな景観（花田苑・キャンベルタウン野鳥の森・大相模調節池・元荒川土手・田園風景など）」が約6割と続く。

1 5. 越谷市の商店街について

商店街主催のイベント等について、「利用・参加したことがある」と「利用・参加したことはないが知っている」を合わせた『認知度』は、「商店街の歳末福引」が4割半ばと最も多く、「商店街の中元福引」が約4割、「商店街発行のガイドブックやマップ等」「商店街のポイントカード事業」がともに3割半ばと続く。なお、「利用・参加したことがある」では、「商店街の歳末福引」「商店街の中元福引」がともに1割半ばとなっている。

イベント等の商店街利用への影響については、「イベント等に参加していないが、今後商店街を利用したい」が3割強と最も多く、「イベントをきっかけに商店街を利用し、今後も利用したい」は1割強となっている。

身近な商店街の満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「接客サービスやおもてなし等」と「ポイントカード等のお得なサービスの実施状況」で2割弱となっている。

商店街に期待することについては、「地域の防犯や防災に対する取組み（街路灯や防犯カメラなど）」「個店の商品力（品揃えの充実、質の高い商品の取扱いなど）」がともに2割弱と多く、「空き店舗対策への取組み（店舗やオフィスの誘致）」が1割半ばと続く。

16. 地域福祉（地域で支え合うしくみづくり）について

地域で困っている人がいた場合については、「頼まれれば支援したい」が4割半ばと最も多く、「自ら積極的に支援したい」を合わせた『支援したい』は5割強となっている。

地域で助け合うしくみに必要なものについては、「どこに相談すればよいか分からない時に、解決の糸口をつかめる相談窓口」が約6割と最も多く、「近所づきあい」が3割強と続く。

17. 老人福祉センターについて

老人福祉センターについては、「利用したことがある」は約1割、「知っているが、利用したことはない」を合わせた『知っている』は8割弱となっている。

老人福祉センターに期待することについては、「高齢者に関する各種相談の充実（生活相談・健康相談）」「健康づくりの充実（健康体操・リハビリ・食生活講座）」がともに約5割と多くなっている。

18. 広報について

市政情報を主に得ているものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が6割半ばと最も多くなっている。

市政情報を得るために活用したことがあるものでは、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が9割強と最も多く、「越谷市公式ホームページ」が2割半ばと続く。

広報こしがや「お知らせ版」は、「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」を合わせた『わかりやすい』が6割半ば、広報こしがや「季刊版」は『わかりやすい』が約6割となっている。

19. 越谷市の施策について

越谷市で進めている施策について、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が約4割と最も多く、「バス路線等公共交通網の充実」が2割弱と続く。

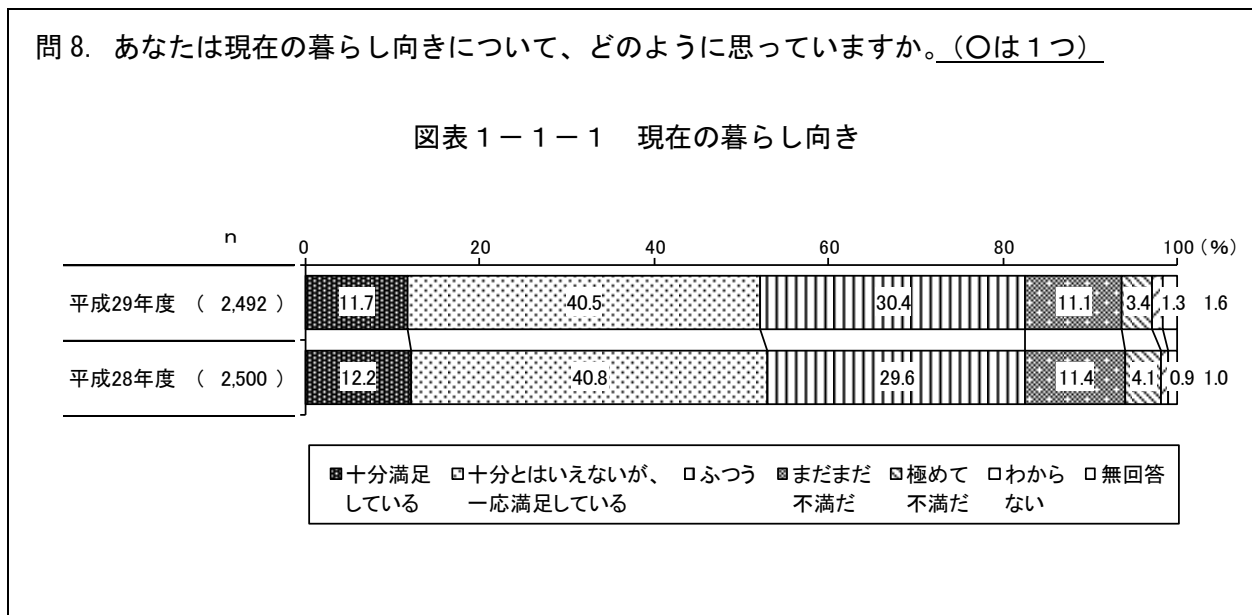
今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「防犯対策」と「水害や地震などの災害対策」が約3割と多くなっている。

第4章 調査結果の詳細

1. 暮らしや居住意向について

(1) 現在の暮らし向き

◇『満足』が5割強

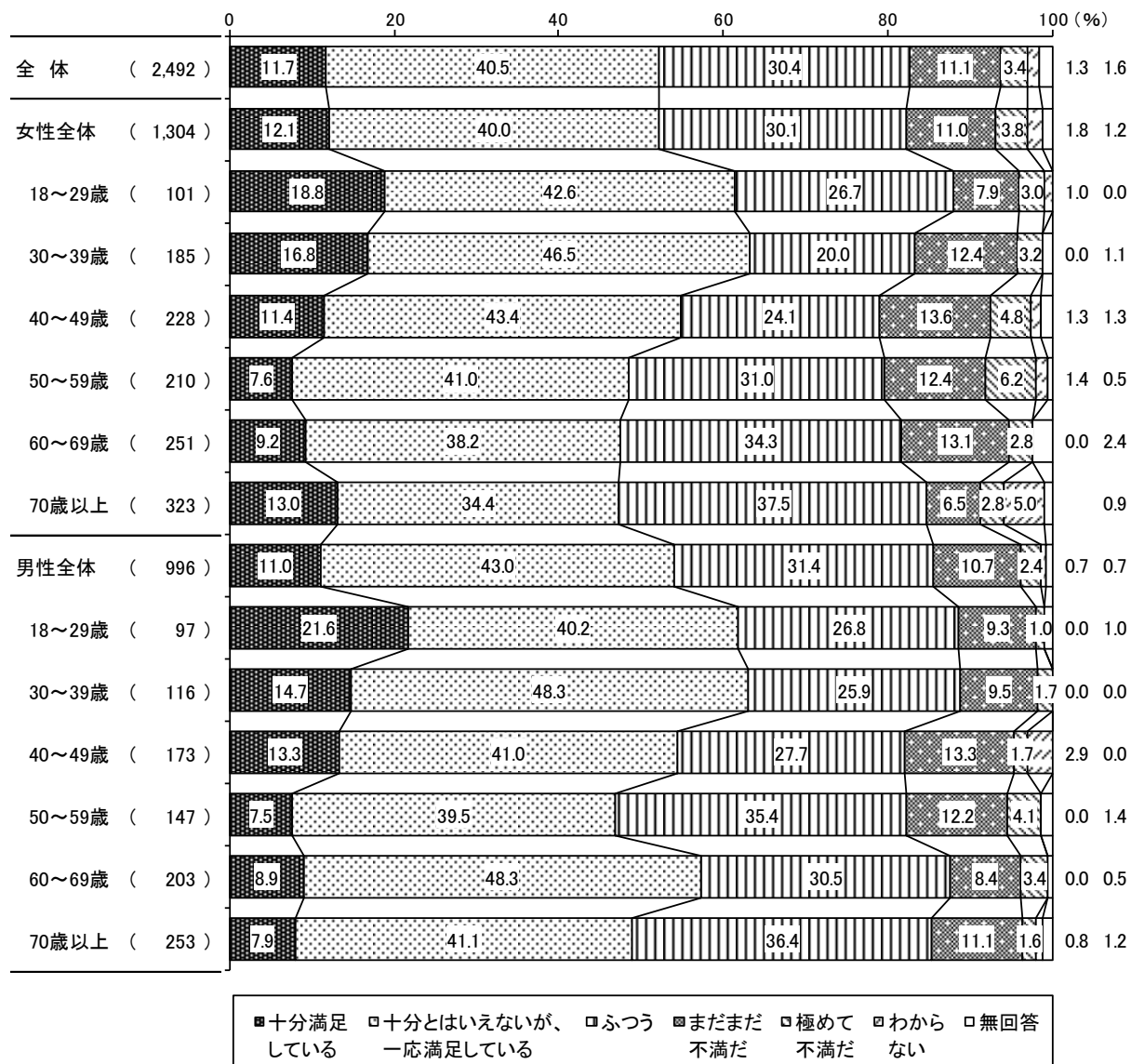


現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(40.5%)が最も多く、次いで、「ふつう」(30.4%)、「十分満足している」(11.7%)、「まだまだ不満だ」(11.1%)、「極めて不満だ」(3.4%)となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(52.2%)は5割強となっている。

前回の調査と比較すると、『満足』(52.2%)は平成28年度調査(53.0%)と比べ0.8ポイント減少している。また、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(14.5%)は平成28年度調査(15.5%)と比べ1.0ポイント減少している。

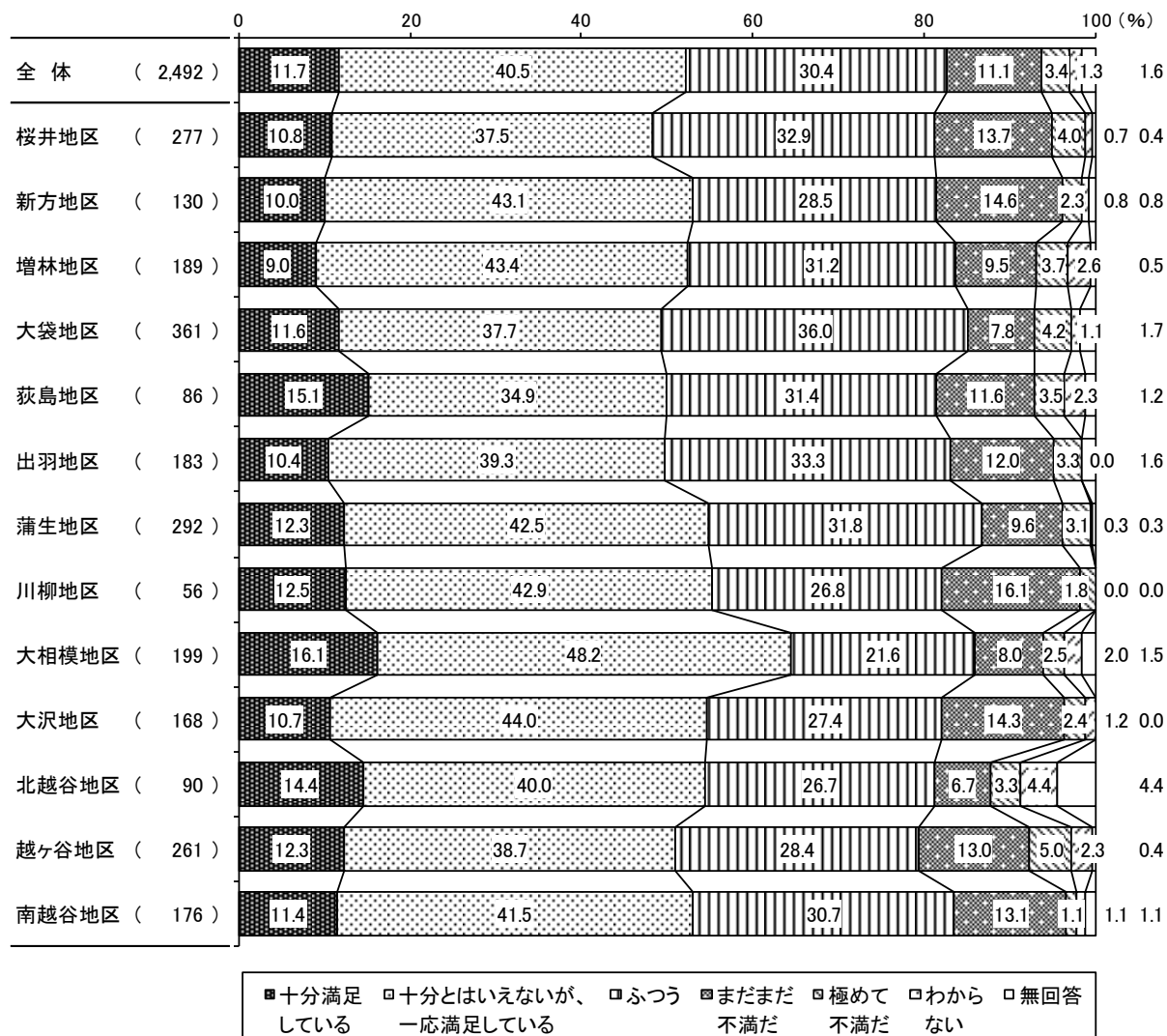
性別で見ると、『満足』は男性（54.0%）が女性（52.1%）より1.9ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『満足』は女性30～39歳（63.3%）、男性30～39歳（63.0%）で6割強と多くなっている。

図表1-1-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



居住地区別でみると、『満足』は大相模地区（64.3%）で6割半ばと多くなっている。一方、『不満』は越ヶ谷地区（18.0%）、川柳地区（17.9%）、桜井地区（17.7%）で2割弱とやや多くなっている。

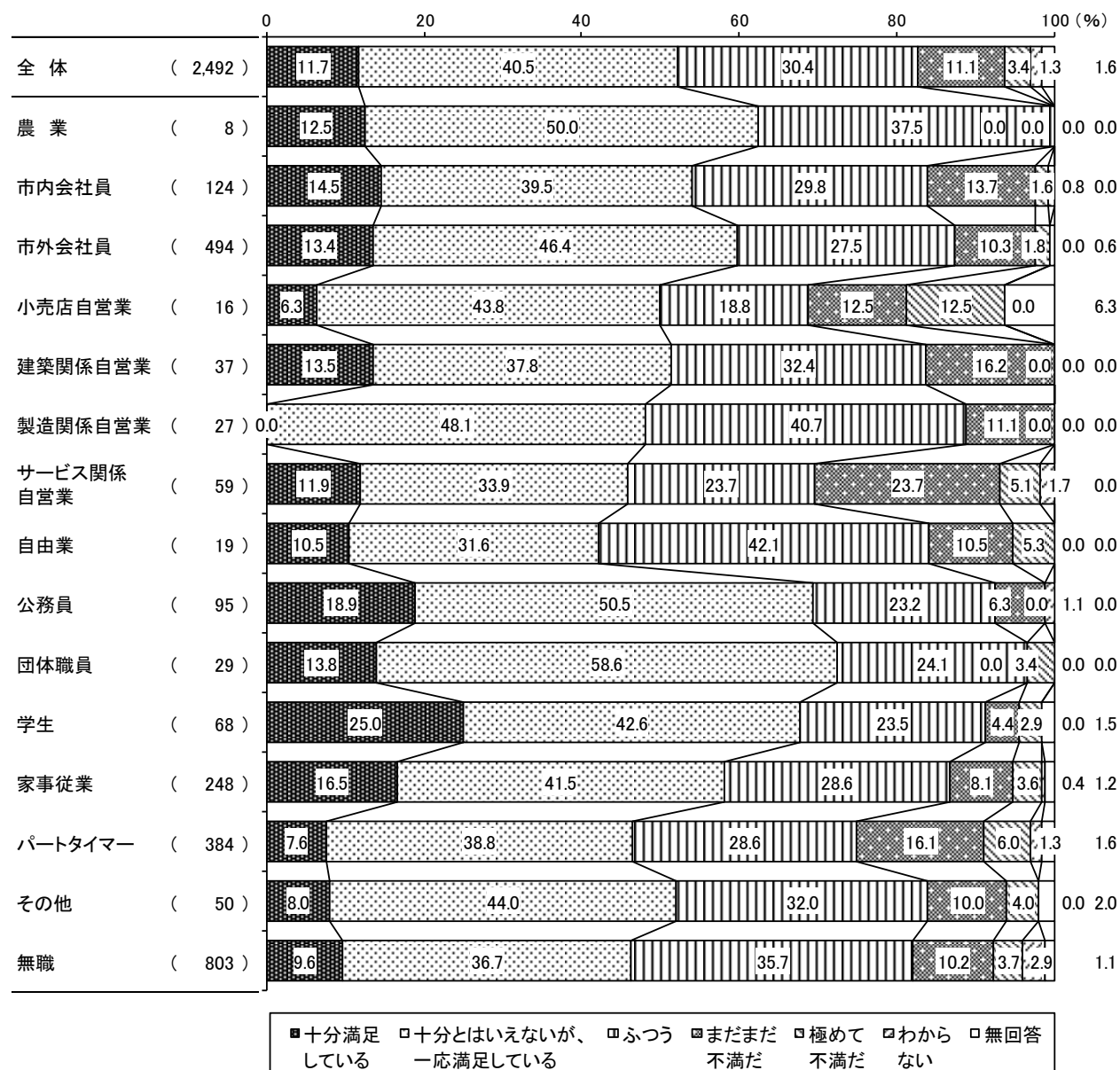
図表1-1-3 居住地区別 現在の暮らし向き



職業別で見ると、『満足』は公務員（69.4%）、学生（67.6%）で7割近くと多くなっている。一方、『不満』はサービス関係自営業（28.8%）で3割弱と最も多く、パートタイマー（アルバイト含む）（22.1%）で2割強と多くなっている。

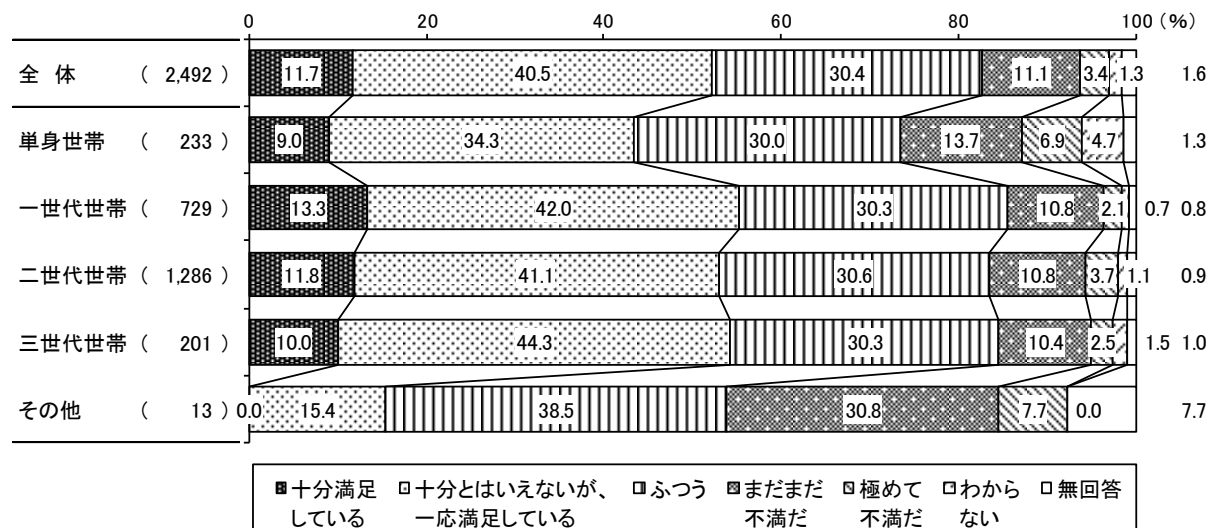
※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表1-1-4 職業別 現在の暮らし向き



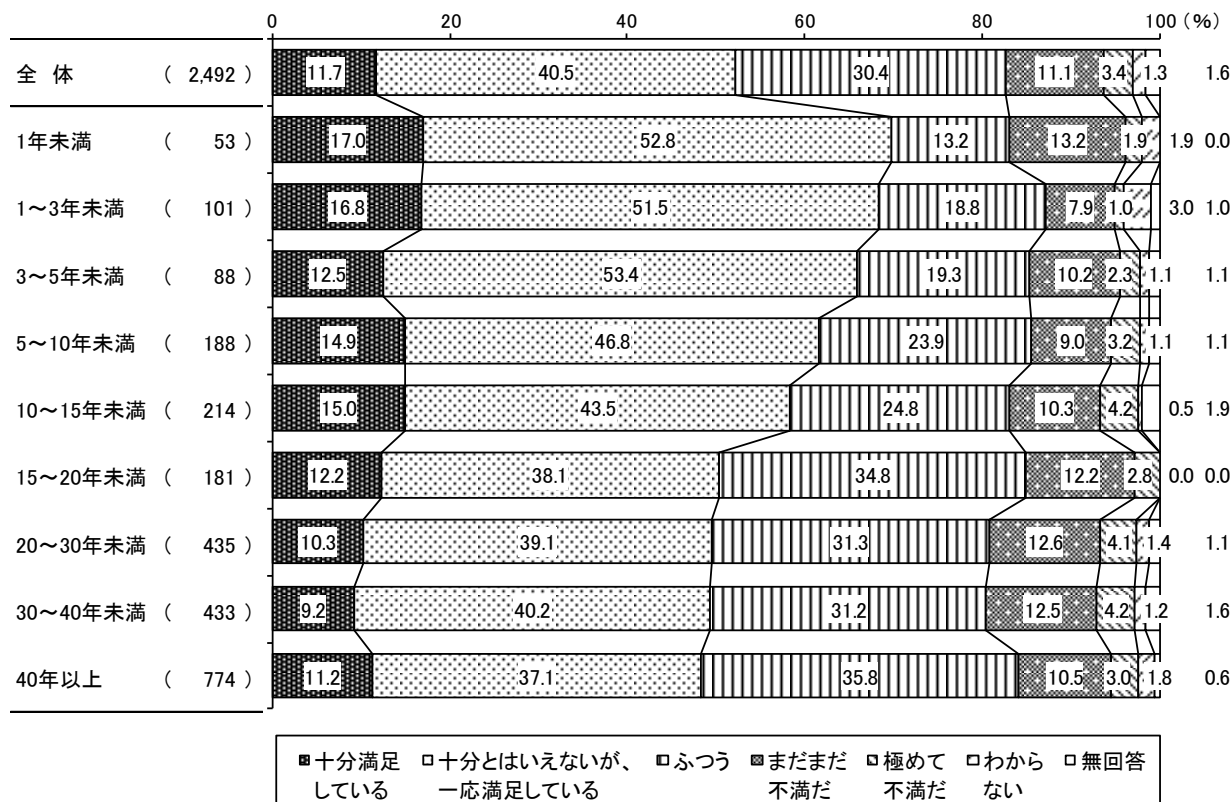
世帯状況別でみると、『不満』は単身世帯（20.6%）で約2割と多くなっている。

図表1-1-5 世帯状況別 現在の暮らし向き



居住年数別でみると、『満足』は1年未満（69.8%）で約7割と最も多く、1～3年未満（68.3%）で7割弱と多くなっている。

図表1-1-6 居住年数別 現在の暮らし向き

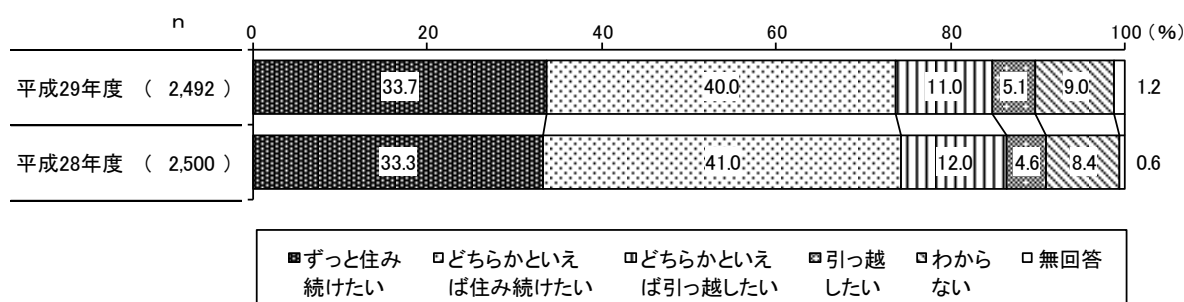


(2) 居住意向

◇『定住意向』は7割強

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

図表 1-2-1 居住意向



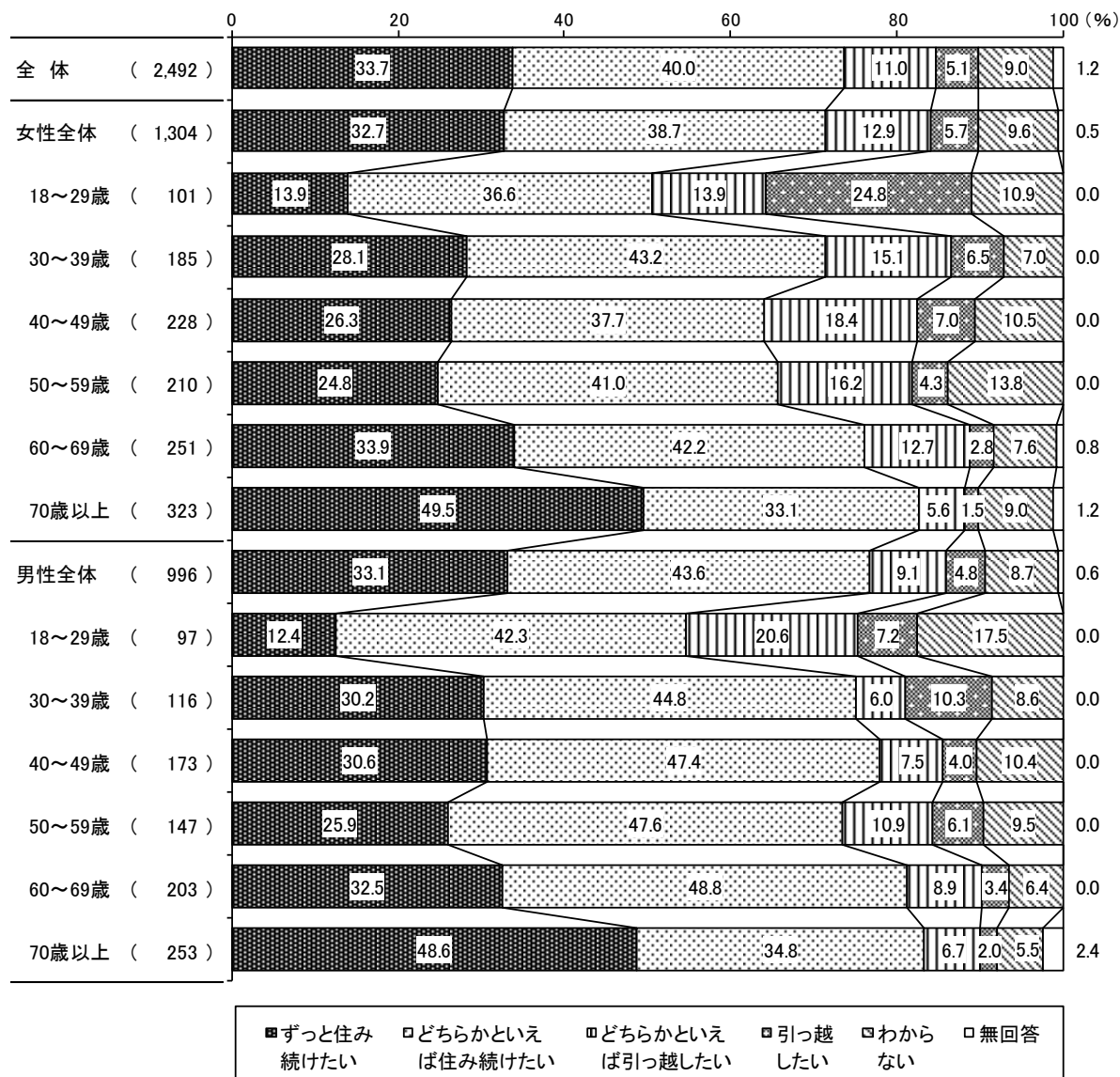
今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(40.0%)が最も多く、次いで、「ずっと住み続けたい」(33.7%)、「どちらかといえば引っ越したい」(11.0%)、「引っ越したい」(5.1%)の順となっている。

「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計を『定住意向』とすると、『定住意向』(73.7%)は7割強となっている。

前回の調査と比較すると、『定住意向』(73.7%)は平成28年度調査(74.3%)と比べ0.6ポイント減少している。同様に、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(16.1%)は平成28年度調査(16.6%)と比べ0.5ポイント減少している。

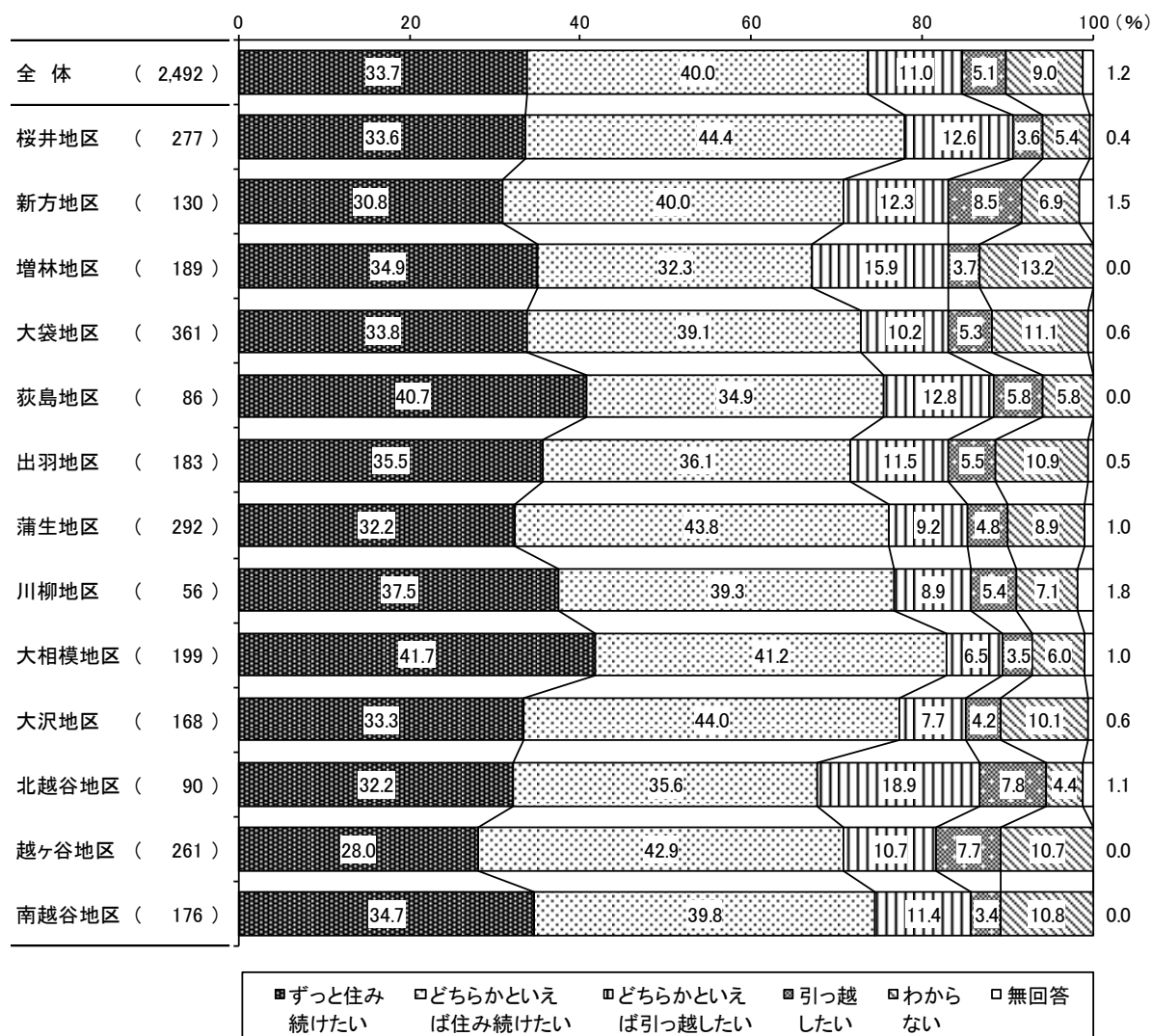
性別でみると、『転居意向』は男性（13.9%）が女性（18.6%）より4.7ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『定住意向』は男性70歳以上（83.4%）、女性70歳以上（82.6%）、男性60～69歳（81.3%）で8割以上と多くなっている。

図表1-2-2 性・年齢別 居住意向



居住地区別でみると、『定住意向』は大相模地区（82.9%）で8割強と最も多く、桜井地区（78.0%）、大沢地区（77.3%）で8割弱と多くなっている。一方、『転居意向』は北越谷地区（26.7%）で2割半ばと多くなっている。

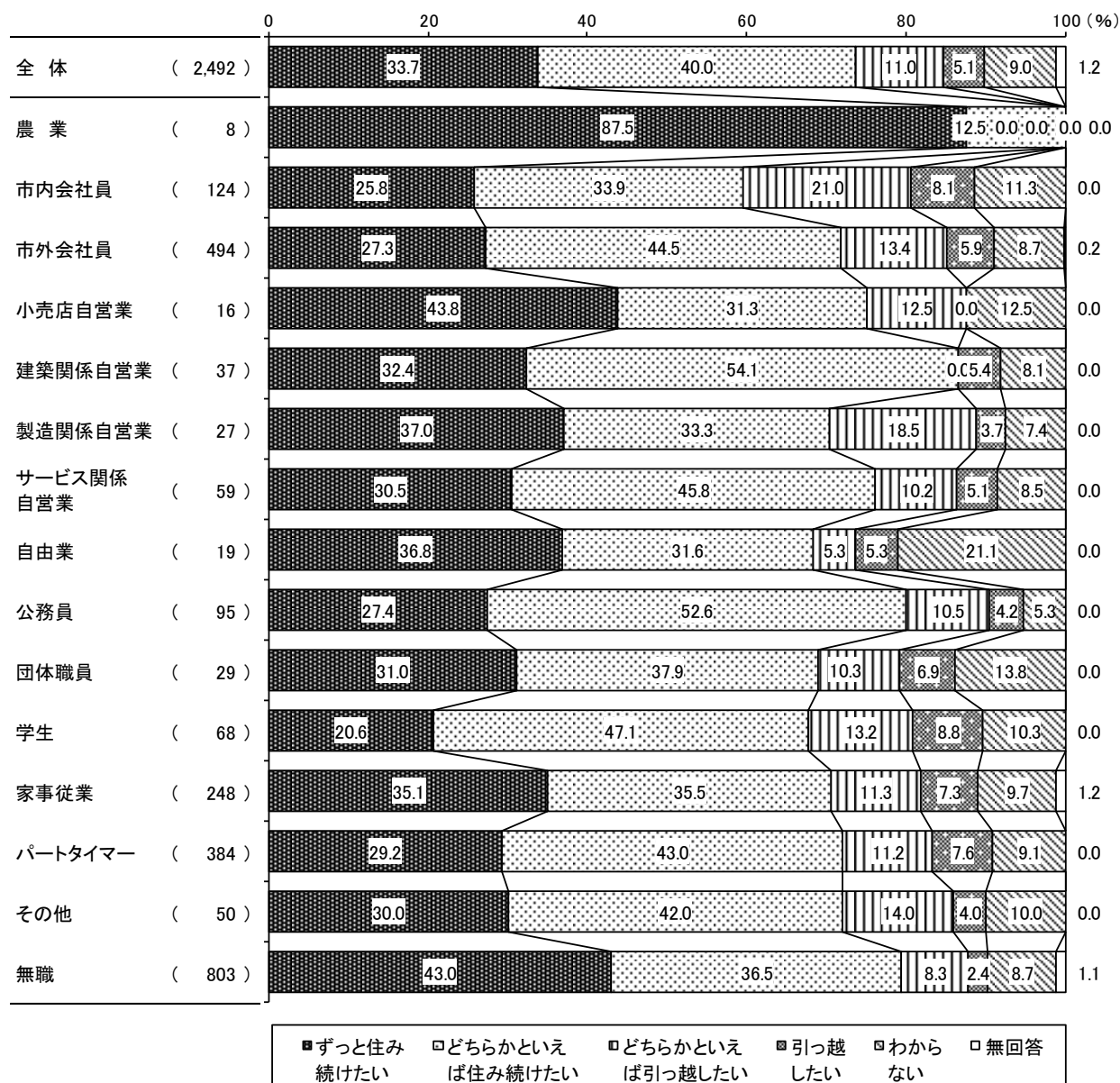
図表 1-2-3 居住地区別 居住意向



職業別でみると、『定住意向』は建築関係自営業（86.5%）、公務員（80.0%）、無職（年金生活を含む）（79.5%）でおよそ8割以上と多くなっている。一方、『転居意向』は市内会社員（29.1%）で約3割と多くなっている。

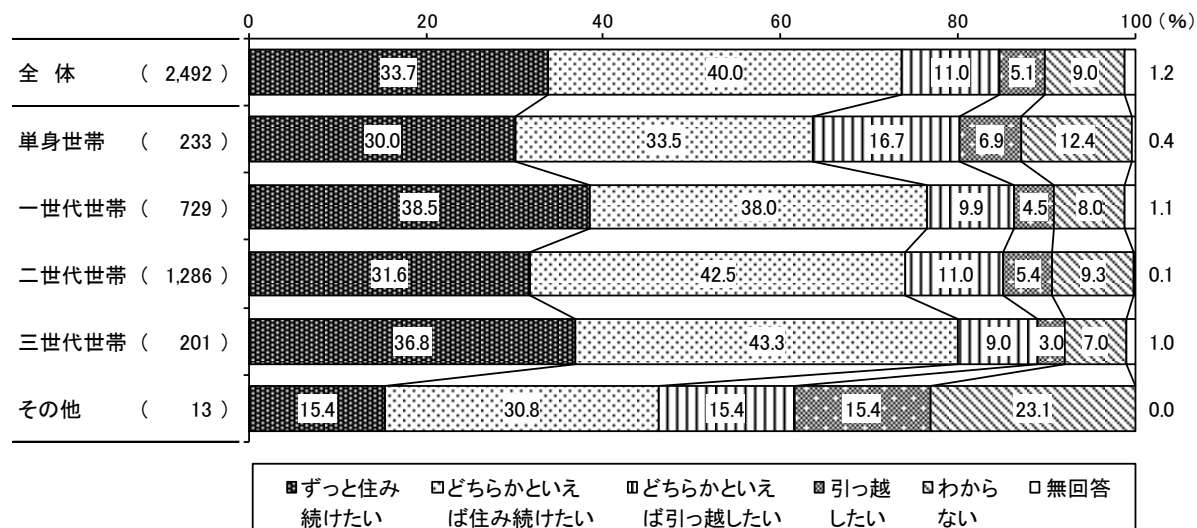
※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表1-2-4 職業別 居住意向



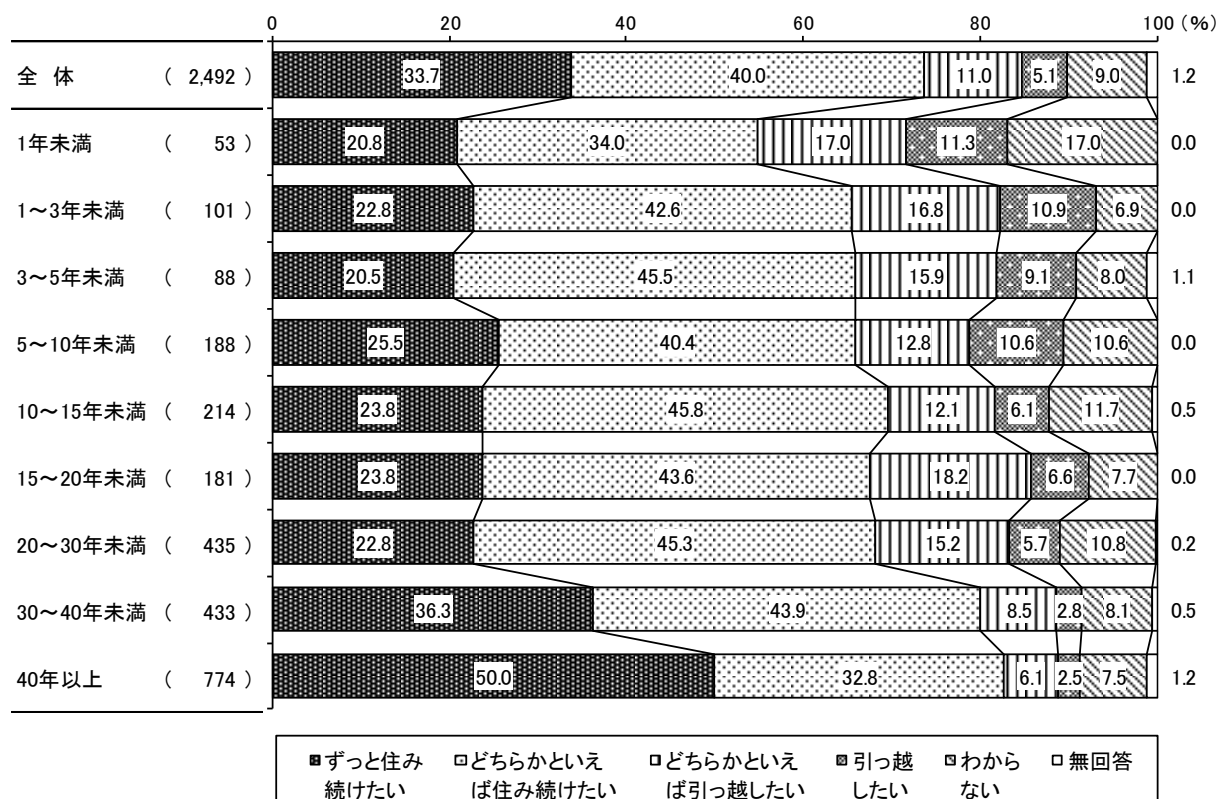
世帯状況別でみると、『定住意向』は三世帯世帯（80.1%）で約8割と多くなっている。一方、『転居意向』は単身世帯（23.6%）で2割強と多くなっている。

図表1-2-5 世帯状況別 居住意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上（82.8%）、30～40年未満（80.2%）で8割以上と多くなっている。一方、『転居意向』は1年未満（28.3%）、1～3年未満（27.7%）で3割弱と多くなっている。

図表1-2-6 居住年数別 居住意向

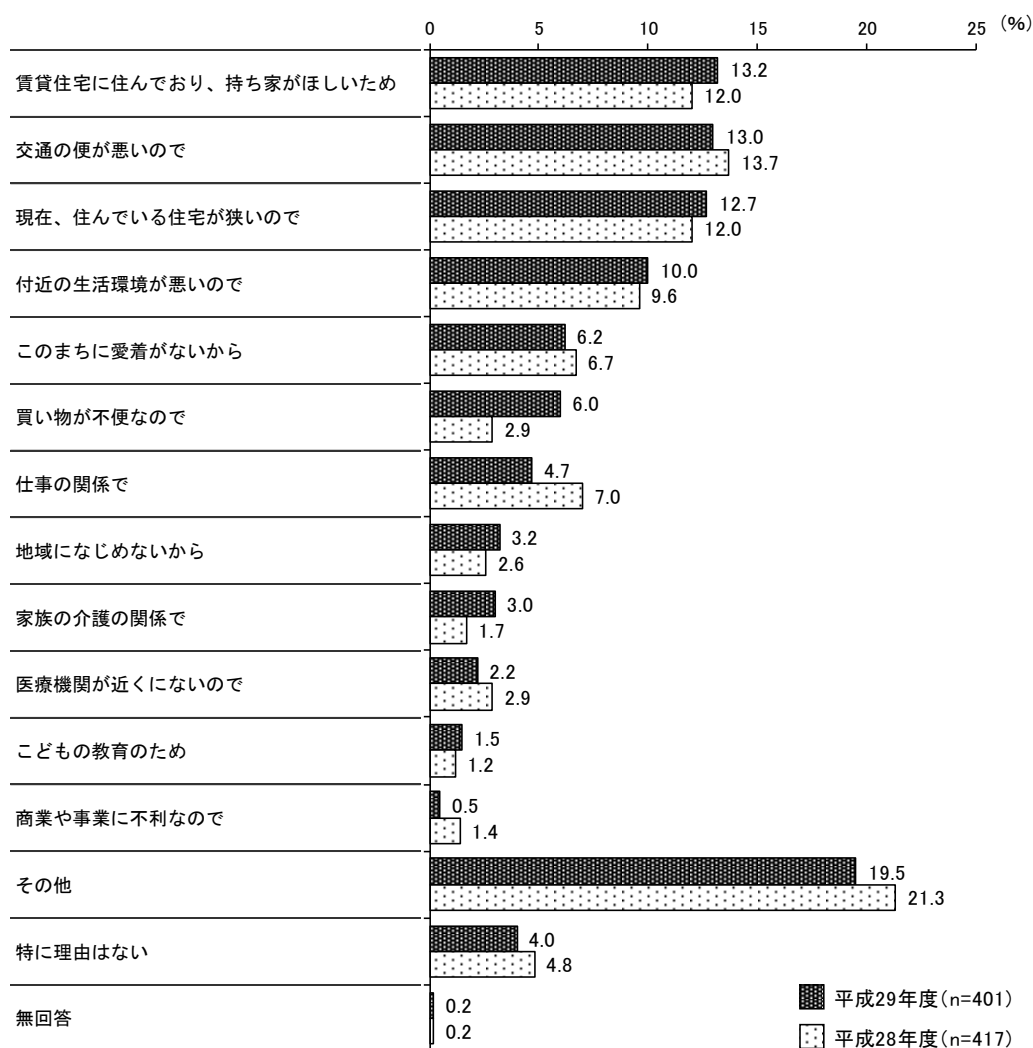


(3) 転居意向の理由

◇「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」が最も多く、1割強

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方（引っ越したいと答えた方）に伺います。
引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

図表1-3-1 転居意向の理由



『転居意向』のある401人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(13.2%)が最も多く、次いで、「交通の便が悪いので」(13.0%)、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(12.7%)、「付近の生活環境が悪いので」(10.0%)、「このまちに愛着がないから」(6.2%)の順となっている。また、「その他」として「水害が心配」「税金が高い」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「買い物が不便なので」で3.1ポイント増加している。

性別で見ると、「このまちに愛着がないから」は女性（7.9%）が男性（3.6%）より4.3ポイント高くなっている。一方、「仕事の関係で」は男性（7.2%）が女性（3.7%）より3.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は女性30～39歳（22.5%）で2割強と多く、「交通の便が悪いので」は女性18～29歳（23.1%）で2割強と多くなっている。また、「仕事の関係で」は女性18～29歳（15.4%）で1割半ばと多く、「地域になじめないから」は女性60～69歳（12.8%）で1割強と多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表1-3-2 性・年齢別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買物が不便なので	医療機関が近くにないので	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	401	0.5	13.0	12.7	10.0	4.7	13.2	1.5	6.0	2.2	6.2	3.2	3.0	19.5	4.0	0.2
女性全体	242	0.8	14.5	14.0	9.5	3.7	13.2	2.1	5.0	2.9	7.9	3.7	3.7	15.7	3.3	-
18～29歳	39	-	23.1	12.8	2.6	15.4	17.9	2.6	-	-	7.7	-	-	15.4	2.6	-
30～39歳	40	-	5.0	20.0	12.5	5.0	22.5	2.5	7.5	-	10.0	-	-	12.5	2.5	-
40～49歳	58	-	13.8	19.0	12.1	-	13.8	3.4	3.4	5.2	1.7	1.7	8.6	13.8	3.4	-
50～59歳	43	2.3	18.6	16.3	2.3	-	11.6	2.3	7.0	2.3	11.6	2.3	4.7	16.3	2.3	-
60～69歳	39	2.6	7.7	5.1	15.4	2.6	7.7	-	2.6	2.6	10.3	12.8	5.1	23.1	2.6	-
70歳以上	23	-	21.7	4.3	13.0	-	-	-	13.0	8.7	8.7	8.7	-	13.0	8.7	-
男性全体	139	-	12.2	11.5	9.4	7.2	15.1	0.7	7.2	1.4	3.6	2.2	2.2	22.3	5.0	-
18～29歳	27	-	7.4	3.7	3.7	22.2	22.2	3.7	3.7	-	-	3.7	-	22.2	7.4	-
30～39歳	19	-	5.3	15.8	5.3	5.3	52.6	-	-	-	-	-	5.3	10.5	-	-
40～49歳	20	-	20.0	-	15.0	10.0	10.0	-	5.0	5.0	-	-	-	30.0	5.0	-
50～59歳	25	-	20.0	16.0	4.0	4.0	-	-	4.0	-	12.0	-	8.0	28.0	4.0	-
60～69歳	25	-	4.0	20.0	8.0	-	12.0	-	16.0	-	8.0	8.0	-	16.0	8.0	-
70歳以上	22	-	18.2	13.6	22.7	-	-	-	13.6	-	-	-	-	27.3	4.5	-

居住地区別でみると、「交通の便が悪いので」は増林地区（24.3%）で2割半ばと多くなっている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は蒲生地区（19.5%）で約2割と多く、「このまちに愛着がないから」でも蒲生地区（14.6%）で1割半ばと多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表1-3-3 居住地区別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	401	0.5	13.0	12.7	10.0	4.7	13.2	1.5	6.0	2.2	6.2	3.2	3.0	19.5	4.0	0.2
桜井地区	45	-	13.3	11.1	15.6	4.4	13.3	-	2.2	4.4	8.9	2.2	-	22.2	2.2	-
新方地区	27	-	25.9	3.7	14.8	7.4	-	-	3.7	-	-	-	-	37.0	7.4	-
増林地区	37	-	24.3	13.5	5.4	2.7	13.5	-	5.4	2.7	5.4	-	5.4	16.2	5.4	-
大袋地区	56	1.8	1.8	10.7	12.5	3.6	12.5	3.6	8.9	3.6	1.8	3.6	3.6	28.6	3.6	-
荻島地区	16	-	12.5	6.3	-	6.3	6.3	-	12.5	12.5	12.5	-	6.3	18.8	-	6.3
出羽地区	31	-	16.1	12.9	16.1	3.2	6.5	-	12.9	-	3.2	6.5	3.2	16.1	3.2	-
蒲生地区	41	-	9.8	19.5	12.2	12.2	9.8	2.4	9.8	-	14.6	2.4	2.4	4.9	-	-
川柳地区	8	-	-	50.0	-	-	37.5	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-
大相模地区	20	-	10.0	15.0	5.0	5.0	25.0	-	5.0	5.0	-	5.0	-	20.0	5.0	-
大沢地区	20	-	20.0	-	15.0	-	10.0	-	-	-	10.0	5.0	15.0	25.0	-	-
北越谷地区	24	-	12.5	16.7	8.3	-	12.5	-	-	4.2	4.2	8.3	-	20.8	12.5	-
越ヶ谷地区	48	2.1	14.6	10.4	8.3	6.3	18.8	2.1	8.3	-	6.3	6.3	2.1	10.4	4.2	-
南越谷地区	26	-	7.7	19.2	-	3.8	23.1	7.7	-	-	11.5	-	3.8	15.4	7.7	-

職業別でみると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は市内会社員（19.4%）で約2割と多くなっている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」はパートタイマー（アルバイト含む）（18.1%）、家事従業（17.4%）で2割弱と多く、「付近の生活環境が悪いので」はパートタイマー（アルバイト含む）（15.3%）、無職（年金生活を含む）（15.1%）で1割半ばと多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表1-3-4 職業別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	401	0.5	13.0	12.7	10.0	4.7	13.2	1.5	6.0	2.2	6.2	3.2	3.0	19.5	4.0	0.2
農業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	36	-	13.9	13.9	11.1	5.6	19.4	-	-	-	2.8	-	5.6	25.0	2.8	-
市外会社員	95	-	12.6	12.6	6.3	8.4	17.9	5.3	5.3	3.2	6.3	-	4.2	16.8	1.1	-
小売店自営業	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-
建築関係自営業	2	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
製造関係自営業	6	-	-	16.7	-	-	16.7	-	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-
サービス関係自営業	9	11.1	11.1	-	-	22.2	11.1	-	-	-	11.1	11.1	11.1	-	11.1	-
自由業	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公務員	14	-	28.6	-	-	21.4	14.3	-	-	-	7.1	-	-	21.4	7.1	-
団体職員	5	-	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-	20.0	-	-	40.0	-	-
学生	15	-	20.0	6.7	6.7	13.3	-	-	-	-	6.7	6.7	-	26.7	13.3	-
家事従業	46	-	6.5	17.4	8.7	2.2	15.2	2.2	2.2	4.3	13.0	2.2	4.3	17.4	2.2	2.2
パートタイマー	72	-	12.5	18.1	15.3	-	12.5	-	4.2	2.8	4.2	4.2	1.4	20.8	4.2	-
その他	9	-	44.4	-	-	-	11.1	-	22.2	-	11.1	-	-	11.1	-	-
無職	86	-	12.8	10.5	15.1	-	5.8	-	12.8	1.2	2.3	8.1	2.3	22.1	7.0	-

世帯状況別でみると、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は二世帯世帯（親子など）（17.0%）で2割弱と多くなっている。また、「地域になじめないから」は一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）（8.6%）で1割弱と多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表1-3-5 世帯状況別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	ほしいため 賃貸住宅に住んでおり、持ち家が	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	401	0.5	13.0	12.7	10.0	4.7	13.2	1.5	6.0	2.2	6.2	3.2	3.0	19.5	4.0	0.2
単身世帯	55	-	14.5	5.5	9.1	7.3	3.6	-	9.1	-	7.3	3.6	1.8	29.1	9.1	-
一世帯世帯	105	1.9	13.3	5.7	6.7	4.8	16.2	1.0	9.5	1.9	6.7	8.6	2.9	18.1	1.9	1.0
二世帯世帯	212	-	11.3	17.0	12.3	3.3	15.6	2.4	3.3	3.3	5.2	0.9	3.8	17.9	3.8	-
三世帯世帯	24	-	25.0	20.8	8.3	12.5	-	-	4.2	-	12.5	-	-	12.5	4.2	-
その他	4	-	-	25.0	-	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-

居住年数別でみると、「付近の生活環境が悪いので」は15～20年未満（26.7%）で2割半ば、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は30～40年未満（26.5%）で2割半ばと、それぞれ多くなっている。また、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は5～10年未満（25.0%）で2割半ば、「交通の便が悪いので」は40年以上（21.2%）で約2割と、それぞれ多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表1-3-6 居住年数別 転居意向の理由

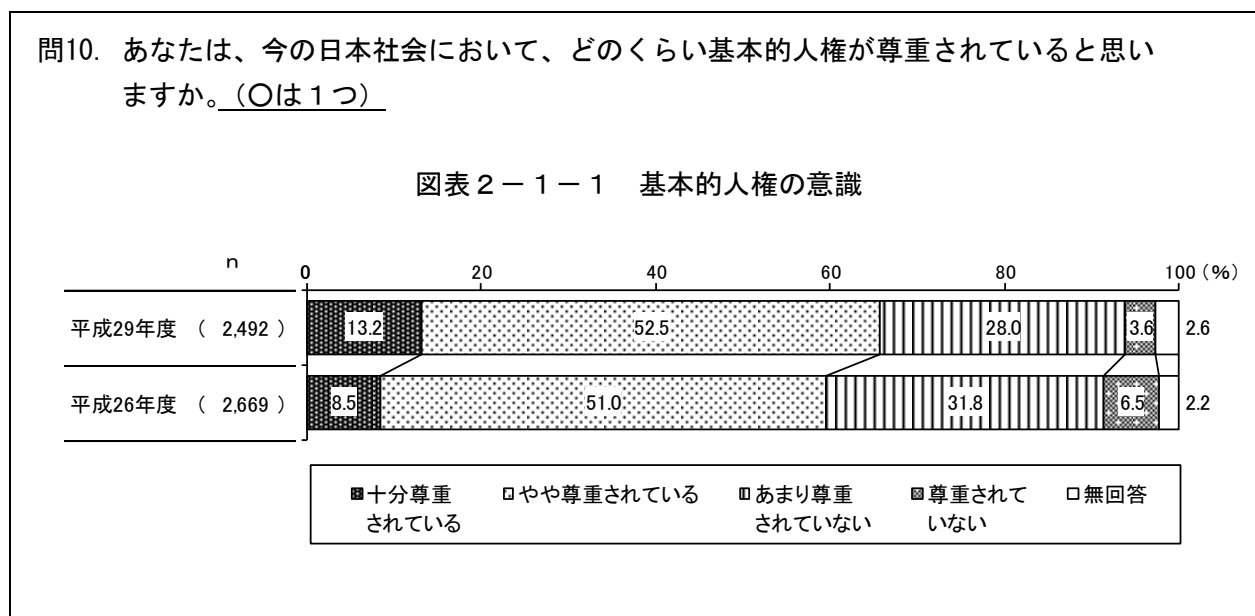
(%)

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	401	0.5	13.0	12.7	10.0	4.7	13.2	1.5	6.0	2.2	6.2	3.2	3.0	19.5	4.0	0.2
1年未満	15	-	13.3	13.3	6.7	13.3	33.3	-	6.7	-	-	-	-	13.3	-	-
1～3年未満	28	-	10.7	10.7	-	14.3	25.0	7.1	3.6	-	14.3	3.6	-	7.1	3.6	-
3～5年未満	22	-	9.1	18.2	-	-	22.7	4.5	9.1	4.5	-	4.5	-	27.3	-	-
5～10年未満	44	-	2.3	20.5	9.1	2.3	25.0	2.3	4.5	-	6.8	-	6.8	15.9	4.5	-
10～15年未満	39	-	12.8	12.8	7.7	2.6	10.3	5.1	2.6	7.7	2.6	7.7	2.6	17.9	5.1	2.6
15～20年未満	45	-	15.6	11.1	26.7	4.4	13.3	-	2.2	2.2	13.3	-	2.2	6.7	2.2	-
20～30年未満	91	-	18.7	6.6	7.7	9.9	5.5	-	3.3	2.2	7.7	4.4	3.3	25.3	5.5	-
30～40年未満	49	-	2.0	26.5	12.2	-	6.1	-	14.3	2.0	2.0	4.1	4.1	26.5	-	-
40年以上	66	3.0	21.2	6.1	9.1	-	10.6	-	9.1	1.5	4.5	3.0	3.0	22.7	6.1	-

2. 人権全般に関する意識について

(1) 基本的人権の意識

◇『尊重されている』が6割半ば



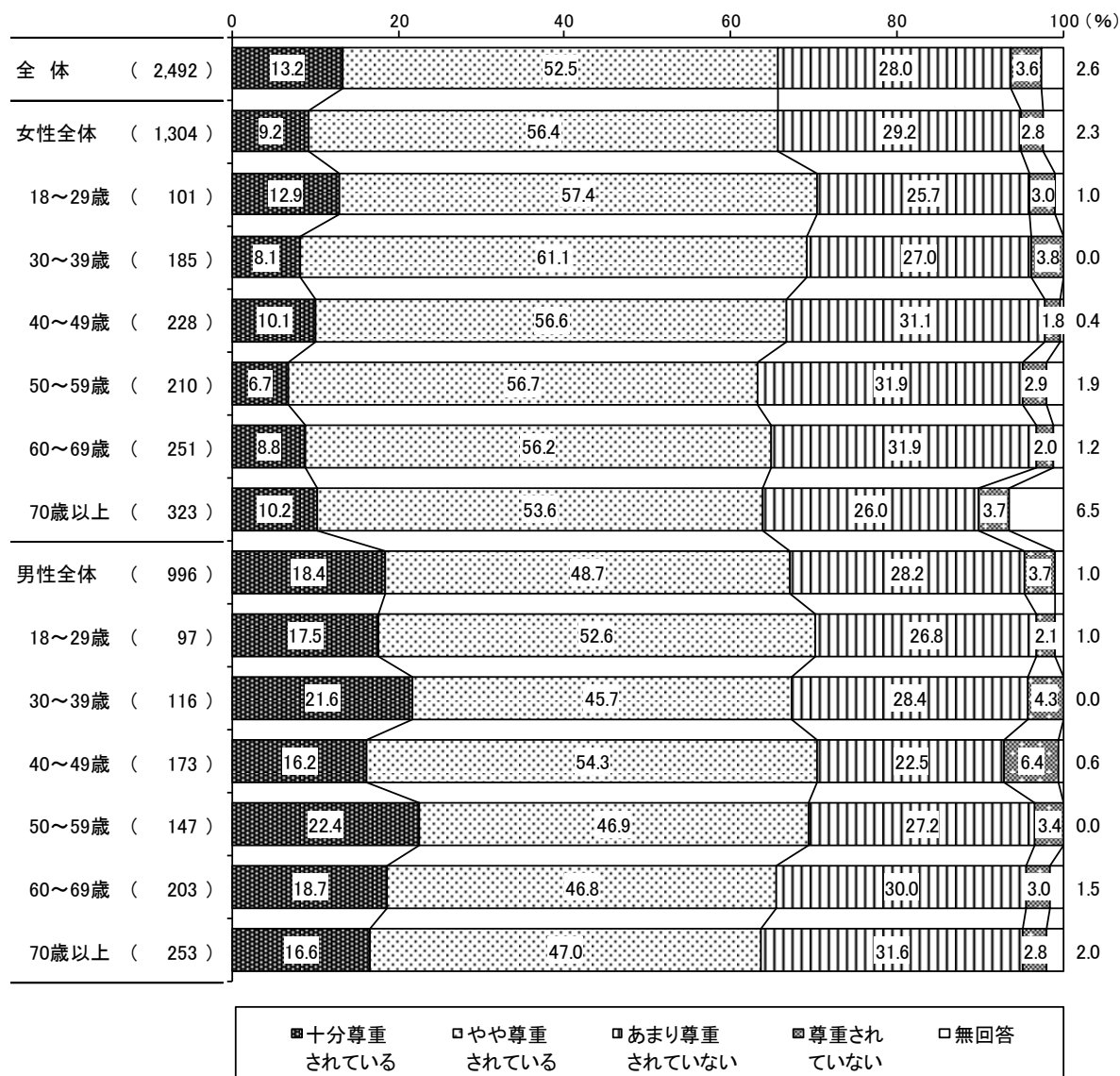
今の日本社会における基本的人権の意識については、「やや尊重されている」(52.5%)が最も多く、「十分尊重されている」(13.2%)を合わせた『尊重されている』(65.7%)は6割半ばとなっている。一方、「あまり尊重されていない」(28.0%)と「尊重されていない」(3.6%)を合わせた『尊重されていない』(31.6%)は約3割となっている。

前回の調査と比較すると、『尊重されている』(65.7%)は平成26年度調査(59.5%)と比べ6.2ポイント増加している。一方、『尊重されていない』(31.6%)は平成26年度調査(38.3%)と比べ6.7ポイント減少している。

性別で見ると、「十分尊重されている」は男性（18.4%）が女性（9.2%）より9.2ポイント高く、「やや尊重されている」は女性（56.4%）が男性（48.7%）より7.7ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『尊重されている』は男性40～49歳（70.5%）、女性18～29歳（70.3%）、男性18～29歳（70.1%）、男性50～59歳（69.3%）、女性30～39歳（69.2%）で約7割とやや多くなっている。

図表2-1-2 性・年齢別 基本的人権の意識

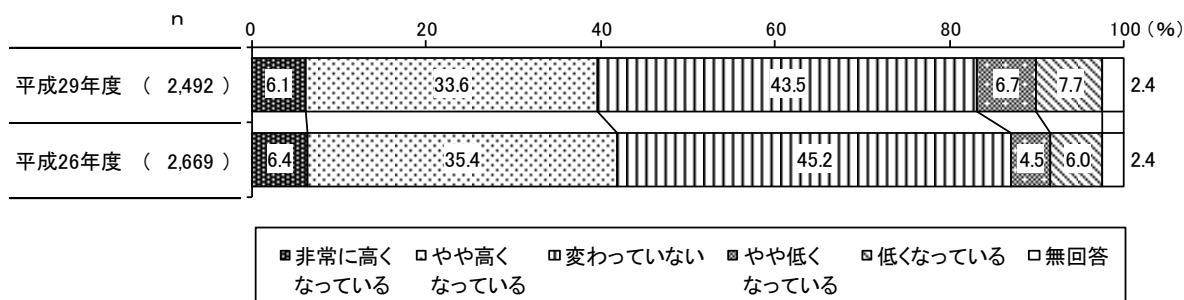


(2) 人権意識の変化

◇「変わっていない」が4割強だが、『高くなっている』も約4割

問11. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(○は1つ)

図表 2-2-1 人権意識の変化



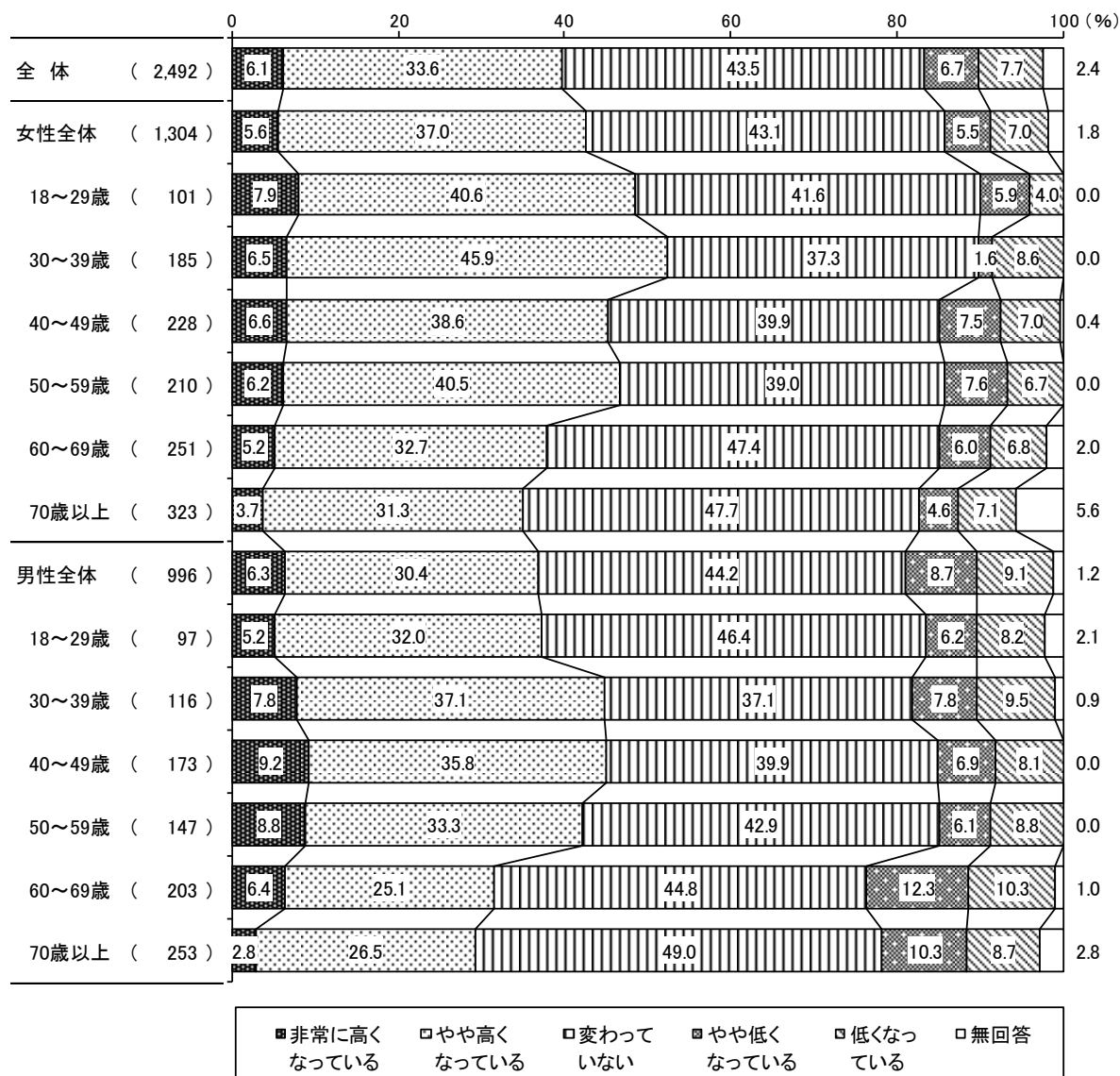
10年前と比べた人権意識の変化については、「変わっていない」(43.5%)が最も多く、次いで、「やや高くなっている」(33.6%)、「低くなっている」(7.7%)、「やや低くなっている」(6.7%)、「非常に高くなっている」(6.1%)の順となっている。「非常に高くなっている」(6.1%)と「やや高くなっている」(33.6%)を合わせた『高くなっている』(39.7%)は約4割となっている。一方、「やや低くなっている」(6.7%)と「低くなっている」(7.7%)を合わせた『低くなっている』(14.4%)は1割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『高くなっている』(39.7%)は平成26年度調査(41.8%)と比べ2.1ポイント減少している。一方、『低くなっている』(14.4%)は平成26年度調査(10.5%)と比べ3.9ポイント増加している。

性別で見ると、『高くなっている』は女性（42.6%）が男性（36.7%）より5.9ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『高くなっている』は女性30～39歳（52.4%）で5割強、女性18～29歳（48.5%）で5割弱と多くなっている。一方、『低くなっている』は男性60～69歳（22.6%）で2割強と多くなっている。

図表2-2-2 性・年齢別 人権意識の変化

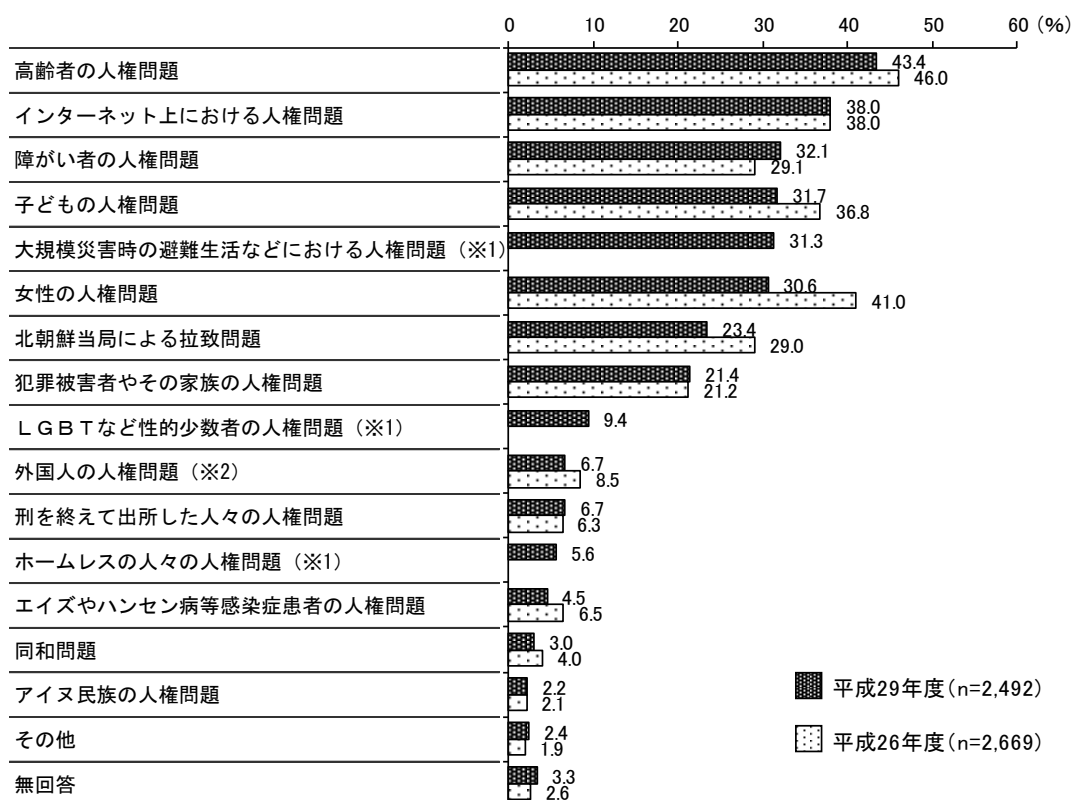


(3) 関心のある人権問題

◇「高齢者の人権問題」が最も多く、4割強

問12. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
(複数回答可)

図表2-3-1 関心のある人権問題



※1 平成26年度調査は選択肢なし

※2 平成26年度調査は「在日外国人の人権問題」

関心のある人権問題については、「高齢者の人権問題」(43.4%)が最も多く、次いで、「インターネット上における人権問題」(38.0%)、「障がい者の人権問題」(32.1%)、「子どもの人権問題」(31.7%)、「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」(31.3%)、「女性の人権問題」(30.6%)の順となっている。また、「その他」として「労働者の人権問題」「いじめ」「男性の人権問題」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「女性の人権問題」で10.4ポイント減少している。また、「北朝鮮当局による拉致問題」「子どもの人権問題」で5.0ポイント以上減少している。

性別でみると、「女性の人権問題」は女性（41.9%）が男性（18.9%）より23.0ポイント高くなっている。また、「LGBTなど性的少数者の人権問題」は女性（12.3%）が男性（6.8%）より5.5ポイント高く、「子どもの人権問題」でも女性（34.8%）が男性（29.7%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「高齢者の人権問題」は女性70歳以上（62.8%）、男性70歳以上（60.9%）で6割以上と多くなっている。また、「子どもの人権問題」は女性30～39歳（63.2%）で6割強と多く、「インターネット上における人権問題」は男性18～29歳（61.9%）で約6割と多くなっている。

図表2-3-2 性・年齢別 関心のある人権問題

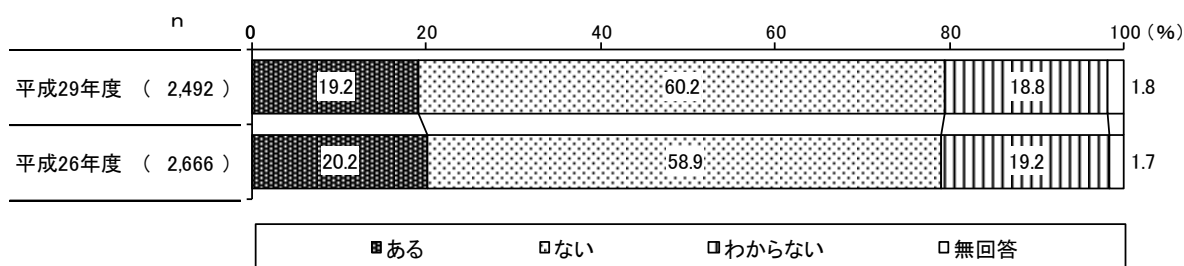
	調査数（人）	女性の人権問題	子どもの人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	同和問題	アイヌ民族の人権問題	外国人の人権問題	エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題	刑を終えて出所した人々の人権問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	インターネット上における人権問題	北朝鮮当局による拉致問題	ホームレスの人々の人権問題	LGBTなど性的少数者の人権問題	大規模災害時の避難生活などにおける人権問題	その他	無回答
全体	2,492	30.6	31.7	43.4	32.1	3.0	2.2	6.7	4.5	6.7	21.4	38.0	23.4	5.6	9.4	31.3	2.4	3.3
女性全体	1,304	41.9	34.8	45.0	32.1	2.5	1.8	5.6	6.0	7.8	22.7	38.0	23.8	4.8	12.3	31.8	1.2	2.8
18～29歳	101	53.5	38.6	22.8	37.6	4.0	2.0	11.9	8.9	15.8	23.8	49.5	12.9	11.9	36.6	25.7	2.0	-
30～39歳	185	70.3	63.2	26.5	34.6	1.6	1.1	8.6	3.8	6.5	31.9	47.0	13.0	3.8	22.2	30.3	1.1	0.5
40～49歳	228	50.9	40.4	36.0	35.5	3.1	2.2	5.7	6.6	10.1	26.8	50.4	14.9	2.2	16.7	31.1	0.9	1.3
50～59歳	210	43.8	31.9	41.4	30.0	3.3	2.4	4.3	5.2	2.9	20.0	48.1	22.4	3.8	10.5	31.4	2.4	1.9
60～69歳	251	35.9	33.1	55.4	37.8	3.6	3.2	5.2	8.0	8.0	24.7	33.5	37.8	6.8	6.0	37.8	0.4	2.4
70歳以上	323	19.5	17.0	62.8	23.8	0.6	0.6	3.1	5.0	7.7	14.9	17.6	30.0	4.0	2.2	30.7	0.9	6.5
男性全体	996	18.9	29.7	40.8	33.9	3.9	3.1	9.1	3.1	5.7	21.4	41.8	23.7	7.1	6.8	31.5	4.4	1.8
18～29歳	97	18.6	32.0	16.5	28.9	1.0	1.0	16.5	4.1	12.4	20.6	61.9	17.5	11.3	13.4	13.4	6.2	1.0
30～39歳	116	21.6	39.7	19.8	31.0	3.4	3.4	13.8	3.4	6.9	31.9	52.6	17.2	7.8	12.1	29.3	5.2	0.9
40～49歳	173	24.9	30.6	28.3	35.3	4.0	1.2	8.7	2.9	4.0	24.9	51.4	17.9	2.9	8.1	30.6	5.2	1.7
50～59歳	147	20.4	31.3	37.4	40.8	2.7	2.7	8.8	3.4	5.4	24.5	44.2	17.0	7.5	7.5	33.3	5.4	0.7
60～69歳	203	17.2	26.6	52.2	33.0	6.4	6.9	9.4	4.4	4.9	17.7	38.9	26.1	8.9	3.9	42.4	2.5	1.5
70歳以上	253	14.6	25.3	60.9	33.2	4.0	2.4	4.7	1.6	4.7	15.8	24.1	34.4	6.7	3.2	30.8	4.0	3.6

(4) 人権侵害を感じたこと

◇「ある」が約2割

問13. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(〇は1つ)

図表2-4-1 人権侵害を感じたこと

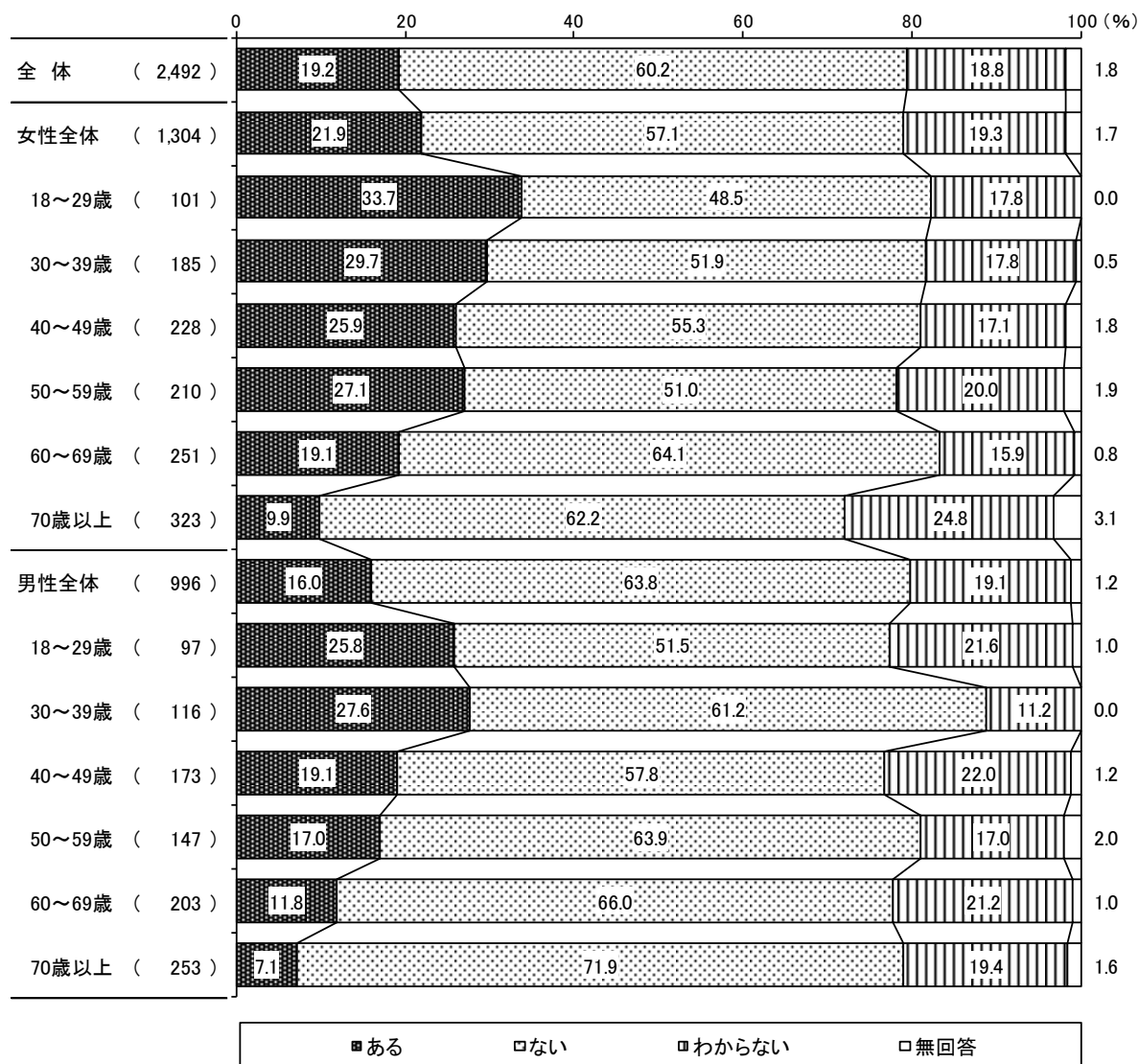


日常生活の中で人権が侵害されたと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」(19.2%)が約2割、「ない」(60.2%)が約6割となっている。

前回の調査と比較すると、「ある」(19.2%)は平成26年度調査(20.2%)と比べ1.0ポイント減少している。一方、「ない」(60.2%)は平成26年度調査(58.9%)と比べ1.3ポイント増加している。

性別で見ると、「ある」は女性（21.9%）が男性（16.0%）より5.9ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、「ある」は女性18～29歳（33.7%）で3割強と最も多く、女性30～39歳（29.7%）、
 男性30～39歳（27.6%）、女性50～59歳（27.1%）で3割近くと多くなっている。

図表2-4-2 性・年齢別 人権侵害を感じたこと

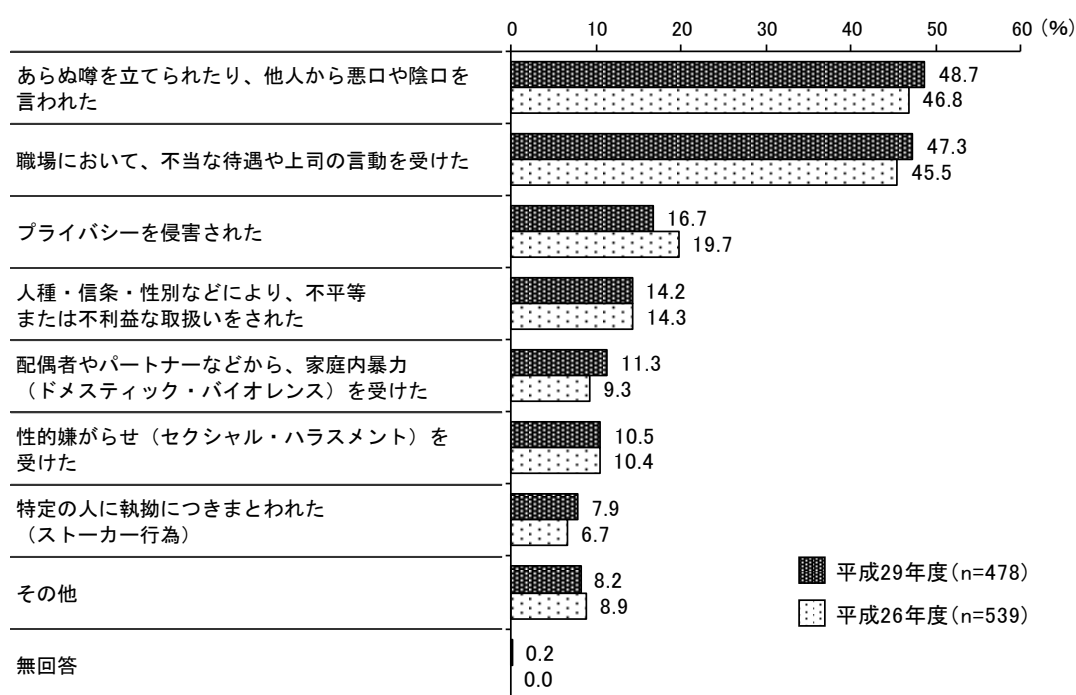


(5) 人権侵害を感じた内容

◇「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が最も多く、5割弱

問13-2. 問13で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(複数回答可)

図表2-5-1 人権侵害を感じた内容



人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した人478人に、人権侵害を感じた内容について聞いたところ、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」（48.7%）が最も多く、次いで、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」（47.3%）、「プライバシーを侵害された」（16.7%）、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」（14.2%）、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」（11.3%）の順となっている。また、「その他」として「言葉による暴力」「障がい者に対する言動」「見た目で判断される」等が挙げられた。

前回調査と比較すると、「プライバシーを侵害された」で3.0ポイント減少している。一方、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」で2.0ポイント増加している。

性別でみると、「性的嫌がらせ(セクシャル・ハラスメント)を受けた」は女性(15.0%)が男性(3.1%)より11.9ポイント高くなっている。また、「特定の人に執拗につきまわられた(ストーカー行為)」は女性(11.5%)が男性(3.1%)より8.4ポイント高く、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力(ドメスティック・バイオレンス)を受けた」でも女性(14.3%)が男性(6.3%)より8.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は女性70歳以上(75.0%)で7割半ばと最も多く、男性70歳以上(66.7%)、男性60～69歳(62.5%)、男性18～29歳(60.0%)で6割以上と多くなっている。また、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は女性50～59歳(68.4%)で7割弱と最も多く、男性30～39歳(65.6%)、男性50～59歳(64.0%)、男性40～49歳(63.6%)で6割以上と多くなっている。

図表2-5-2 性・年齢別 人権侵害を感じた内容

	調査数(人)	悪口や陰口を言われたり、他人から	人種・信条・性別などに不平等な扱いをされた	職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた	プライバシーを侵害された	性的嫌がらせ(セクシャル・ハラスメント)を受けた	特定の人に執拗につきまわられた(ストーカー行為)	配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力(ドメスティック・バイオレンス)を受けた	その他	無回答
全体	478	48.7	14.2	47.3	16.7	10.5	7.9	11.3	8.2	0.2
女性全体	286	47.6	14.3	47.6	15.7	15.0	11.5	14.3	5.9	0.3
18～29歳	34	58.8	23.5	47.1	17.6	26.5	14.7	5.9	5.9	-
30～39歳	55	34.5	16.4	49.1	9.1	23.6	10.9	16.4	7.3	-
40～49歳	59	52.5	15.3	55.9	28.8	20.3	20.3	20.3	5.1	-
50～59歳	57	40.4	15.8	68.4	19.3	10.5	12.3	12.3	5.3	-
60～69歳	48	37.5	12.5	39.6	10.4	6.3	2.1	18.8	4.2	2.1
70歳以上	32	75.0	-	3.1	3.1	-	6.3	6.3	9.4	-
男性全体	159	48.4	11.9	51.6	17.6	3.1	3.1	6.3	10.1	-
18～29歳	25	60.0	24.0	48.0	28.0	8.0	8.0	4.0	8.0	-
30～39歳	32	34.4	9.4	65.6	18.8	3.1	-	6.3	12.5	-
40～49歳	33	42.4	18.2	63.6	21.2	6.1	-	6.1	6.1	-
50～59歳	25	36.0	8.0	64.0	12.0	-	4.0	4.0	12.0	-
60～69歳	24	62.5	-	29.2	8.3	-	4.2	4.2	16.7	-
70歳以上	18	66.7	5.6	27.8	16.7	-	5.6	16.7	5.6	-

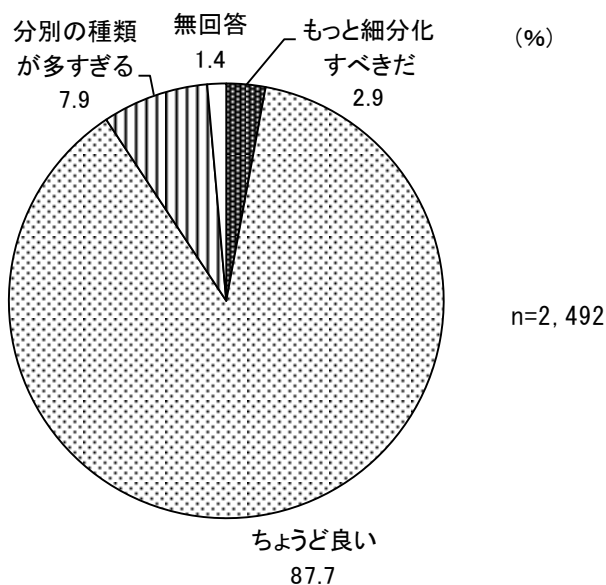
3. ごみの分別・減量について

(1) ごみの分別区分

◇「ちょうど良い」が9割弱

問14. 市が収集するごみの分別区分について、どのように考えていますか。(○は1つ)

図表3-1-1 ごみの分別区分

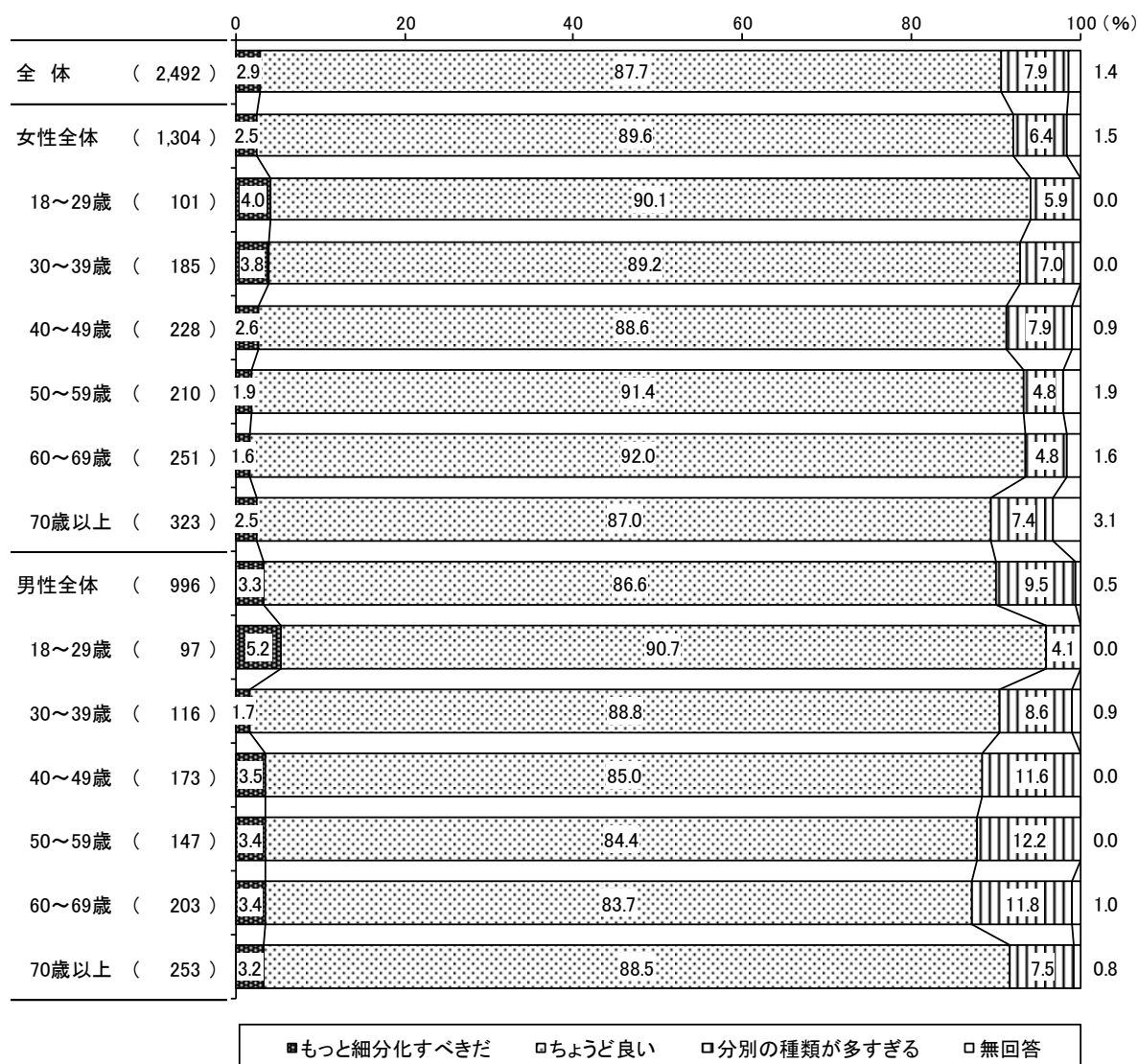


ごみの分別区分については、「ちょうど良い」(87.7%)が9割弱と最も多く、次いで、「分別の種類が多すぎる」(7.9%)、「もっと細分化すべきだ」(2.9%)となっている。

性別で見ると、「ちょうど良い」は女性(89.6%)が男性(86.6%)より3.0ポイント高くなっている。一方、「分別の種類が多すぎる」は男性(9.5%)が女性(6.4%)より3.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「ちょうど良い」は女性60～69歳(92.0%)、女性50～59歳(91.4%)、男性18～29歳(90.7%)、女性18～29歳(90.1%)で9割を超えている。一方、「分別の種類が多すぎる」は男性50～59歳(12.2%)、男性60～69歳(11.8%)、男性40～49歳(11.6%)で1割以上と多くなっている。

図表3-1-2 性・年齢別 ごみの分別区分

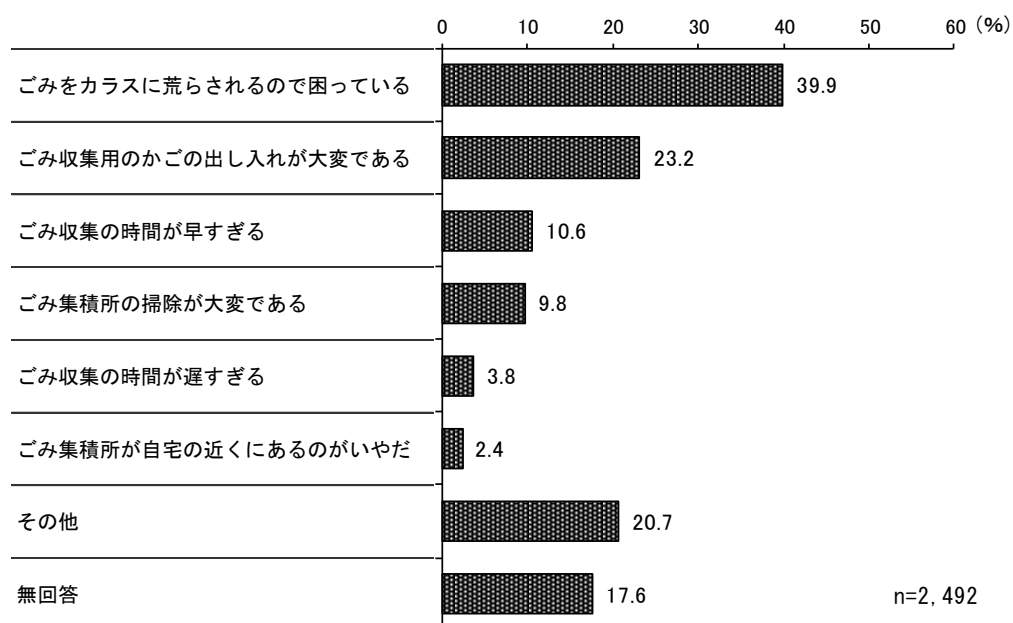


(2) ごみを出す時に困ったこと

◇「ごみをカラスに荒らされるので困っている」が最も多く、約4割

問15. あなたは、ごみを出す時に困ったことはありますか。(複数回答可)

図表3-2-1 ごみを出す時に困ったこと



ごみを出す時に困ったことについては、「ごみをカラスに荒らされるので困っている」(39.9%)が最も多く、次いで、「ごみ収集用のかごの出し入れが大変である」(23.2%)、「ごみ収集の時間が早すぎる」(10.6%)、「ごみ集積所の掃除が大変である」(9.8%)、「ごみ収集の時間が遅すぎる」(3.8%)の順となっている。また、「その他」として「集積所が遠い」「決まった日に出さない人がいる」「粗大ごみの扱いに困る」等が挙げられた。

性別で見ると、「ごみ収集用のかごの出し入れが大変である」は女性（24.8%）が男性（20.9%）より3.9ポイント高く、「ごみ収集の時間が早すぎる」でも女性（11.7%）が男性（9.8%）より1.9ポイント高くなっている。一方、「ごみをカラスに荒らされるので困っている」は男性（41.5%）が女性（39.2%）より2.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「ごみをカラスに荒らされるので困っている」は男性50～59歳（45.6%）で4割半ばと最も多くなっている。また、「ごみ収集用のかごの出し入れが大変である」は女性70歳以上（30.7%）で約3割と多く、「ごみ収集の時間が早すぎる」は女性18～29歳（22.8%）で2割強と多くなっている。

図表3-2-2 性・年齢別 ごみを出す時に困ったこと

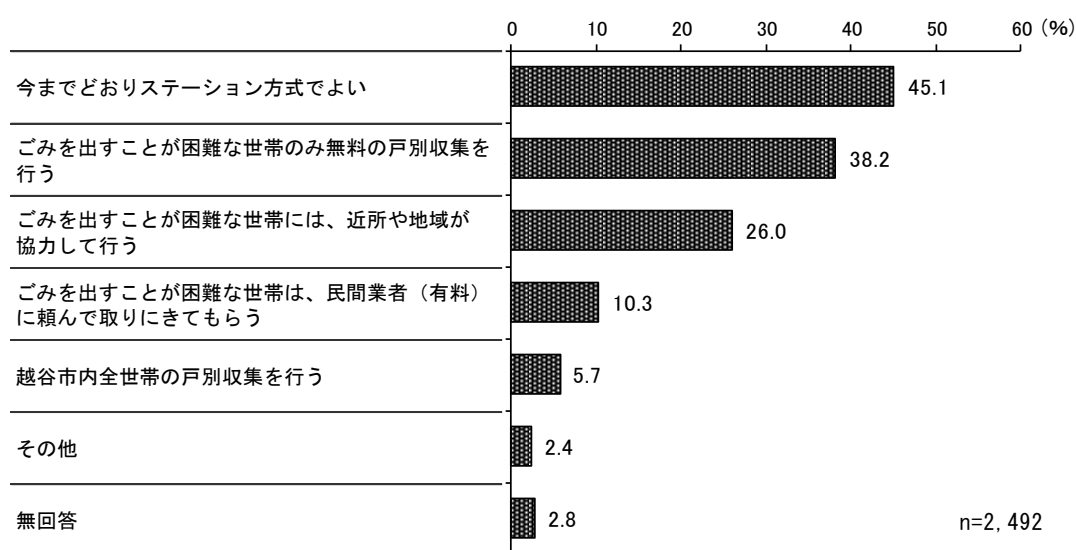
	調査数（人）	れご が大 変用 のか ごの 出し 入	の ご み を カ ラ ス に 荒 ら さ れ る	あ ご み 集 積 所 の 掃 除 が 大 変 で	あ ご み 集 積 所 が 自 宅 の 近 く に	ご み 集 集 の 時 間 が 早 す ぎ る	ご み 集 集 の 時 間 が 遅 す ぎ る	そ の 他	無 回 答
全 体	2,492	23.2	39.9	9.8	2.4	10.6	3.8	20.7	17.6
女性全体	1,304	24.8	39.2	9.5	2.5	11.7	3.8	20.9	17.9
18～29歳	101	16.8	30.7	5.0	-	22.8	-	21.8	21.8
30～39歳	185	27.0	42.2	9.7	2.2	13.5	4.3	23.2	19.5
40～49歳	228	20.6	39.9	12.3	3.5	14.0	3.5	24.6	17.1
50～59歳	210	21.4	39.0	8.1	2.4	12.4	3.8	20.0	18.6
60～69歳	251	24.7	39.4	8.8	3.6	11.2	5.6	20.3	17.5
70歳以上	323	30.7	39.6	10.2	1.9	5.3	3.4	18.0	16.4
男性全体	996	20.9	41.5	10.5	2.0	9.8	3.7	21.2	16.9
18～29歳	97	16.5	34.0	11.3	2.1	17.5	3.1	17.5	17.5
30～39歳	116	19.0	40.5	6.9	2.6	13.8	3.4	21.6	16.4
40～49歳	173	23.1	41.6	12.7	3.5	9.2	1.7	22.0	13.3
50～59歳	147	22.4	45.6	8.2	2.0	8.2	4.1	23.8	16.3
60～69歳	203	17.2	42.4	12.8	2.0	7.9	5.4	22.7	16.3
70歳以上	253	23.7	41.5	10.3	0.8	7.9	4.0	19.4	20.6

(3) 高齢者のごみの出し方

◇「今までどおりステーション方式でよい」が最も多く、4割半ば

問16. あなたは、超高齢社会における高齢者のごみの出し方について、どのように考えていますか。(複数回答可)

図表3-3-1 高齢者のごみの出し方



高齢者のごみの出し方については、「今までどおりステーション方式でよい」(45.1%)が最も多く、次いで、「ごみを出すことが困難な世帯のみ無料の戸別収集を行う」(38.2%)、「ごみを出すことが困難な世帯には、近所や地域が協力して行う」(26.0%)、「ごみを出すことが困難な世帯は、民間業者(有料)に頼んで取りにきてもらう」(10.3%)、「越谷市内全世帯の戸別収集を行う」(5.7%)の順となっている。また、「その他」として「集積所を増やす」等が挙げられた。

性別でみると、「ごみを出すことが困難な世帯のみ無料の戸別収集を行う」は女性（43.5%）が男性（33.9%）より 9.6 ポイント高く、「今までどおりステーション方式でよい」は男性（49.3%）が女性（41.0%）より 8.3 ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「今までどおりステーション方式でよい」は男性 70 歳以上（59.7%）、女性 70 歳以上（52.9%）、男性 60～69 歳（52.2%）、男性 18～29 歳（50.5%）で 5 割以上と多くなっている。

「ごみを出すことが困難な世帯のみ無料の戸別収集を行う」は女性 50～59 歳（53.3%）、女性 30～39 歳（51.4%）で 5 割以上と多く、「ごみを出すことが困難な世帯には、近所や地域が協力して行う」は女性 60～69 歳（33.1%）、男性 70 歳以上（30.0%）で 3 割以上と多くなっている。

図表 3-3-2 性・年齢別 高齢者のごみの出し方

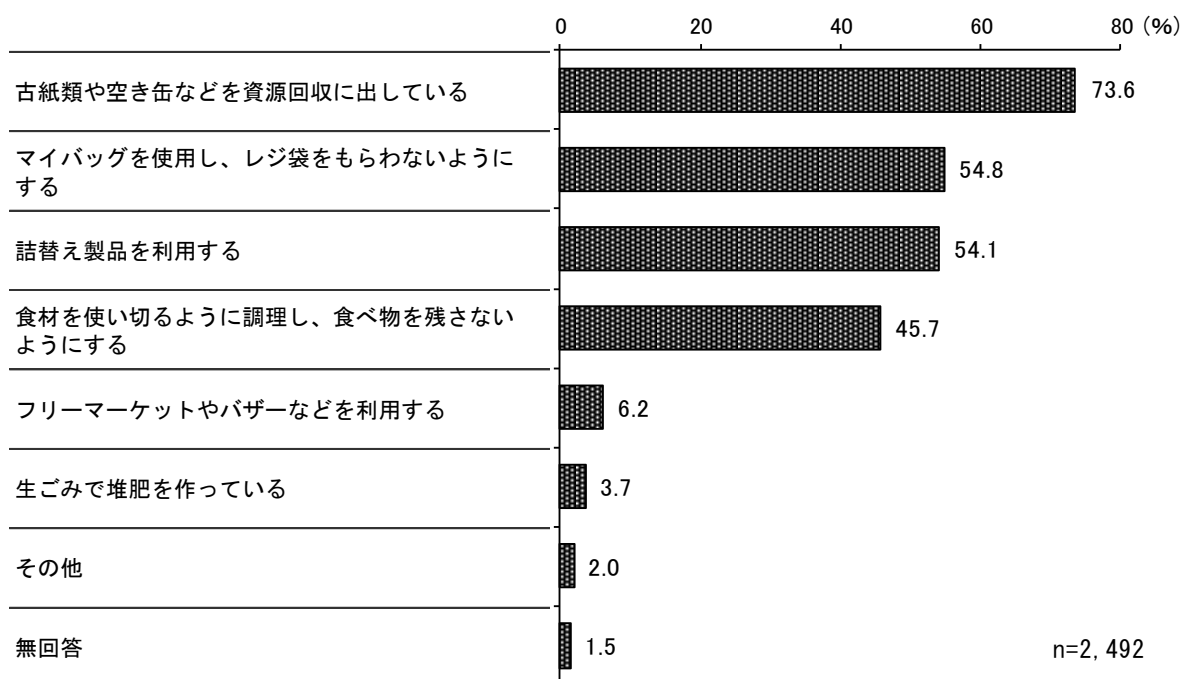
	調査数（人）	今までどおりステーション方式	越谷市内全世帯の戸別収集を行う	ごみを出すことが困難な世帯のみ無料の戸別収集を行う	ごみを出すことが困難な世帯に近所や地域が協力して行う	取り、民間業者（有料）に頼んでごみを出すことが困難な世帯	その他	無回答
全体	2,492	45.1	5.7	38.2	26.0	10.3	2.4	2.8
女性全体	1,304	41.0	6.1	43.5	26.7	8.9	2.2	3.3
18～29歳	101	37.6	2.0	43.6	22.8	14.9	1.0	3.0
30～39歳	185	32.4	6.5	51.4	21.6	15.1	1.1	1.6
40～49歳	228	34.6	10.1	45.2	24.6	14.9	5.7	0.9
50～59歳	210	32.4	6.2	53.3	28.1	4.8	0.5	2.4
60～69歳	251	45.8	5.6	45.0	33.1	6.0	2.0	3.2
70歳以上	323	52.9	5.0	30.3	26.6	4.0	2.2	6.8
男性全体	996	49.3	5.5	33.9	25.0	12.8	2.7	1.7
18～29歳	97	50.5	3.1	22.7	26.8	20.6	1.0	3.1
30～39歳	116	45.7	5.2	38.8	19.0	17.2	4.3	0.9
40～49歳	173	42.2	8.1	36.4	22.0	15.0	2.9	1.7
50～59歳	147	38.1	7.5	39.5	19.7	14.3	4.1	-
60～69歳	203	52.2	6.4	36.0	26.6	8.4	2.0	1.5
70歳以上	253	59.7	3.2	29.6	30.0	8.7	2.4	2.8

(4) ごみの減量及びリサイクルのためにしていること

◇「古紙類や空き缶などを資源回収に出している」が最も多く、7割強

問17. あなたが、ごみの減量及びリサイクルのために具体的にしていることは何ですか。
(複数回答可)

図表3-4-1 ごみの減量及びリサイクルのためにしていること



ごみの減量及びリサイクルのためにしていることについては、「古紙類や空き缶などを資源回収に出している」(73.6%)が最も多く、次いで、「マイバッグを使用し、レジ袋をもらわないようにする」(54.8%)、「詰替え製品を利用する」(54.1%)、「食材を使い切るように調理し、食べ物を残さないようにする」(45.7%)、「フリーマーケットやバザーなどを利用する」(6.2%)の順となっている。また、「その他」として「ごみになるものをもらわない」「過剰な包装のものは買わない」「ペットボトルのキャップを集める」等が挙げられた。

性別でみると、「詰替え製品を利用する」は女性（61.0%）が男性（48.4%）より12.6ポイント高く、「マイバッグを使用し、レジ袋をもらわないようにする」でも女性（60.7%）が男性（48.2%）より12.5ポイント高くなっている。また、「食材を使い切るように調理し、食べ物を残さないようにする」は女性（50.2%）が男性（41.2%）より9.0ポイント高く、「古紙類や空き缶などを資源回収に出している」は女性（76.8%）が男性（70.3%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「古紙類や空き缶などを資源回収に出している」は女性70歳以上（83.3%）、男性70歳以上（83.0%）、女性60～69歳（82.5%）、女性50～59歳（81.9%）で8割以上と多くなっている。また、「詰替え製品を利用する」は女性50～59歳（72.9%）、女性30～39歳（72.4%）、女性40～49歳（71.1%）で7割以上と多く、「マイバッグを使用し、レジ袋をもらわないようにする」は女性50～59歳（64.8%）、女性30～39歳（62.7%）、女性60～69歳（62.5%）、女性40～49歳（62.3%）で6割以上と多くなっている。

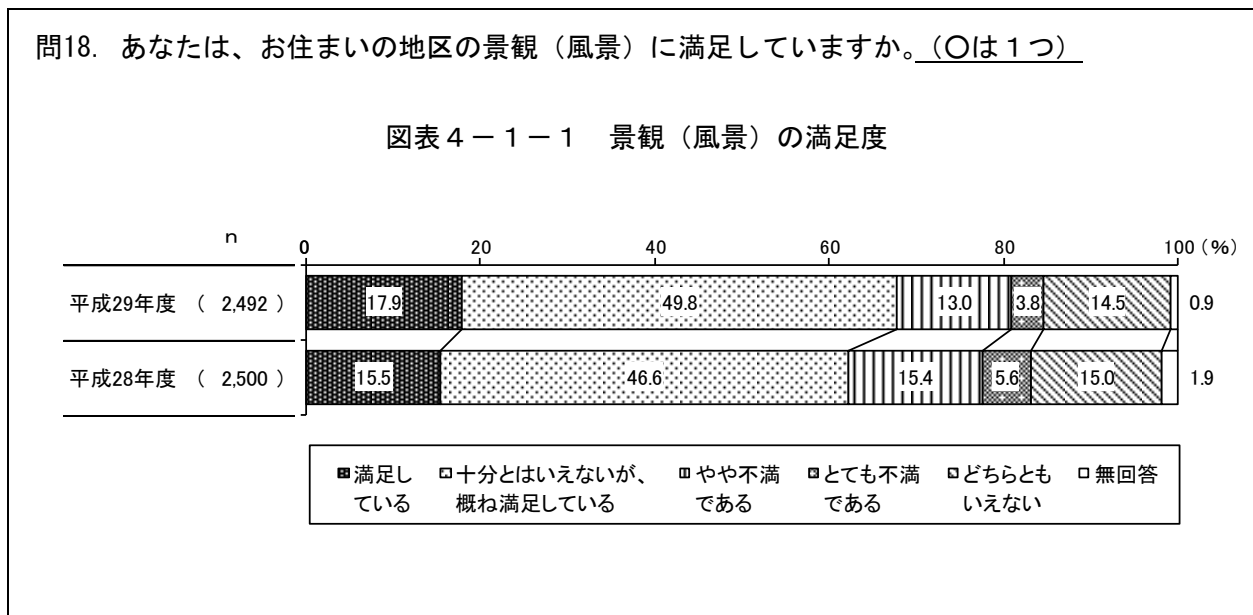
図表3-4-2 性・年齢別 ごみの減量及びリサイクルのためにしていること

	調査数（人）	マイバッグを使用し、レジ袋をもらわないようにする	食材を使い切るように調理し、食べ物を残さないようにする	生ごみで堆肥を作っている	詰替え製品を利用する	フリーマーケットやバザーなどを利用する	古紙類や空き缶などを資源回収に出している	その他	無回答
全体	2,492	54.8	45.7	3.7	54.1	6.2	73.6	2.0	1.5
女性全体	1,304	60.7	50.2	3.5	61.0	7.4	76.8	1.8	1.2
18～29歳	101	54.5	48.5	2.0	62.4	14.9	47.5	-	3.0
30～39歳	185	62.7	57.8	1.1	72.4	15.7	69.7	3.2	-
40～49歳	228	62.3	50.0	1.8	71.1	9.6	75.4	2.2	0.4
50～59歳	210	64.8	47.1	3.3	72.9	7.1	81.9	1.0	0.5
60～69歳	251	62.5	51.0	3.2	62.9	3.6	82.5	2.4	1.2
70歳以上	323	57.3	47.1	6.8	37.8	2.2	83.3	1.2	2.5
男性全体	996	48.2	41.2	3.7	48.4	4.6	70.3	2.3	1.8
18～29歳	97	44.3	38.1	-	51.5	7.2	39.2	4.1	5.2
30～39歳	116	50.9	38.8	-	57.8	9.5	46.6	3.4	2.6
40～49歳	173	49.1	35.8	1.2	65.9	5.2	66.5	2.9	4.0
50～59歳	147	50.3	44.9	3.4	59.9	5.4	77.6	2.0	-
60～69歳	203	49.8	40.9	3.9	39.4	2.5	79.8	1.0	-
70歳以上	253	45.8	45.1	8.7	31.6	2.4	83.0	2.0	1.2

4. 景観（風景）について

（1）景観（風景）の満足度

◇『満足』が7割弱

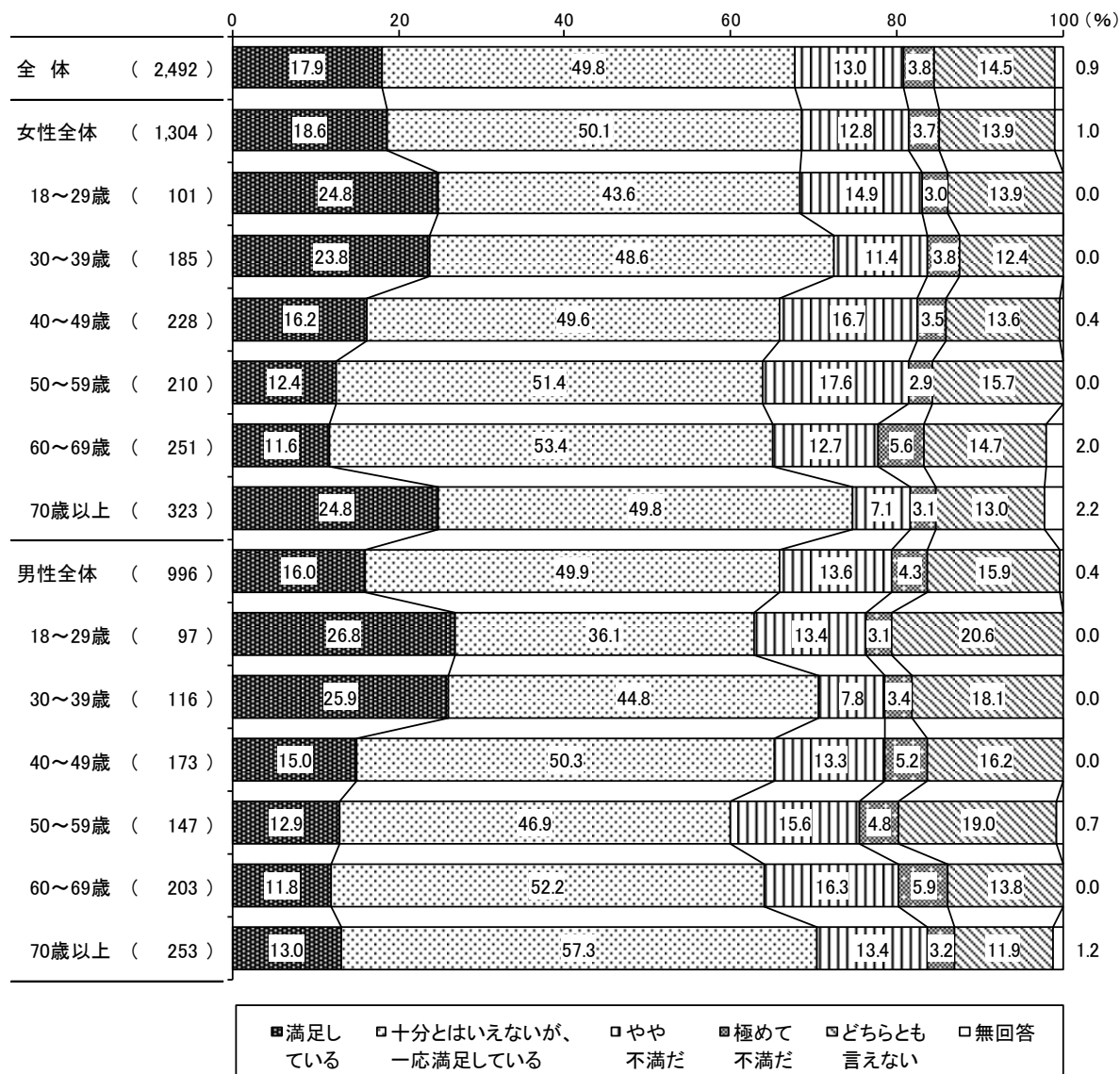


住まいの地区の景観（風景）の満足度については、「満足している」（17.9%）と「十分とはいえないが、概ね満足している」（49.8%）を合わせた『満足』（67.7%）は7割弱となっている。

前回の調査と比較すると、『満足』（67.7%）は平成28年度調査（62.1%）と比べ5.6ポイント増加している。一方、「やや不満である」（13.0%）と「とても不満である」（3.8%）を合わせた『不満』（16.8%）は平成28年度調査（21.0%）と比べ4.2ポイント減少している。

性別で見ると、『満足』は女性（68.7%）が男性（65.9%）より2.8ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『満足』は女性70歳以上（74.6%）で7割半ば、女性30～39歳（72.4%）で7割強と多くなっている。一方、『不満』は男性60～69歳（22.2%）で2割強と多くなっている。

図表4-1-2 性・年齢別 景観（風景）の満足度

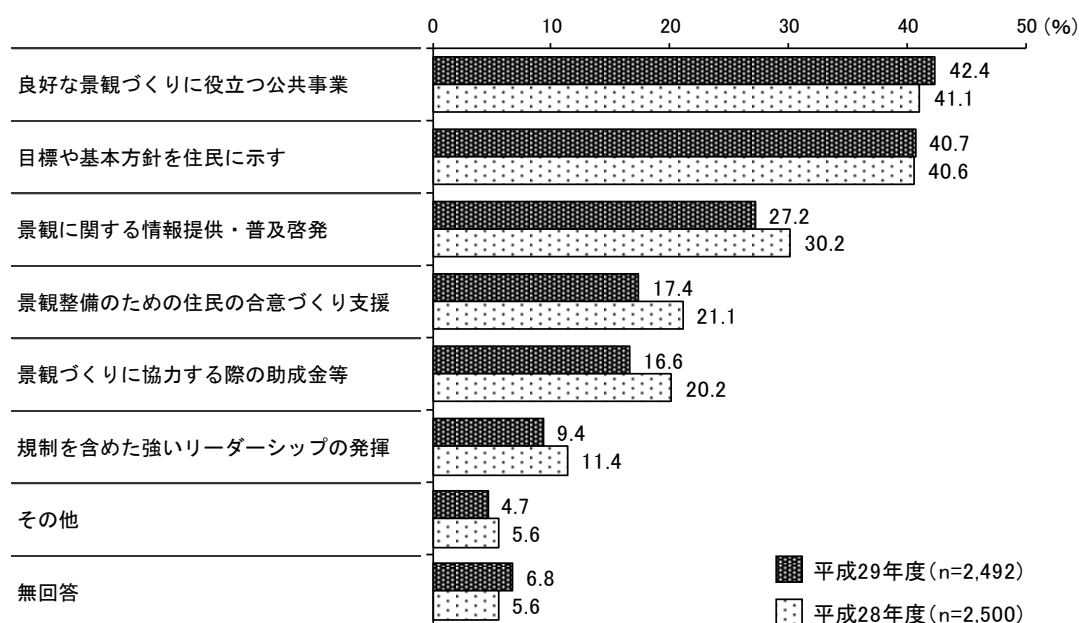


(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が最も多く、4割強

問19. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。
 (○は3つまで)

図表4-2-1 行政に望むこと



良い景観（風景）のまちをつくるため、行政に望むものについては、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（42.4%）が最も多く、次いで、「目標や基本方針を住民に示す」（40.7%）、「景観に関する情報提供・普及啓発」（27.2%）、「景観整備のための住民の合意づくり支援」（17.4%）、「景観づくりに協力する際の助成金等」（16.6%）の順となっている。また、「その他」として「電線の地中化」「歴史的建造物を市が買い取り保存する」「現状維持」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「景観に関する情報提供・普及啓発」「景観整備のための住民の合意づくり支援」「景観づくりに協力する際の助成金等」で3.0ポイント以上減少している。

性別でみると、いずれの項目も男性が女性より高く、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性(12.7%)が女性(7.3%)より5.4ポイント、「景観整備のための住民の合意づくり支援」は男性(20.4%)が女性(15.5%)より4.9ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は男性18～29歳(61.9%)で約6割と多くなっている。また、「目標や基本方針を住民に示す」は男性60～69歳(51.2%)で約5割と多くなっている。

図表4-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数(人)	目標や基本方針を住民に示す	良好な景観づくりに役立つ公共事業	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	景観に関する情報提供・普及啓発	景観づくりに協力する際の助成金等	景観整備のための住民の合意づくり支援	その他	無回答
全体	2,492	40.7	42.4	9.4	27.2	16.6	17.4	4.7	6.8
女性全体	1,304	40.3	41.7	7.3	27.1	16.7	15.5	3.9	8.3
18～29歳	101	35.6	43.6	5.0	24.8	20.8	9.9	5.9	7.9
30～39歳	185	39.5	45.9	5.9	29.7	20.5	9.7	3.2	4.9
40～49歳	228	37.7	45.6	11.4	26.8	14.9	14.5	4.8	3.5
50～59歳	210	41.0	40.5	7.1	34.8	12.9	19.0	2.4	3.8
60～69歳	251	45.4	46.6	7.2	27.1	17.5	19.1	3.6	6.4
70歳以上	323	39.6	33.1	6.2	21.7	16.4	16.4	4.3	18.3
男性全体	996	42.8	44.3	12.7	29.0	17.3	20.4	5.5	3.0
18～29歳	97	32.0	61.9	13.4	24.7	16.5	13.4	6.2	-
30～39歳	116	37.9	45.7	13.8	22.4	18.1	22.4	6.0	0.9
40～49歳	173	37.0	47.4	10.4	32.9	21.4	16.8	5.2	1.7
50～59歳	147	42.9	38.8	16.3	34.0	16.3	23.8	3.4	1.4
60～69歳	203	51.2	37.9	11.8	32.0	16.7	23.6	4.4	2.5
70歳以上	253	46.2	43.1	12.3	25.7	15.0	20.2	7.5	7.1

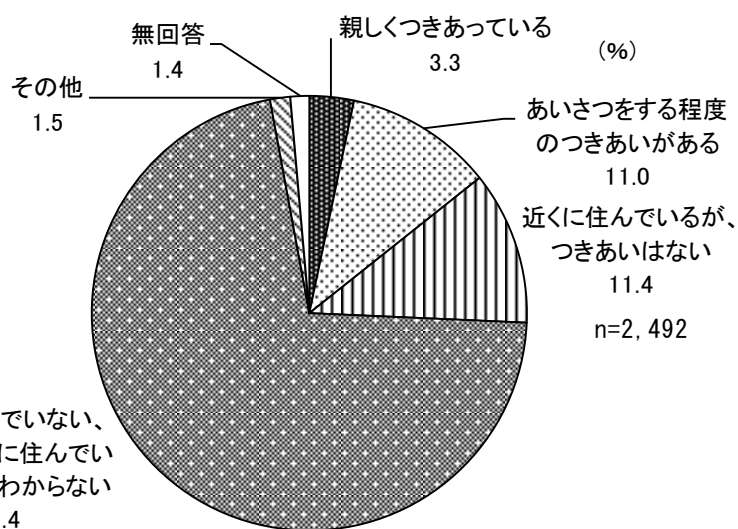
5. 多文化共生のまちづくりについて

(1) 外国人市民とのつき合い

◇「近くに住んでいない、または近くに住んでいるかどうかわからない」が約7割、『つきあいがある』は1割半ば

問20. あなたは近くに住む外国人市民とどのようなつき合いがありますか（外国人市民の方は、日本人市民とのつき合いについてお答えください）。(○は1つ)

図表5-1-1 外国人市民とのつき合い

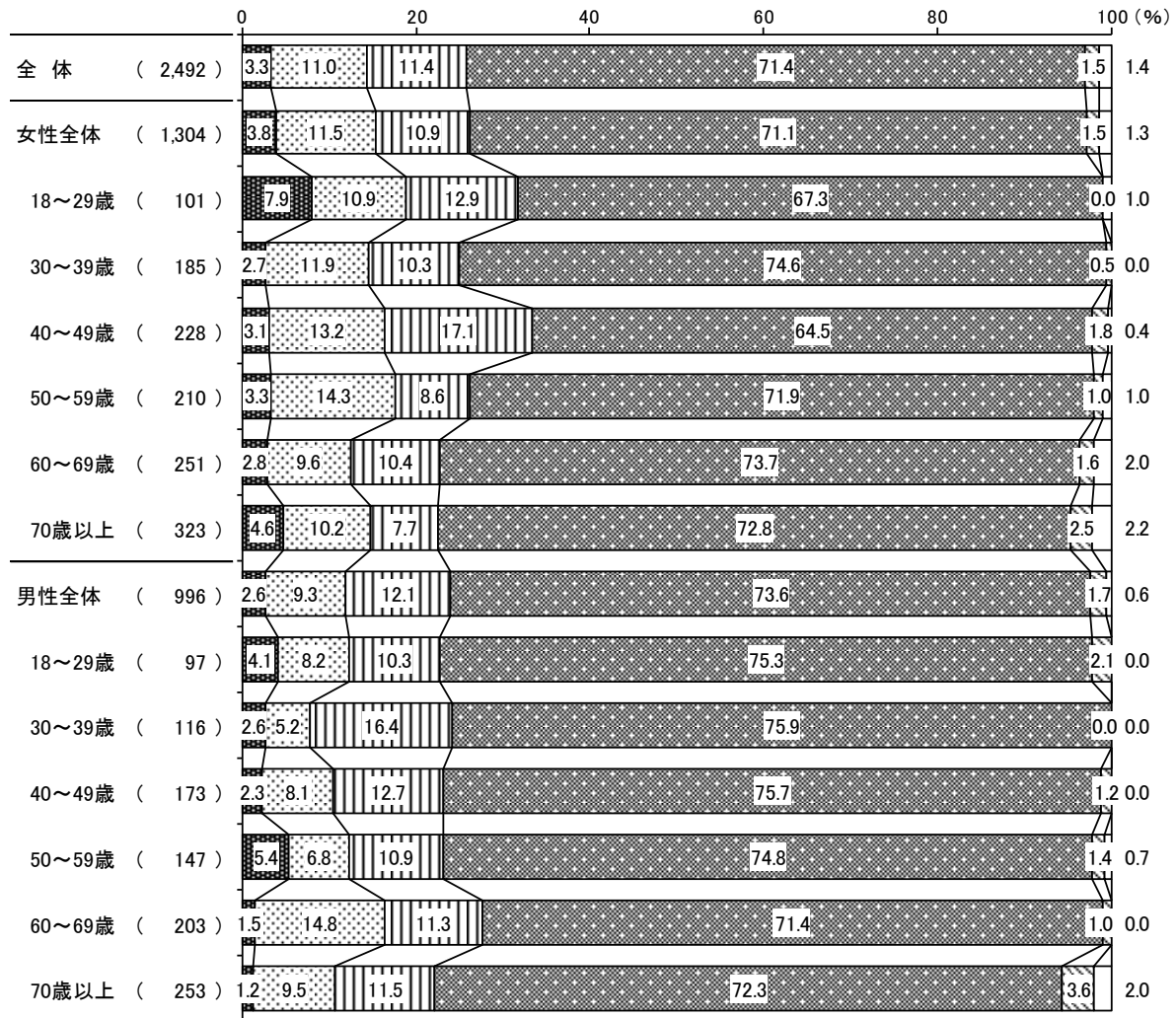


近くに住む外国人市民とのつき合いについては、「近くに住んでいない、または近くに住んでいるかどうかわからない」(71.4%)が最も多く、次いで、「近くに住んでいるが、つきあいはない」(11.4%)、「あいさつをする程度のつきあいがある」(11.0%)、「親しくつきあっている」(3.3%)の順となっている。「あいさつをする程度のつきあいがある」(11.0%)と「親しくつきあっている」(3.3%)を合わせた『つきあいがある』(14.3%)は1割半ばとなっている。また、「その他」として「これまで住んでいた」「昔はつきあいがあった」等が挙げられた。

性別でみると、『つきあいがある』は女性（15.3%）が男性（11.9%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『つきあいがある』は女性18～29歳（18.8%）、女性50～59歳（17.6%）で2割弱と多くなっている。また、「親しくつきあっている」は女性18～29歳（7.9%）で1割弱と多くなっている。

図表5-1-2 性・年齢別 外国人市民とのつき合い



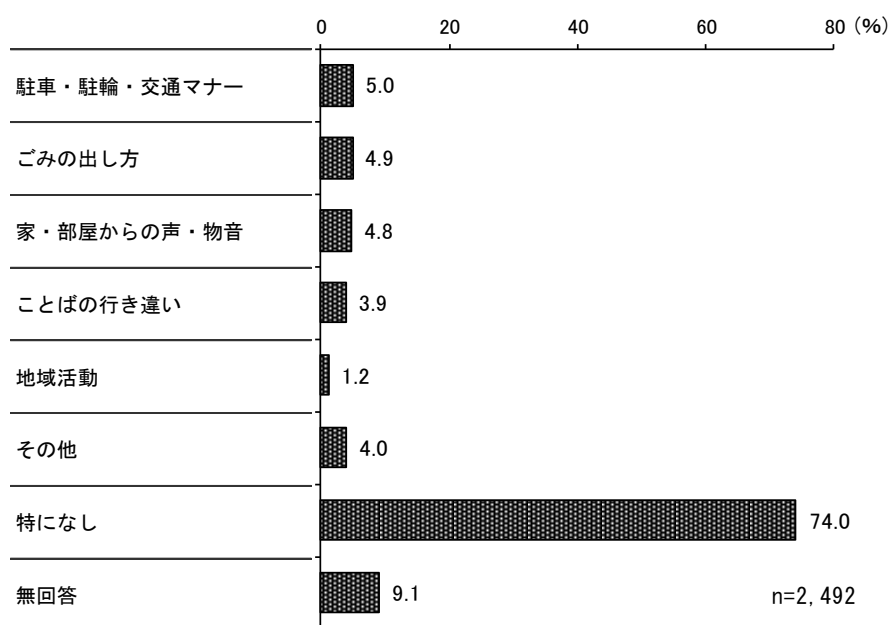
親しくつきあっている
 あいさつをする程度のつきあいがある
 近くに住んでいるが、つきあいはない
 近くに住んでいない、または近くに住んでいるかどうかわからない
 その他
 無回答

(2) 外国人市民との関係で困った経験

◇「特になし」が最も多く、7割半ば

問21. あなたは今までに、近くに住む外国人市民との関係で困った経験はありますか。(外国人市民の方は、日本人市民との経験についてお答えください)。(複数回答可)

図表5-2-1 外国人市民との関係で困った経験



近くに住む外国人市民との関係で困った経験については、「特になし」(74.0%)が最も多く、次いで、「駐車・駐輪・交通マナー」(5.0%)、「ごみの出し方」(4.9%)、「家・部屋からの声・物音」(4.8%)、「ことばの行き違い」(3.9%)の順となっている。また、「その他」として「大声で話す」「文化の違い」「価値観の違い」「ルールを守らない」等が挙げられた。

性別で見ると、「特になし」は男性（76.9%）が女性（73.2%）より3.7ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、「家・部屋からの声・物音」は女性40～49歳（10.1%）、男性30～39歳（9.5%）で約1割と多くなっている。また、「ことばの行き違い」は男性18～29歳（8.2%）で1割弱と多くなっている。一方、「特になし」は男性40～49歳（84.4%）、男性18～29歳（81.4%）、女性30～39歳（80.0%）で8割以上と多くなっている。

図表5-2-2 性・年齢別 外国人市民との関係で困った経験

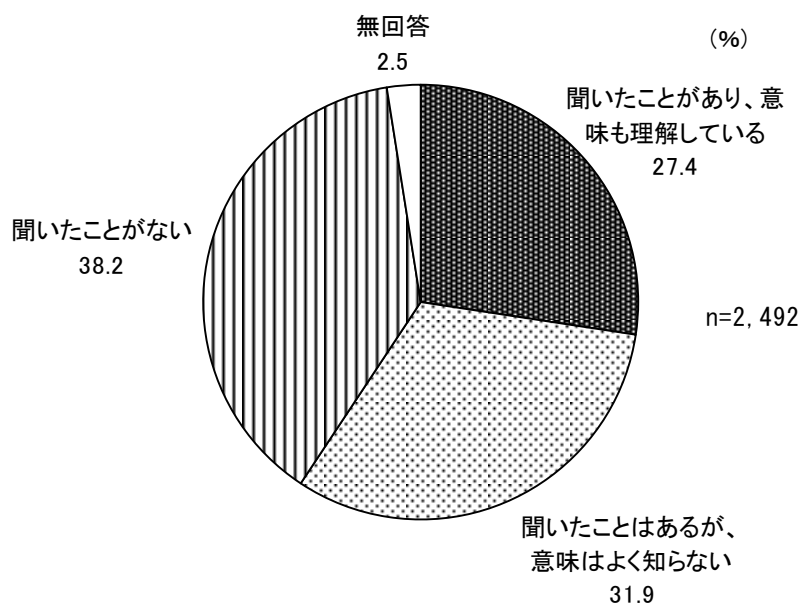
	調査数（人）	家・部屋からの声・物音	ことばの行き違い	ごみの出し方	駐車・駐輪・交通マナー	地域活動	その他	特になし	無回答
全体	2,492	4.8	3.9	4.9	5.0	1.2	4.0	74.0	9.1
女性全体	1,304	5.1	4.1	4.7	4.1	1.1	3.8	73.2	10.6
18～29歳	101	5.9	6.9	1.0	4.0	-	2.0	79.2	5.0
30～39歳	185	4.3	6.5	3.8	5.4	1.1	1.6	80.0	3.8
40～49歳	228	10.1	6.6	6.6	5.3	1.8	5.7	69.3	4.8
50～59歳	210	7.1	3.3	5.7	4.8	1.9	5.2	76.7	4.8
60～69歳	251	2.4	2.4	5.2	4.0	0.8	2.8	74.5	13.9
70歳以上	323	2.2	1.9	3.7	2.2	0.6	4.3	67.2	21.1
男性全体	996	4.6	3.6	4.7	6.0	1.4	4.3	76.9	5.4
18～29歳	97	5.2	8.2	3.1	6.2	2.1	1.0	81.4	2.1
30～39歳	116	9.5	6.0	6.0	8.6	0.9	5.2	77.6	0.9
40～49歳	173	5.8	2.3	5.2	4.6	1.2	1.7	84.4	1.7
50～59歳	147	6.1	4.8	5.4	8.2	2.0	2.7	75.5	4.8
60～69歳	203	1.5	3.0	3.9	6.9	1.0	3.4	77.8	8.4
70歳以上	253	3.2	1.2	4.3	3.6	1.2	8.7	70.8	9.1

(3) 「多文化共生」という言葉の認知度

◇「聞いたことがあります、意味も理解している」が3割弱

問22. あなたは「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。(○は1つ)

図表5-3-1 「多文化共生」という言葉の認知度

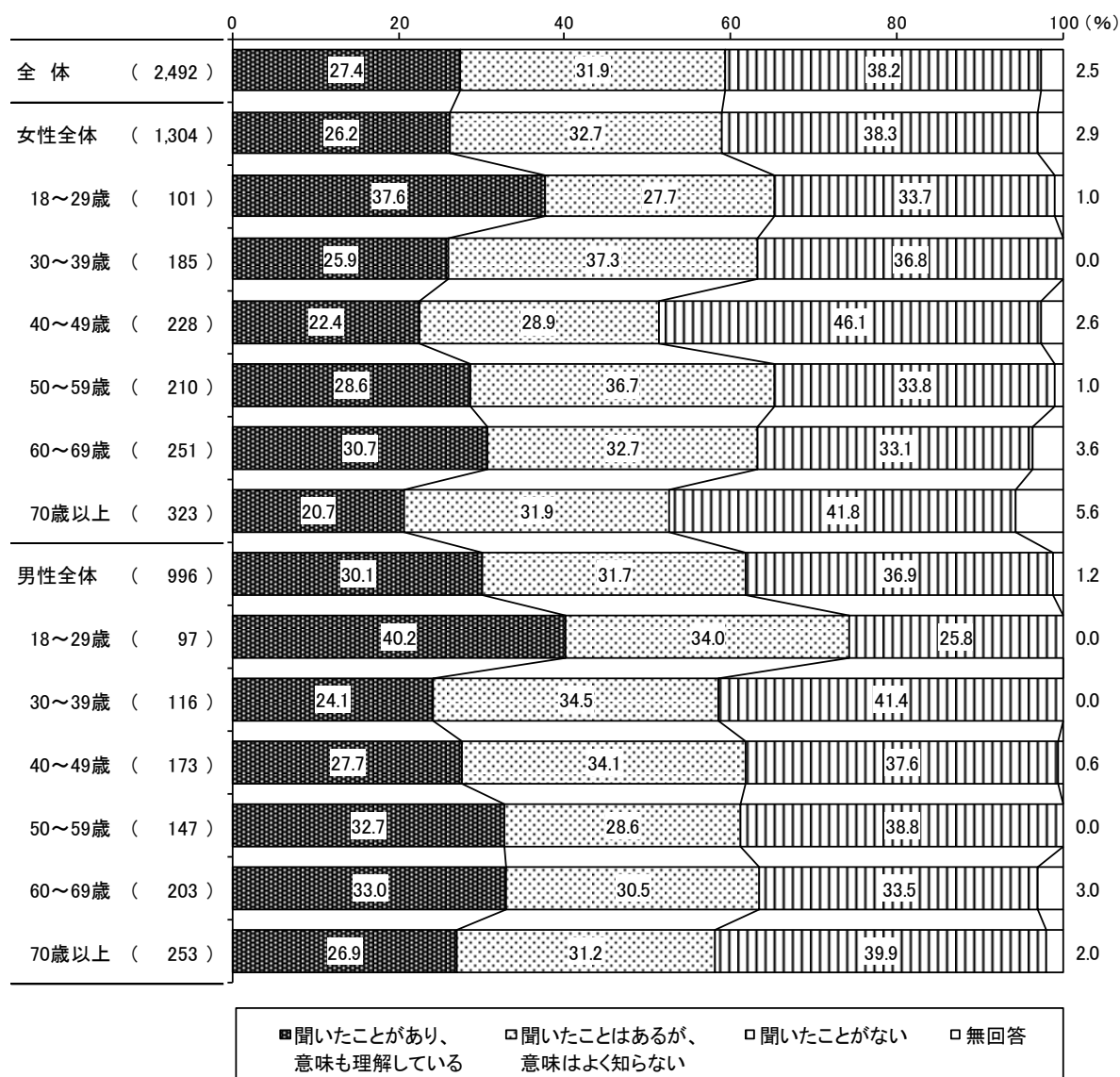


「多文化共生」という言葉の認知度については、「聞いたことがあります、意味も理解している」(27.4%)が3割弱、「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」(31.9%)が約3割となっている。「聞いたことがあります、意味も理解している」(27.4%)と「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」(31.9%)を合わせた『聞いたことがある』(59.3%)は約6割となっている。一方、「聞いたことがない」(38.2%)は4割弱となっている。

性別で見ると、「聞いたことがあり、意味も理解している」は男性（30.1%）が女性（26.2%）より3.9ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「聞いたことがあり、意味も理解している」は男性18～29歳（40.2%）で約4割と最も多く、女性18～29歳（37.6%）で4割弱と多くなっている。一方、「聞いたことがない」は女性40～49歳（46.1%）で4割半ばと最も多く、女性70歳以上（41.8%）、男性30～39歳（41.4%）で4割を超えている。

図表5-3-2 性・年齢別 「多文化共生」という言葉の認知度

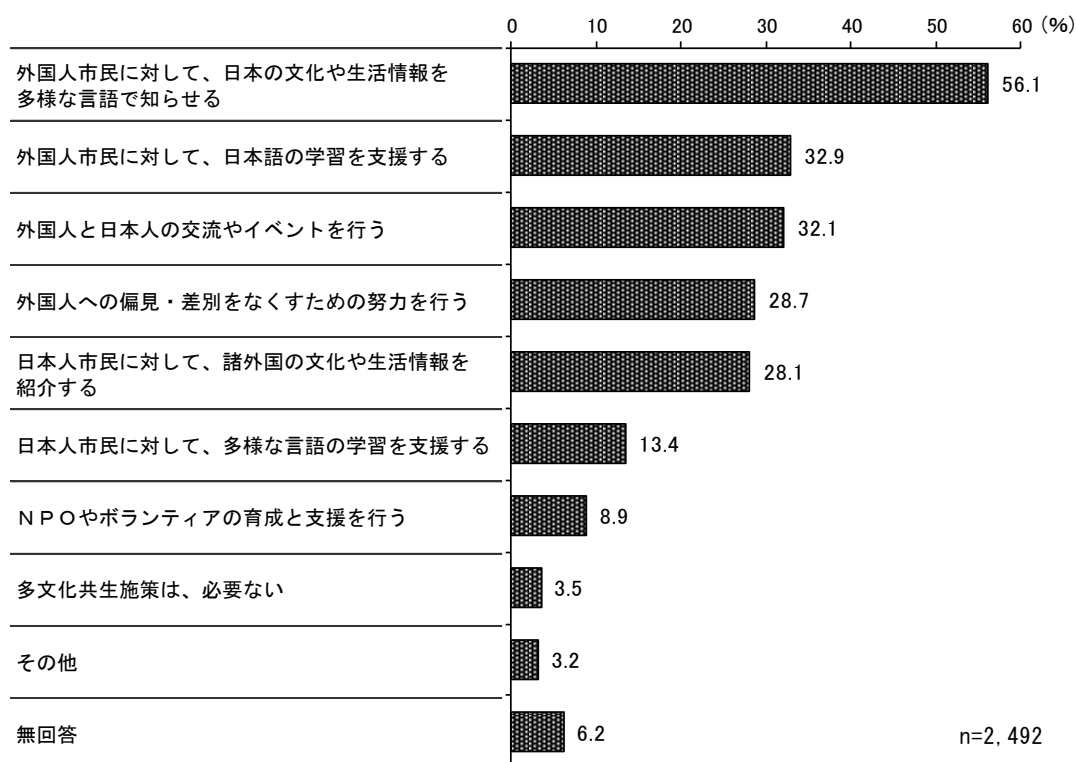


(4) 「多文化共生のまち」づくりに市が力を入れること

◇「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」が最も多く、5割半ば

問23. 外国人市民と日本人市民が共に暮らしやすい「多文化共生のまち」づくりのために、市が力を入れるべきだと思うことは何ですか。(複数回答可)

図表5-4-1 「多文化共生のまち」づくりに市が力を入れること



「多文化共生のまち」づくりに市が力を入れることについては、「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」(56.1%)が最も多く、次いで、「外国人市民に対して、日本語の学習を支援する」(32.9%)、「外国人と日本人の交流やイベントを行う」(32.1%)、「外国人への偏見・差別をなくすための努力を行う」(28.7%)、「日本人市民に対して、諸外国の文化や生活情報を紹介する」(28.1%)の順となっている。また、「その他」として「各種案内板に英語も加える」「外国人にマナーを学んでもらう」「外国人の雇用を増やす」等が挙げられた。

性別でみると、「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」は女性(59.7%)が男性(54.5%)より5.2ポイント高く、「日本人市民に対して、諸外国の文化や生活情報を紹介する」でも女性(30.3%)が男性(26.8%)より3.5ポイント高くなっている。一方、「外国人市民に対して、日本語の学習を支援する」は男性(35.9%)が女性(32.3%)より3.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」は女性30～39歳(68.6%)、女性50～59歳(68.1%)、女性18～29歳(67.3%)で7割弱と多くなっている。また、「外国人市民に対して、日本語の学習を支援する」は男性40～49歳(43.9%)、男性60～69歳(41.4%)で4割以上と多く、「外国人と日本人の交流やイベントを行う」は女性18～29歳(43.6%)、男性50～59歳(41.5%)で4割以上と多くなっている。

図表5-4-2 性・年齢別 「多文化共生のまち」づくりに市が力を入れること

	調査数(人)	外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる	日本人市民に対して、諸外国の文化や生活情報を紹介する	外国人市民に対して、日本語の学習を支援する	日本人市民に対して、多様な言語の学習を支援する	外国人と日本人の交流やイベントを行う	NPOやボランティアの育成と支援を行う	外国人への偏見・差別をなくすための努力を行う	多文化共生施策は、必要ない	その他	無回答
全体	2,492	56.1	28.1	32.9	13.4	32.1	8.9	28.7	3.5	3.2	6.2
女性全体	1,304	59.7	30.3	32.3	15.0	32.4	8.6	28.6	2.8	2.5	6.8
18～29歳	101	67.3	32.7	31.7	19.8	43.6	10.9	37.6	2.0	2.0	2.0
30～39歳	185	68.6	36.2	35.7	24.9	35.7	7.6	29.7	2.7	1.1	1.1
40～49歳	228	63.6	28.9	37.3	20.6	34.2	9.2	20.6	3.9	3.1	2.2
50～59歳	210	68.1	36.2	36.7	15.7	34.3	5.7	27.6	3.3	0.5	2.4
60～69歳	251	63.7	35.1	34.3	10.4	34.7	12.0	33.9	2.0	2.0	5.2
70歳以上	323	40.9	19.8	23.2	7.1	23.2	7.4	27.6	2.5	4.6	18.9
男性全体	996	54.5	26.8	35.9	12.8	32.6	9.5	29.6	3.8	3.9	3.8
18～29歳	97	46.4	25.8	27.8	16.5	30.9	6.2	32.0	4.1	3.1	1.0
30～39歳	116	62.1	26.7	38.8	17.2	30.2	6.9	19.0	2.6	3.4	0.9
40～49歳	173	53.8	29.5	43.9	15.0	32.9	6.9	34.7	4.6	2.9	1.7
50～59歳	147	53.7	29.9	38.1	15.6	41.5	12.2	23.8	5.4	6.1	3.4
60～69歳	203	61.6	26.1	41.4	9.4	34.5	11.3	34.5	1.0	2.0	3.4
70歳以上	253	49.4	24.9	26.5	8.7	27.7	11.1	30.4	5.1	5.5	7.9

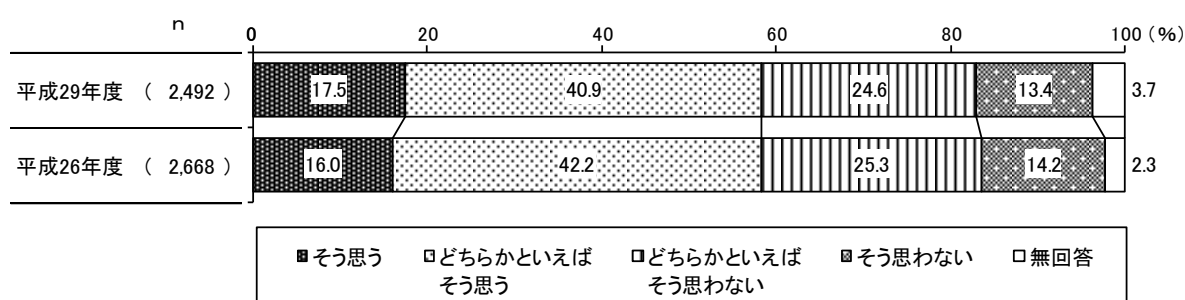
6. 男女共同参画について

(1) 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか

◇『そう思う』が6割弱

問24. 仕事、家事・育児・介護、地域活動、学習、娯楽など、1日の生活の中で行うさまざまな活動について、あなたは、概ね自分が希望するとおりの配分で時間を使えていると思いますか。(〇は1つ)

図表6-1-1 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか

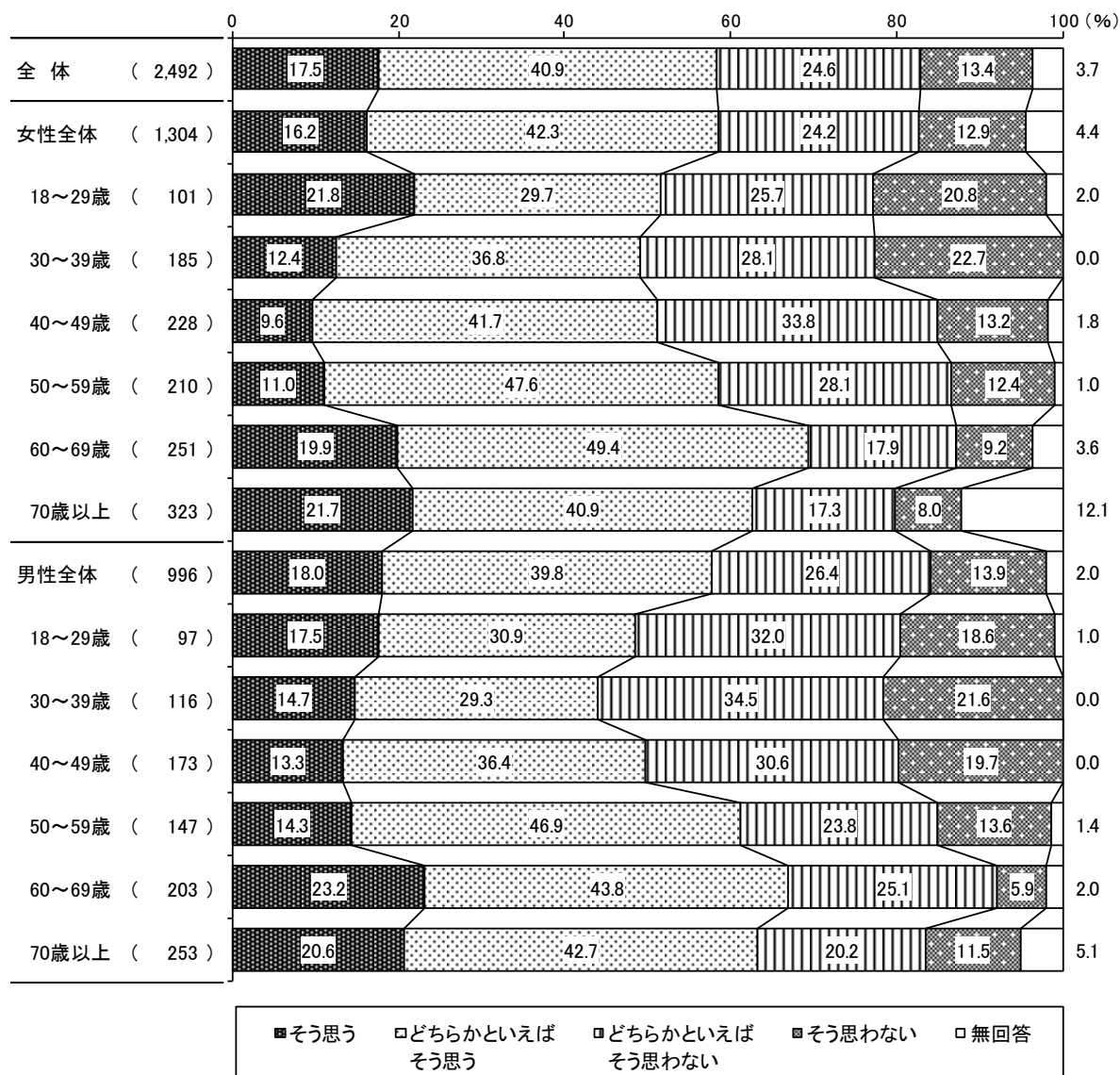


1日の生活で希望どおりの時間配分ができているかについては、「どちらかといえばそう思う」(40.9%)が最も多く、「そう思う」(17.5%)と合わせた『そう思う』(58.4%)は6割弱となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(24.6%)と「そう思わない」(13.4%)を合わせた『そう思わない』(38.0%)は4割弱となっている。

前回調査と比較すると、『そう思う』(58.4%)は平成26年度調査(58.2%)と比べ0.2ポイント増加している。一方、『そう思わない』(38.0%)は平成26年度調査(39.5%)と比べ1.5ポイント減少している。

性別でみると、『そう思わない』は男性(40.3%)が女性(37.1%)より3.2ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『そう思う』は女性60～69歳(69.3%)で約7割、男性60～69歳(67.0%)で7割弱と多くなっている。一方、『そう思わない』は男性30～39歳(56.1%)で5割半ば、女性30～39歳(50.8%)、男性18～29歳(50.6%)、男性40～49歳(50.3%)で約5割と多くなっている。

図表6-1-2 性・年齢別 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか



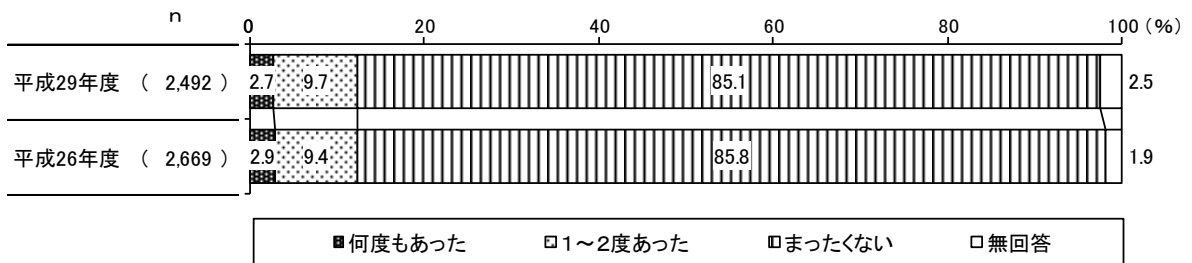
(2) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の有無
 - 身体に対する暴力を受けた -

◇『身体に対する暴力を受けた』が1割強

問25. あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナー・恋人から、次のような行為をされたことがありますか。(それぞれ○は1つずつ)

ア 殴る・蹴る・物を投げつける・突き飛ばす等の、身体に対する暴力を受けた

図表6-2-1 配偶者等からの暴力の有無 ア 身体に対する暴力を受けた

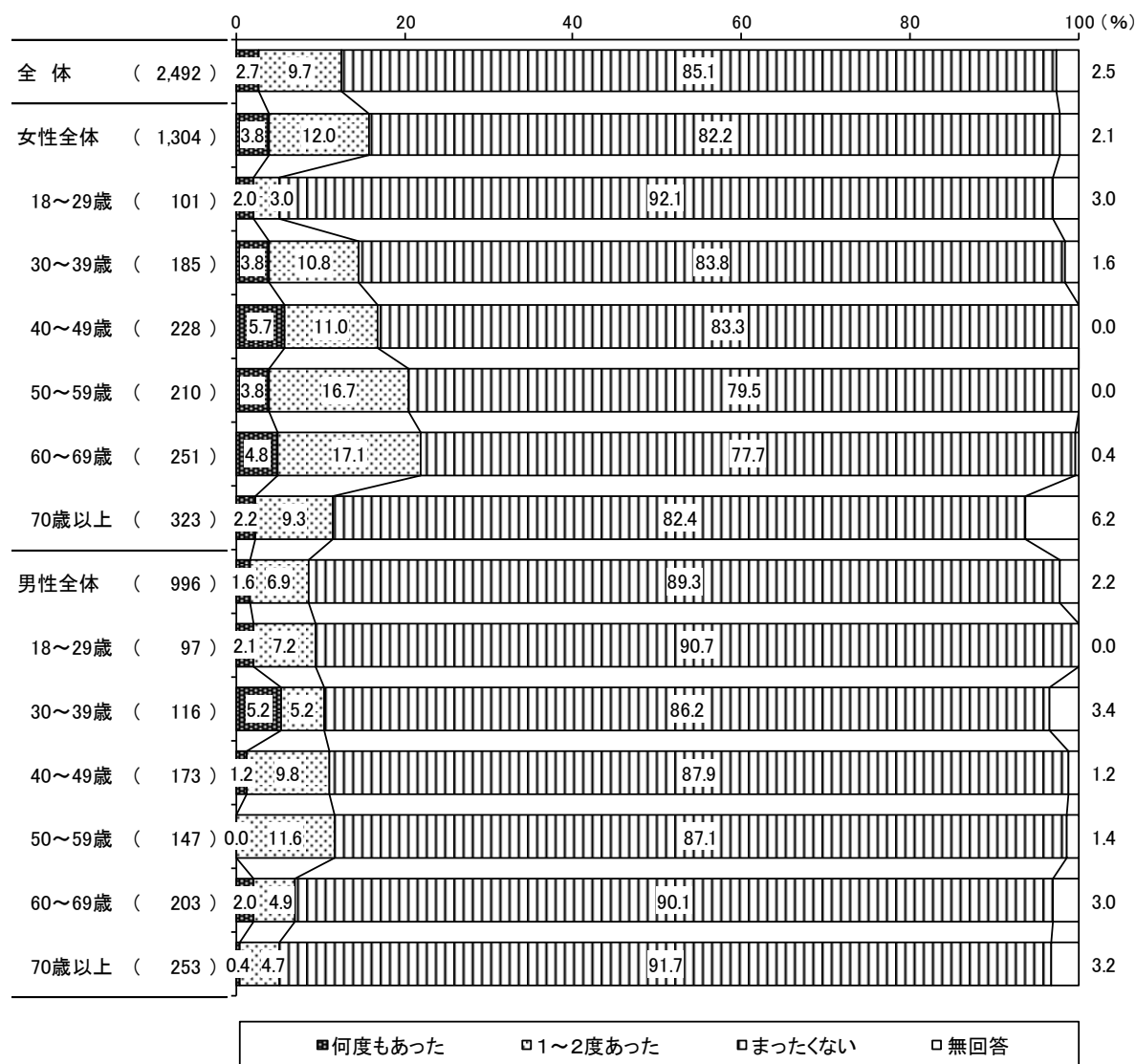


これまでに配偶者・パートナー・恋人から「殴る・蹴る・物を投げつける・突き飛ばす等の、身体に対する暴力を受けた」ことがあるか聞いたところ、「何度もあった」(2.7%)と「1~2度あった」(9.7%)を合わせた『あった』(12.4%)は1割強となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性・年齢別でみると、『あった』は女性 60～69 歳（21.9%）、女性 50～59 歳（20.5%）で約 2 割と多くなっている。

図表 6-2-2 性・年齢別 配偶者等からの暴力の有無 ア 身体に対する暴力を受けた



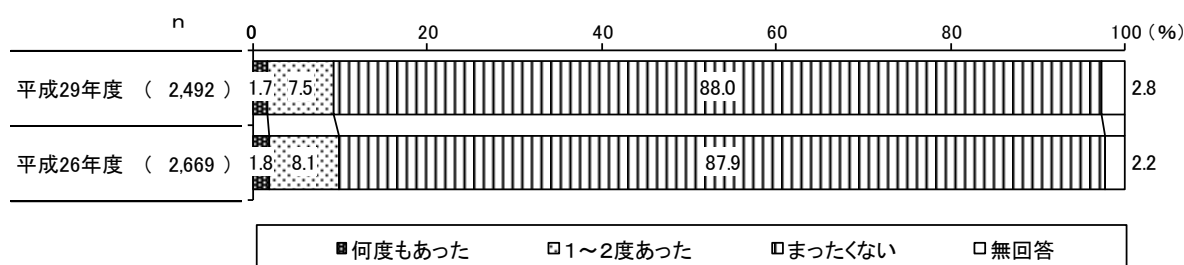
(3) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の有無
 ー 恐怖を感じる脅迫を受けたー

◇ 『恐怖を感じる脅迫を受けた』が約1割

問25. あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナー・恋人から、次のような行為をされたことがありますか。(それぞれ〇は1つずつ)

イ あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

図表6-3-1 配偶者等からの暴力の有無 イ 恐怖を感じる脅迫を受けた

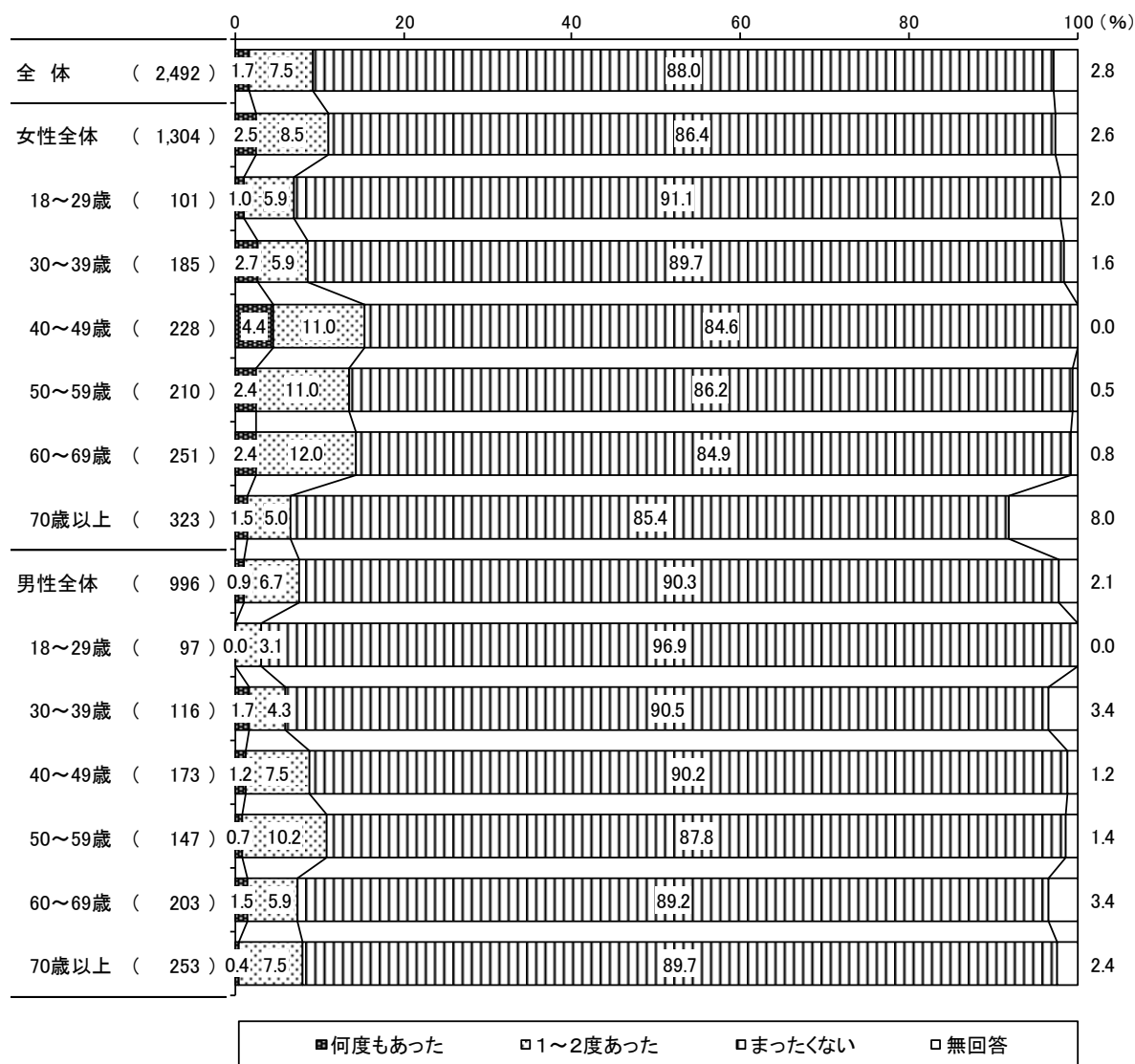


これまでに配偶者・パートナー・恋人から「あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」ことがあるか聞いたところ、「何度もあった」(1.7%)と「1~2度あった」(7.5%)を合わせた『あった』(9.2%)は約1割となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性・年齢別でみると、『あった』は女性40～49歳（15.4%）、女性60～69歳（14.4%）で1割半ば、女性50～59歳（13.4%）で1割強と多くなっている。

図表6-3-2 性・年齢別 配偶者等からの暴力の有無 イ 恐怖を感じる脅迫を受けた



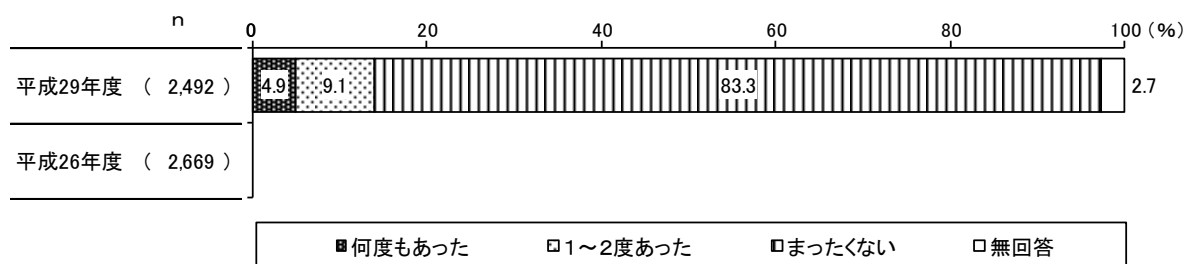
(4) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の有無
 —精神的な嫌がらせを受けた—

◇『精神的な嫌がらせを受けた』が1割半ば

問25. あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナー・恋人から、次のような行為をされたことがありますか。(それぞれ〇は1つずつ)

ウ 暴言・人格否定・長期間の無視・交友関係や行き先など細かく監視等の、精神的な嫌がらせを受けた

図表6-4-1 配偶者等からの暴力の有無 ウ 精神的な嫌がらせを受けた

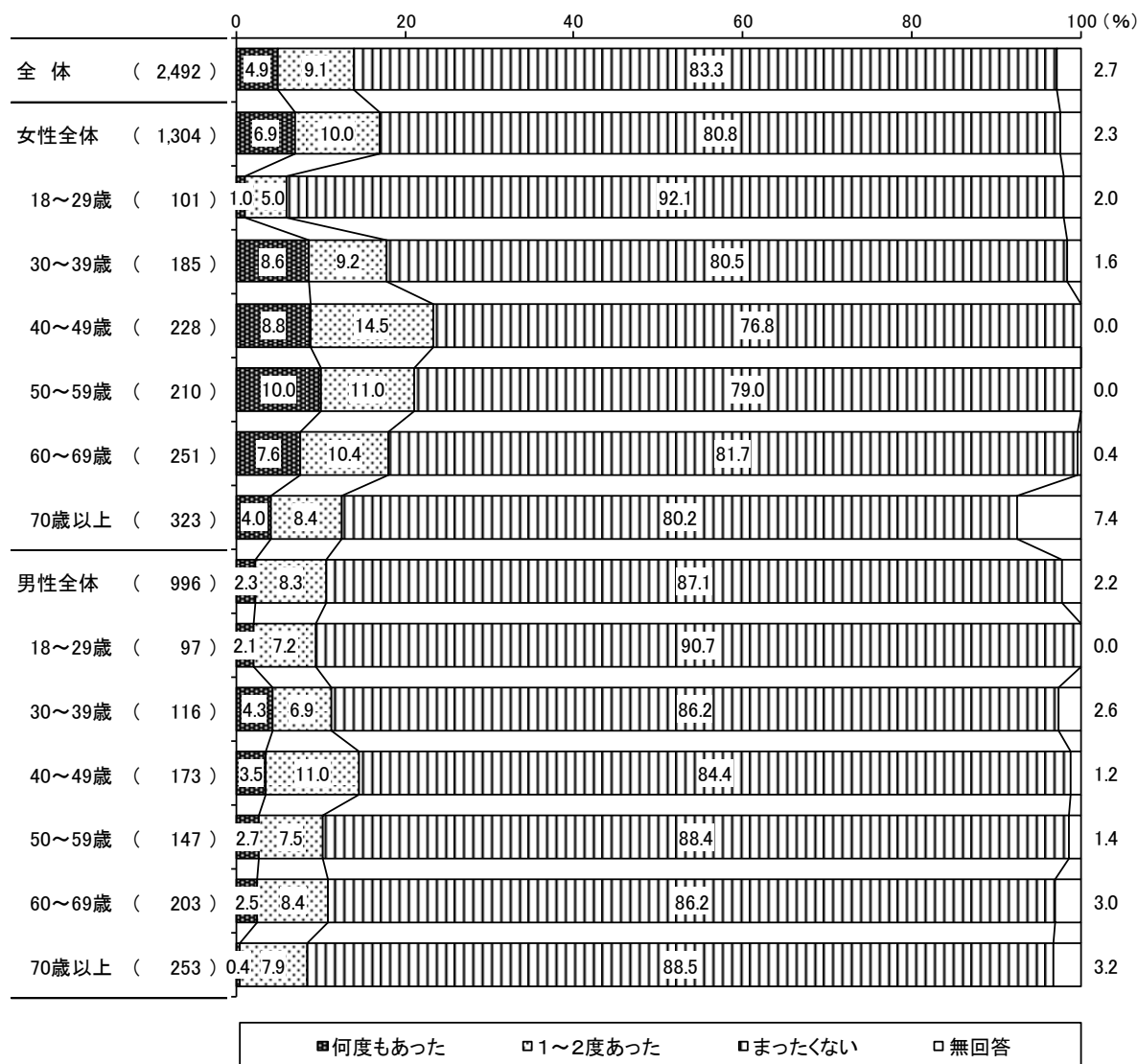


※平成26年度調査は該当質問なし

これまでに配偶者・パートナー・恋人から「暴言・人格否定・長期間の無視・交友関係や行き先など細かく監視等の、精神的な嫌がらせを受けた」ことがあるか聞いたところ、「何度もあった」(4.9%)と「1~2度あった」(9.1%)を合わせた『あった』(14.0%)は1割半ばとなっている。

性・年齢別でみると、『あった』は女性40～49歳（23.3%）で2割強、女性50～59歳（21.0%）で約2割と多くなっている。

図表6-4-2 性・年齢別 配偶者等からの暴力の有無 ウ 精神的な嫌がらせを受けた



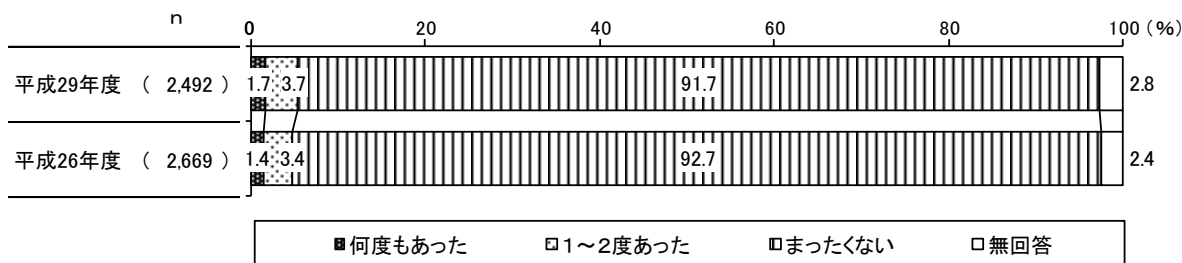
(5) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の有無
 ー性的な行為を強要されたー

◇『性的な行為を強要された』が約5%

問25. あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナー・恋人から、次のような行為をされたことがありますか。(それぞれ○は1つずつ)

エ 嫌がっているのに、性的な行為を強要された

図表6-5-1 配偶者等からの暴力の有無 エ 性的な行為を強要された

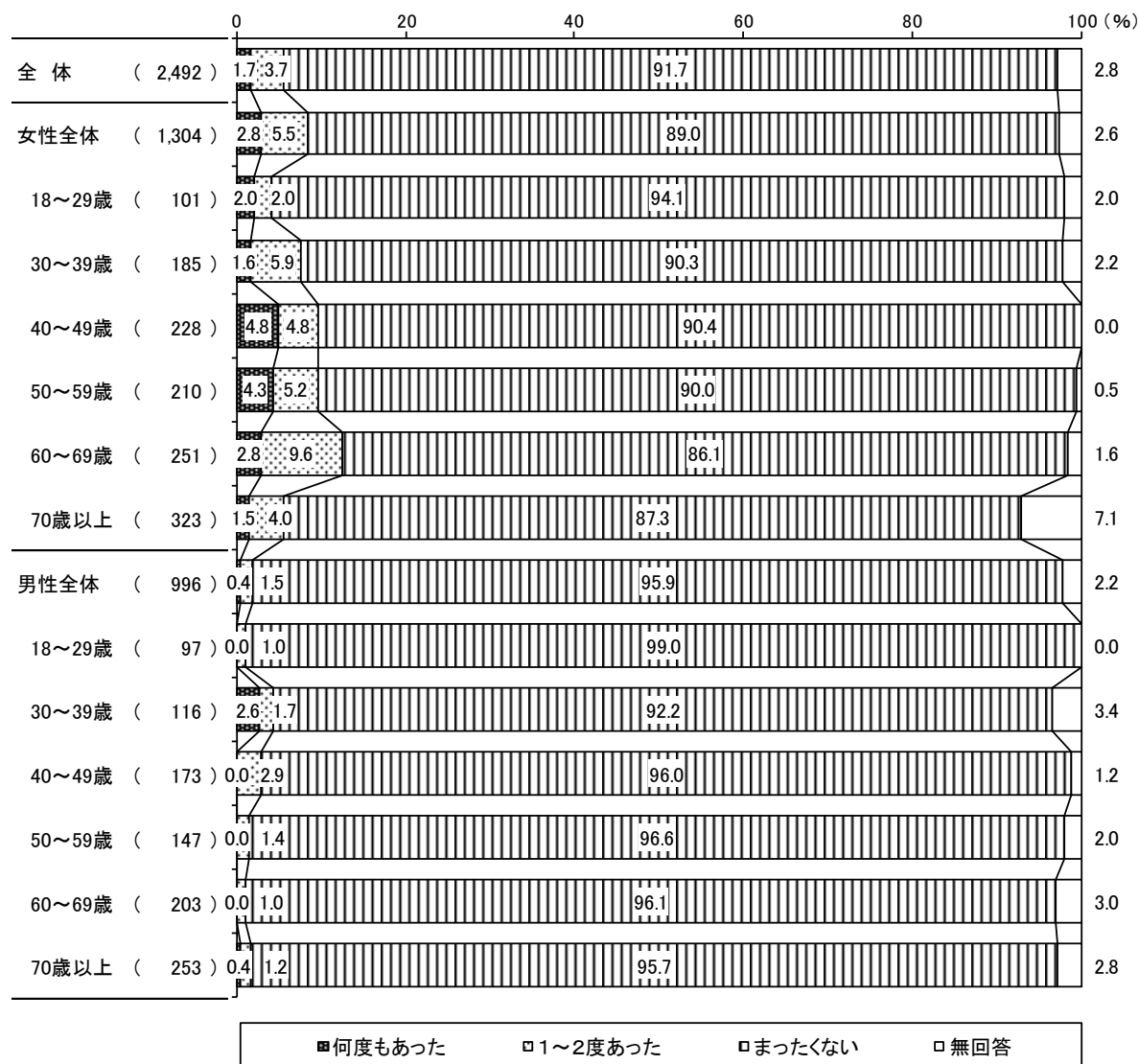


これまでに配偶者・パートナー・恋人から「性的な行為を強要された」ことがあるか聞いたところ、「何度もあった」(1.7%)と「1~2度あった」(3.7%)を合わせた『あった』(5.4%)は約5%となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性・年齢別でみると、『あった』は女性60～69歳（12.4%）で1割強、女性40～49歳（9.6%）、女性50～59歳（9.5%）で約1割と多くなっている。

図表6-5-2 性・年齢別 配偶者等からの暴力の有無 エ 性的な行為を強要された

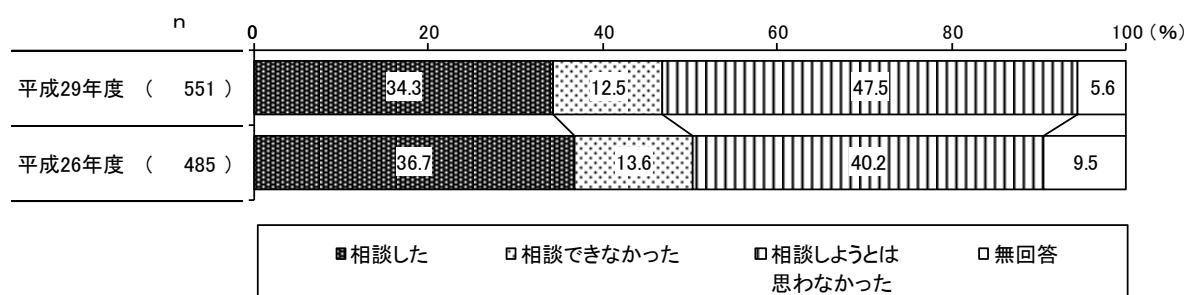


(6) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けたときの相談の有無

◇『相談しなかった』が6割

問26. 問25のア～エのうち、1つでも「1」または「2」（そのような行為があった）と答えた方に伺います。あなたは、その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
（○は1つ）

図表6-6-1 配偶者等からの暴力を受けたときの相談の有無



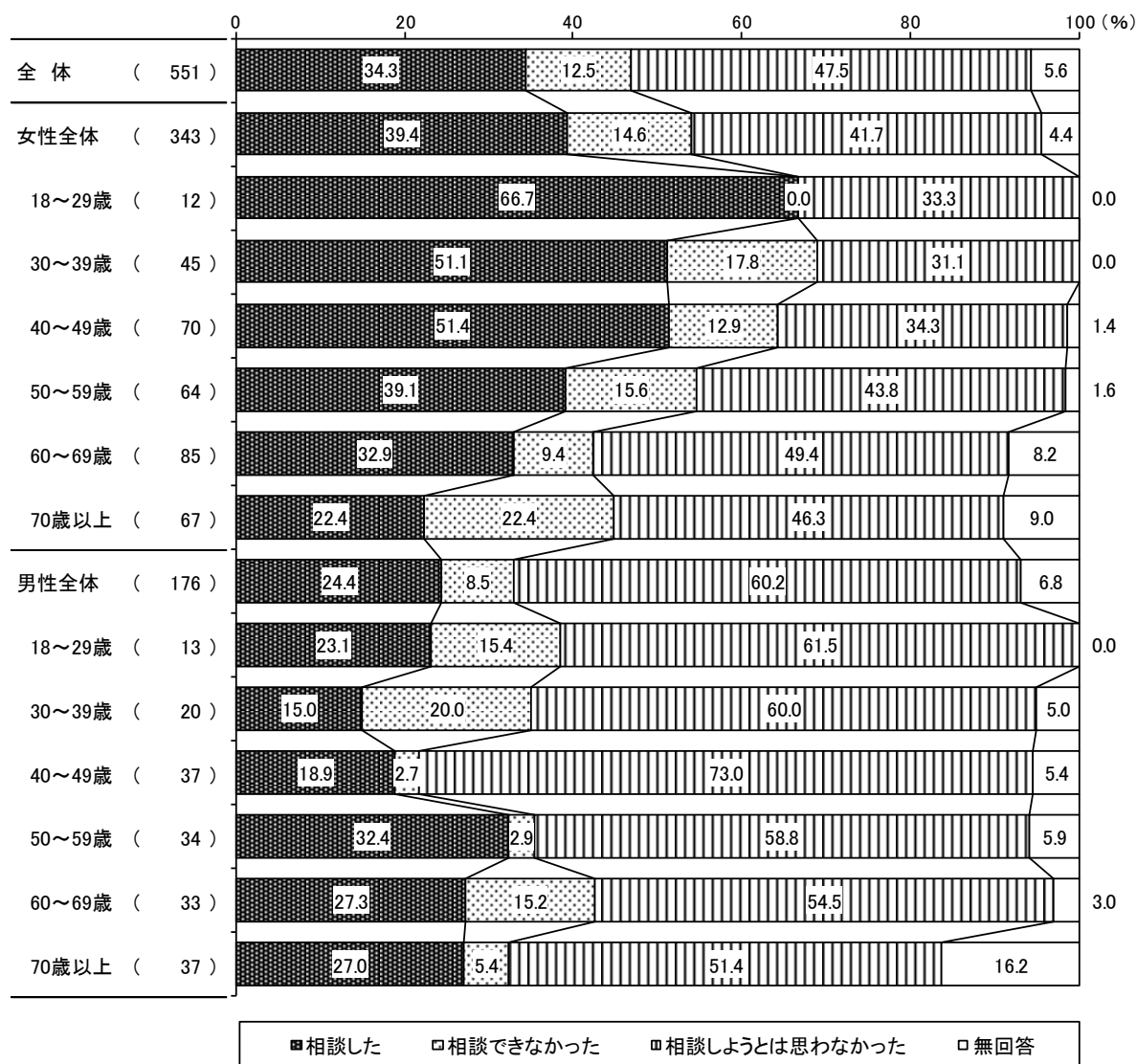
配偶者等からの暴力を受けたことがあると回答した 551 人に、相談の有無を聞いたところ、「相談しようとは思わなかった」(47.5%) が最も多く、「相談できなかった」(12.5%) を合わせた『相談しなかった』(60.0%) は6割となっている。一方、「相談した」(34.3%) は3割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『相談しなかった』(60.0%) は平成26年度調査(53.8%) と比べ6.2ポイント増加している。一方、「相談した」(34.3%) は平成26年度調査(36.7%) と比べ2.4ポイント減少している。

性別でみると、「相談した」は女性（39.4%）が男性（24.4%）より15ポイント高く、「相談できなかった」は女性（14.6%）が男性（8.5%）より6.1ポイント高くなっている。一方、「相談しようとは思わなかった」は男性（60.2%）が女性（41.7%）より18.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「相談した」は女性18～29歳（66.7%）で6割半ばと最も多く、女性40～49歳（51.4%）、女性30～39歳（51.1%）で約5割と多くなっている。一方、「相談できなかった」は女性70歳以上（22.4%）で2割強と最も多く、「相談しようとは思わなかった」は男性40～49歳（73.0%）で7割強と最も多くなっている。

図表6-6-2 性・年齢別 配偶者等からの暴力を受けたときの相談の有無

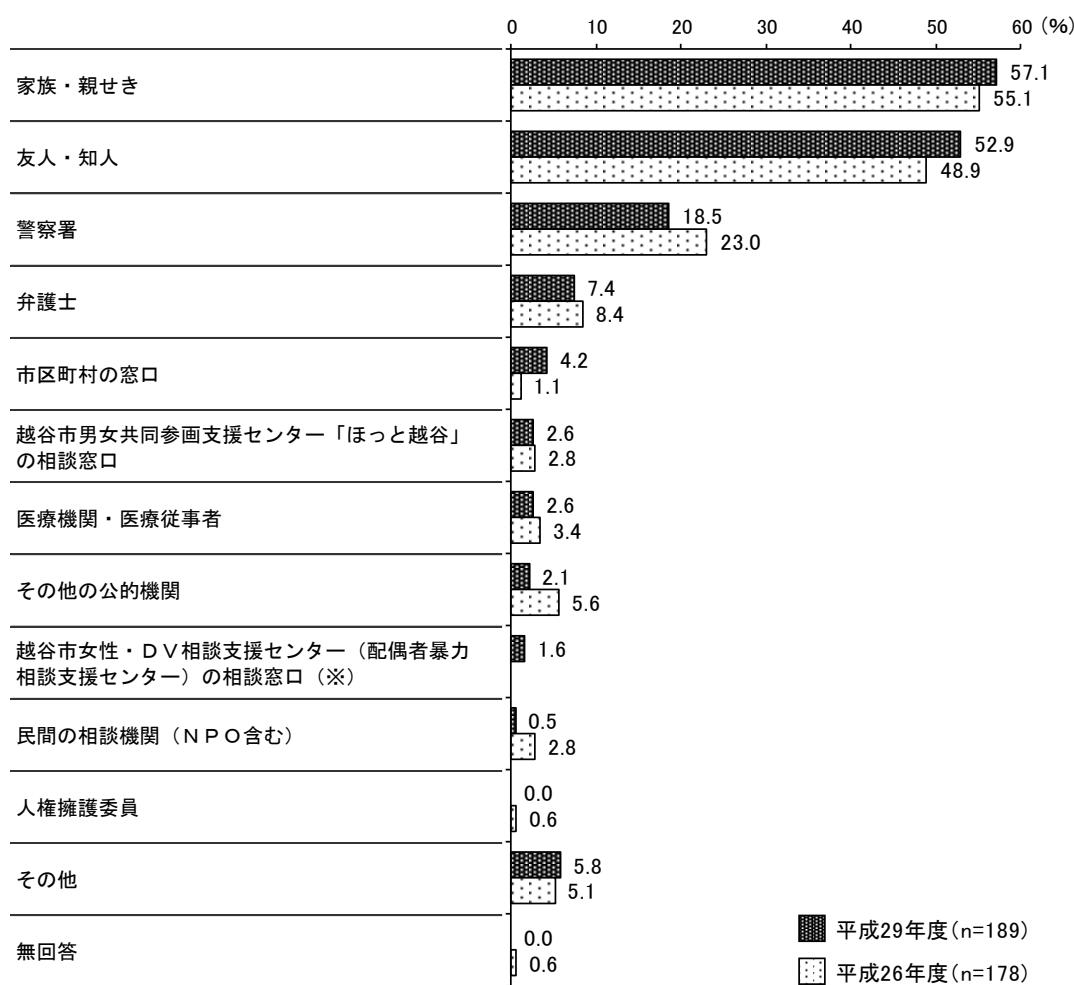


(7) 相談した人 (場所)

◇「家族・親せき」が6割弱

問26-2. 問26で「1. 相談した」と答えた方に伺います。あなたが相談した人 (場所) について、次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表6-7-1 相談した人 (場所)



※平成26年度調査は選択肢なし

配偶者等からの暴力を受けたとき誰かに「相談した」と回答した189人に、相談した人 (場所) を聞いたところ、「家族・親せき」(57.1%) が最も多く、次いで、「友人・知人」(52.9%)、「警察署」(18.5%)、「弁護士」(7.4%)、「市区町村の窓口」(4.2%) の順となっている。また、「その他」として「先生」「ネット」「会社の上司」等が挙げられた。

前回調査と比較すると、「友人・知人」で4.0ポイントの増加、「警察署」で4.5ポイントの減少となっている。

性別でみると、「家族・親せき」は女性（63.7%）が男性（41.9%）より21.8ポイント高く、「友人・知人」でも女性（57.8%）が男性（39.5%）より18.3ポイント高くなっている。一方、「警察署」は男性（34.9%）が女性（13.3%）より21.6ポイント高くなっている。

※性・年齢別については、調査数が少ないため記述しない

図表6-7-2 性・年齢別 相談した人（場所）

(%)

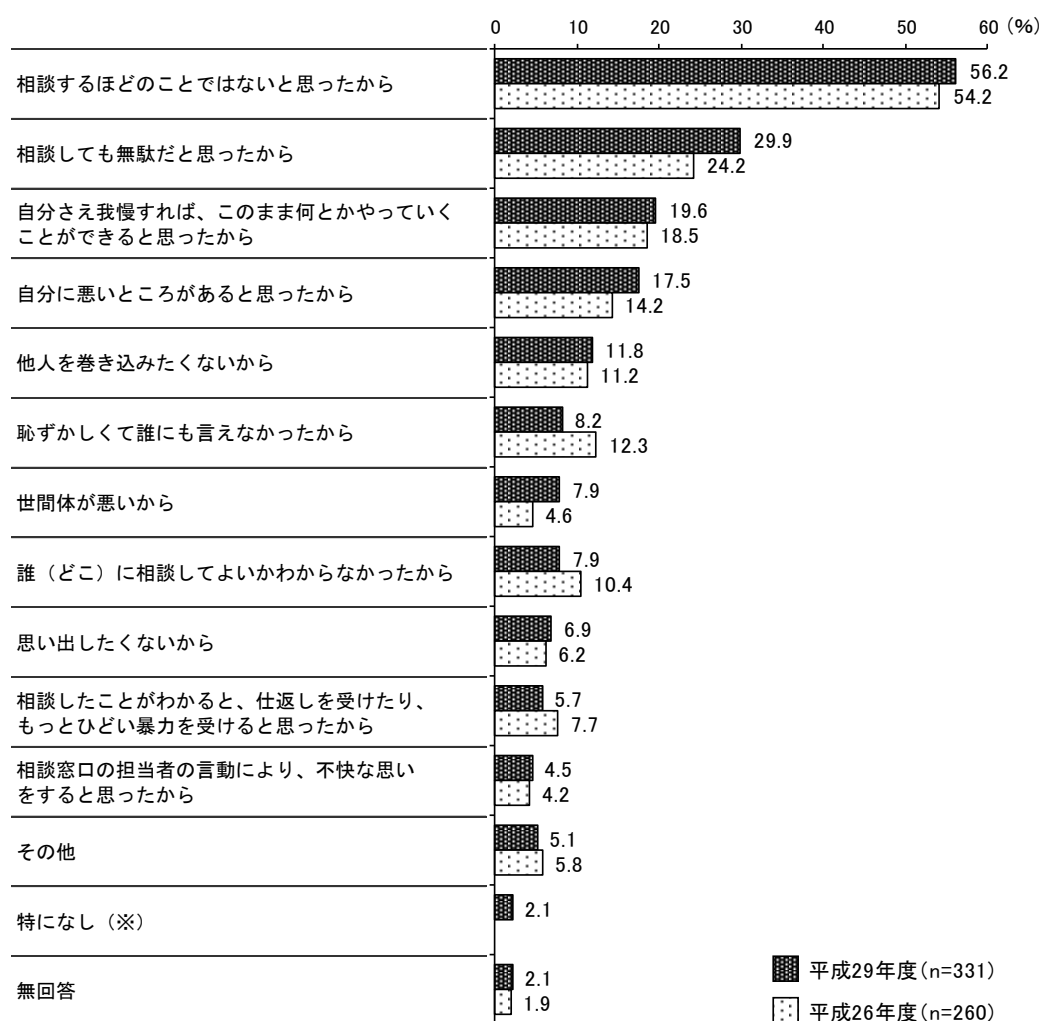
	調査数（人）	家族・親せき	友人・知人	警察署	相談窓口 （配偶者暴力・DV相談支援センター）の	越谷市男女共同参画支援センター 「ほつと越谷」の相談窓口	市区町村の窓口	その他の公的機関	弁護士	民間の相談機関（NPO含む）	医療機関・医療従事者	人権擁護委員	その他	無回答
全体	189	57.1	52.9	18.5	1.6	2.6	4.2	2.1	7.4	0.5	2.6	-	5.8	-
女性全体	135	63.7	57.8	13.3	2.2	1.5	3.7	3.0	7.4	-	3.0	-	4.4	-
18～29歳	8	75.0	87.5	12.5	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	23	65.2	60.9	8.7	4.3	-	-	4.3	-	-	-	-	8.7	-
40～49歳	36	61.1	63.9	22.2	5.6	5.6	2.8	-	11.1	-	5.6	-	2.8	-
50～59歳	25	68.0	64.0	8.0	-	-	-	8.0	4.0	-	4.0	-	-	-
60～69歳	28	60.7	53.6	7.1	-	-	10.7	3.6	17.9	-	3.6	-	3.6	-
70歳以上	15	60.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	13.3	-
男性全体	43	41.9	39.5	34.9	-	4.7	4.7	-	9.3	2.3	2.3	-	7.0	-
18～29歳	3	33.3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	3	-	66.7	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
40～49歳	7	28.6	42.9	71.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50～59歳	11	54.5	27.3	36.4	-	9.1	-	-	18.2	-	-	-	9.1	-
60～69歳	9	33.3	44.4	44.4	-	-	-	-	-	-	11.1	-	-	-
70歳以上	10	60.0	20.0	20.0	-	-	20.0	-	20.0	10.0	-	-	20.0	-

(8) 相談しなかった理由

◇「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、5割半ば

問26-3. 問26で「2」または「3」（相談できなかった、相談しようとは思わなかった）と答え
た方に伺います。あなたが誰（どこ）にも相談しなかった理由は、次のうちどれですか。
当てはまるものを選んでください。（複数回答可）

図表6-8-1 相談しなかった理由



※ 平成26年度調査は選択肢なし

配偶者等からの暴力を受けたとき誰にも「相談できなかった」または「相談しようとは思わなかった」と回答した331人に、誰（どこ）にも相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」（56.2%）が最も多く、次いで、「相談しても無駄だと思ったから」（29.9%）、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」（19.6%）の順となっている。また、「その他」として「相談できる人がいないから」「その場所にとどまりたくなかった」「仕事だから」等が挙げられた。

前回調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」で5.7ポイントの増加、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」で4.1ポイントの減少となっている。

性別でみると、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」は女性(25.4%)が男性(10.7%)より14.7ポイント高くなっている。また、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」は女性(10.4%)が男性(2.5%)より7.9ポイント、「思い出したくないから」は女性(9.3%)が男性(2.5%)より6.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「相談するほどのことではないと思ったから」は男性(66.1%)が女性(51.8%)より14.3ポイント高く、「自分に悪いところがあると思ったから」でも男性(24.8%)が女性(12.4%)より12.4ポイント高くなっている。

※性・年齢別については、調査数が少ないため記述しない

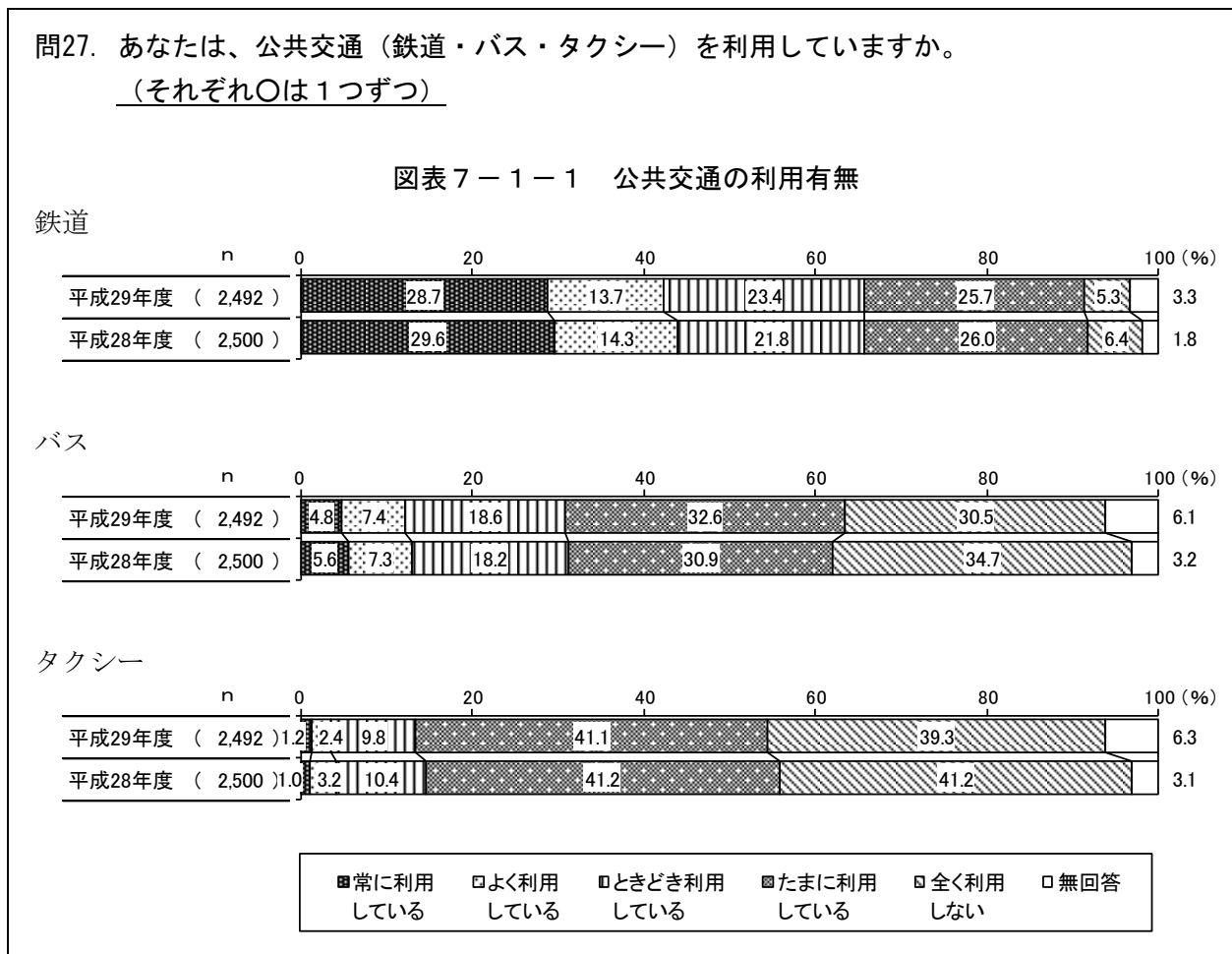
図表6-8-2 性・年齢別 相談しなかった理由

	調査数(人)	相談するほどのことではないと思ったから	相談しても無駄だと思ったから	自分に悪いところがあると思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	思い出したくないから	世間体が悪いから	誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから	他人を巻き込みたくないから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もつとひどい暴力を受けると思ったから	相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思うたから	その他	特になし	無回答
全体	331	56.2	29.9	17.5	8.2	19.6	6.9	7.9	7.9	11.8	5.7	4.5	5.1	2.1	2.1
女性全体	193	51.8	31.1	12.4	10.4	25.4	9.3	6.7	7.3	10.9	5.7	3.6	4.7	1.0	3.1
18～29歳	4	50.0	75.0	-	-	25.0	25.0	-	-	50.0	-	25.0	-	-	-
30～39歳	22	54.5	31.8	13.6	9.1	36.4	9.1	9.1	18.2	13.6	13.6	4.5	9.1	-	4.5
40～49歳	33	60.6	21.2	12.1	12.1	21.2	15.2	-	6.1	6.1	9.1	3.0	6.1	-	-
50～59歳	38	50.0	42.1	10.5	13.2	23.7	13.2	10.5	7.9	13.2	5.3	7.9	2.6	-	5.3
60～69歳	50	58.0	28.0	8.0	14.0	28.0	6.0	10.0	6.0	8.0	6.0	2.0	6.0	2.0	-
70歳以上	46	39.1	28.3	19.6	4.3	21.7	4.3	4.3	4.3	10.9	-	-	2.2	2.2	6.5
男性全体	121	66.1	26.4	24.8	2.5	10.7	2.5	9.1	7.4	12.4	6.6	5.8	5.8	2.5	0.8
18～29歳	10	50.0	20.0	30.0	10.0	20.0	-	10.0	-	-	10.0	-	10.0	-	-
30～39歳	16	50.0	25.0	25.0	12.5	12.5	-	6.3	18.8	18.8	12.5	12.5	-	6.3	-
40～49歳	28	60.7	32.1	21.4	-	7.1	10.7	7.1	7.1	10.7	7.1	3.6	3.6	3.6	-
50～59歳	21	71.4	19.0	28.6	-	4.8	-	4.8	4.8	9.5	-	14.3	9.5	4.8	4.8
60～69歳	23	69.6	30.4	13.0	-	17.4	-	13.0	8.7	8.7	13.0	4.3	4.3	-	-
70歳以上	21	81.0	23.8	33.3	-	4.8	-	14.3	4.8	23.8	-	-	9.5	-	-

7. 市内の公共交通について

(1) 公共交通の利用有無

◇ 鉄道は「常に利用」が3割弱、バスは「たまに利用」が3割強、タクシーは「たまに利用」が約4割



鉄道の利用については、「常にご利用している」(28.7%)が最も多く、次いで、「たまにご利用している」(25.7%)、「ときどきご利用している」(23.4%)、「よくご利用している」(13.7%)、「全くご利用しない」(5.3%)の順となっている。

バスの利用については、「たまにご利用している」(32.6%)が最も多く、次いで、「全くご利用しない」(30.5%)、「ときどきご利用している」(18.6%)、「よくご利用している」(7.4%)、「常にご利用している」(4.8%)の順となっている。

タクシーの利用については、「たまにご利用している」(41.1%)が最も多く、次いで、「全くご利用しない」(39.3%)、「ときどきご利用している」(9.8%)、「よくご利用している」(2.4%)、「常にご利用している」(1.2%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

鉄道の利用について性別で見ると、「常に利用している」は男性（37.6%）が女性（23.0%）より14.6ポイント高く、「ときどき利用している」は女性（27.1%）が男性（18.9%）より8.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「常に利用している」は男性18～29歳（62.9%）で6割強、女性18～29歳（54.5%）、男性50～59歳（53.1%）で5割以上と多くなっている。

バスの利用について性別で見ると、「ときどき利用している」は女性（19.9%）が男性（16.9%）より3.0ポイント高く、「全く利用しない」は男性（33.3%）が女性（28.6%）より4.7ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「たまに利用している」は女性50～59歳（40.0%）、男性40～49歳（39.3%）、女性40～49歳（39.0%）で約4割と多くなっている。

タクシーの利用について性別で見ると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別で見ると、「たまに利用している」は女性50～59歳（49.5%）で約5割と多くなっている。

図表7-1-2 性・年齢別 公共交通の利用有無

(%)

	調査数（人）	鉄道						バス						タクシー					
		常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全体	2,492	28.7	13.7	23.4	25.7	5.3	3.3	4.8	7.4	18.6	32.6	30.5	6.1	1.2	2.4	9.8	41.1	39.3	6.3
女性全体	1,304	23.0	15.0	27.1	26.5	4.9	3.5	4.8	7.4	19.9	33.6	28.6	5.7	1.2	2.4	9.4	41.4	39.8	5.9
18～29歳	101	54.5	11.9	10.9	19.8	3.0	-	7.9	10.9	21.8	25.7	31.7	2.0	1.0	1.0	10.9	39.6	43.6	4.0
30～39歳	185	27.6	12.4	21.6	34.1	3.8	0.5	3.2	4.3	18.9	32.4	38.4	2.7	-	1.1	4.3	39.5	51.4	3.8
40～49歳	228	25.0	10.1	31.6	30.3	3.1	-	2.2	4.4	18.9	39.0	32.5	3.1	-	0.4	8.3	38.2	50.0	3.1
50～59歳	210	22.9	17.1	27.6	27.1	3.3	1.9	3.8	8.1	14.8	40.0	28.1	5.2	0.5	1.4	6.7	49.5	38.1	3.8
60～69歳	251	17.5	19.9	29.5	26.3	4.4	2.4	5.2	9.6	20.7	35.9	25.5	3.2	1.2	2.4	11.6	42.6	38.2	4.0
70歳以上	323	13.6	15.8	29.4	21.4	9.0	10.8	7.1	8.0	23.2	27.2	22.0	12.4	3.1	5.3	12.7	39.0	27.6	12.4
男性全体	996	37.6	12.1	18.9	23.9	5.4	2.1	4.5	7.0	16.9	32.7	33.3	5.5	1.3	2.0	10.3	41.3	39.8	5.3
18～29歳	97	62.9	14.4	7.2	11.3	3.1	1.0	5.2	5.2	13.4	23.7	49.5	3.1	1.0	2.1	6.2	22.7	63.9	4.1
30～39歳	116	47.4	12.9	12.9	24.1	2.6	-	1.7	4.3	10.3	32.8	46.6	4.3	0.9	0.9	7.8	44.0	42.2	4.3
40～49歳	173	44.5	6.9	15.6	25.4	6.9	0.6	5.8	5.2	16.2	39.3	30.1	3.5	1.2	2.3	6.4	39.9	46.8	3.5
50～59歳	147	53.1	10.2	9.5	21.1	5.4	0.7	6.8	8.2	16.3	32.7	33.3	2.7	0.7	2.0	11.6	40.8	41.5	3.4
60～69歳	203	29.6	11.8	23.2	28.1	5.4	2.0	3.0	6.9	15.8	31.0	36.5	6.9	1.5	2.0	12.3	44.8	35.0	4.4
70歳以上	253	17.0	15.8	30.0	26.1	5.9	5.1	4.7	9.5	22.9	33.2	20.9	8.7	1.6	2.4	13.4	45.5	27.7	9.5

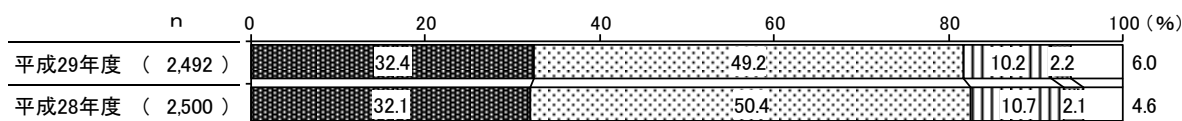
(2) 公共交通の満足度

◇『満足』は、鉄道が約8割、バスが5割半ば、タクシーが約6割

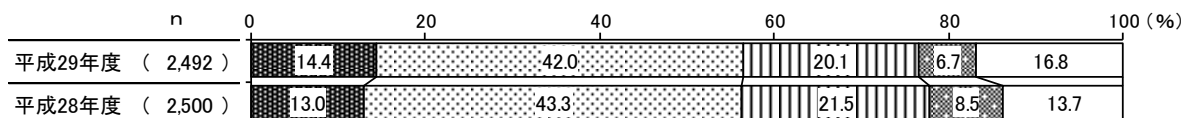
問28. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）にどの程度満足していますか。
 （それぞれ〇は1つつ）

図表7-2-1 公共交通の満足度

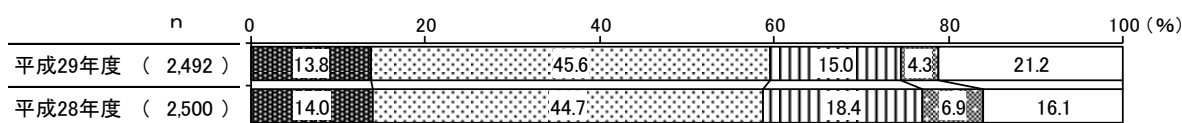
鉄道



バス



タクシー



■とても満足している □やや満足している ▨やや不満である ▩とても不満である □無回答

鉄道の満足度については、「とても満足している」(32.4%)と「やや満足している」(49.2%)を合わせた『満足』(81.6%)は約8割となっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(14.4%)と「やや満足している」(42.0%)を合わせた『満足』(56.4%)は5割半ばとなっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(13.8%)と「やや満足している」(45.6%)を合わせた『満足』(59.4%)は約6割となっている。

前回の調査と比較すると、タクシーについては、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた『不満』(19.3%)が平成28年度調査(25.3%)と比べ6.0ポイント減少している。

鉄道の満足度について『満足』は女性（82.2%）が男性（80.6%）より1.6ポイント高くなっている。一方、『不満』は男性（14.5%）が女性（11.5%）より3.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『満足』は女性50～59歳（87.1%）で9割弱と最も多く、男性60～69歳（86.2%）、女性60～69歳（84.1%）で8割半ばと多くなっている。

バスの満足度について『満足』は女性（58.3%）が男性（53.8%）より4.5ポイント高くなっている。一方、『不満』は男性（28.6%）が女性（26.9%）より1.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『不満』は男性30～39歳（37.1%）で4割弱、女性30～39歳（35.1%）で3割半ばと多くなっている。

タクシーの満足度について『不満』は男性（20.8%）が女性（19.1%）より1.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『不満』は男性50～59歳（35.4%）で3割半ば、女性50～59歳（27.7%）で3割弱と多くなっている。

図表7-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

（%）

	調査数（人）	鉄道					バス					タクシー				
		とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全体	2,492	32.4	49.2	10.2	2.2	6.0	14.4	42.0	20.1	6.7	16.8	13.8	45.6	15.0	4.3	21.2
女性全体	1,304	30.1	52.1	9.7	1.8	6.2	14.3	44.0	19.2	7.7	14.8	13.7	46.2	15.1	4.0	21.1
18～29歳	101	20.8	60.4	13.9	3.0	2.0	14.9	46.5	19.8	5.9	12.9	16.8	47.5	14.9	5.0	15.8
30～39歳	185	25.4	56.8	12.4	3.8	1.6	11.9	44.3	26.5	8.6	8.6	11.9	54.6	15.7	3.8	14.1
40～49歳	228	30.7	53.1	12.3	3.1	0.9	12.7	42.5	23.2	10.5	11.0	12.3	46.1	21.5	5.3	14.9
50～59歳	210	29.5	57.6	9.0	2.4	1.4	7.6	52.4	22.4	7.6	10.0	10.0	49.5	22.9	4.8	12.9
60～69歳	251	32.7	51.4	10.0	-	6.0	16.3	43.8	17.5	6.8	15.5	13.1	43.8	13.1	5.2	24.7
70歳以上	323	33.7	43.3	5.3	0.6	17.0	19.5	39.0	11.1	6.5	23.8	17.3	41.2	6.5	1.5	33.4
男性全体	996	34.0	46.6	11.5	3.0	4.8	13.9	39.9	22.9	5.7	17.7	13.3	46.3	15.6	5.2	19.7
18～29歳	97	27.8	44.3	16.5	9.3	2.1	9.3	37.1	22.7	8.2	22.7	16.5	41.2	14.4	8.2	19.6
30～39歳	116	31.9	45.7	17.2	4.3	0.9	13.8	36.2	22.4	14.7	12.9	19.0	44.8	17.2	5.2	13.8
40～49歳	173	39.3	38.2	15.6	2.3	4.6	12.7	44.5	27.2	1.7	13.9	15.0	48.6	15.0	5.8	15.6
50～59歳	147	33.3	49.0	12.9	3.4	1.4	17.7	38.8	25.9	6.1	11.6	12.9	38.8	24.5	10.9	12.9
60～69歳	203	34.0	52.2	9.9	0.5	3.4	12.8	39.9	24.6	3.9	18.7	6.9	57.1	15.3	2.5	18.2
70歳以上	253	34.8	48.2	5.1	2.0	9.9	15.4	39.9	17.4	4.7	22.5	13.4	43.1	11.1	2.8	29.6

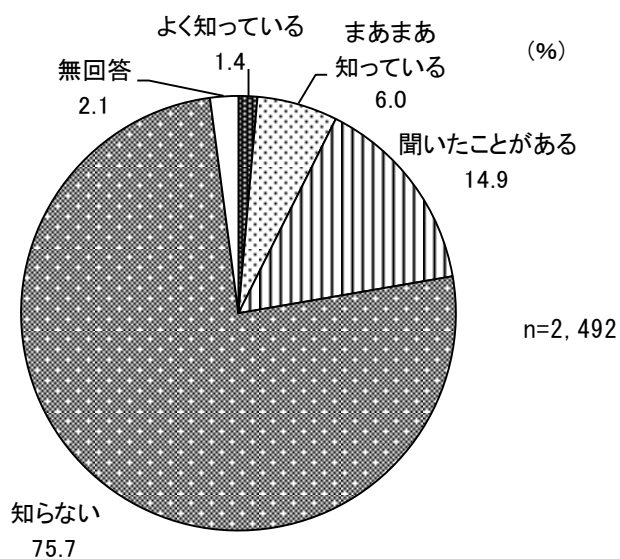
8. 公共施設等のあり方について

(1) 「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度

◇「知らない」が7割半ば

問29. あなたは、公共施設等の今後の基本的な方向性を示した「越谷市公共施設等総合管理計画」を知っていますか。(〇は1つ)

図表8-1-1 「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度

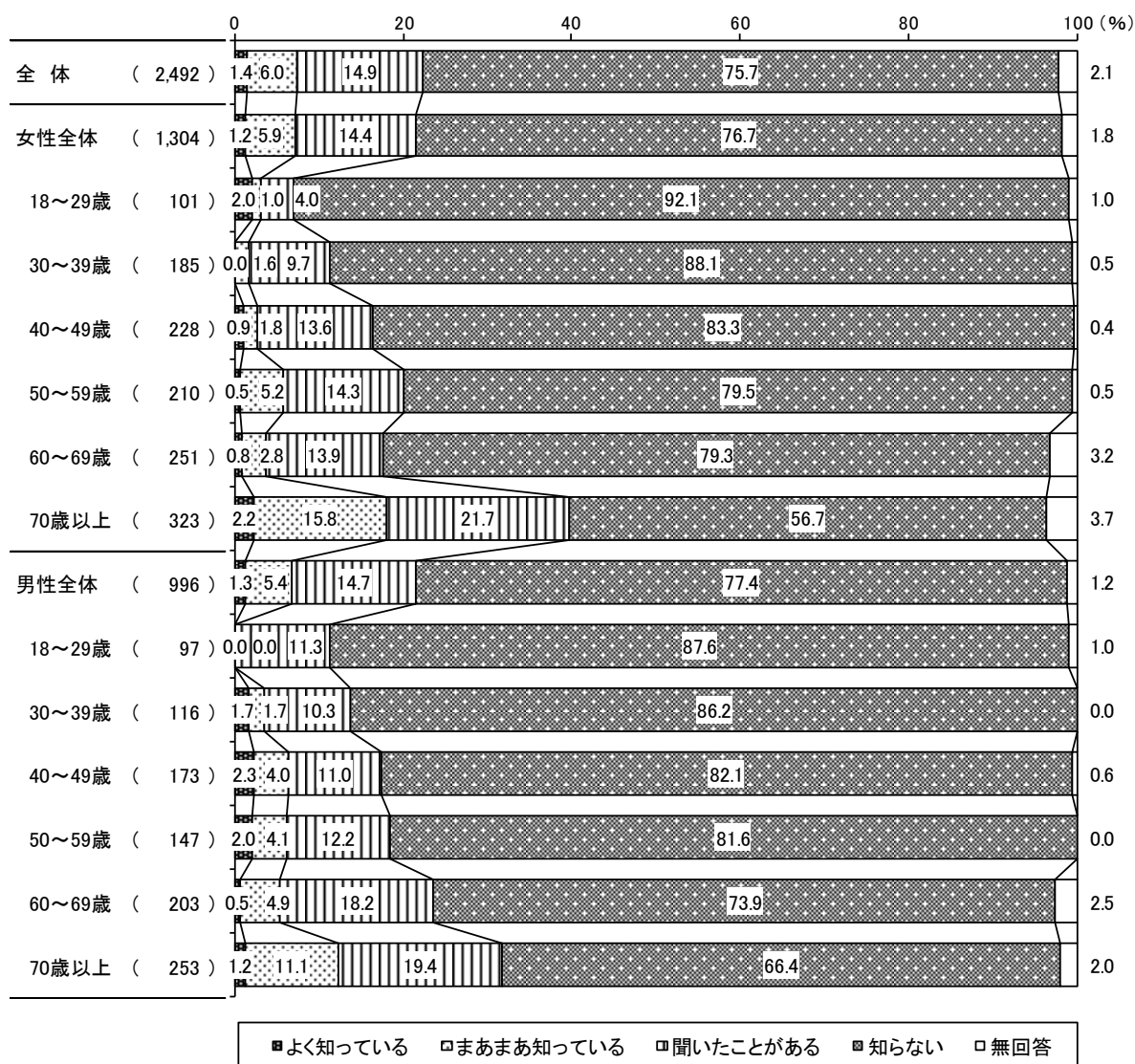


「越谷市公共施設等総合管理計画」については、「知らない」(75.7%)が7割半ばとなっている。一方、「よく知っている」(1.4%)、「まあまあ知っている」(6.0%)、「聞いたことがある」(14.9%)を合わせた『認知度』(22.3%)は2割強となっている。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、『認知度』は女性70歳以上（39.7%）で約4割、男性70歳以上（31.7%）で約3割と多くなっている。また、「よく知っている」、「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は女性70歳以上（18.0%）で2割弱、男性70歳以上（12.3%）で1割強と多くなっている。

図表8-1-2 性・年齢別 「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度

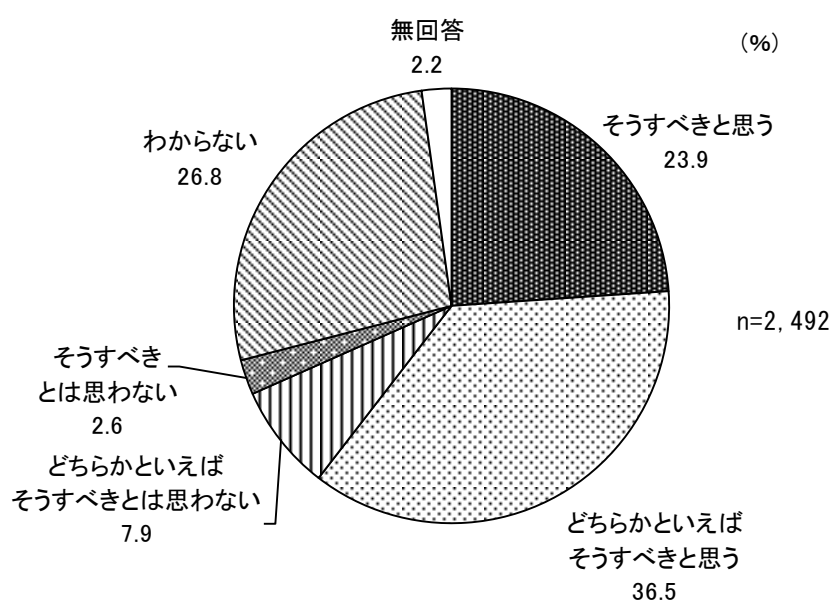


(2) 「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考え

◇『そうすべきと思う』が約6割

問30. 越谷市公共施設等総合管理計画では、今後の人口減少や市の財政状況等を踏まえ、今後40年間で公共施設の面積を22%減らし、安全性に問題がないと判断された建物については80年を目標として既存の施設を有効活用することとしています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

図表8-2-1 「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考え

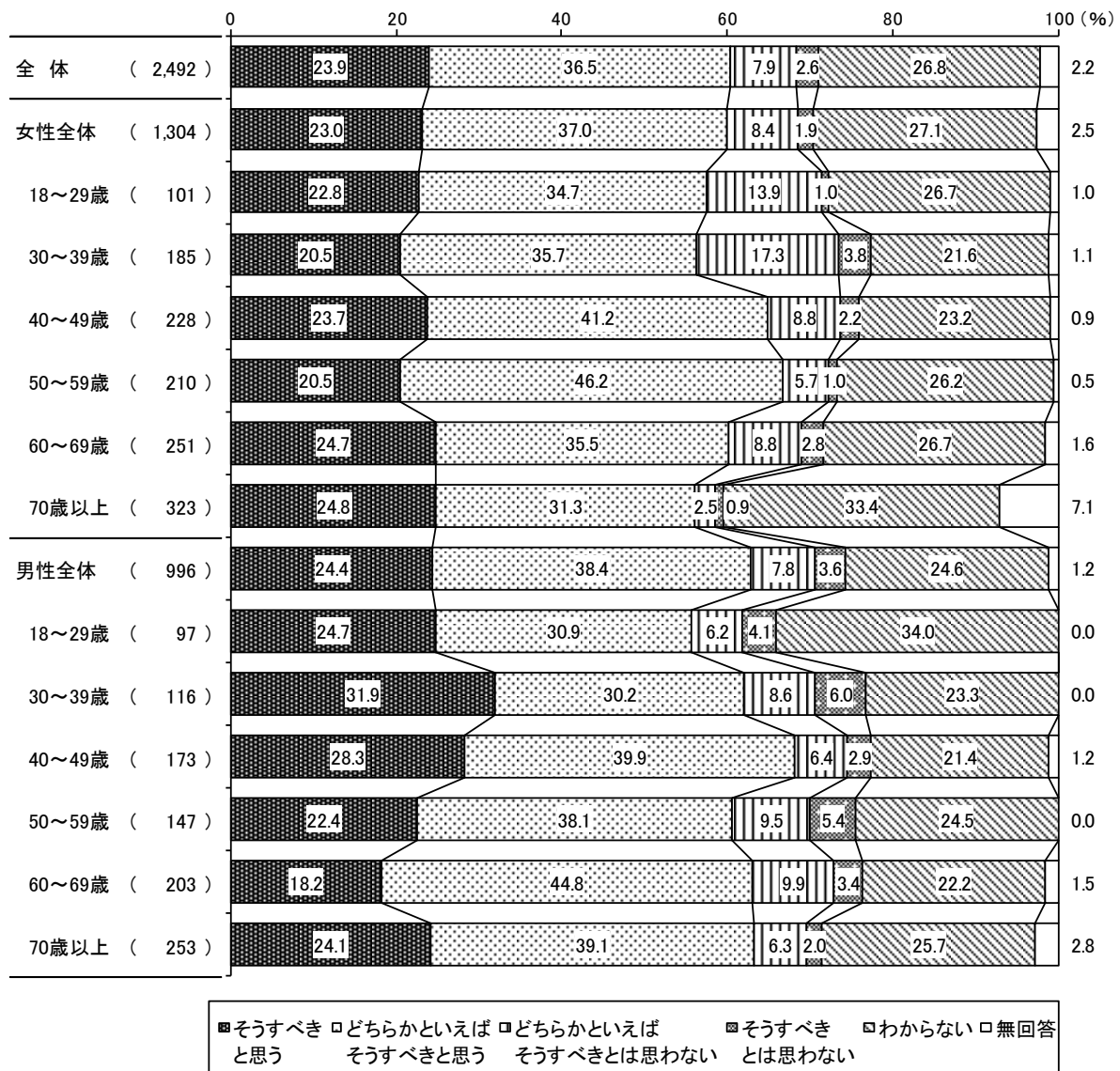


「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考えは、「どちらかといえばそうすべきと思う」(36.5%)が最も多く、「そうすべきと思う」(23.9%)を合わせた『そうすべきと思う』(60.4%)は約6割となっている。一方、「どちらかといえばそうすべきとは思わない」(7.9%)と「そうすべきとは思わない」(2.6%)を合わせた『そうすべきとは思わない』(10.5%)は約1割となっている。

性別でみると、『そうすべきと思う』は男性（62.8%）が女性（60.0%）より2.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『そうすべきと思う』は男性40～49歳（68.2%）で7割弱と最も多く、女性50～59歳（66.7%）、女性40～49歳（64.9%）で6割半ばと多くなっている。一方、『そうすべきと思わない』は女性30～39歳（21.1%）で約2割と多くなっている。

図表8-2-2 性・年齢別 「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考え

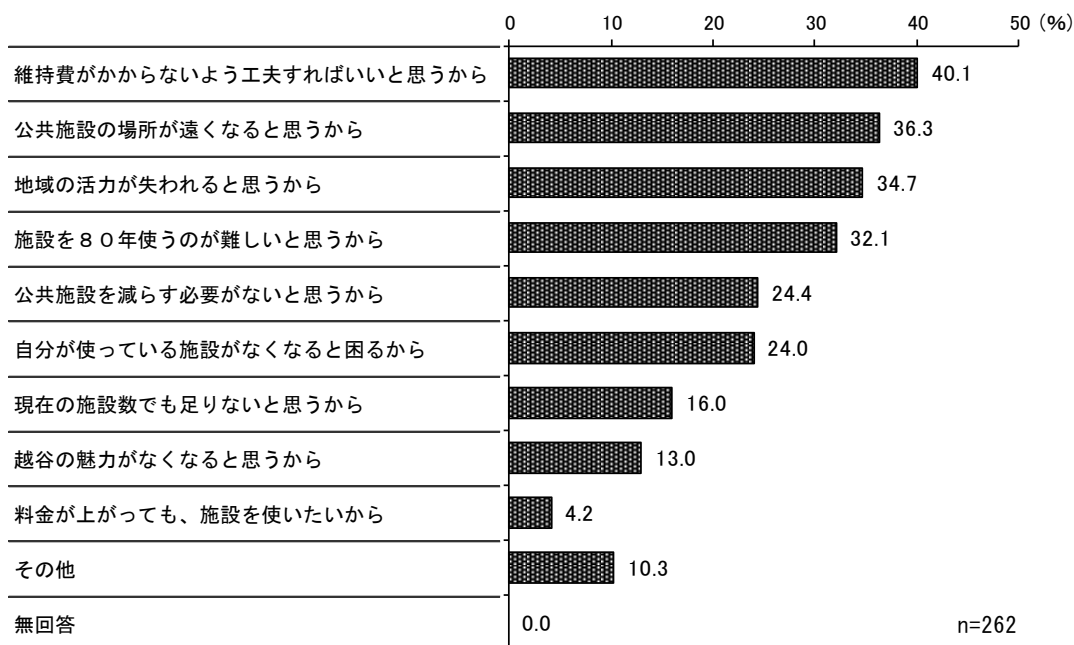


(3) 「越谷市公共施設等総合管理計画」にそうすべきと思わない理由

◇「維持費がかからないよう工夫すればいいと思うから」が最も多く、約4割

問30-2. 問30で「3. どちらかといえばそうすべきとは思わない」「4. そうすべきとは思わない」と答えた方に伺います。あなたがそうすべきとは思わない理由は何ですか。
(〇は3つまで)

図表8-3-1 「越谷市公共施設等総合管理計画」にそうすべきと思わない理由



「越谷市公共施設等総合管理計画」について、『そうすべきとは思わない』と回答した262人に、その理由を聞いたところ、「維持費がかからないよう工夫すればいいと思うから」(40.1%)が最も多く、次いで、「公共施設の場所が遠くなると思うから」(36.3%)、「地域の活力が失われると思うから」(34.7%)、「施設を80年使うのが難しいと思うから」(32.1%)、「公共施設を減らす必要がないと思うから」(24.4%)の順となっている。また、「その他」として「公共施設は必要ないと思うから」「もっと減らしても良いと思うから」「ムダをなくす事を優先してほしいから」等が挙げられた。

性別で見ると、「公共施設の場所が遠くなると思うから」は女性（44.8%）が男性（26.3%）より18.5ポイント高く、「自分が使っている施設がなくなると困るから」でも女性（29.1%）が男性（19.3%）より9.8ポイント高くなっている。一方、「地域の活力が失われると思うから」は男性（43.9%）が女性（27.6%）より16.3ポイント高く、「越谷の魅力がなくなると困るから」でも男性（16.7%）が女性（7.5%）より9.2ポイント高くなっている。

※性・年齢別については、調査数が少ないため記述しない

図表8-3-2 性・年齢別 「越谷市公共施設等総合管理計画」にそうすべきと思わない理由

	調査数（人）	公共施設の場所が遠くなると思うから	自分が使っている施設がなくなると困るから	公共施設を減らす必要がないと思うから	現在の施設数でも足りないと思うから	料金が上がっても、施設を使いたいから	維持費がかからないよう工夫すればいいと思うから	施設を80年使うのが難しいと思うから	地域の活力が失われると思うから	越谷の魅力がなくなると困るから	その他	無回答
全体	262	36.3	24.0	24.4	16.0	4.2	40.1	32.1	34.7	13.0	10.3	-
女性全体	134	44.8	29.1	23.9	14.9	3.0	38.8	33.6	27.6	7.5	8.2	-
18～29歳	15	40.0	26.7	13.3	-	-	26.7	60.0	20.0	20.0	6.7	-
30～39歳	39	48.7	38.5	25.6	10.3	2.6	30.8	41.0	23.1	2.6	5.1	-
40～49歳	25	48.0	32.0	12.0	20.0	8.0	32.0	32.0	28.0	8.0	8.0	-
50～59歳	14	28.6	14.3	28.6	7.1	7.1	57.1	28.6	35.7	14.3	7.1	-
60～69歳	29	48.3	24.1	31.0	17.2	-	51.7	24.1	37.9	3.4	13.8	-
70歳以上	11	36.4	27.3	36.4	45.5	-	36.4	9.1	18.2	9.1	9.1	-
男性全体	114	26.3	19.3	25.4	18.4	6.1	39.5	31.6	43.9	16.7	13.2	-
18～29歳	10	40.0	30.0	40.0	10.0	-	30.0	30.0	20.0	10.0	-	-
30～39歳	17	23.5	23.5	23.5	11.8	-	47.1	35.3	41.2	5.9	17.6	-
40～49歳	16	12.5	18.8	25.0	12.5	12.5	50.0	56.3	6.3	18.8	18.8	-
50～59歳	22	31.8	18.2	22.7	22.7	9.1	22.7	31.8	63.6	22.7	13.6	-
60～69歳	27	22.2	18.5	25.9	25.9	7.4	40.7	22.2	59.3	22.2	14.8	-
70歳以上	21	28.6	9.5	23.8	19.0	4.8	47.6	23.8	47.6	14.3	9.5	-

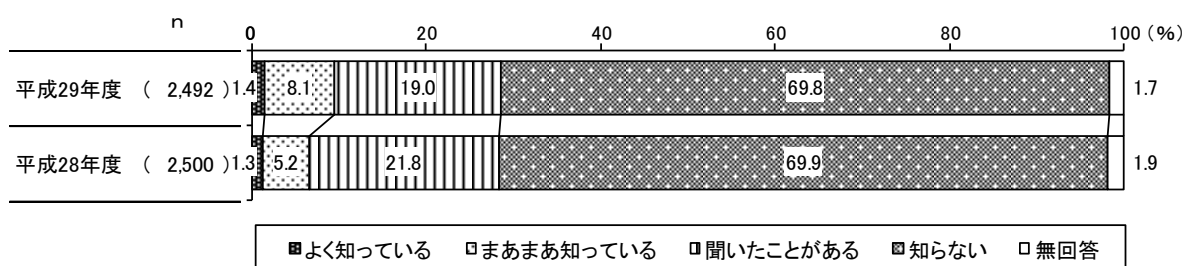
9. 自治基本条例について

(1) 「越谷市自治基本条例」の認知度

◇『知っている』は約1割

問31. あなたは市民参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

図表9-1-1 「越谷市自治基本条例」の認知度

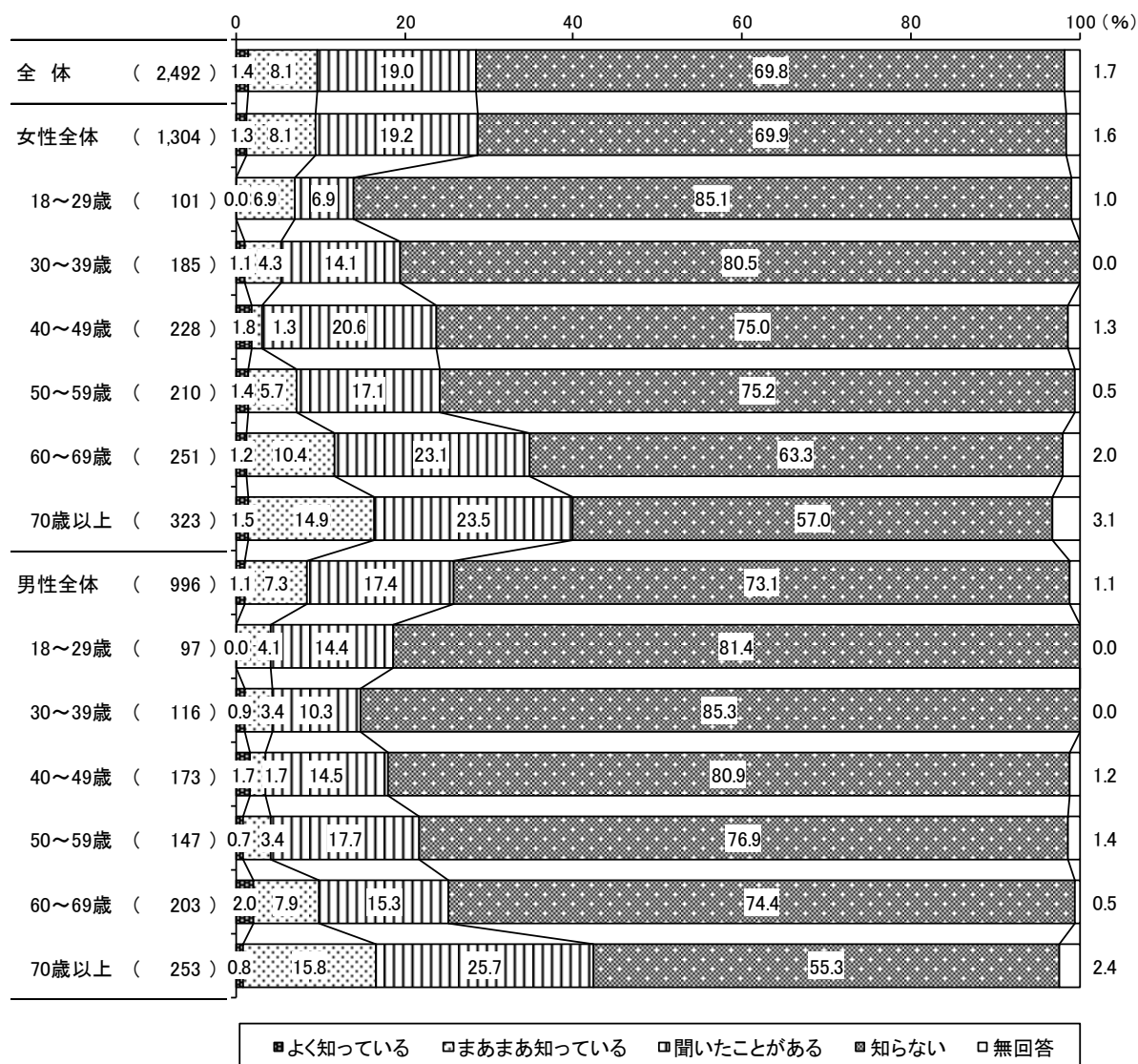


「越谷市自治基本条例」については、「よく知っている」(1.4%)と「まあまあ知っている」(8.1%)を合わせた『知っている』(9.5%)は約1割となっている。一方、「知らない」(69.8%)は約7割となっている。

前回の調査と比較すると、『知っている』(9.5%)は平成28年度調査(6.5%)と比べ3.0ポイント増加している。

性別でみると、『知っている』は女性（9.4%）が男性（8.4%）より1.0ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『知っている』は男性70歳以上（16.6%）、女性70歳以上（16.4%）で1割半ばと多くなっている。一方、「知らない」は男性30～39歳（85.3%）、女性18～29歳（85.1%）で8割半ばと多くなっている。

図表9-1-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知度

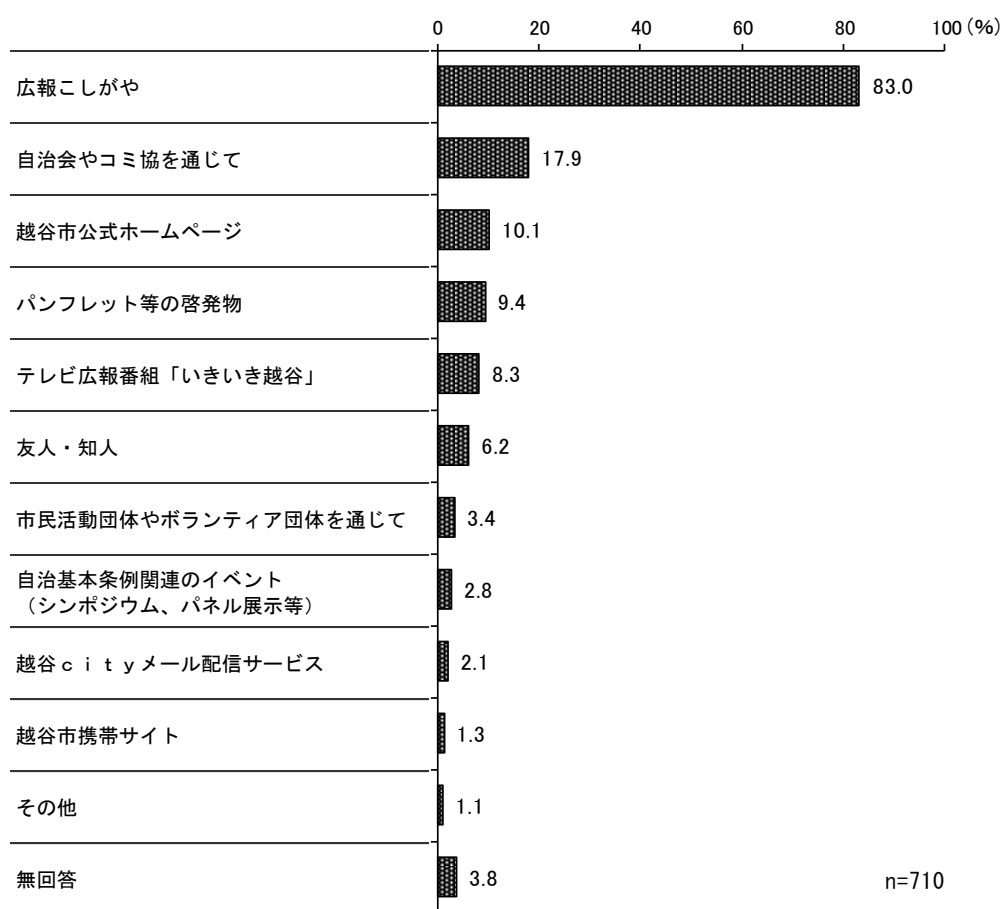


(2) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、8割強

問31-2. 問31で「1. よく知っている」「2. まあまあ知っている」または「3. 聞いたことがある」と答えた方に伺います。どのようにして「越谷市自治基本条例」のことを知り（聞き）ましたか。(複数回答可)

図表9-2-1 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ



「越谷市自治基本条例」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した710人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(83.0%)が最も多く、次いで、「自治会やコミ協を通じて」(17.9%)、「越谷市公式ホームページ」(10.1%)、「パンフレット等の啓発物」(9.4%)、「テレビ広報番組『いきいき越谷』」(8.3%)の順となっている。また、「その他」として「図書館」「ラジオ」「若い人から聞いた」等が挙げられた。

性別で見ると、「広報こしがや」は女性（87.4%）が男性（78.6%）より8.8ポイント高くなっている。また、「友人・知人」は女性（8.1%）が男性（3.5%）より4.6ポイント高く、「自治会やコミ協を通じて」でも女性（19.9%）が男性（16.3%）より3.6ポイント高くなっている。一方、「パンフレット等の啓発物」は男性（12.1%）が女性（7.8%）より4.3ポイント高く、「越谷市公式ホームページ」でも男性（13.2%）が女性（9.1%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがや」は女性60～69歳（95.4%）で9割半ばと多くなっている。また、「自治会やコミ協を通じて」は女性60～69歳（29.9%）、男性70歳以上（25.2%）で2割半ば以上と多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表9-2-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

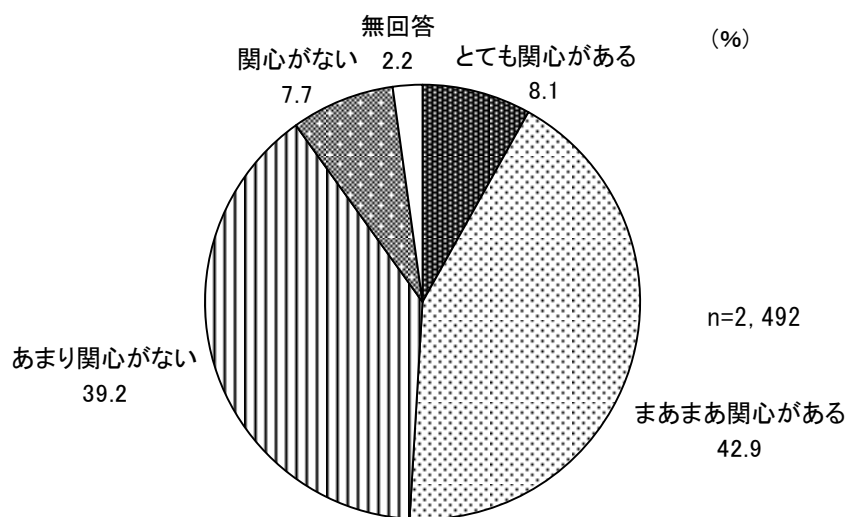
	調査数（人）	広報こしがや	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	パンフレット等の啓発物	友人・知人	自治会やコミ協を通じて	市民活動団体やボランティア団体を通じて	ム、自治基本条例関連のイベント（シンポジウム、パネル展示等）	その他	無回答
全体	710	83.0	8.3	10.1	1.3	2.1	9.4	6.2	17.9	3.4	2.8	1.1	3.8
女性全体	372	87.4	8.3	9.1	1.1	2.7	7.8	8.1	19.9	3.5	2.4	0.8	3.2
18～29歳	14	78.6	7.1	35.7	-	7.1	7.1	7.1	-	-	-	-	-
30～39歳	36	86.1	8.3	16.7	5.6	2.8	2.8	-	11.1	-	-	2.8	2.8
40～49歳	54	88.9	5.6	11.1	1.9	7.4	3.7	7.4	18.5	-	-	-	1.9
50～59歳	51	84.3	3.9	11.8	2.0	2.0	7.8	2.0	11.8	2.0	3.9	-	3.9
60～69歳	87	95.4	5.7	5.7	-	1.1	10.3	4.6	29.9	6.9	4.6	1.1	1.1
70歳以上	129	83.7	13.2	4.7	-	1.6	8.5	15.5	21.7	4.7	2.3	0.8	5.4
男性全体	257	78.6	8.2	13.2	1.9	1.9	12.1	3.5	16.3	3.5	4.3	0.8	3.5
18～29歳	18	77.8	-	11.1	-	-	5.6	-	5.6	-	-	-	5.6
30～39歳	17	70.6	-	29.4	-	-	17.6	5.9	-	-	-	5.9	5.9
40～49歳	31	64.5	6.5	29.0	9.7	3.2	12.9	-	6.5	-	-	3.2	3.2
50～59歳	32	78.1	3.1	9.4	-	6.3	3.1	-	15.6	3.1	6.3	-	6.3
60～69歳	51	84.3	9.8	13.7	2.0	3.9	9.8	2.0	13.7	5.9	5.9	-	2.0
70歳以上	107	81.3	11.2	7.5	0.9	-	15.9	6.5	25.2	4.7	5.6	-	2.8

(3) 市政への関心度

◇『関心がある』が約5割

問32. あなたは市政に関心がありますか。(○は1つ)

図表9-3-1 市政への関心度

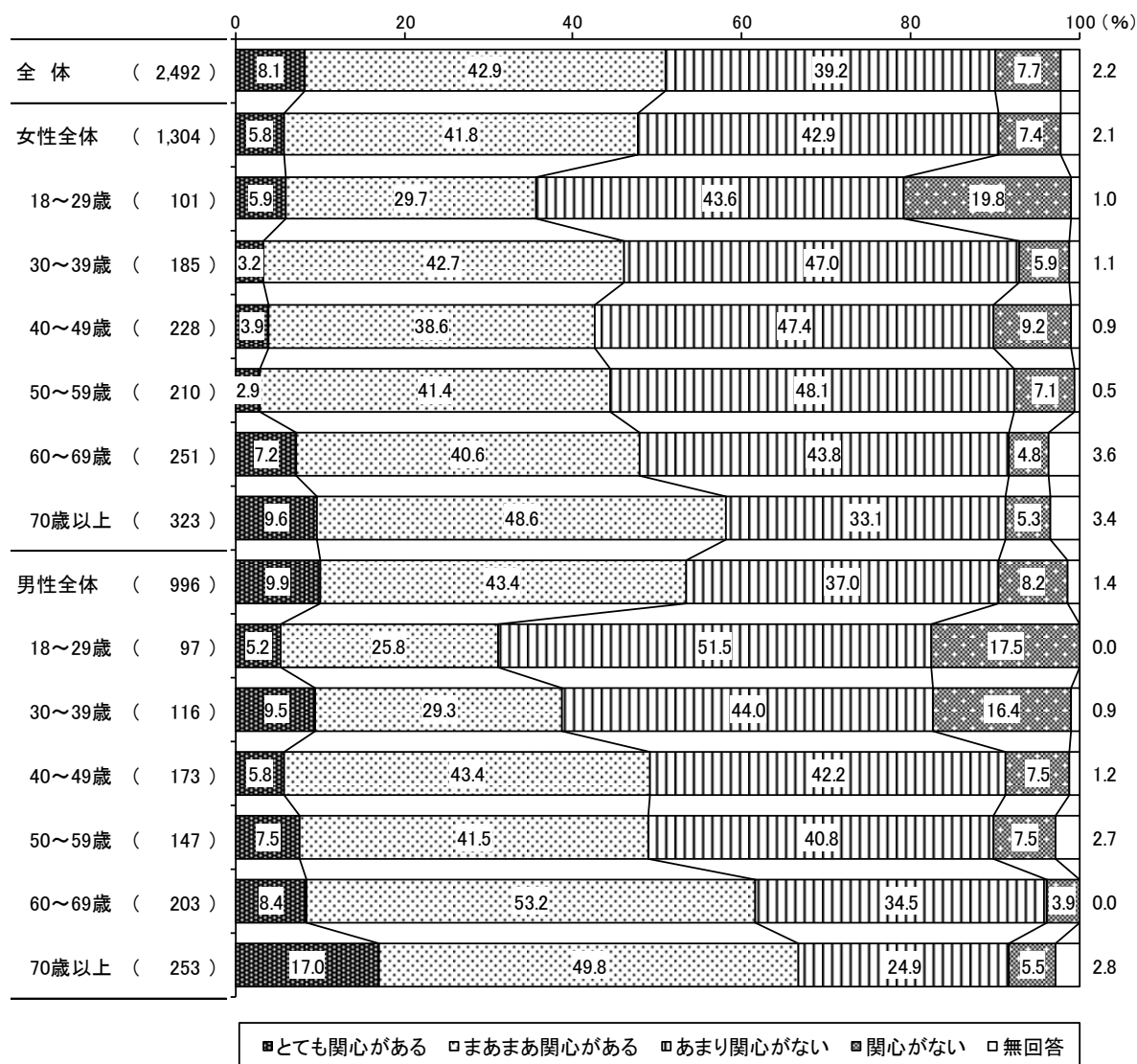


市政への関心については、「まあまあ関心がある」(42.9%)が最も多く、「とても関心がある」(8.1%)を合わせた『関心がある』(51.0%)は約5割となっている。一方、「あまり関心がない」(39.2%)と「関心がない」(7.7%)を合わせた『関心がない』(46.9%)は4割半ばとなっている。

性別でみると、『関心がある』は男性（53.3%）が女性（47.6%）より5.7ポイント高くなっている。一方、『関心がない』は女性（50.3%）が男性（45.2%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『関心がある』は男性70歳以上（66.8%）で6割半ばと最も多く、男性60～69歳（61.6%）で約6割と多くなっている。一方、『関心がない』は男性18～29歳（69.0%）で約7割と最も多く、女性18～29歳（63.4%）、男性30～39歳（60.4%）で6割以上と多くなっている。

図表9-3-2 性・年齢別 市政への関心度

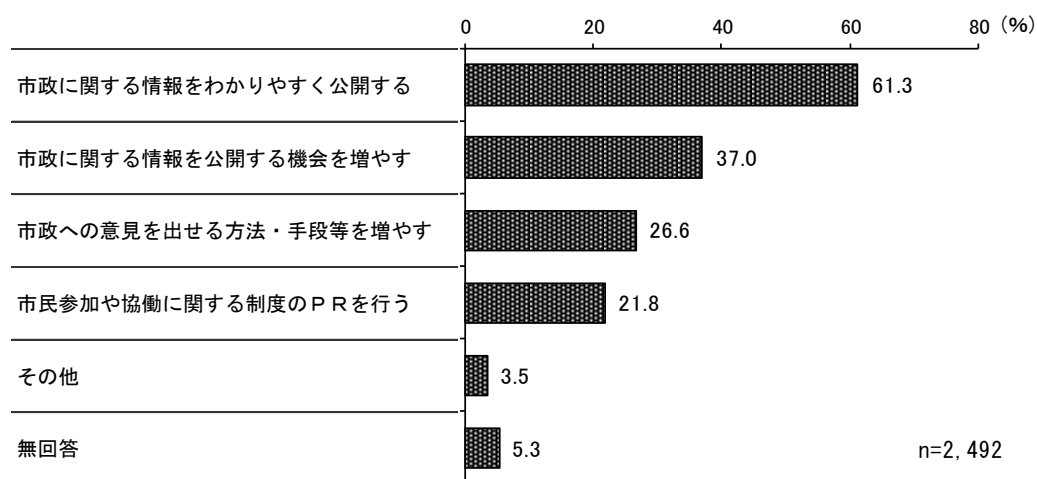


(4) 市政に関心を持ってもらうために必要なもの

◇「市政に関する情報をわかりやすく公開する」が最も多く、約6割

問33. 多くの市民に市政に関心を持ってもらうためには、何が重要だと思いますか。
(複数回答可)

図表9-4-1 市政に関心を持ってもらうために必要なもの



多くの市民に市政に関心を持ってもらうために必要なものを聞いたところ、「市政に関する情報をわかりやすく公開する」(61.3%)が最も多く、次いで、「市政に関する情報を公開する機会を増やす」(37.0%)、「市政への意見を出せる方法・手段等を増やす」(26.6%)、「市民参加や協働に関する制度のPRを行う」(21.8%)の順となっている。また、「その他」として「子供にもわかりやすい内容にする」「わかりやすいイベントを行う」「市民の身近なところで活動する」等が挙げられた。

性別でみると、「市政に関する情報をわかりやすく公開する」は女性（64.2%）が男性（59.0%）より5.2ポイント高くなっている。一方、「市政への意見を出せる方法・手段等を増やす」は男性（29.0%）が女性（25.7%）より3.3ポイント高く、「市政に関する情報を公開する機会を増やす」は男性（40.1%）が女性（37.0%）より3.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「市政に関する情報をわかりやすく公開する」は女性18～29歳（70.3%）で約7割と多く、「市政に関する情報を公開する機会を増やす」は女性30～39歳（53.5%）で5割強と多くなっている。また、「市政への意見を出せる方法・手段等を増やす」は女性40～49歳（35.5%）、女性30～39歳（35.1%）で3割半ばと多く、「市民参加や協働に関する制度のPRを行う」は女性60～69歳（31.1%）で約3割と多くなっている。

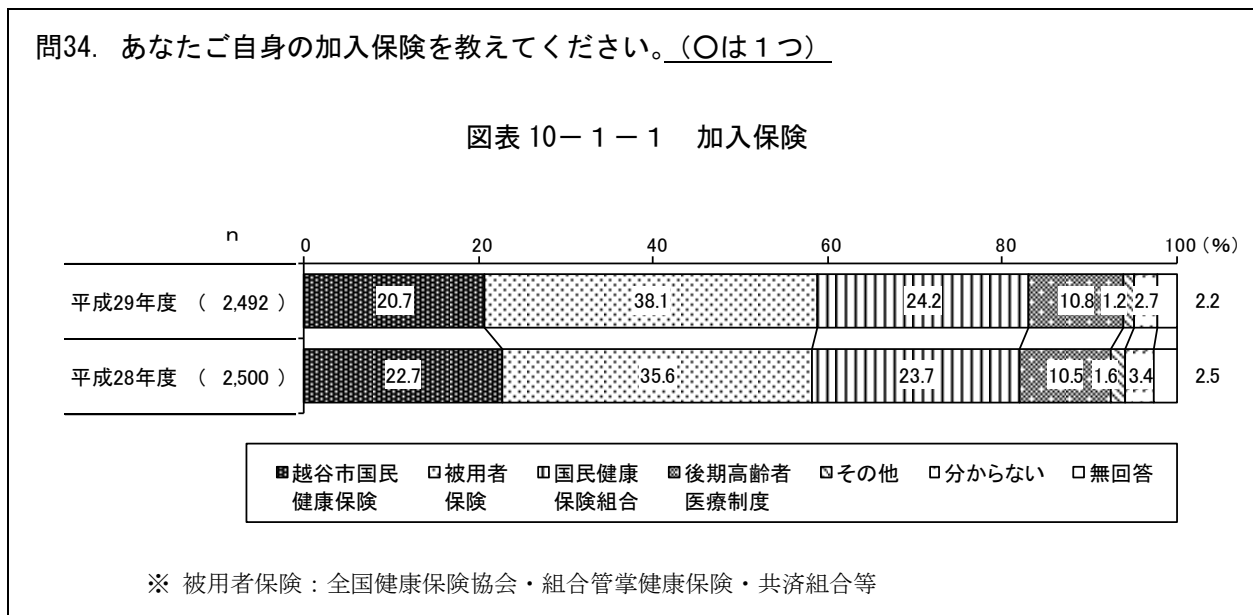
図表9-4-2 性・年齢別 市政に関心を持ってもらうために必要なもの

	調査数（人）	市政に関する情報をわかりやすく公開する	市政に関する情報を公開する機会を増やす	市民参加や協働に関する制度のPRを行う	市政への意見を出せる方法・手段等を増やす	その他	無回答
全体	2,492	61.3	37.0	21.8	26.6	3.5	5.3
女性全体	1,304	64.2	37.0	21.7	25.7	2.7	5.1
18～29歳	101	70.3	42.6	21.8	24.8	2.0	1.0
30～39歳	185	68.1	53.5	17.3	35.1	3.2	2.2
40～49歳	228	64.0	41.7	18.9	35.5	3.5	0.4
50～59歳	210	66.7	39.5	22.9	21.0	2.9	1.4
60～69歳	251	57.8	33.9	31.1	26.7	4.0	5.2
70歳以上	323	63.5	23.8	18.3	16.1	0.9	13.3
男性全体	996	59.0	40.1	22.6	29.0	4.8	3.9
18～29歳	97	66.0	46.4	23.7	24.7	7.2	3.1
30～39歳	116	56.9	44.8	25.0	33.6	10.3	0.9
40～49歳	173	58.4	45.1	21.4	29.5	5.2	1.7
50～59歳	147	57.1	40.8	21.8	32.0	6.1	4.1
60～69歳	203	60.1	36.9	26.1	32.5	2.0	3.0
70歳以上	253	58.1	34.0	20.2	23.7	2.8	7.5

10. 医療費適正化（医療費通知）について

(1) 加入保険

◇「被用者保険」が最も多く、4割弱

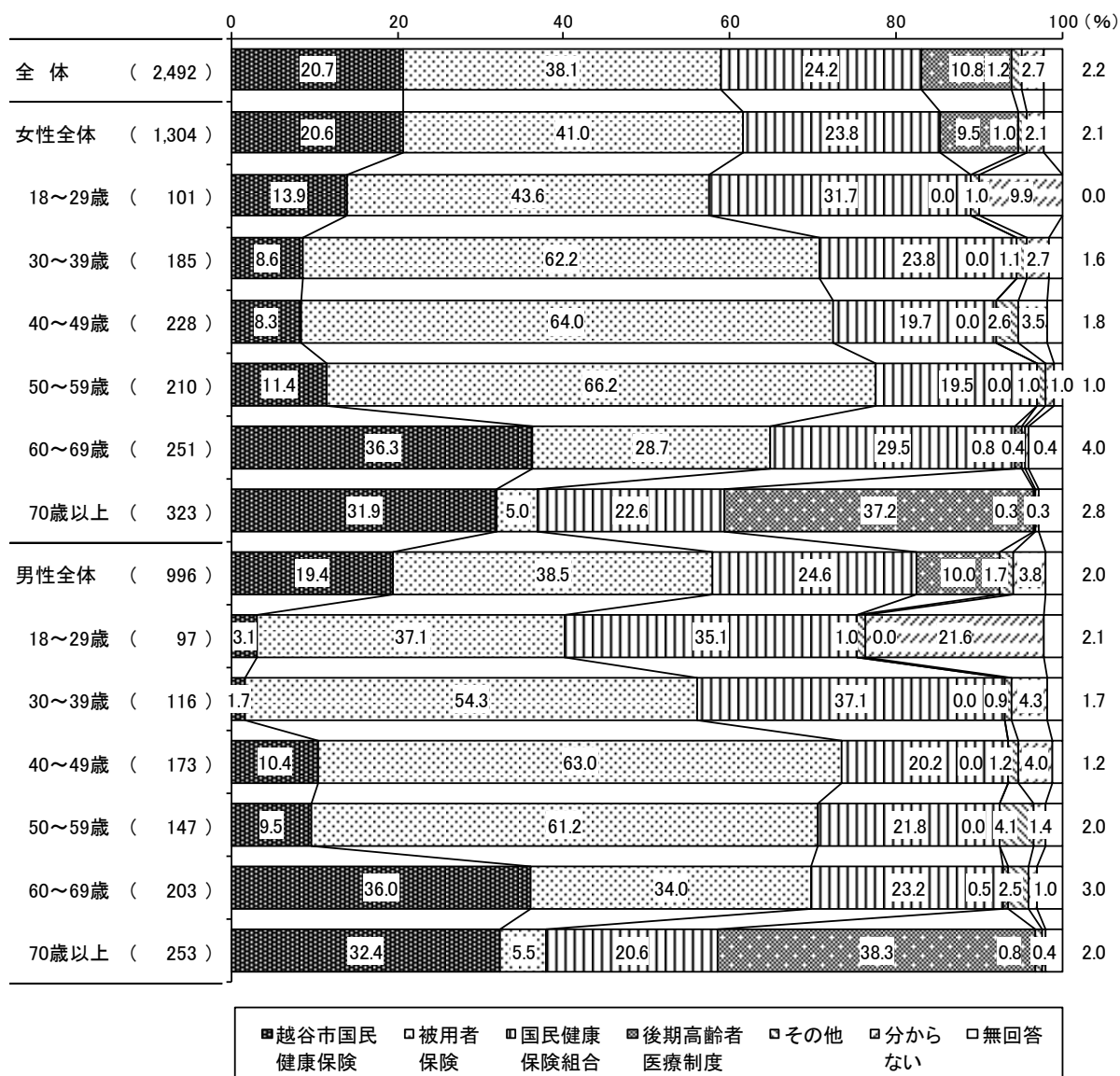


加入保険については、「被用者保険」(38.1%)が最も多く、次いで、「国民健康保険組合」(24.2%)、「越谷市国民健康保険」(20.7%)、「後期高齢者医療制度」(10.8%)の順となっている。また、「その他」として「未加入(生活保護受給)」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「被用者保険」(38.1%)は平成28年度調査(35.6%)と比べ2.5ポイント増加している。

性別でみると、「被用者保険」は女性（41.0%）が男性（38.5%）より2.5ポイント高くなっている。性・年齢別でみると、「被用者保険」は女性50～59歳（66.2%）、女性40～49歳（64.0%）で6割半ばと多く、男性40～49歳（63.0%）、女性30～39歳（62.2%）で6割強と多くなっている。また、「国民健康保険組合」は男性30～39歳（37.1%）、男性18～29歳（35.1%）で3割半ば以上と多く、「越谷市国民健康保険」は女性60～69歳（36.3%）、男性60～69歳（36.0%）で3割半ばと多くなっている。

図表 10-1-2 性・年齢別 加入保険

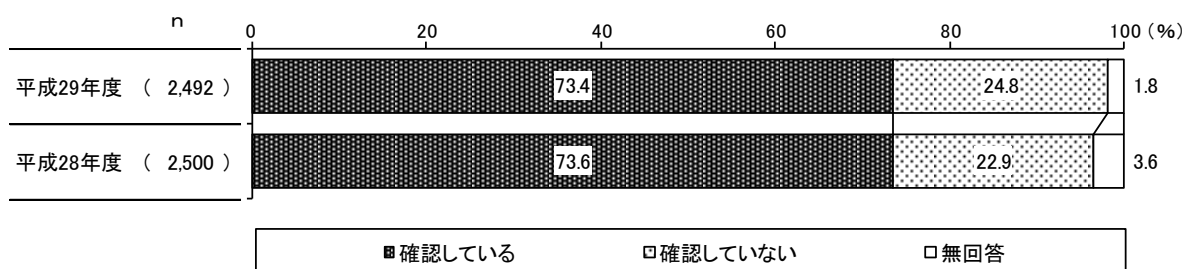


(2) 医療費通知の確認

◇「確認している」が7割強

問35. あなたは、健康保険から届く医療費通知の内容を確認していますか。(○は1つ)

図表 10-2-1 医療費通知の確認

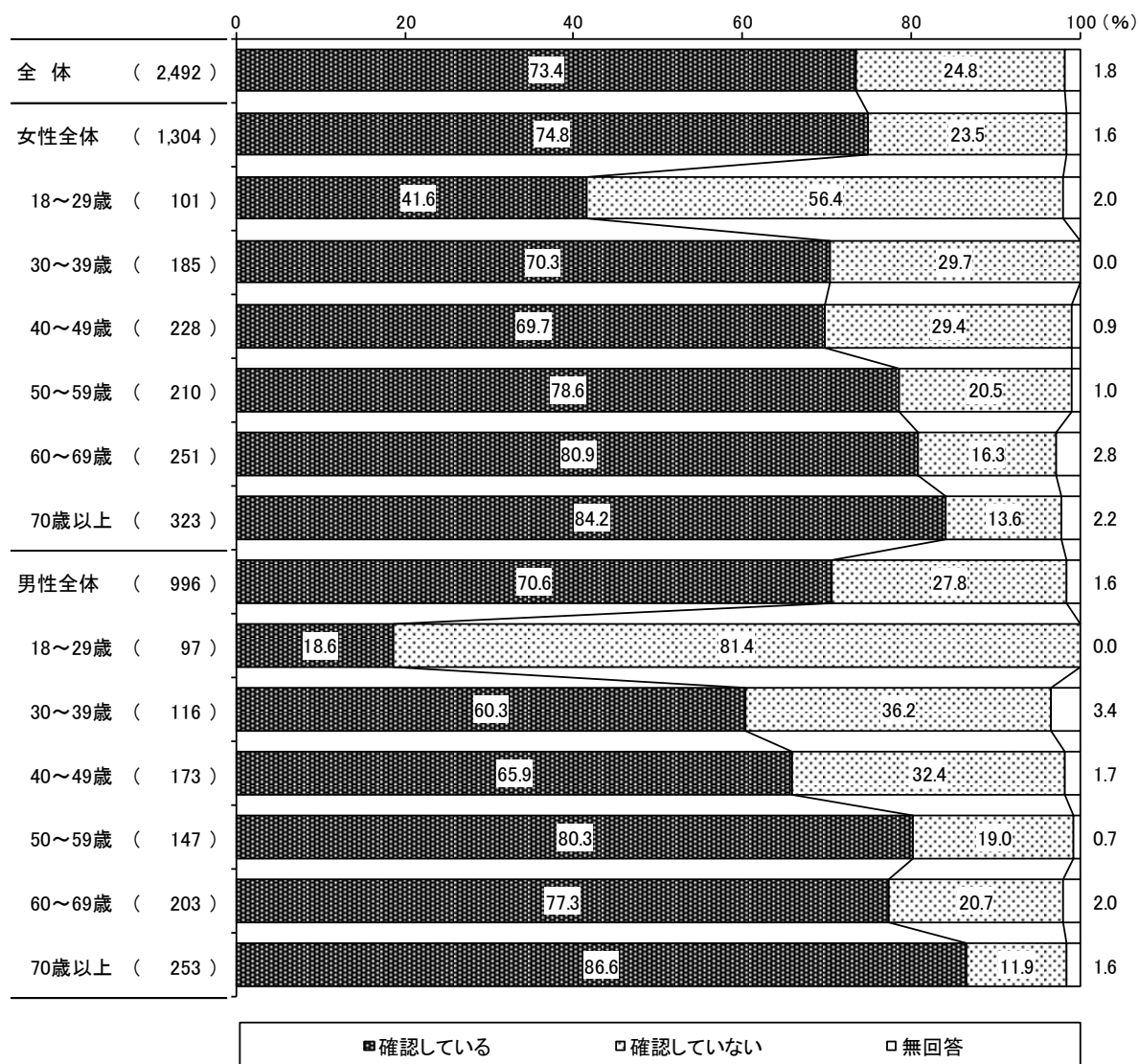


医療費通知の内容については、「確認している」(73.4%)が7割強、「確認していない」(24.8%)が2割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、「確認していない」(24.8%)は平成28年度調査(22.9%)と比べ1.9ポイント増加している。

性別で見ると、「確認している」は女性(74.8%)が男性(70.6%)より4.2ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、「確認している」は男性70歳以上(86.6%)、女性70歳以上(84.2%)で8割半ばと多くなっている。一方、「確認していない」は男性18~29歳(81.4%)で約8割、女性18~29歳(56.4%)で5割半ばと多くなっている。

図表 10-2-2 性・年齢別 医療費通知の確認



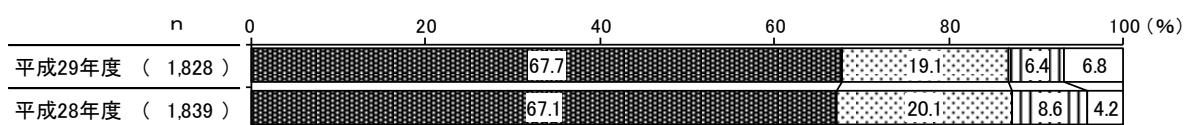
(3) 医療費通知を受け取って思うこと

◇「健康な身体づくりを意識しようと思う」「医療機関への適正な受診を心がけようと思う」がともに7割弱

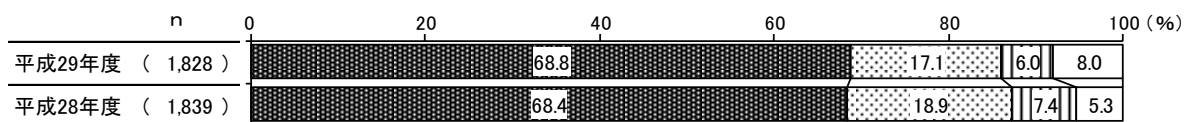
問35-2. 問35で「1. 確認している」と答えた方に伺います。あなたは、医療費通知を受け取ったどのように思いますか。(ア～イ それぞれ横に○は1つずつ)

図表 10-3-1 医療費通知を受け取って思うこと

ア 健康な身体づくりを意識しようと思う



イ 医療機関への適正な受診を心がけようと思う



■ 思う □どちらともいえない □思わない □無回答

医療費通知の内容を「確認している」と回答した1,828人に、「ア 健康な身体づくりを意識しようと思う」か聞いたところ、「思う」(67.7%)が7割弱となっている。また、「イ 医療機関への適正な受診を心がけようと思う」か聞いたところ、こちらも「思う」(68.8%)が7割弱となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

「ア 健康な身体づくりを意識しようと思う」について性・年齢別でみると、「思う」は女性 60～69 歳（78.3%）で8割弱、女性 70 歳以上（74.6%）で7割半ばと多くなっている。一方、「思わない」は女性 18～29 歳（19.0%）で約2割と多くなっている。

「イ 医療機関への適正な受診を心がけようと思う」について性・年齢別でみると、「思う」は女性 60～69 歳（76.8%）で7割半ばと多くなっている。一方、「思わない」は女性 18～29 歳（19.0%）で約2割と多くなっている。

図表 10-3-2 性・年齢別 医療費通知を受け取って思うこと

		(%)							
		ア 健康な身体づくりを意識しようと思う				イ 医療機関への適正な受診を心がけようと思う			
	調査数 (人)	思う	どちらともいえない	思わない	無回答	思う	どちらともいえない	思わない	無回答
全体	1,828	67.7	19.1	6.4	6.8	68.8	17.1	6.0	8.0
女性全体	976	68.0	20.0	6.7	5.3	68.8	17.0	6.6	7.7
18～29歳	42	59.5	21.4	19.0	-	66.7	14.3	19.0	-
30～39歳	130	52.3	32.3	14.6	0.8	59.2	27.7	12.3	0.8
40～49歳	159	62.9	23.9	11.9	1.3	66.7	22.6	9.4	1.3
50～59歳	165	64.2	27.3	6.7	1.8	64.8	24.2	7.9	3.0
60～69歳	203	78.3	16.3	3.4	2.0	76.8	12.8	3.4	6.9
70歳以上	272	74.6	9.6	0.4	15.4	71.3	7.4	1.8	19.5
男性全体	703	67.4	19.5	6.0	7.1	69.3	18.8	5.7	6.3
18～29歳	18	55.6	44.4	-	-	50.0	44.4	5.6	-
30～39歳	70	61.4	24.3	12.9	1.4	58.6	28.6	12.9	-
40～49歳	114	61.4	27.2	9.6	1.8	63.2	27.2	8.8	0.9
50～59歳	118	69.5	20.3	7.6	2.5	72.9	20.3	5.1	1.7
60～69歳	157	70.1	20.4	3.8	5.7	73.2	15.9	5.1	5.7
70歳以上	219	71.2	10.0	3.2	15.5	73.1	10.0	2.7	14.2

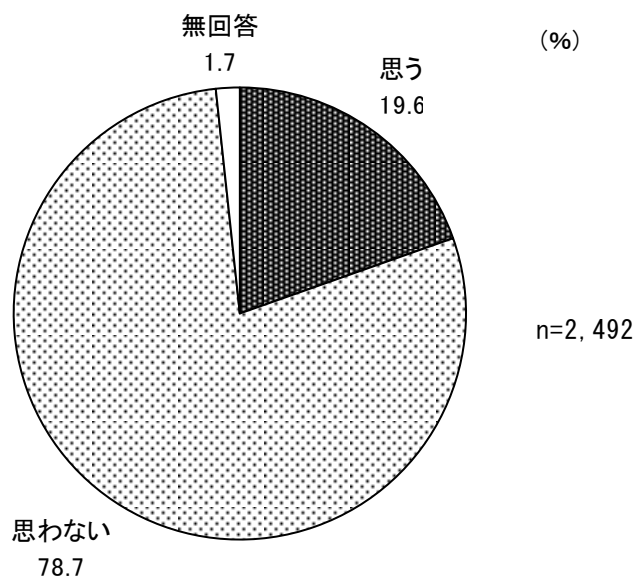
11. 市民農園について

(1) 「市民農園」での野菜づくり意向の有無

◇「思う」が約2割

問36. あなたは「市民農園」で、畑を借りて野菜づくりをしたいと思いませんか。(○は1つ)

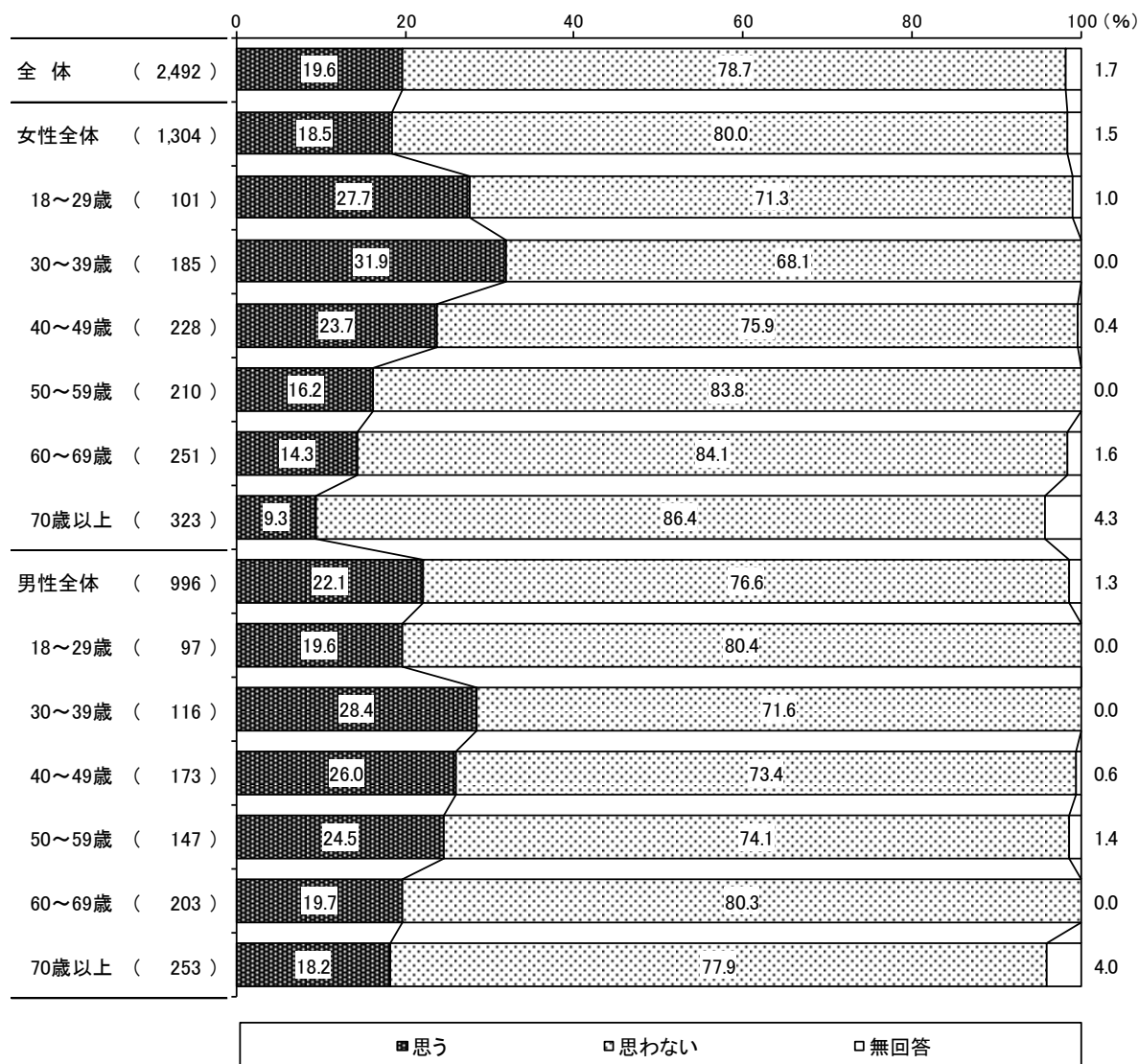
図表 11-1-1 「市民農園」での野菜づくり意向の有無



「市民農園」で、畑を借りて野菜づくりをしたいと思うか聞いたところ、「思う」(19.6%)が約2割、「思わない」(78.7%)が8割弱となっている。

性別で見ると、「思う」は男性（22.1%）が女性（18.5%）より3.6ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、「思う」は女性30～39歳（31.9%）で約3割と最も多く、男性30～39歳（28.4%）、
 女性18～29歳（27.7%）で3割弱と多くなっている。

図表 11-1-2 性・年齢別 「市民農園」での野菜づくり意向の有無

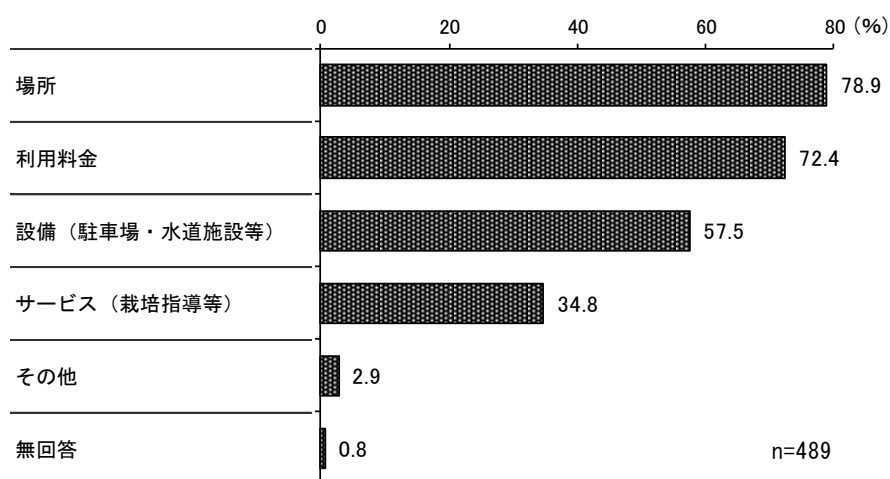


(2) 「市民農園」を利用するうえで重視する点

◇「場所」が最も多く、8割弱

問36-2. 問36で「1. 思う」と答えた方に伺います。「市民農園」を利用するうえで、どのような点を重視しますか。(複数回答可)

図表 11-2-1 「市民農園」を利用するうえで重視する点



「市民農園」で、畑を借りて野菜づくりをしたいと「思う」と回答した489人に、重視する点を聞いたところ、「場所」(78.9%)が最も多く、次いで、「利用料金」(72.4%)、「設備(駐車場・水道施設等)」(57.5%)、「サービス(栽培指導等)」(34.8%)、の順となっている。また、「その他」として「広さ」「利用期間」「管理方法、警備」等が挙げられた。

性別で見ると、「設備（駐車場・水道施設等）」は女性（63.1%）が男性（51.8%）より11.3ポイント高くなっている。また、「利用料金」は女性（76.3%）が男性（68.6%）より7.7ポイント高く、「サービス（栽培指導等）」は女性（38.6%）が男性（31.4%）より7.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「利用料金」は女性30～39歳（91.5%）で約9割と多くなっている。また、「設備（駐車場・水道施設等）」は女性50～59歳（79.4%）で約8割と多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表 11-2-2 性・年齢別 「市民農園」を利用するうえで重視する点

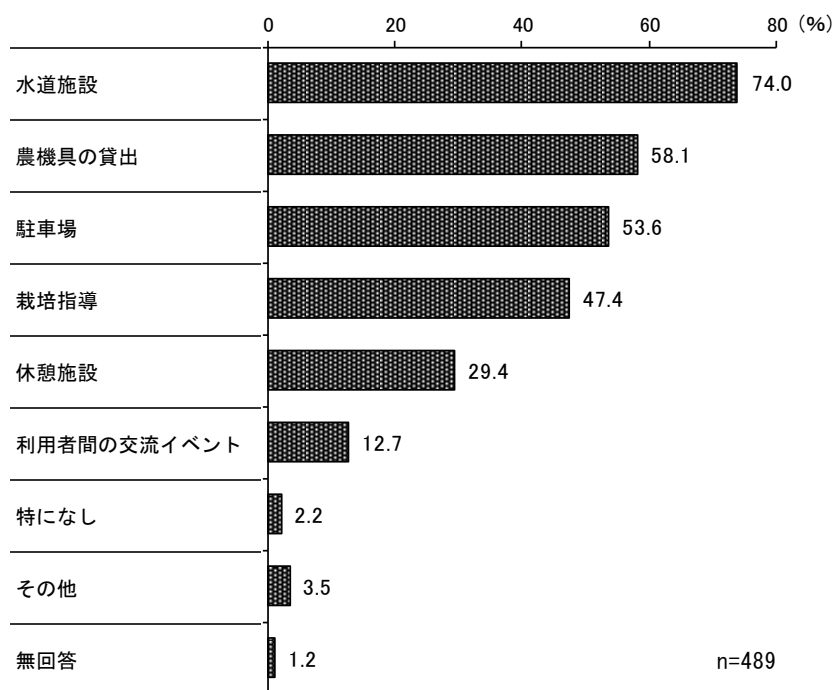
	調査数 (人)	利用料金	設備 (駐車場・水道施設等)	サービス (栽培指導等)	場所	その他	無回答
全体	489	72.4	57.5	34.8	78.9	2.9	0.8
女性全体	241	76.3	63.1	38.6	80.5	1.7	-
18～29歳	28	85.7	60.7	57.1	85.7	-	-
30～39歳	59	91.5	69.5	37.3	78.0	-	-
40～49歳	54	74.1	57.4	35.2	81.5	-	-
50～59歳	34	82.4	79.4	38.2	85.3	2.9	-
60～69歳	36	66.7	55.6	41.7	86.1	2.8	-
70歳以上	30	46.7	53.3	26.7	66.7	6.7	-
男性全体	220	68.6	51.8	31.4	79.5	3.6	1.4
18～29歳	19	84.2	78.9	47.4	84.2	-	-
30～39歳	33	78.8	63.6	48.5	78.8	3.0	-
40～49歳	45	75.6	46.7	26.7	77.8	6.7	4.4
50～59歳	36	75.0	50.0	33.3	77.8	-	-
60～69歳	40	60.0	45.0	30.0	82.5	-	2.5
70歳以上	46	50.0	45.7	17.4	78.3	8.7	-

(3) 「市民農園」に求める設備やサービス

◇「水道施設」が最も多く、7割半ば

問36-3. 問36で「1. 思う」と答えた方に伺います。「市民農園」にどのような設備やサービスを求めますか。(複数回答可)

図表 11-3-1 「市民農園」に求める設備やサービス



「市民農園」で、畑を借りて野菜づくりをしたいと「思う」と回答した489人に、求める設備やサービスを聞いたところ、「水道施設」(74.0%)が最も多く、次いで、「農機具の貸出」(58.1%)、「駐車場」(53.6%)、「栽培指導」(47.4%)、「休憩施設」(29.4%)の順となっている。また、「その他」として「駐輪場」「無料送迎交通手段」「子どもが学べる内容」等が挙げられた。

性別でみると、「農機具の貸出」は女性（62.7%）が男性（55.9%）より6.8ポイント高くなっている。また、「休憩施設」は女性（30.7%）が男性（27.3%）より3.4ポイント、「水道施設」は女性（75.9%）が男性（72.7%）より3.2ポイント、「栽培指導」は女性（49.0%）が男性（45.9%）より3.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「駐車場」は男性（55.9%）が女性（51.0%）より4.9ポイント、「利用者間の交流イベント」は男性（14.1%）が女性（10.4%）より3.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「水道施設」は男性 50～59 歳（88.9%）で9割弱と最も多く、女性 40～49 歳（81.5%）、男性 70 歳以上（80.4%）で約8割と多くなっている。

「農機具の貸出」は女性 30～39 歳（72.9%）、男性 30～39 歳（72.7%）、女性 40～49 歳（70.4%）で7割以上と多く、「栽培指導」は女性 60～69 歳（61.1%）、男性 30～39 歳（60.6%）で約6割と多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表 11-3-2 性・年齢別 「市民農園」に求める設備やサービス

(%)

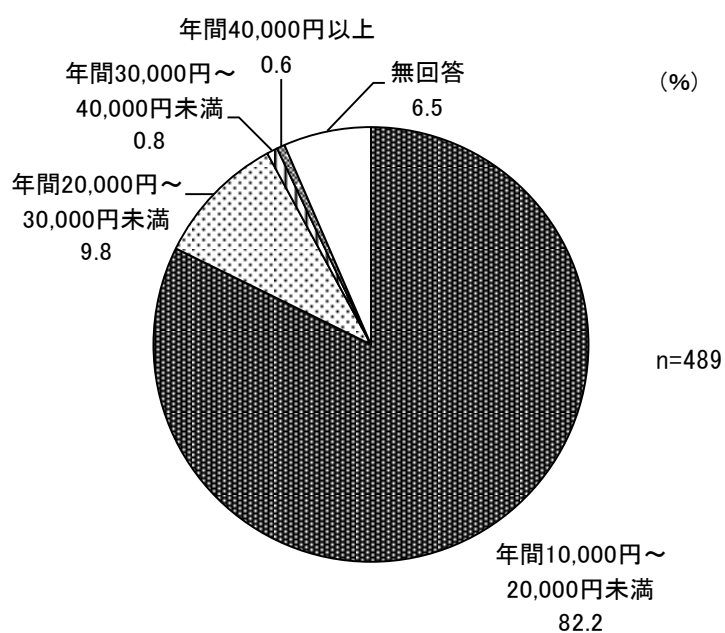
	調査数 (人)	駐車場	水道施設	農機具の貸出	休憩施設	栽培指導	利用者間の交流イベント	特になし	その他	無回答
全体	489	53.6	74.0	58.1	29.4	47.4	12.7	2.2	3.5	1.2
女性全体	241	51.0	75.9	62.7	30.7	49.0	10.4	1.2	4.6	1.2
18～29歳	28	42.9	71.4	82.1	35.7	50.0	14.3	-	3.6	-
30～39歳	59	62.7	74.6	72.9	25.4	47.5	15.3	-	8.5	-
40～49歳	54	55.6	81.5	70.4	31.5	50.0	5.6	1.9	3.7	-
50～59歳	34	55.9	76.5	58.8	32.4	47.1	5.9	-	-	5.9
60～69歳	36	41.7	75.0	52.8	33.3	61.1	11.1	2.8	8.3	-
70歳以上	30	33.3	73.3	26.7	30.0	36.7	10.0	3.3	-	3.3
男性全体	220	55.9	72.7	55.9	27.3	45.9	14.1	2.3	2.3	1.4
18～29歳	19	57.9	63.2	78.9	31.6	42.1	26.3	5.3	-	-
30～39歳	33	66.7	60.6	72.7	45.5	60.6	27.3	-	3.0	-
40～49歳	45	62.2	68.9	46.7	17.8	40.0	8.9	-	4.4	-
50～59歳	36	63.9	88.9	69.4	30.6	58.3	13.9	-	-	-
60～69歳	40	37.5	70.0	52.5	30.0	47.5	7.5	7.5	-	2.5
70歳以上	46	50.0	80.4	34.8	17.4	32.6	10.9	2.2	4.3	4.3

(4) 「市民農園」を利用したいと思う利用料金

◇「年間10,000円～20,000円未満」が8割強

問36-4. 問36で「1. 思う」と答えた方に伺います。「市民農園」を利用する場合、どの程度の利用料金であれば、利用したいと思いますか。(○は1つ)

図表 11-4-1 「市民農園」を利用したいと思う利用料金



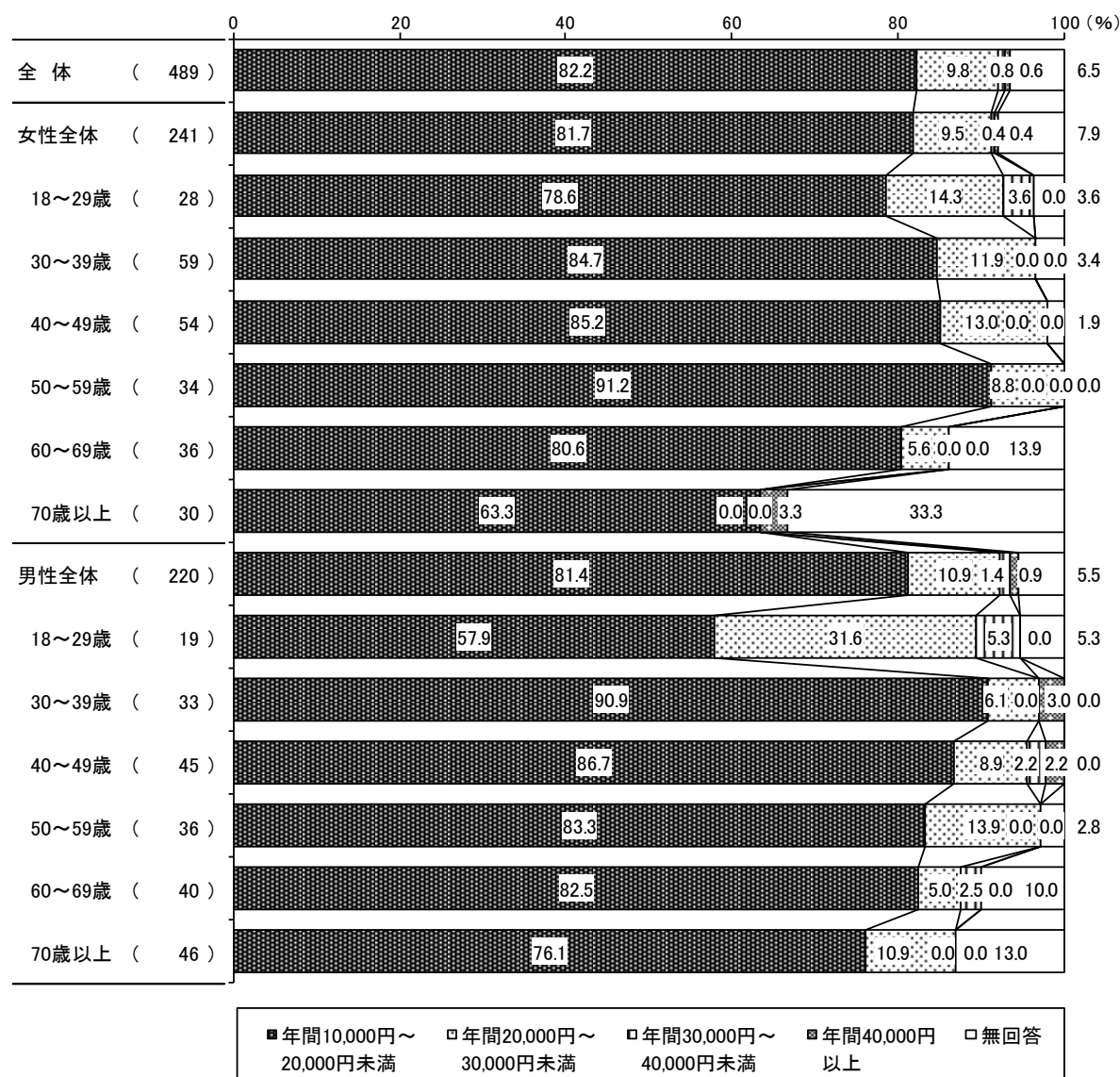
「市民農園」で、畑を借りて野菜づくりをしたいと「思う」と回答した489人に、利用したいと思う利用料金を聞いたところ、「年間10,000円～20,000円未満」(82.2%)が最も多く、次いで、「年間20,000円～30,000円未満」(9.8%)、「年間30,000円～40,000円未満」(0.8%)、「年間40,000円以上」(0.6%)の順となっている。

性別でみると、「年間 20,000 円～30,000 円未満」は男性（10.9%）が女性（9.5%）より 1.4 ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「年間 10,000 円～20,000 円未満」は女性 50～59 歳（91.2%）、男性 30～39 歳（90.9%）で約 9 割と多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については記述の対象としない

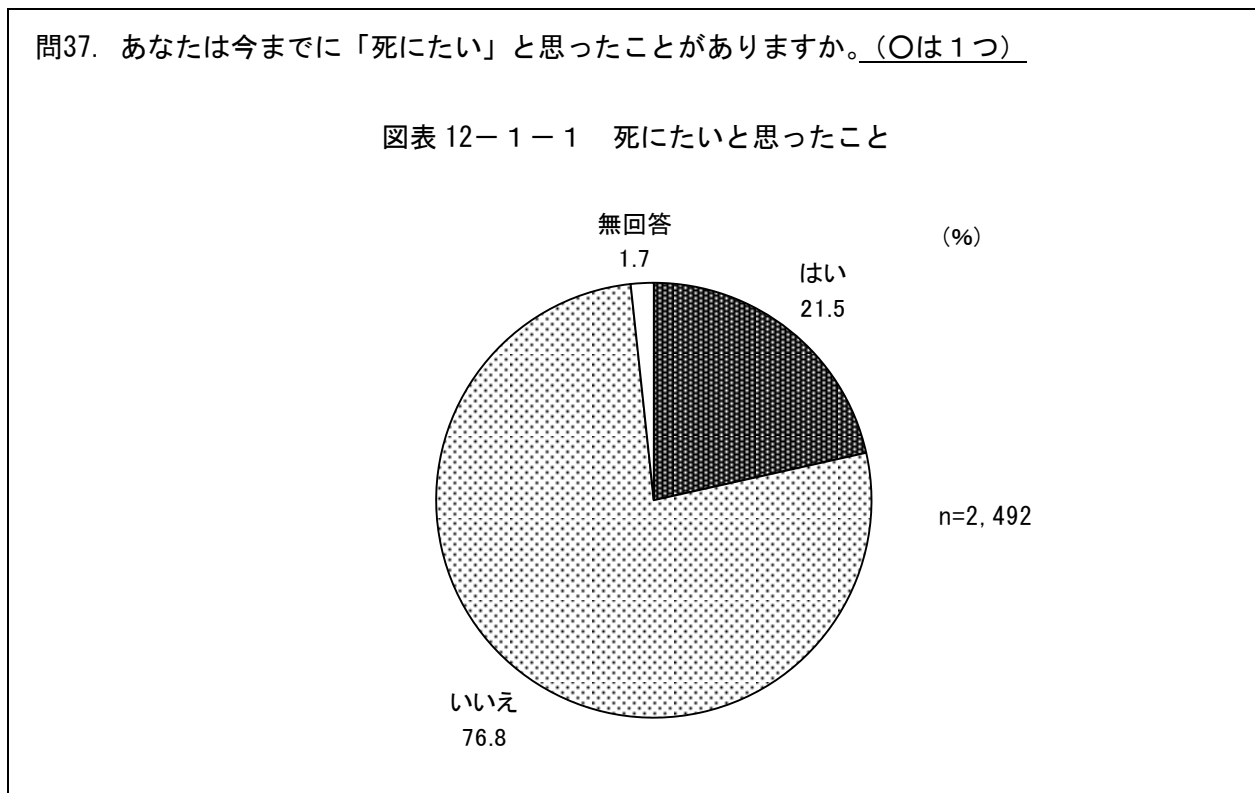
図表 11-4-2 性・年齢別 「市民農園」を利用したいと思う利用料金



12. 自殺防止について

(1) 死にたいと思ったこと

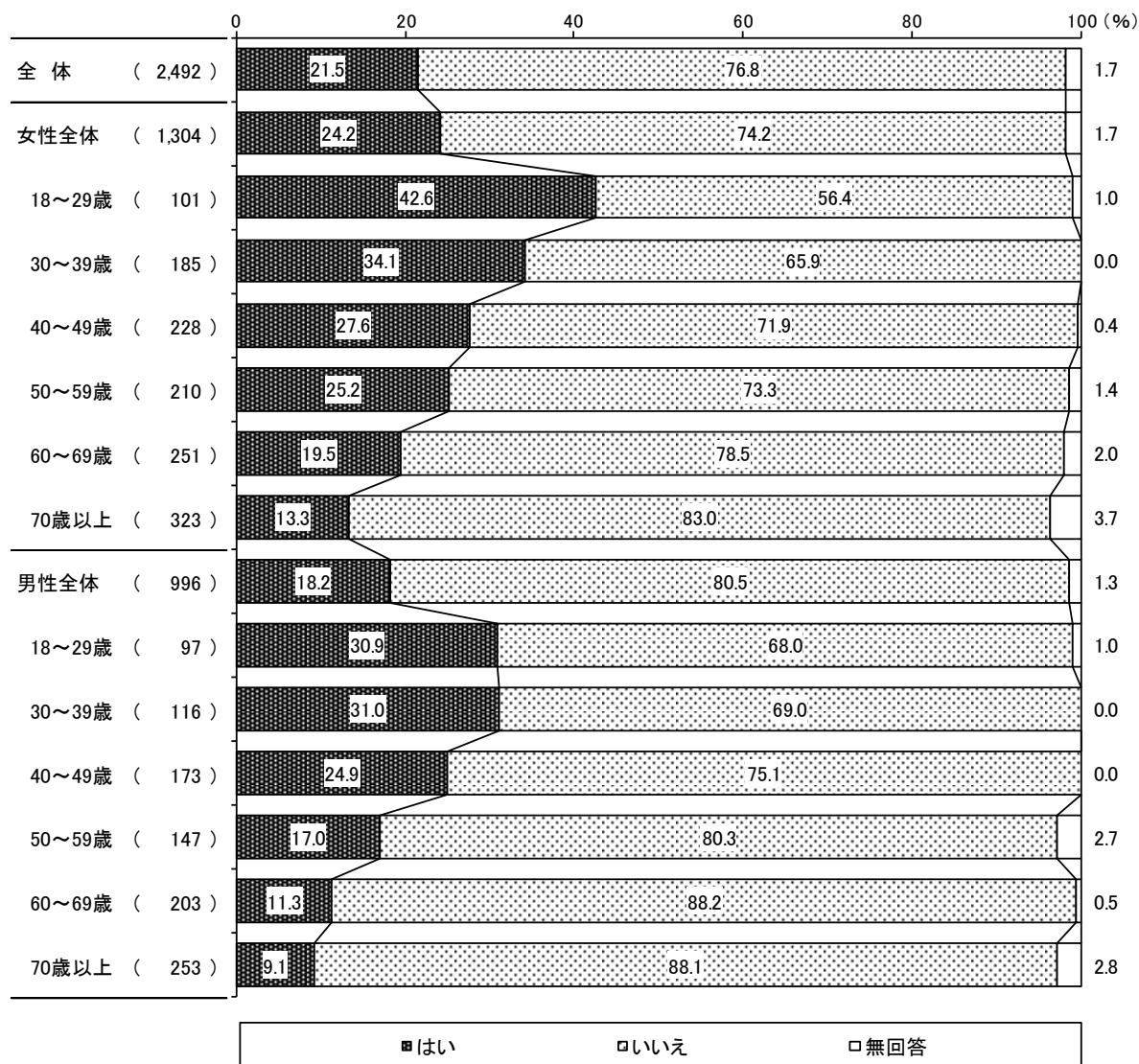
◇「はい（ある）」が約2割



今までに「死にたい」と思ったことがあるかについては、「はい（ある）」(21.5%) が約2割、「いいえ（ない）」(76.8%) が7割半ばとなっている。

性別で見ると、「はい(ある)」は女性(24.2%)が男性(18.2%)より6.0ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、「はい(ある)」は女性18～29歳(42.6%)で4割強と最も多く、女性30～39歳(34.1%)、男性30～39歳(31.0%)、男性18～29歳(30.9%)で3割以上と多くなっている。

図表 12-1-2 性・年齢別 死にたいと思ったこと

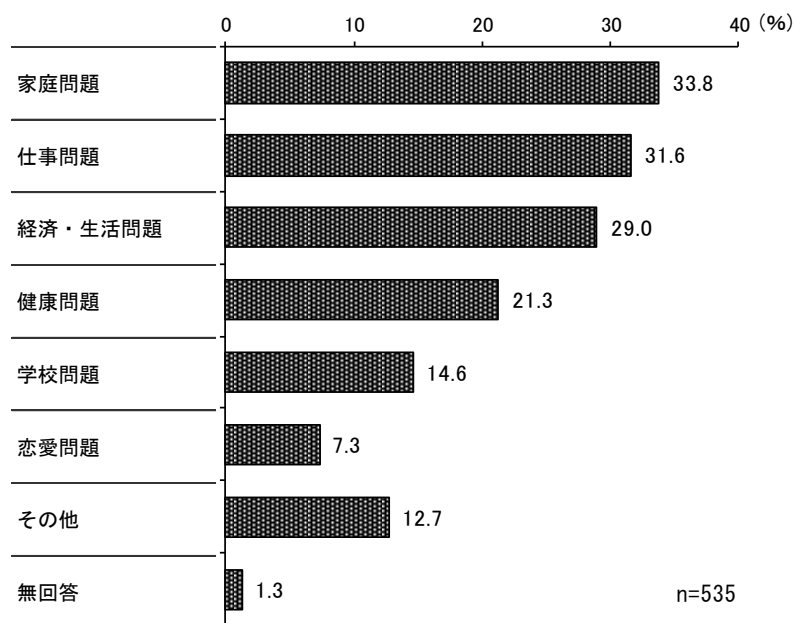


(2) 死にたいと思った理由

◇「家庭問題」が最も多く、3割強

問37-2. 問37で「1. はい」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。(複数回答可)

図表 12-2-1 死にたいと思った理由



今までに「死にたい」と思ったことがあると回答した 535 人に、その理由を聞いたところ、「家庭問題」(33.8%) が最も多く、次いで、「仕事問題」(31.6%)、「経済・生活問題」(29.0%)、「健康問題」(21.3%)、「学校問題」(14.6%) の順となっている。また、「その他」として「介護」「子育て、育児」「友人との関係」等が挙げられた。

性別でみると、「仕事問題」は男性（49.7%）が女性（21.6%）より28.1ポイント高く、「経済・生活問題」でも男性（34.3%）が女性（27.3%）より7.0ポイント高くなっている。一方、「家庭問題」は女性（42.2%）が男性（21.0%）より21.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「家庭問題」は女性50～59歳（54.7%）で5割半ばと最も多く、女性40～49歳（49.2%）で約5割と多くなっている。また、「仕事問題」は男性30～39歳（69.4%）、男性40～49歳（67.4%）で7割近くと多く、「経済・生活問題」は男性70歳以上（56.5%）で5割半ばと多くなっている。

図表 12-2-2 性・年齢別 死にたいと思った理由

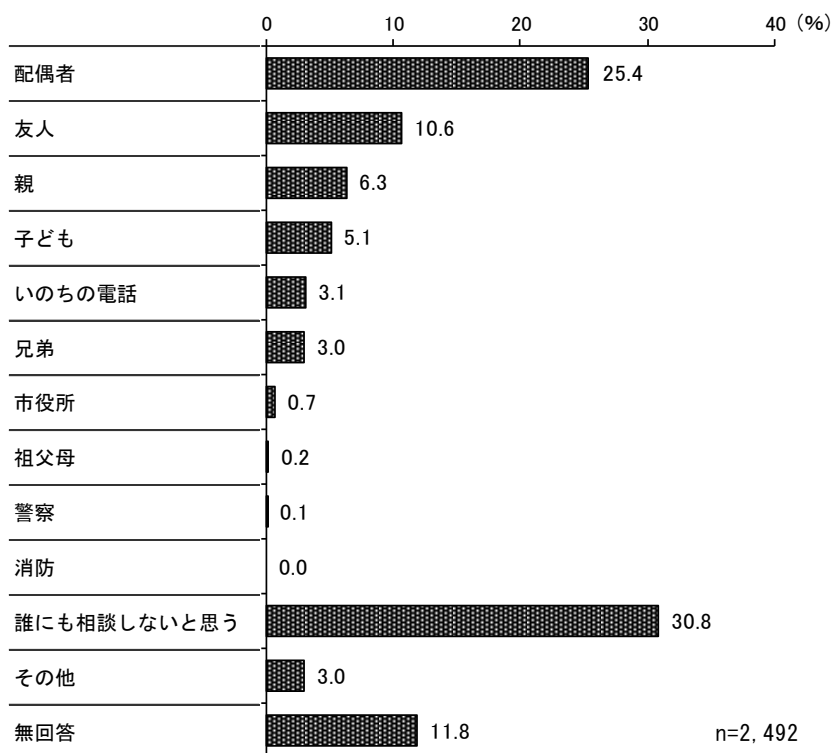
	調査数 (人)	健康問題	仕事問題	家庭問題	経済・生活問題	恋愛問題	学校問題	その他	無回答
全体	535	21.3	31.6	33.8	29.0	7.3	14.6	12.7	1.3
女性全体	315	20.6	21.6	42.2	27.3	8.9	15.6	14.6	1.3
18～29歳	43	11.6	32.6	46.5	25.6	18.6	34.9	14.0	-
30～39歳	63	15.9	28.6	28.6	22.2	14.3	27.0	15.9	1.6
40～49歳	63	22.2	22.2	49.2	28.6	11.1	15.9	12.7	-
50～59歳	53	13.2	20.8	54.7	26.4	5.7	11.3	15.1	1.9
60～69歳	49	24.5	14.3	40.8	28.6	2.0	2.0	20.4	-
70歳以上	43	39.5	9.3	34.9	32.6	-	-	7.0	4.7
男性全体	181	21.0	49.7	21.0	34.3	5.5	14.4	9.4	1.1
18～29歳	30	13.3	30.0	16.7	20.0	10.0	46.7	13.3	-
30～39歳	36	11.1	69.4	13.9	36.1	11.1	19.4	13.9	-
40～49歳	43	9.3	67.4	37.2	25.6	4.7	7.0	2.3	-
50～59歳	25	32.0	56.0	16.0	36.0	4.0	-	12.0	-
60～69歳	23	26.1	39.1	21.7	43.5	-	8.7	8.7	-
70歳以上	23	47.8	17.4	13.0	56.5	-	-	8.7	8.7

(3) 相談する人

◇「誰にも相談しないと思う」が最も多く、約3割

問38. もしあなたが「死にたい」と思うくらい悩んだとき、だれに相談しますか。(〇は1つ)

図表 12-3-1 相談する人



「死にたい」と思うくらい悩んだとき、だれに相談するか聞いたところ、「誰にも相談しないと思う」(30.8%)が最も多く、次いで、「配偶者」(25.4%)、「友人」(10.6%)、「親」(6.3%)、「子ども」(5.1%)の順となっている。また、「その他」として「医師」「カウンセラー」「インターネット」等が挙げられた。

性別で見ると、「配偶者」は男性（31.2%）が女性（22.0%）より9.2ポイント高くなっている。一方、「子ども」は女性（6.9%）が男性（2.4%）より4.5ポイント高く、「友人」でも女性（12.5%）が男性（8.9%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「配偶者」は男性40～49歳（37.6%）、男性60～69歳（37.4%）で4割弱と多く、女性30～39歳（33.0%）、男性50～59歳（32.7%）で3割強と多くなっている。また、「親」は男性18～29歳（32.0%）で3割強、女性18～29歳（22.8%）で2割強と多く、「友人」は男性18～29歳（23.7%）、女性18～29歳（22.8%）で2割強と多くなっている。一方、「誰にも相談しないと思う」は女性50～59歳（36.2%）、男性50～59歳（36.1%）、女性40～49歳（34.6%）で3割半ばと多くなっている。

図表 12-3-2 性・年齢別 相談する人

(%)

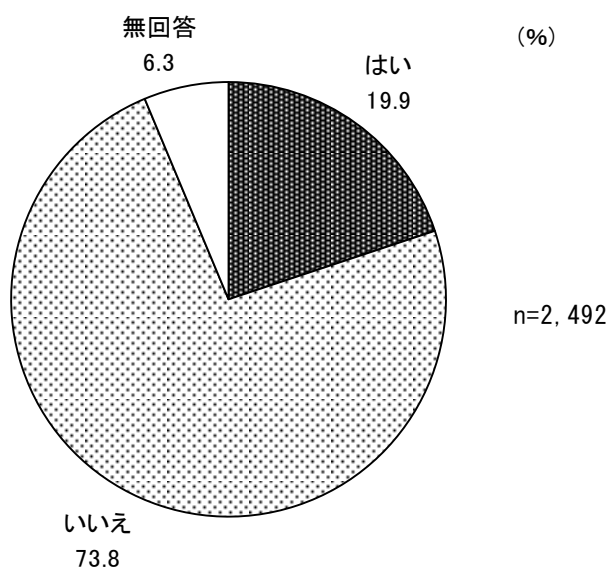
	調査数 (人)	配偶者	親	兄弟	祖父母	子ども	友人	警察	消防	いのちの電話	市役所	誰にも相談しないと思う	その他	無回答
全体	2,492	25.4	6.3	3.0	0.2	5.1	10.6	0.1	-	3.1	0.7	30.8	3.0	11.8
女性全体	1,304	22.0	6.3	3.6	0.2	6.9	12.5	-	-	3.8	0.4	29.9	3.3	11.1
18～29歳	101	11.9	22.8	2.0	-	1.0	22.8	-	-	2.0	-	27.7	4.0	5.9
30～39歳	185	33.0	11.4	1.6	0.5	-	13.5	-	-	3.8	-	27.6	2.7	5.9
40～49歳	228	22.8	11.8	3.5	-	2.6	13.2	-	-	2.6	-	34.6	3.1	5.7
50～59歳	210	20.5	3.8	3.8	0.5	6.2	16.7	-	-	3.8	-	36.2	1.0	7.6
60～69歳	251	22.7	1.2	5.2	-	8.0	11.6	-	-	4.8	-	31.5	4.8	10.4
70歳以上	323	18.3	-	4.0	-	15.2	6.2	-	-	4.6	1.5	23.8	4.0	22.3
男性全体	996	31.2	7.0	2.1	0.2	2.4	8.9	0.1	-	2.5	0.7	32.1	2.9	9.7
18～29歳	97	8.2	32.0	-	-	-	23.7	-	-	1.0	-	25.8	4.1	5.2
30～39歳	116	30.2	12.9	0.9	0.9	0.9	11.2	-	-	1.7	0.9	33.6	1.7	5.2
40～49歳	173	37.6	8.7	2.3	-	-	7.5	-	-	3.5	-	32.4	2.9	5.2
50～59歳	147	32.7	4.8	2.7	0.7	-	8.8	-	-	2.7	-	36.1	4.1	7.5
60～69歳	203	37.4	1.0	3.9	-	2.0	9.4	-	-	3.0	0.5	30.5	3.0	9.4
70歳以上	253	30.4	-	1.6	-	7.5	2.8	0.4	-	2.4	1.6	32.8	2.0	18.6

(4) 自殺防止対策の相談窓口の認知度

◇「はい（知っている）」が約2割

問39. 市には自殺防止対策の相談窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

図表 12-4-1 自殺防止対策の相談窓口の認知度

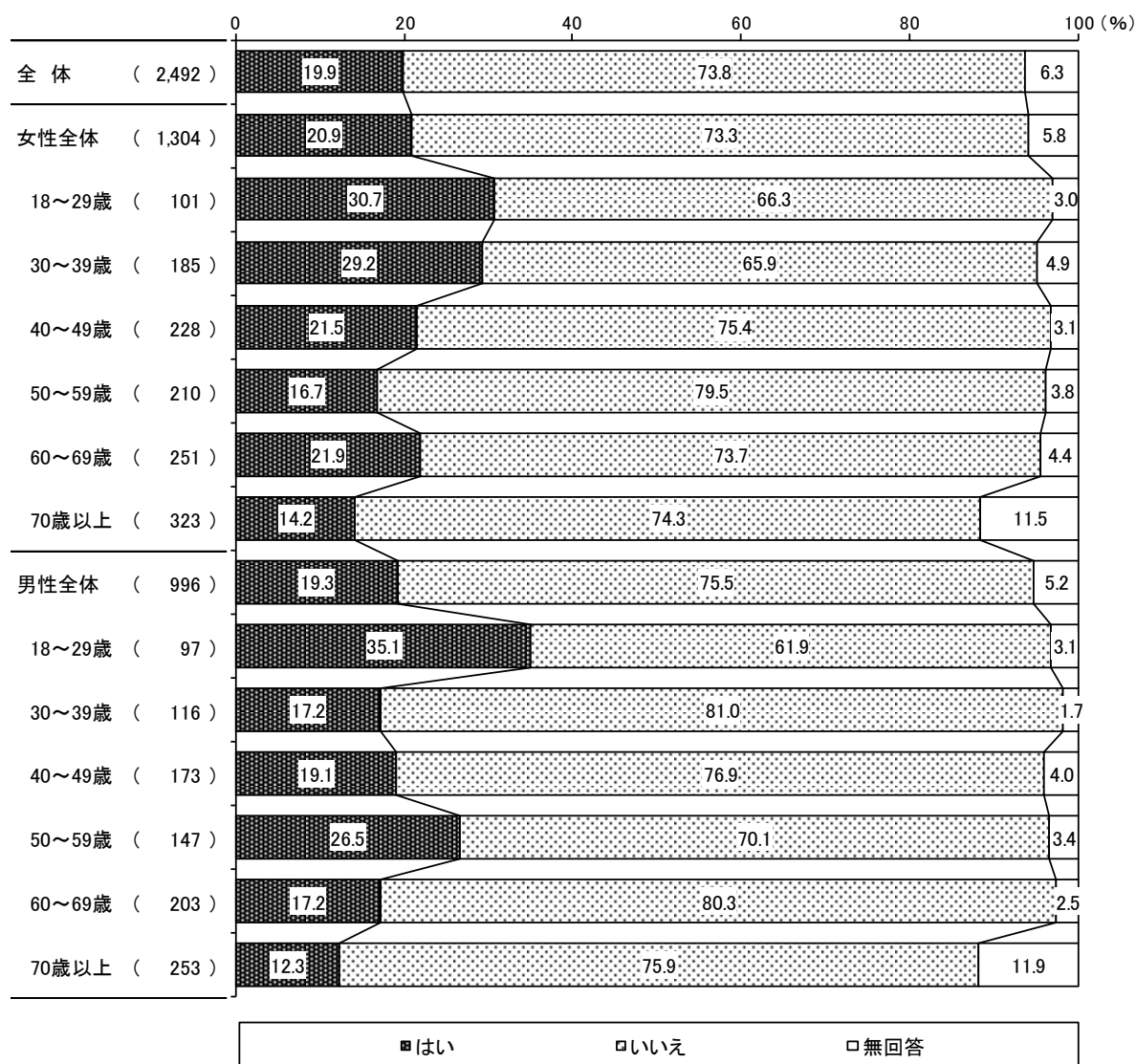


市には自殺防止対策の相談窓口があることを知ってるか聞いたところ、「はい(知っている)」(19.9%)が約2割、「いいえ(知らない)」(73.8%)が7割強となっている。

性別でみると、「はい（知っている）」は女性（20.9%）が男性（19.3%）より1.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「はい（知っている）」は男性18～29歳（35.1%）で3割半ばと最も多く、女性18～29歳（30.7%）、女性30～39歳（29.2%）で約3割と多くなっている。

図表 12-4-2 性・年齢別 自殺防止対策の相談窓口の認知度

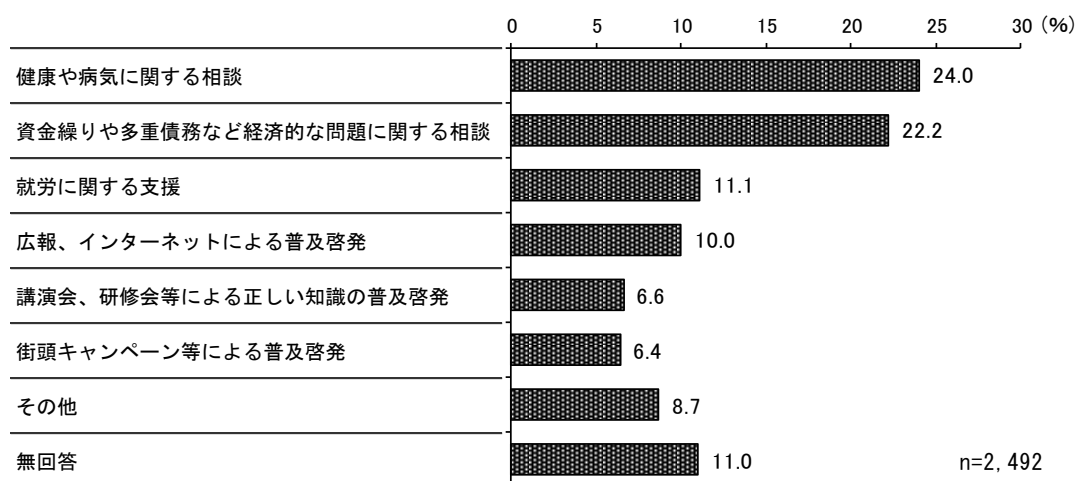


(5) 効果的な自殺防止対策

◇「健康や病気に関する相談」が最も多く、2割半ば

問40. 自殺防止に最も効果的な対策は次のどれだと思いますか。(〇は1つ)

図表 12-5-1 効果的な自殺防止対策



自殺防止に最も効果的な対策については、「健康や病気に関する相談」(24.0%)が最も多く、次いで、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」(22.2%)、「就労に関する支援」(11.1%)、「広報、インターネットによる普及啓発」(10.0%)、「講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発」(6.6%)の順となっている。また、「その他」として「医療機関との連携」「教育」「対策はない」等が挙げられた。

性別でみると、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」は男性(25.1%)が女性(21.2%)より3.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「健康や病気に関する相談」は女性70歳以上(38.7%)、男性70歳以上(38.3%)で4割弱と多くなっている。また、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」は男性30～39歳(30.2%)、男性40～49歳(30.1%)、男性50～59歳(29.9%)で約3割と多く、「就労に関する支援」は男性18～29歳(27.8%)、女性18～29歳(26.7%)で2割半ば以上と多くなっている。

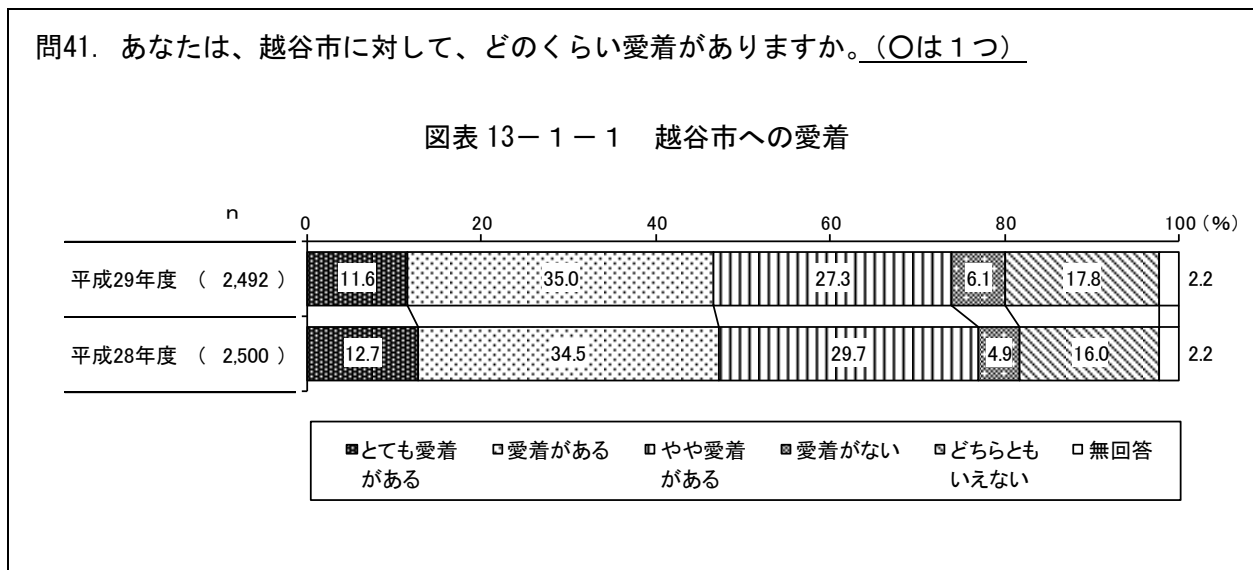
図表 12-5-2 性・年齢別 効果的な自殺防止対策

	調査数(人)	資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談	就労に関する支援	健康や病気に関する相談	講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発	街頭キャンペーン等による普及啓発	広報、インターネットによる普及啓発	その他	無回答
全体	2,492	22.2	11.1	24.0	6.6	6.4	10.0	8.7	11.0
女性全体	1,304	21.2	11.1	22.9	6.3	7.3	10.4	9.4	11.4
18～29歳	101	17.8	26.7	12.9	4.0	4.0	13.9	13.9	6.9
30～39歳	185	24.3	22.2	12.4	4.3	9.7	12.4	7.6	7.0
40～49歳	228	27.6	9.2	16.2	5.3	11.0	11.4	11.8	7.5
50～59歳	210	24.8	9.5	20.5	6.7	8.6	11.9	9.5	8.6
60～69歳	251	23.1	8.8	21.9	6.8	8.4	12.0	10.8	8.4
70歳以上	323	12.1	4.3	38.7	8.0	2.8	5.6	6.2	22.3
男性全体	996	25.1	11.8	24.3	6.8	5.3	10.1	8.0	8.4
18～29歳	97	25.8	27.8	8.2	9.3	6.2	7.2	13.4	2.1
30～39歳	116	30.2	23.3	14.7	6.0	6.0	7.8	8.6	3.4
40～49歳	173	30.1	17.3	15.0	4.0	5.2	13.3	8.7	6.4
50～59歳	147	29.9	8.2	18.4	7.5	4.8	15.6	8.8	6.8
60～69歳	203	22.7	5.9	31.5	7.9	8.9	10.3	4.9	7.9
70歳以上	253	17.4	4.0	38.3	7.1	2.4	7.1	7.5	16.2

13. 越谷市への愛着度について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が7割強



越谷市への愛着については、「愛着がある」(35.0%)が最も多く、次いで、「やや愛着がある」(27.3%)、「どちらともいえない」(17.8%)、「とても愛着がある」(11.6%)、「愛着がない」(6.1%)の順となっている。

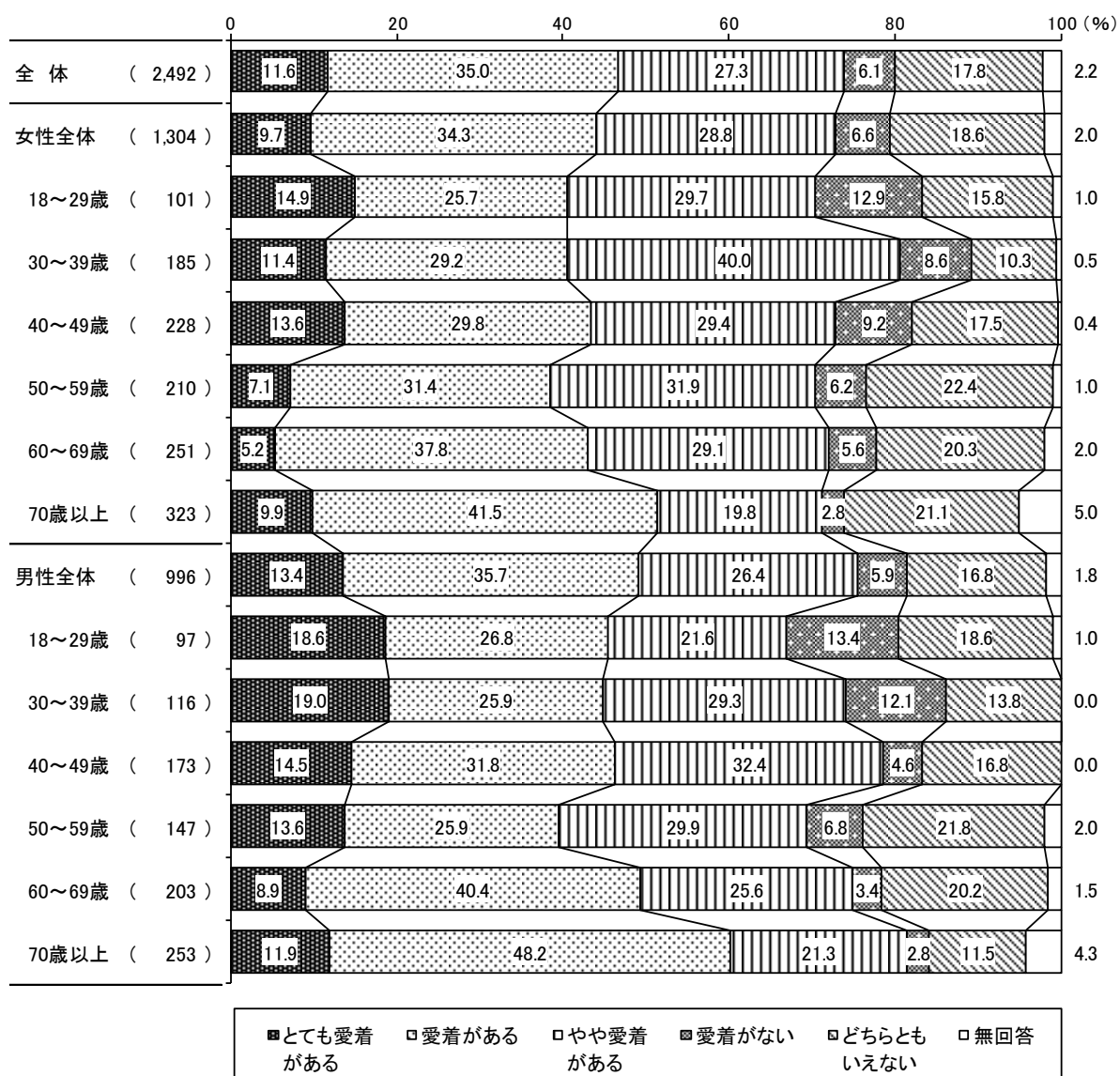
「とても愛着がある」、「愛着がある」、「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(73.9%)は7割強となっている。

前回の調査と比較すると、『愛着がある』(73.9%)は平成28年度調査(76.9%)と比べ3.0ポイント減少している。

性別でみると、『愛着がある』は男性（75.5%）が女性（72.8%）より2.7ポイント高くなっている。また、「とても愛着がある」は男性（13.4%）が女性（9.7%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『愛着がある』は男性70歳以上（81.4%）、女性30～39歳（80.6%）で約8割と多くなっている。また、「とても愛着がある」は男性30～39歳（19.0%）で約2割、男性18～29歳（18.6%）で2割弱と多くなっている。一方、「愛着がない」は男性18～29歳（13.4%）、女性18～29歳（12.9%）、男性30～39歳（12.1%）で1割強と多くなっている。

図表 13-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着

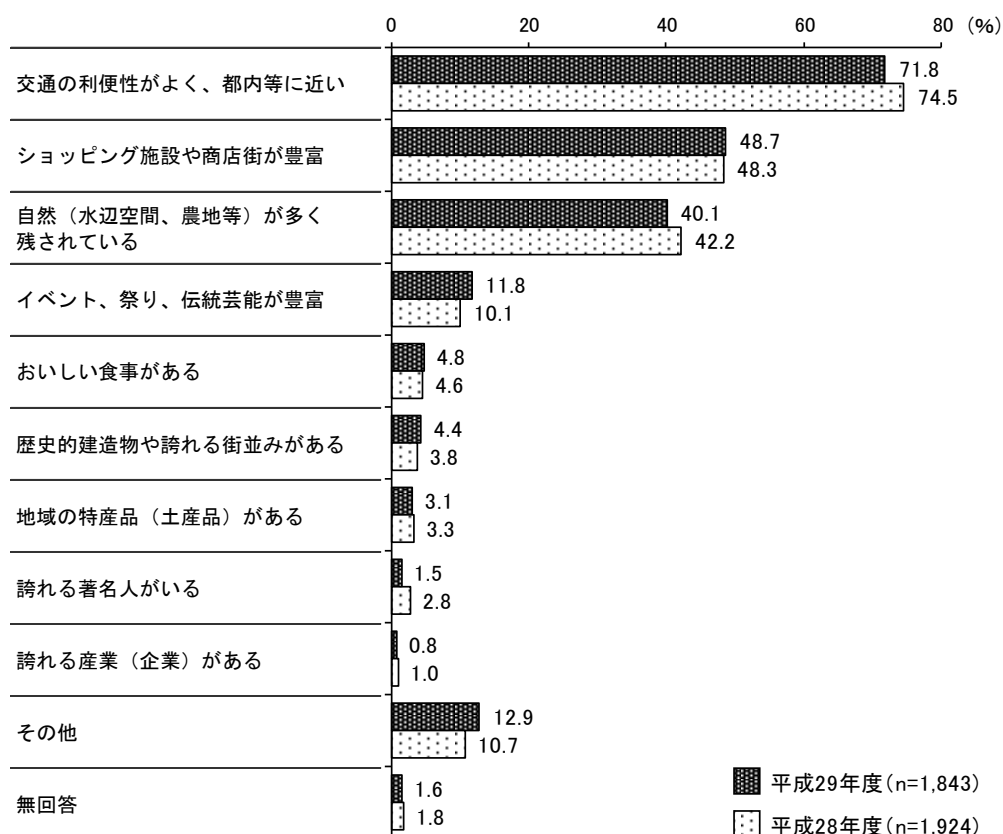


(2) 愛着がある理由

◇「交通の利便性がよく、都内等に近い」が最も多く、約7割

問41-2. 問41で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
(複数回答可)

図表 13-2-1 愛着がある理由



越谷市に対して『愛着がある』と回答した1,843人に、愛着がある理由を聞いたところ、「交通の利便性がよく、都内等に近い」(71.8%)が最も多く、次いで、「ショッピング施設や商店街が豊富」(48.7%)、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」(40.1%)、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」(11.8%)、「おいしい食事がある」(4.8%)の順となっている。また、「その他」として「生まれ育ったところだから」「長く住んでいるから」「災害が少ない」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「交通の利便性がよく、都内等に近い」(71.8%)は平成28年度調査(74.5%)と比べ2.7ポイント減少している。

性別で見ると、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は女性（41.4%）が男性（38.2%）より3.2ポイント、「ショッピング施設や商店街が豊富」は女性（51.1%）が男性（48.0%）より3.1ポイント、「交通の利便性がよく、都内等に近い」は女性（73.8%）が男性（71.0%）より2.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「交通の利便性がよく、都内等に近い」は女性18～29歳（78.9%）、女性60～69歳（78.5%）、女性70歳以上（77.0%）で8割弱と多くなっている。また、「ショッピング施設や商店街が豊富」は女性18～29歳（69.0%）、女性30～39歳（62.4%）で6割以上と多く、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は男性70歳以上（47.1%）、女性60～69歳（47.0%）で5割弱と多くなっている。

図表13-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

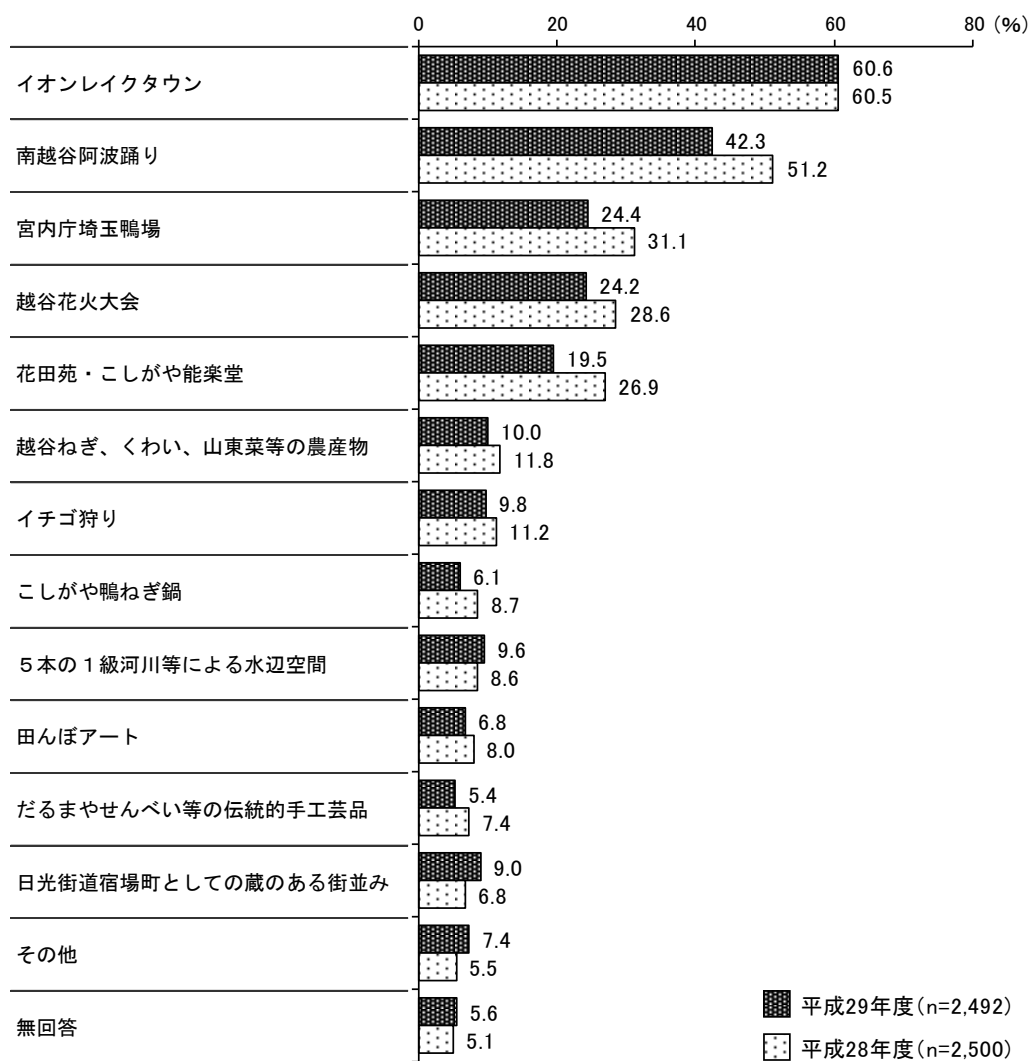
	調査数（人）	交通の利便性がよく、都内等に近い	自然（水辺空間、農地等）が多く残されている	ショッピング施設や商店街が豊富	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	歴史的建造物や誇れる街並みがある	おいしい食事がある	地域の特産品（土産品）がある	誇れる産業（企業）がある	誇れる著名人がいる	その他	無回答
全体	1,843	71.8	40.1	48.7	11.8	4.4	4.8	3.1	0.8	1.5	12.9	1.6
女性全体	949	73.8	41.4	51.1	12.6	4.8	4.3	3.8	0.7	1.5	12.0	1.4
18～29歳	71	78.9	29.6	69.0	16.9	4.2	2.8	4.2	-	2.8	7.0	1.4
30～39歳	149	63.1	36.9	62.4	19.5	6.7	5.4	2.7	2.7	4.7	15.4	-
40～49歳	166	74.7	36.1	53.0	12.0	4.2	7.2	1.8	1.2	1.8	18.1	-
50～59歳	148	70.9	43.2	48.6	9.5	4.1	2.0	0.7	-	0.7	18.9	1.4
60～69歳	181	78.5	47.0	45.9	9.9	3.3	3.3	3.3	0.6	0.6	10.5	2.2
70歳以上	230	77.0	46.1	43.0	11.7	6.1	4.3	8.3	-	-	3.9	2.6
男性全体	752	71.0	38.2	48.0	11.0	4.0	5.1	2.3	0.5	1.6	14.8	0.9
18～29歳	65	75.4	20.0	55.4	12.3	3.1	10.8	6.2	1.5	3.1	15.4	-
30～39歳	86	65.1	31.4	52.3	14.0	1.2	8.1	-	1.2	2.3	20.9	-
40～49歳	136	68.4	35.3	52.2	12.5	3.7	7.4	1.5	-	2.2	19.1	-
50～59歳	102	67.6	33.3	47.1	12.7	4.9	2.0	1.0	1.0	2.9	16.7	2.0
60～69歳	152	71.7	44.1	44.1	10.5	4.6	2.0	2.6	0.7	0.7	13.2	1.3
70歳以上	206	75.7	47.1	44.2	8.3	4.9	4.4	2.9	-	0.5	9.2	1.5

(3) 越谷市の誇れるもの

◇「イオンレイクタウン」が最も多く、約6割

問42. 越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

図表 13-3-1 越谷市の誇れるもの



越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」(60.6%)が最も多く、次いで、「南越谷阿波踊り」(42.3%)、「宮内庁埼玉鴨場」(24.4%)、「越谷花火大会」(24.2%)、「花田苑・こしがや能楽堂」(19.5%)の順となっている。また、「その他」として「越谷特別市民『ガーヤちゃん』」「元荒川の桜」「梅林公園」「キャンベルタウン野鳥の森」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「南越谷阿波踊り」「宮内庁埼玉鴨場」「花田苑・こしがや能楽堂」で6.0ポイント以上減少している。

性別で見ると、「花田苑・こしがや能楽堂」は女性（22.5%）が男性（14.7%）より7.8ポイント、「越谷花火大会」でも女性（25.7%）が男性（22.0%）より3.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「イオンレイクタウン」は女性18～29歳（86.1%）、男性18～29歳（81.4%）で8割以上と多くなっている。また、「宮内庁埼玉鴨場」は男性70歳以上（32.8%）、女性60～69歳（31.1%）、女性70歳以上（29.1%）で約3割、「越谷花火大会」は女性70歳以上（29.7%）で約3割、「花田苑・こしがや能楽堂」は女性70歳以上（28.8%）、女性60～69歳（27.5%）で3割弱と多くなっている。

図表 13-3-2 性・年齢別 越谷市の誇れるもの

(%)

	調査数（人）	イオンレイクタウン	田んぼアート	越谷花火大会	南越谷阿波踊り	5本の1級河川等による水辺空間	イチゴ狩り	越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物	花田苑・こしがや能楽堂	日光街道宿場町としての蔵のある街並み	手工芸品	だるまやせんべい等の伝統的	こしがや鴨ねぎ鍋	宮内庁埼玉鴨場	その他	無回答
全体	2,492	60.6	6.8	24.2	42.3	9.6	9.8	10.0	19.5	9.0	5.4	6.1	24.4	7.4	5.6	
女性全体	1,304	62.3	7.7	25.7	42.7	9.1	10.9	10.0	22.5	9.1	6.3	5.4	24.7	5.9	5.4	
18～29歳	101	86.1	3.0	29.7	44.6	3.0	20.8	8.9	12.9	2.0	7.9	6.9	6.9	5.0	1.0	
30～39歳	185	77.8	5.4	24.9	45.4	3.2	19.5	7.0	15.7	5.4	5.9	7.0	15.1	5.9	2.2	
40～49歳	228	69.7	8.3	22.8	46.9	3.5	14.0	12.3	20.6	9.2	5.3	6.6	25.4	5.7	3.5	
50～59歳	210	66.2	6.2	24.8	43.3	8.1	5.7	7.6	20.0	9.5	6.7	2.9	26.7	6.7	5.2	
60～69歳	251	54.6	8.4	23.1	35.5	15.5	9.2	13.5	27.5	13.9	6.4	5.6	31.1	7.2	4.8	
70歳以上	323	44.3	10.5	29.7	43.0	14.2	5.3	9.6	28.8	9.6	6.2	4.6	29.1	5.0	10.5	
男性全体	996	60.6	5.8	22.0	41.6	10.4	8.8	9.9	14.7	9.0	4.6	6.8	22.7	9.4	4.7	
18～29歳	97	81.4	2.1	18.6	42.3	1.0	3.1	8.2	6.2	2.1	6.2	9.3	6.2	4.1	4.1	
30～39歳	116	74.1	3.4	23.3	44.8	3.4	14.7	7.8	10.3	6.9	2.6	8.6	16.4	12.1	1.7	
40～49歳	173	65.9	5.2	20.2	35.8	7.5	13.3	9.8	11.0	6.4	5.2	8.7	17.9	12.7	5.2	
50～59歳	147	65.3	6.8	22.4	39.5	7.5	7.5	10.2	14.3	8.2	3.4	5.4	25.2	12.9	4.8	
60～69歳	203	50.7	6.9	22.2	46.3	12.8	8.4	10.8	13.8	12.3	5.4	4.9	24.1	7.4	4.9	
70歳以上	253	48.6	7.1	22.1	41.1	19.4	6.7	11.1	22.9	12.6	4.7	6.3	32.8	7.9	5.5	

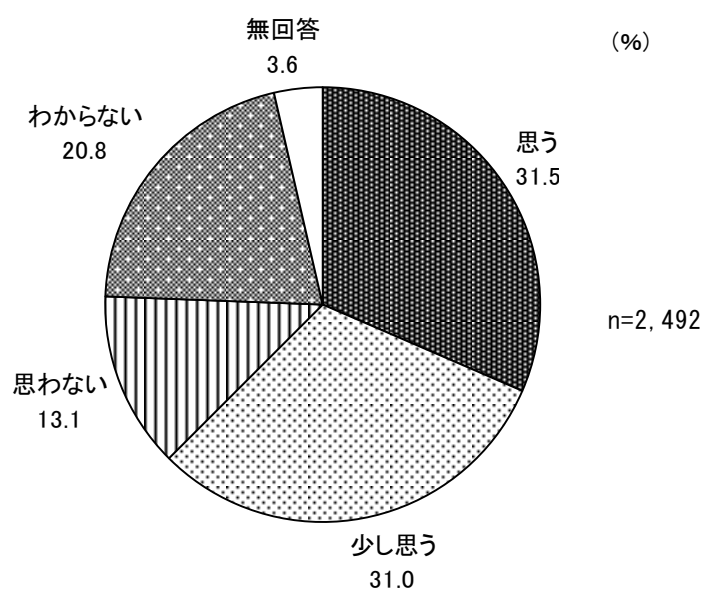
14. 越谷市フィルムコミッション事業について

(1) フィルムコミッション事業が地域活性化に貢献するか

◇『思う』が6割強

問43. あなたは、フィルムコミッション事業（映画、CM、テレビなどの撮影の誘致・支援）が、地域活性化に貢献すると思いますか。（○は1つ）

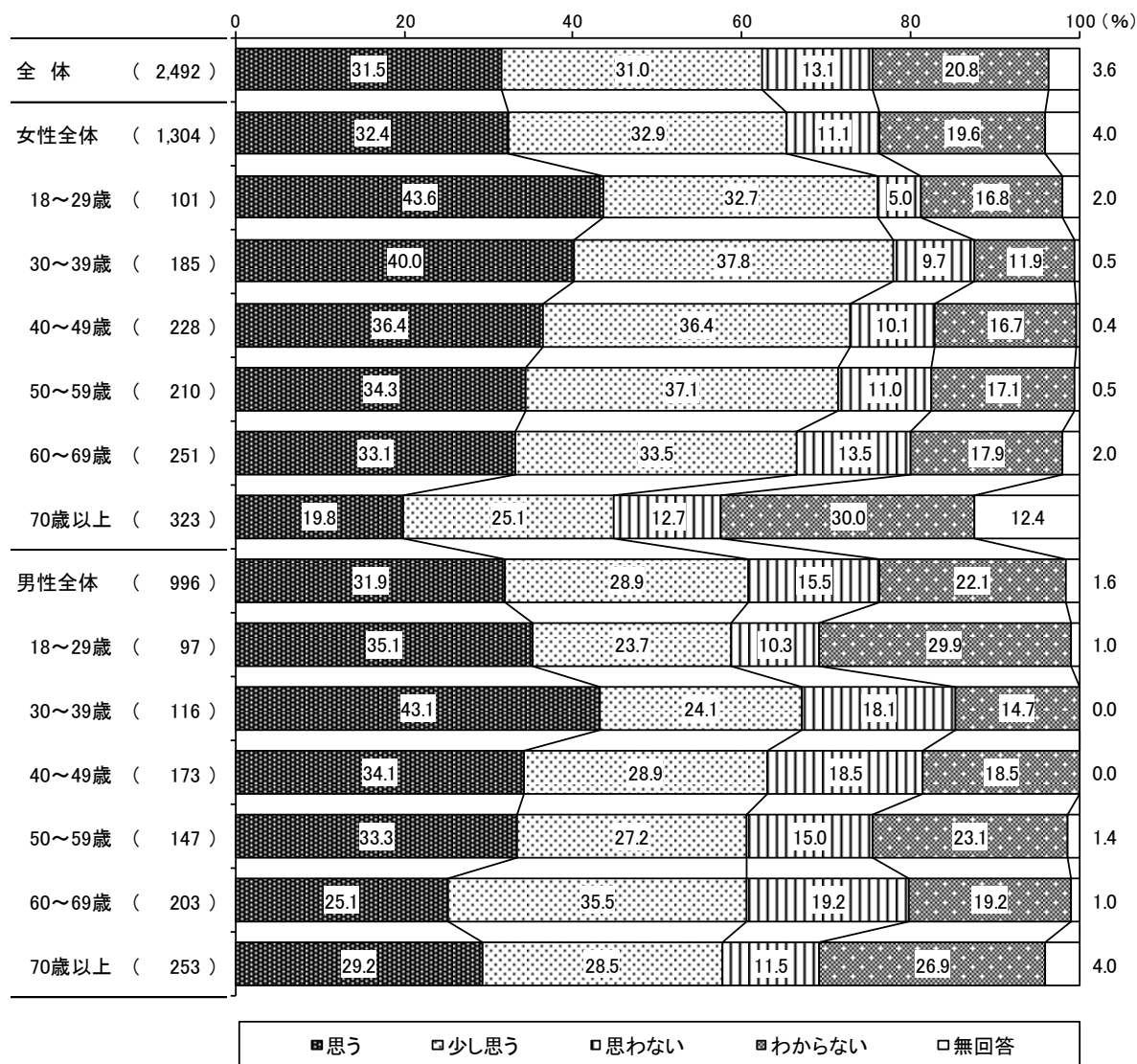
図表 14-1-1 フィルムコミッション事業が地域活性化に貢献するか



フィルムコミッション事業が地域活性化に貢献するかについては、「思う」(31.5%)が最も多く、「少し思う」(31.0%)と合わせた『思う』(62.5%)は6割強となっている。一方、「思わない」(13.1%)は1割強となっている。

性別で見ると、『思う』は女性（65.3%）が男性（60.8%）より4.5ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『思う』は女性30～39歳（77.8%）で8割弱と最も多く、女性18～29歳（76.3%）、
 女性40～49歳（72.8%）、女性50～59歳（71.4%）で7割以上と多くなっている。

図表 14-1-2 性・年齢別 フィルムコミッション事業が地域活性化に貢献するか

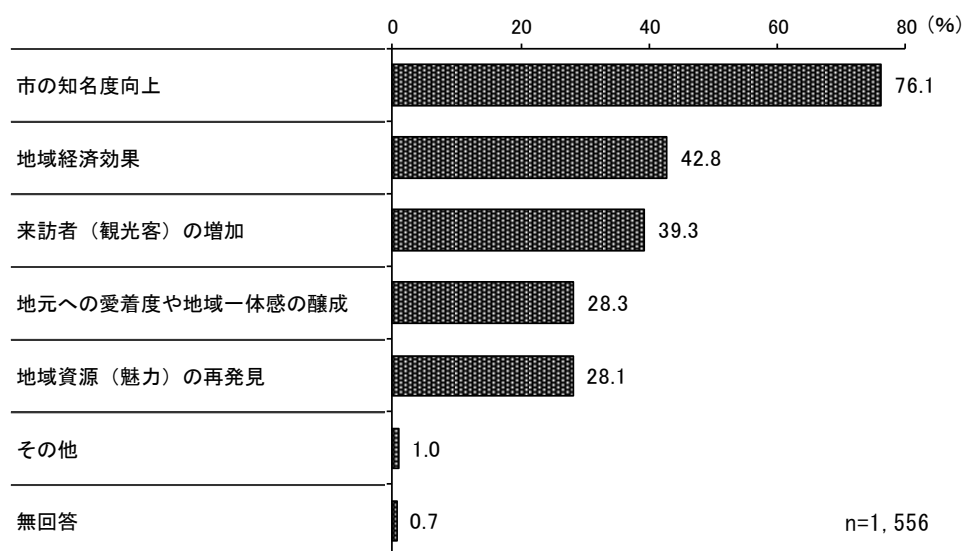


(2) 貢献を期待する内容

◇「市の知名度向上」が最も多く、7割半ば

問43-2. 問43で「1. 思う」「2. 少し思う」と答えた方に伺います。あなたは、具体的にどのような内容で地域活性化に貢献することを期待しますか。(複数回答可)

図表 14-2-1 貢献を期待する内容



フィルムコミッション事業が地域活性化に貢献すると「思う」と回答した1,556人に、期待する内容を聞いたところ、「市の知名度向上」(76.1%)が最も多く、次いで、「地域経済効果」(42.8%)、「来訪者（観光客）の増加」(39.3%)、「地元への愛着度や地域一体感の醸成」(28.3%)、「地域資源（魅力）の再発見」(28.1%)の順となっている。また、「その他」として「人口の増加、子どもの増加」「エキストラ等の雇用増加」「聖地巡礼」等が挙げられた。

性別で見ると、「市の知名度向上」は男性（79.5%）が女性（75.2%）より4.3ポイント、「地元への愛着度や地域一体感の醸成」で男性（31.4%）が女性（27.1%）より4.3ポイント、「来訪者（観光客）の増加」で男性（41.3%）が女性（39.0%）より2.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「地域資源（魅力）の再発見」は女性（29.1%）が男性（26.7%）より2.4ポイント、「地域経済効果」は女性（44.5%）が男性（42.2%）より2.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「市の知名度向上」は男性18～29歳（82.5%）、男性50～59歳（82.0%）、女性18～29歳（81.8%）、男性70歳以上（81.5%）で8割以上となっている。また、「来訪者（観光客）の増加」は男性30～39歳（62.8%）で6割強と最も多く、男性18～29歳（52.6%）、女性30～39歳（50.0%）で5割以上と多くなっている。

図表 14-2-2 性・年齢別 貢献を期待する内容

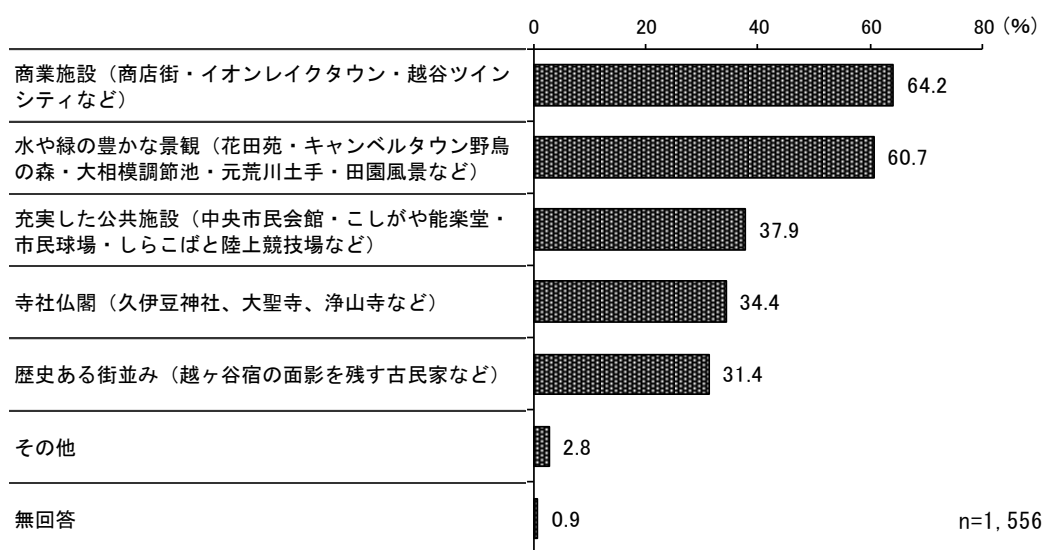
	調査数（人）	市の知名度向上	醸成 地元への愛着度や地域一体感の	来訪者（観光客）の増加	地域資源（魅力）の再発見	地域経済効果	その他	無回答
全体	1,556	76.1	28.3	39.3	28.1	42.8	1.0	0.7
女性全体	851	75.2	27.1	39.0	29.1	44.5	0.8	0.8
18～29歳	77	81.8	28.6	48.1	29.9	53.2	1.3	-
30～39歳	144	79.9	27.8	50.0	25.0	45.8	-	-
40～49歳	166	79.5	27.7	48.8	24.7	43.4	0.6	-
50～59歳	150	74.7	22.7	33.3	27.3	44.0	-	0.7
60～69歳	167	68.3	31.1	30.5	40.7	49.7	0.6	1.2
70歳以上	145	70.3	25.5	26.9	26.2	34.5	2.1	2.8
男性全体	606	79.5	31.4	41.3	26.7	42.2	0.5	-
18～29歳	57	82.5	24.6	52.6	15.8	43.9	-	-
30～39歳	78	78.2	32.1	62.8	26.9	44.9	-	-
40～49歳	109	79.8	22.0	45.0	33.9	40.4	0.9	-
50～59歳	89	82.0	36.0	41.6	25.8	49.4	1.1	-
60～69歳	123	74.0	39.0	38.2	27.6	38.2	-	-
70歳以上	146	81.5	32.2	26.0	25.3	41.1	0.7	-

(3) 貢献すると思う撮影場所

◇「商業施設（商店街・イオンレイクタウン・越谷ツインシティなど）」が最も多く、6割半ば

問43-3. 問43で「1. 思う」「2. 少し思う」と答えた方に伺います。あなたは、越谷市内のどこで映像（映画、テレビ番組、CM、プロモーションビデオなど）の撮影が行われると、地域活性化に貢献すると思いますか。（複数回答可）

図表 14-3-1 貢献すると思う撮影場所



フィルムコミッション事業が地域活性化に貢献すると「思う」と回答した1,556人に、貢献すると思う撮影場所を聞いたところ、「商業施設（商店街・イオンレイクタウン・越谷ツインシティなど）」（64.2%）が最も多く、次いで、「水や緑の豊かな景観（花田苑・キャンベルタウン野鳥の森・大相模調節池・元荒川土手・田園風景など）」（60.7%）、「充実した公共施設（中央市民会館・こしがや能楽堂・市民球場・しらこぼと陸上競技場など）」（37.9%）、「寺社仏閣（久伊豆神社、大聖寺、浄山寺など）」（34.4%）、「歴史ある街並み（越ヶ谷宿の面影を残す古民家など）」（31.4%）の順となっている。また、「その他」として「学校、大学」「駅周辺」「市内ならどこでも」等が挙げられた。

性別でみると、いずれの項目も女性が男性より高く、「水や緑の豊かな景観（花田苑・キャンベルタウン野鳥の森・大相模調節池・元荒川土手・田園風景など）」は女性（63.6%）が男性（57.8%）より5.8ポイント、「充実した公共施設（中央市民会館・こしがや能楽堂・市民球場・しらこぼと陸上競技場など）」は女性（40.1%）が男性（35.1%）より5.0ポイント、「歴史ある街並み（越ヶ谷宿の面影を残す古民家など）」は女性（33.3%）が男性（29.4%）より3.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「商業施設（商店街・イオンレイクタウン・越谷ツインシティなど）」は女性18～29歳（77.9%）、男性18～29歳（77.2%）、女性30～39歳（75.0%）で7割半ば以上と多くなっている。また、「水や緑の豊かな景観（花田苑・キャンベルタウン野鳥の森・大相模調節池・元荒川土手・田園風景など）」は男性70歳以上（67.8%）、女性60～69歳（67.7%）で7割弱と多くなっている。

図表 14-3-2 性・年齢別 貢献すると思う撮影場所

	調査数（人）	ばととしがや陸上競技場など）	こしがや能楽堂・市民球場・しらこぼと	充実した公共施設（中央市民会館・こしがや能楽堂・市民球場・しらこぼと	池・元荒川土手・田園風景など）	水や緑の豊かな景観（花田苑・キャンベルタウン野鳥の森・大相模調節池・元荒川土手・田園風景など）	商業施設（商店街・イオンレイクタウン・越谷ツインシティなど）	残す古民家など）（越ヶ谷宿の面影を	歴史ある街並み（越ヶ谷宿の面影を	山寺など）（久伊豆神社、大聖寺、浄	寺社仏閣（久伊豆神社、大聖寺、浄	その他	無回答
全 体	1,556	37.9	60.7	64.2	31.4	34.4	2.8	0.9					
女性全体	851	40.1	63.6	64.5	33.3	36.0	3.4	0.6					
18～29歳	77	33.8	61.0	77.9	32.5	35.1	2.6	-					
30～39歳	144	42.4	60.4	75.0	32.6	29.2	3.5	1.4					
40～49歳	166	37.3	59.0	67.5	34.9	38.6	5.4	0.6					
50～59歳	150	40.0	64.7	66.7	35.3	30.7	4.0	-					
60～69歳	167	42.5	67.7	60.5	34.7	39.5	1.8	-					
70歳以上	145	41.4	66.9	45.5	29.0	42.1	2.8	1.4					
男性全体	606	35.1	57.8	63.9	29.4	33.2	2.1	0.8					
18～29歳	57	38.6	45.6	77.2	19.3	21.1	1.8	1.8					
30～39歳	78	30.8	42.3	71.8	28.2	30.8	2.6	-					
40～49歳	109	33.9	54.1	70.6	27.5	31.2	2.8	-					
50～59歳	89	37.1	57.3	69.7	37.1	34.8	5.6	-					
60～69歳	123	31.7	64.2	58.5	29.3	31.7	-	1.6					
70歳以上	146	38.4	67.8	51.4	30.8	40.4	1.4	1.4					

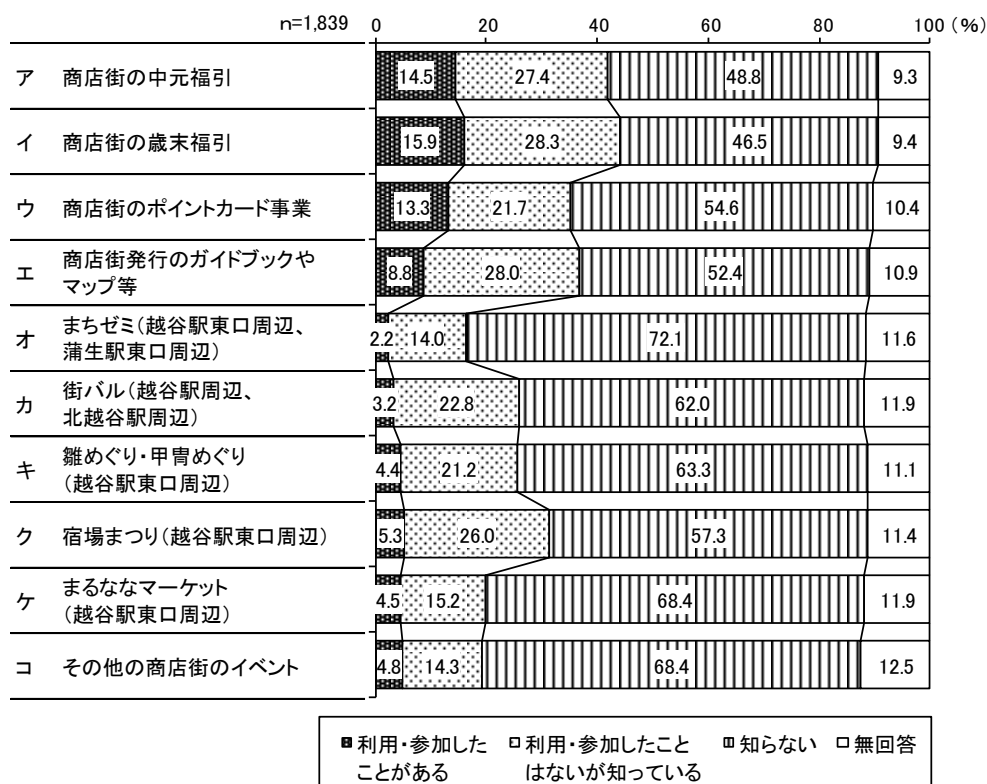
15. 越谷市の商店街について

(1) 商店街主催イベント等の認知度

◇『認知度』は「商店街の歳末福引」が4割半ば、「商店街の中元福引」が約4割、「商店街発行のガイドブックやマップ等」、「商店街のポイントカード事業」がともに3割半ば

問44. あなたは、商店街主催のイベント等のうち、「知っている」または「参加したことがある」イベントや利用したことがある事業はありますか。(ア～コ それぞれ横に○は1つずつ)

図表 15-1-1 商店街主催イベント等の認知度



商店街主催イベント等について「利用・参加したことがある」と「利用・参加したことはないが知っている」を合わせた『認知度』は、「商店街の歳末福引」(44.2%)が4割半ばと最も多く、次いで、「商店街の中元福引」(41.9%)が約4割、「商店街発行のガイドブックやマップ等」(36.8%)、「商店街のポイントカード事業」(35.0%)がともに3割半ばとなっている。なお、「利用・参加したことがある」では、「商店街の歳末福引」(15.9%)が最も多く、「商店街の中元福引」(14.5%)がともに1割半ばとなっている。

「ア 商店街の中元福引」について性・年齢別にみると、『認知度』は男性70歳以上(59.2%)で約6割と最も多く、女性70歳以上(57.0%)で6割弱と多くなっている。また、「利用・参加したことがある」では女性70歳以上(22.3%)、女性60～69歳(21.5%)、男性70歳以上(20.9%)で2割以上と多くなっている。

「イ 商店街の歳末福引」について性・年齢別にみると、『認知度』は男性70歳以上(59.6%)で約6割と最も多く、女性50～59歳、男性60～69歳(ともに58.6%)、女性60～69歳(57.0%)で6割弱と多くなっている。また、「利用・参加したことがある」では女性60～69歳(23.9%)、男性50～59歳(23.8%)、女性50～59歳(22.4%)、女性70歳以上(22.3%)で2割強と多くなっている。

「ウ 商店街のポイントカード事業」について性・年齢別にみると、『認知度』は女性60～69歳(44.6%)、男性60～69歳(44.3%)で4割半ば、女性50～59歳(43.4%)、男性70歳以上(42.7%)、女性70歳以上(42.4%)で4割強と多くなっている。また、「利用・参加したことがある」は女性70歳以上(20.7%)、女性60～69歳(20.3%)で約2割と多くなっている。

「エ 商店街発行のガイドブックやマップ等」について性・年齢別にみると、『認知度』は女性60～69歳(47.4%)で5割弱と最も多く、「利用・参加したことがある」でも女性60～69歳(13.1%)が1割強と多くなっている。

「オ まちゼミ(越谷駅東口周辺、蒲生駅東口周辺)」について性・年齢別にみると、『認知度』は女性60～69歳(22.3%)、女性50～59歳(21.4%)、男性70歳以上(20.2%)で2割以上と多くなっている。また、「利用・参加したことがある」は女性60～69歳(5.6%)、女性70歳以上(5.0%)で約5%と多くなっている。

図表 15-1-2 性・年齢別 商店街主催イベント等の認知度 ア～オ

	調査数(人)	ア 商店街の中元福引				イ 商店街の歳末福引				ウ 商店街のポイントカード事業				エ 商店街発行のガイドブックやマップ等				オ まちゼミ(越谷駅東口周辺、蒲生駅東口周辺)			
		が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答	が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答	が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答	が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答	が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答
全体	2,492	14.5	27.4	48.8	9.3	15.9	28.3	46.5	9.4	13.3	21.7	54.6	10.4	8.8	28.0	52.4	10.9	2.2	14.0	72.1	11.6
女性全体	1,304	15.8	26.4	49.7	8.1	17.1	27.7	46.9	8.3	15.8	20.6	54.5	9.1	9.7	29.0	51.8	9.5	2.8	14.6	71.9	10.6
18～29歳	101	5.9	9.9	82.2	2.0	5.0	9.9	83.2	2.0	4.0	7.9	86.1	2.0	4.0	18.8	75.2	2.0	-	12.9	85.1	2.0
30～39歳	185	4.9	9.7	84.9	0.5	4.3	12.4	82.7	0.5	7.6	17.3	74.6	0.5	8.1	18.9	72.4	0.5	0.5	10.3	88.6	0.5
40～49歳	228	11.0	22.4	64.9	1.8	12.7	26.3	59.2	1.8	14.9	17.5	66.2	1.3	10.1	30.7	57.9	1.3	0.9	12.3	85.5	1.3
50～59歳	210	18.6	35.7	43.3	2.4	22.4	36.2	39.5	1.9	16.7	26.7	54.3	2.4	7.6	35.7	53.8	2.9	1.4	20.0	75.7	2.9
60～69歳	251	21.5	31.1	39.0	8.4	23.9	33.1	35.5	7.6	20.3	24.3	45.8	9.6	13.1	34.3	43.4	9.2	5.6	16.7	66.5	11.2
70歳以上	323	22.3	34.7	21.1	22.0	22.3	33.7	20.1	23.8	20.7	21.7	32.2	25.4	10.8	28.2	33.7	27.2	5.0	14.6	50.8	29.7
男性全体	996	12.8	29.1	50.7	7.4	14.6	29.3	48.8	7.3	10.5	23.5	57.9	8.0	7.9	27.3	56.0	8.7	1.5	13.2	76.2	9.1
18～29歳	97	3.1	15.5	79.4	2.1	5.2	14.4	78.4	2.1	4.1	17.5	76.3	2.1	3.1	22.7	72.2	2.1	-	10.3	87.6	2.1
30～39歳	116	2.6	6.9	87.9	2.6	2.6	9.5	85.3	2.6	3.4	10.3	82.8	3.4	4.3	14.7	78.4	2.6	0.9	6.0	90.5	2.6
40～49歳	173	7.5	23.1	67.6	1.7	9.8	22.0	66.5	1.7	6.9	19.1	72.3	1.7	5.8	24.9	67.6	1.7	-	11.6	86.7	1.7
50～59歳	147	18.4	28.6	51.7	1.4	23.8	27.9	46.9	1.4	13.6	24.5	61.2	0.7	10.2	27.2	61.2	1.4	0.7	15.6	82.3	1.4
60～69歳	203	12.8	43.3	36.5	7.4	14.3	44.3	34.0	7.4	10.8	33.5	48.3	7.4	7.4	35.0	49.3	8.4	2.0	14.3	74.4	9.4
70歳以上	253	20.9	38.3	22.1	18.6	21.3	38.3	21.7	18.6	16.6	26.1	36.4	20.9	11.9	30.8	34.4	22.9	3.6	16.6	56.1	23.7

「カ 街バル（越谷駅周辺、北越谷駅周辺）」について性・年齢別にみると、『認知度』は女性40～49歳（36.4%）で3割半ばと多くなっている。また、「利用・参加したことがある」は女性40～49歳、女性60～69歳（ともに4.8%）で約5%と多くなっている。

「キ 雛めぐり・甲冑めぐり（越谷駅東口周辺）」について性・年齢別にみると、『認知度』は女性60～69歳（37.1%）で4割弱と最も多く、男性70歳以上（34.4%）、女性70歳以上（34.0%）で3割半ばと多くなっている。また、「利用・参加したことがある」は女性60～69歳（8.8%）、女性70歳以上（8.0%）で1割弱と多くなっている。

「ク 宿場まつり（越谷駅東口周辺）」について性・年齢別にみると、『認知度』は男性70歳以上（39.5%）で約4割と最も多く、女性60～69歳（38.3%）、女性40～49歳（37.3%）で4割弱と多くなっている。また、「利用・参加したことがある」は女性60～69歳（7.2%）、女性70歳以上（7.1%）、女性40～49歳（7.0%）で約7%と多くなっている。

「ケ まるななマーケット（越谷駅東口周辺）」について性・年齢別にみると、『認知度』は女性40～49歳（26.3%）、男性40～49歳（24.9%）で2割半ばと多くなっている。「利用・参加したことがある」は女性30～39歳（7.0%）が最も多くなっている。

「コ その他の商店街のイベント」について性・年齢別にみると、『認知度』は男性70歳以上（25.3%）で2割半ばと最も多くなっている。

図表 15-1-3 性・年齢別 商店街主催イベント等の認知度 カ～コ

(%)

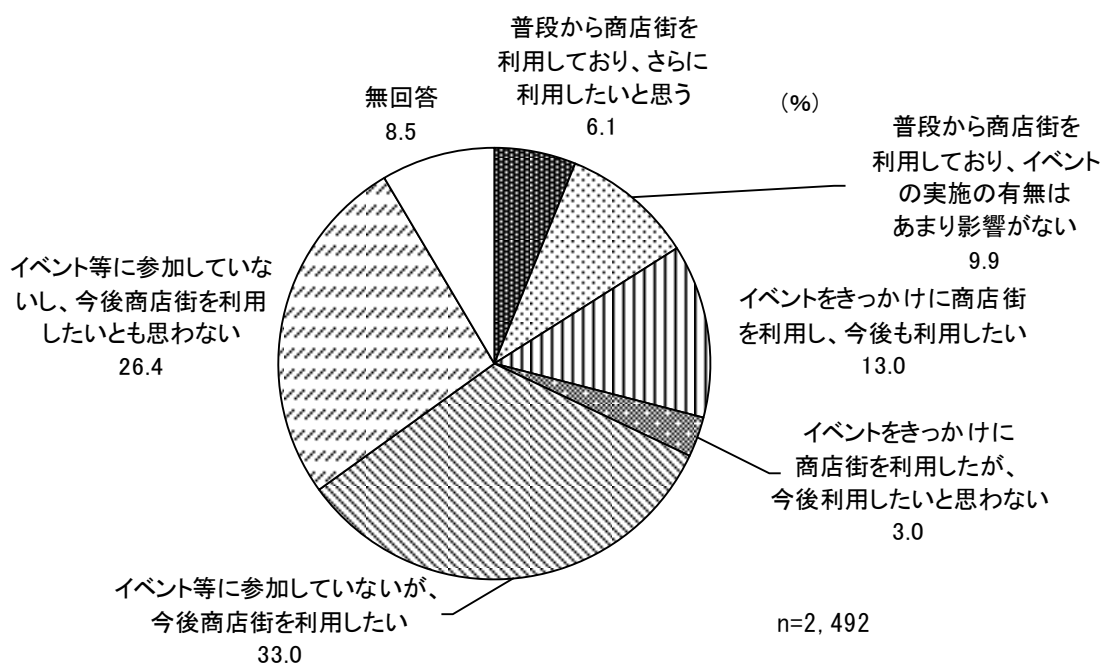
	調査数（人）	カ 街バル（越谷駅周辺、北越谷駅周辺）				キ 雛めぐり・甲冑めぐり（越谷駅東口周辺）				ク 宿場まつり（越谷駅東口周辺）				ケ まるななマーケット（越谷駅東口周辺）				コ その他の商店街のイベント			
		が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答	が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答	が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答	が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答	が利用・参加したことがある	は利用・参加したことがある	知らない	無回答
全体	2,492	3.2	22.8	62.0	11.9	4.4	21.2	63.3	11.1	5.3	26.0	57.3	11.4	4.5	15.2	68.4	11.9	4.8	14.3	68.4	12.5
女性全体	1,304	3.5	24.8	60.7	11.0	5.4	22.6	62.0	9.9	5.8	26.9	57.0	10.4	5.3	15.2	68.5	11.0	5.4	13.4	69.2	12.0
18～29歳	101	2.0	16.8	79.2	2.0	1.0	5.0	92.1	2.0	1.0	12.9	84.2	2.0	3.0	9.9	85.1	2.0	2.0	3.0	93.1	2.0
30～39歳	185	2.2	29.2	68.1	0.5	2.7	17.3	79.5	0.5	4.9	21.1	73.5	0.5	7.0	14.6	77.8	0.5	4.9	8.6	84.9	1.6
40～49歳	228	4.8	31.6	62.3	1.3	2.6	22.8	73.7	0.9	7.0	30.3	61.4	1.3	6.6	19.7	71.9	1.8	5.3	14.0	78.5	2.2
50～59歳	210	2.9	28.1	65.7	3.3	5.2	23.8	68.1	2.9	3.8	28.1	64.8	3.3	4.8	16.2	75.7	3.3	4.3	14.3	76.7	4.8
60～69歳	251	4.8	23.5	59.4	12.4	8.8	28.3	51.8	11.2	7.2	31.1	49.4	12.4	5.6	13.5	68.9	12.0	7.2	16.7	62.9	13.1
70歳以上	323	3.1	18.6	48.3	30.0	8.0	26.0	39.0	26.9	7.1	28.5	37.2	27.2	4.3	14.9	50.8	30.0	6.2	15.8	47.1	31.0
男性全体	996	3.1	20.8	66.7	9.4	3.3	19.7	68.0	9.0	5.0	25.5	60.3	9.1	4.0	15.9	71.0	9.1	4.0	15.0	71.3	9.7
18～29歳	97	1.0	18.6	78.4	2.1	1.0	8.2	88.7	2.1	1.0	14.4	82.5	2.1	1.0	18.6	78.4	2.1	1.0	8.2	88.7	2.1
30～39歳	116	1.7	16.4	79.3	2.6	-	8.6	88.8	2.6	4.3	12.1	81.0	2.6	4.3	9.5	83.6	2.6	0.9	7.8	87.9	3.4
40～49歳	173	2.9	28.3	67.1	1.7	1.7	20.8	75.1	2.3	6.4	26.0	65.9	1.7	6.4	18.5	73.4	1.7	4.6	13.9	78.6	2.9
50～59歳	147	3.4	24.5	70.7	1.4	3.4	19.0	75.5	2.0	5.4	25.9	66.7	2.0	5.4	17.7	74.8	2.0	4.1	13.6	79.6	2.7
60～69歳	203	3.9	18.7	67.5	9.9	4.4	20.7	66.5	8.4	4.4	29.1	57.6	8.9	3.4	13.8	74.4	8.4	3.9	19.7	68.0	8.4
70歳以上	253	4.0	18.2	53.4	24.5	5.9	28.5	42.3	23.3	6.3	33.2	36.8	23.7	2.8	16.2	56.9	24.1	6.3	19.0	49.8	24.9

(2) イベント等の商店街利用への影響

◇「イベントをきっかけに商店街を利用し、今後も利用したい」は1割強

問44-2. あなたは、上記のイベント等が、商店街の利用にどのように影響していると思いますか。
(〇は1つ)

図表 15-2-1 イベント等の商店街利用への影響

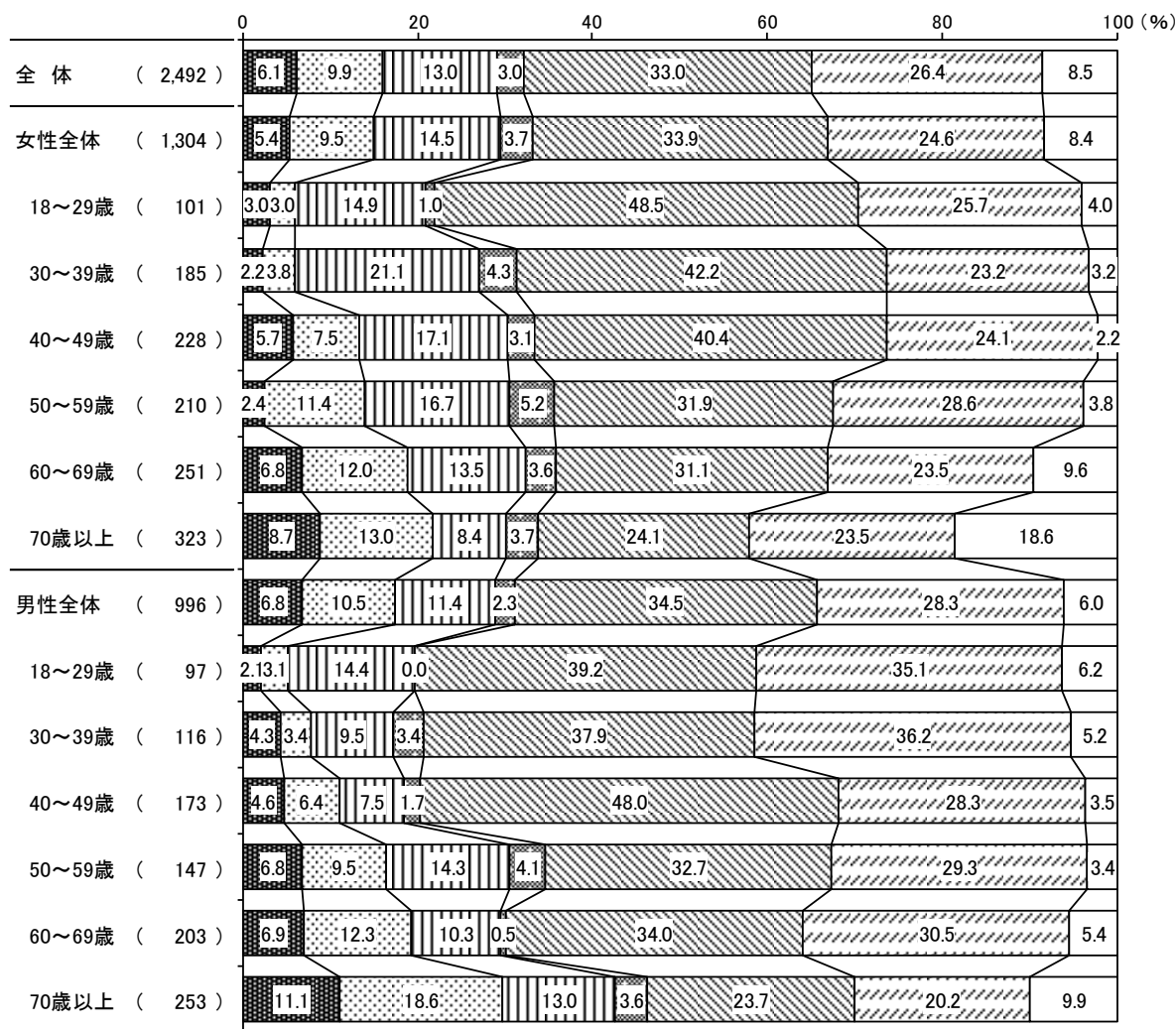


イベント等の商店街利用への影響については、「イベント等に参加していないが、今後商店街を利用したい」(33.0%)が最も多く、次いで、「イベント等に参加していないし、今後商店街を利用したいと思わない」(26.4%)、「イベントをきっかけに商店街を利用し、今後も利用したい」(13.0%)、「普段から商店街を利用しており、イベントの実施の有無はあまり影響がない」(9.9%)、「普段から商店街を利用しており、さらに利用したいと思う」(6.1%)、「イベントをきっかけに商店街を利用したが、今後利用したいと思わない」(3.0%)の順となっている。

性別でみると、「イベントをきっかけに商店街を利用し、今後も利用したい」は女性（14.5%）が男性（11.4%）より3.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「イベント等に参加していないが、今後商店街を利用したい」は女性18～29歳（48.5%）、男性40～49歳（48.0%）で5割弱と多く、女性30～39歳（42.2%）、女性40～49歳（40.4%）で4割以上と多くなっている。

図表 15-2-2 性・年齢別 イベント等の商店街利用への影響



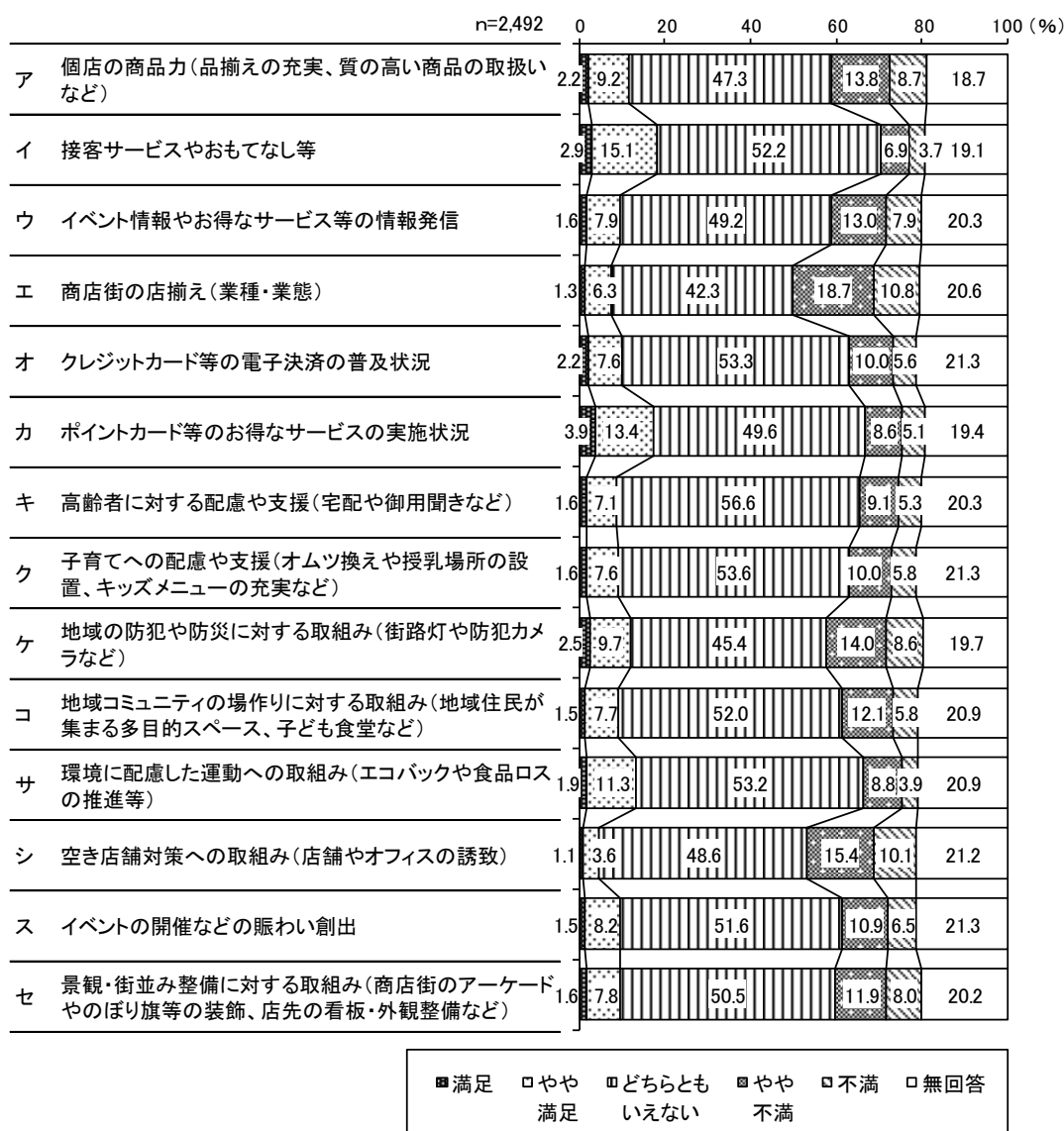
■ 普段から商店街を利用しており、さらに利用したいと思う
 □ 普段から商店街を利用しており、イベントの実施の有無はあまり影響がない
 □ イベントをきっかけに商店街を利用し、今後も利用したい
 □ イベントをきっかけに商店街を利用したが、今後利用したいと思わない
 □ イベント等に参加していないが、今後商店街を利用したい
 □ イベント等に参加していないし、今後商店街を利用したいと思わない
 □ 無回答

(3) 商店街の満足度

◇『満足』は「接客サービスやおもてなし等」「ポイントカード等のお得なサービスの実施状況」がともに2割弱

問45. あなたの身近な商店街の満足度について、教えてください。(それぞれ〇は1つずつ)

図表 15-3-1 商店街の満足度



身近な商店街の満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「イ 接客サービスやおもてなし等」(18.0%)が最も多く、「カ ポイントカード等のお得なサービスの実施状況」(17.3%)とともに2割弱となっている。

「ア 個店の商品力（品揃えの充実、質の高い商品の取扱いなど）」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（20.7%）で約2割と多くなっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は男性50～59歳（31.3%）、女性50～59歳（30.0%）で約3割と多くなっている。

「イ 接客サービスやおもてなし等」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（26.8%）で2割半ばと多くなっている。

「ウ イベント情報やお得なサービス等の情報発信」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（16.5%）で1割半ばと多くなっている。一方、『不満』は男性50～59歳（29.3%）で約3割と多くなっている。

図表 15-3-2 性・年齢別 商店街の満足度 ア～ウ

	調査数（人）	ア 個店の商品力						イ 接客サービスやおもてなし等						ウ イベント情報やお得なサービス等の情報発信					
		満足	やや満足	いどちらないとも	やや不満	不満	無回答	満足	やや満足	いどちらないとも	やや不満	不満	無回答	満足	やや満足	いどちらないとも	やや不満	不満	無回答
全体	2,492	2.2	9.2	47.3	13.8	8.7	18.7	2.9	15.1	52.2	6.9	3.7	19.1	1.6	7.9	49.2	13.0	7.9	20.3
女性全体	1,304	2.8	9.0	46.8	13.8	8.7	18.9	3.1	15.3	51.9	7.1	3.1	19.5	1.8	8.0	49.4	12.6	7.7	20.5
18～29歳	101	5.0	10.9	54.5	8.9	5.9	14.9	4.0	10.9	63.4	5.9	1.0	14.9	3.0	11.9	53.5	11.9	5.0	14.9
30～39歳	185	2.7	7.6	56.2	15.1	7.6	10.8	2.2	21.1	58.4	5.4	2.2	10.8	2.7	7.6	55.1	13.0	10.8	10.8
40～49歳	228	2.2	8.3	54.8	14.0	11.8	8.8	4.4	11.8	62.7	9.6	2.2	9.2	1.8	9.2	54.8	16.7	8.3	9.2
50～59歳	210	1.0	8.1	50.0	20.5	9.5	11.0	2.9	17.1	54.8	10.5	3.8	11.0	0.5	4.8	60.5	14.8	7.1	12.4
60～69歳	251	3.2	8.4	45.4	15.1	10.0	17.9	3.2	13.9	51.4	7.2	6.0	18.3	2.0	9.6	47.0	12.7	9.6	19.1
70歳以上	323	3.4	11.1	32.5	9.3	6.5	37.2	2.5	16.1	35.9	4.3	2.2	39.0	1.9	7.1	35.9	8.0	5.6	41.5
男性全体	996	1.7	9.5	49.7	15.3	9.0	14.8	2.5	16.0	54.4	7.3	4.9	14.9	1.6	8.3	50.7	14.7	8.5	16.2
18～29歳	97	5.2	15.5	53.6	11.3	7.2	7.2	4.1	22.7	57.7	5.2	3.1	7.2	4.1	12.4	56.7	11.3	8.2	7.2
30～39歳	116	2.6	4.3	61.2	12.9	10.3	8.6	2.6	12.1	64.7	6.0	4.3	10.3	1.7	4.3	59.5	9.5	12.9	12.1
40～49歳	173	0.6	11.0	54.9	16.8	8.7	8.1	1.2	16.2	63.6	5.8	5.2	8.1	1.2	7.5	56.6	16.2	9.8	8.7
50～59歳	147	0.7	6.8	49.7	16.3	15.0	11.6	1.4	15.6	57.1	6.1	8.2	11.6	1.4	4.1	52.4	18.4	10.9	12.9
60～69歳	203	1.0	8.4	48.3	18.7	9.4	14.3	1.5	13.8	57.1	8.9	4.9	13.8	1.0	9.9	48.8	17.2	6.9	16.3
70歳以上	253	2.0	11.1	41.1	13.8	5.5	26.5	4.3	16.6	39.1	9.1	4.0	26.9	1.6	10.7	40.7	13.4	5.5	28.1

「エ 商店街の店揃え（業種・業態）」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（15.5%）で1割半ばと多くなっている。一方、『不満』は男性50～59歳（38.8%）、男性40～49歳（38.7%）、女性50～59歳（38.1%）、女性40～49歳（37.3%）で4割弱と多くなっている。

「オ クレジットカード等の電子決済の普及状況」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（13.4%）、女性60～69歳（12.4%）で1割強とやや多くなっている。一方、『不満』は女性40～49歳（25.0%）で2割半ばと多くなっている。

「カ ポイントカード等のお得なサービスの実施状況」について性・年齢別にみると、『満足』は女性70歳以上（25.1%）で2割半ばと最も多く、女性60～69歳（22.7%）、男性18～29歳（21.7%）で2割以上と多くなっている。一方、『不満』は男性40～49歳（23.7%）で2割強と多くなっている。

図表 15-3-3 性・年齢別 商店街の満足度 エ～カ

		エ 商店街の店揃え						オ クレジットカード等の電子決済の普及状況						カ ポイントカード等のお得なサービスの実施状況					
		満足	やや満足	いどえちらないとも	やや不満	不満	無回答	満足	やや満足	いどえちらないとも	やや不満	不満	無回答	満足	やや満足	いどえちらないとも	やや不満	不満	無回答
全体	2,492	1.3	6.3	42.3	18.7	10.8	20.6	2.2	7.6	53.3	10.0	5.6	21.3	3.9	13.4	49.6	8.6	5.1	19.4
女性全体	1,304	1.4	5.9	41.7	19.7	10.4	20.9	2.6	7.1	53.5	10.3	5.0	21.5	4.6	15.0	49.6	8.0	4.0	18.8
18～29歳	101	2.0	9.9	50.5	17.8	5.0	14.9	3.0	7.9	62.4	7.9	2.0	16.8	4.0	13.9	59.4	5.9	2.0	14.9
30～39歳	185	2.2	4.3	48.6	20.5	13.5	10.8	4.3	7.0	57.8	13.5	5.9	11.4	5.9	9.7	60.5	7.0	5.9	10.8
40～49歳	228	0.9	4.4	46.9	23.7	13.6	10.5	2.6	6.1	57.5	17.1	7.9	8.8	2.6	14.5	57.5	14.0	3.1	8.3
50～59歳	210	-	6.7	42.9	27.1	11.0	12.4	1.4	8.1	62.9	11.9	3.8	11.9	3.3	11.0	60.0	10.5	4.3	11.0
60～69歳	251	2.4	5.6	40.2	20.3	10.0	21.5	3.6	8.8	52.6	9.2	6.0	19.9	5.6	17.1	47.0	6.8	5.6	17.9
70歳以上	323	1.2	6.5	32.2	11.8	8.0	40.2	1.2	5.9	40.6	4.3	3.4	44.6	5.6	19.5	31.0	4.0	2.8	37.2
男性全体	996	1.4	7.0	44.7	18.9	11.7	16.3	1.9	8.2	55.2	10.6	6.9	17.1	3.1	11.5	52.3	9.9	7.0	16.1
18～29歳	97	6.2	9.3	53.6	12.4	11.3	7.2	4.1	9.3	63.9	6.2	9.3	7.2	5.2	16.5	59.8	6.2	4.1	8.2
30～39歳	116	2.6	2.6	52.6	18.1	12.9	11.2	1.7	7.8	59.5	9.5	10.3	11.2	0.9	6.0	61.2	10.3	9.5	12.1
40～49歳	173	-	8.7	45.1	25.4	13.3	7.5	0.6	9.8	59.5	14.5	6.4	9.2	2.3	9.8	56.1	14.5	9.2	8.1
50～59歳	147	-	4.1	45.6	20.4	18.4	11.6	3.4	6.8	59.9	9.5	8.2	12.2	2.0	8.2	58.5	10.2	9.5	11.6
60～69歳	203	1.0	8.9	44.3	21.2	9.9	14.8	2.5	5.9	58.6	11.8	5.4	15.8	3.4	11.8	54.2	10.8	4.4	15.3
70歳以上	253	1.2	7.1	37.5	14.6	7.9	31.6	0.8	9.5	42.3	10.3	4.7	32.4	4.3	15.4	37.9	7.5	5.5	29.2

「キ 高齢者に対する配慮や支援（宅配や御用聞きなど）」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（14.4%）で1割半ばと多くなっている。一方、『不満』は男性70歳以上（19.3%）、男性50～59歳（19.1%）で約2割と多くなっている。

「ク 子育てへの配慮や支援（オムツ換えや授乳場所の設置、キッズメニューの充実など）」について性・年齢別にみると、『満足』は女性30～39歳（17.8%）で2割弱と最も多く、『不満』でも女性30～39歳（28.7%）で3割弱と最も多くなっている。

「ケ 地域の防犯や防災に対する取組み（街路灯や防犯カメラなど）」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（25.8%）で2割半ばと最も多く、『不満』は男性50～59歳（27.9%）で3割弱と最も多くなっている。

図表 15-3-4 性・年齢別 商店街の満足度 キ～ケ

		キ 高齢者に対する配慮や支援						ク 子育てへの配慮や支援						ケ 地域の防犯や防災に対する取組み					
	調査数（人）	満足	やや満足	いど えち なら とも	やや 不満	不満	無 回 答	満足	やや 満足	いど えち なら とも	やや 不満	不満	無 回 答	満足	やや 満足	いど えち なら とも	やや 不満	不満	無 回 答
全 体	2,492	1.6	7.1	56.6	9.1	5.3	20.3	1.6	7.6	53.6	10.0	5.8	21.3	2.5	9.7	45.4	14.0	8.6	19.7
女性全体	1,304	1.8	8.0	56.4	8.5	4.8	20.6	2.0	8.7	50.8	11.3	6.0	21.2	2.6	9.1	44.2	14.9	8.7	20.4
18～29歳	101	3.0	9.9	62.4	5.9	3.0	15.8	3.0	8.9	55.4	9.9	7.9	14.9	5.0	5.9	53.5	10.9	8.9	15.8
30～39歳	185	1.1	8.1	67.0	9.2	2.2	12.4	2.7	15.1	42.7	18.4	10.3	10.8	2.7	10.3	50.8	16.2	8.6	11.4
40～49歳	228	0.9	7.9	68.4	9.2	3.9	9.6	2.2	10.5	59.6	13.2	5.3	9.2	2.2	9.6	52.2	15.8	10.5	9.6
50～59歳	210	1.0	8.1	64.8	10.0	3.8	12.4	-	4.8	66.2	11.4	5.7	11.9	0.5	6.7	55.2	18.1	7.6	11.9
60～69歳	251	2.8	8.0	55.8	8.0	5.6	19.9	3.2	7.2	53.0	9.6	6.0	21.1	1.2	11.6	42.2	17.1	8.8	19.1
70歳以上	323	2.2	7.4	35.3	7.7	7.7	39.6	1.5	7.4	36.2	8.0	3.4	43.3	4.6	9.0	26.9	10.8	8.0	40.6
男性全体	996	1.4	6.4	60.0	9.7	6.2	16.2	1.3	7.0	59.2	8.9	6.2	17.3	2.4	10.3	49.6	13.7	8.5	15.5
18～29歳	97	6.2	8.2	70.1	3.1	5.2	7.2	3.1	13.4	66.0	3.1	7.2	7.2	9.3	16.5	53.6	8.2	5.2	7.2
30～39歳	116	1.7	2.6	72.4	5.2	5.2	12.9	3.4	3.4	62.1	10.3	10.3	10.3	2.6	2.6	66.4	9.5	9.5	9.5
40～49歳	173	0.6	5.8	69.9	9.2	5.2	9.2	1.2	9.2	66.5	8.7	5.2	9.2	2.3	7.5	60.1	15.6	6.4	8.1
50～59歳	147	-	5.4	63.9	11.6	7.5	11.6	0.7	4.8	66.0	10.9	6.1	11.6	0.7	10.2	49.0	13.6	14.3	12.2
60～69歳	203	1.0	7.4	58.1	11.3	6.4	15.8	1.0	6.9	61.1	8.9	5.9	16.3	1.5	11.3	44.8	16.3	10.3	15.8
70歳以上	253	1.2	7.5	43.5	12.6	6.7	28.5	0.4	5.9	45.5	9.5	5.1	33.6	1.6	12.6	37.9	13.8	6.3	27.7

「コ 地域コミュニティの場作りに対する取組み（地域住民が集まる多目的スペース、子ども食堂など）」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（18.6%）で2割強と最も多く、『不満』は女性30～39歳（22.7%）で2割強と最も多くなっている。

「サ 環境に配慮した運動への取組み（エコバックや食品ロスの推進等）」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（22.7%）で2割強と最も多く、『不満』は男性60～69歳（17.3%）、男性70歳以上（16.2%）で1割半ばを超えて多くなっている。

「シ 空き店舗対策への取組み（店舗やオフィスの誘致）」について性・年齢別にみると、『満足』は男性18～29歳（15.5%）で1割半ばと多く、『不満』は男性40～49歳（34.7%）、男性60～69歳（34.5%）で3割半ばと多くなっている。

図表 15-3-5 性・年齢別 商店街の満足度 コ～シ

		コ 地域コミュニティの場作りに対する取組み						サ 環境に配慮した運動への取組み						シ 空き店舗対策への取組み					
	調査数（人）	満足	やや満足	いど えち なら とも	やや 不満	不満	無 回 答	満足	やや 満足	いど えち なら とも	やや 不満	不満	無 回 答	満足	やや 満足	いど えち なら とも	やや 不満	不満	無 回 答
全体	2,492	1.5	7.7	52.0	12.1	5.8	20.9	1.9	11.3	53.2	8.8	3.9	20.9	1.1	3.6	48.6	15.4	10.1	21.2
女性全体	1,304	1.3	7.1	52.9	11.7	6.1	20.9	1.8	12.5	53.3	7.9	3.8	20.7	0.8	3.7	49.1	15.4	9.7	21.3
18～29歳	101	4.0	9.9	60.4	6.9	4.0	14.9	3.0	14.9	57.4	5.0	5.0	14.9	3.0	5.0	60.4	8.9	6.9	15.8
30～39歳	185	0.5	11.4	55.1	17.3	5.4	10.3	0.5	14.6	64.9	6.5	3.2	10.3	1.1	3.8	61.6	16.2	6.5	10.8
40～49歳	228	2.6	8.8	60.5	12.3	5.7	10.1	2.6	12.3	63.6	8.8	3.5	9.2	0.9	5.3	49.6	17.1	16.7	10.5
50～59歳	210	-	4.8	63.8	12.4	6.2	12.9	0.5	10.5	63.3	10.0	2.9	12.9	-	2.9	57.6	17.1	9.5	12.9
60～69歳	251	0.8	4.8	54.2	12.7	7.2	20.3	2.0	15.1	47.8	8.8	5.6	20.7	0.4	3.6	45.8	19.5	10.4	20.3
70歳以上	323	1.2	6.2	36.2	8.4	6.5	41.5	2.2	9.9	36.2	7.1	3.4	41.2	0.6	2.8	35.6	11.8	7.1	42.1
男性全体	996	1.8	9.0	53.4	13.2	5.9	16.7	2.0	10.1	56.7	10.2	4.2	16.7	1.7	3.5	50.0	16.7	11.2	16.9
18～29歳	97	6.2	12.4	58.8	8.2	7.2	7.2	7.2	15.5	63.9	3.1	3.1	7.2	6.2	9.3	59.8	8.2	8.2	8.2
30～39歳	116	2.6	4.3	63.8	9.5	8.6	11.2	1.7	11.2	60.3	8.6	7.8	10.3	0.9	2.6	62.9	11.2	11.2	11.2
40～49歳	173	1.7	9.8	59.5	14.5	5.8	8.7	1.7	9.8	69.4	6.9	4.6	7.5	2.3	3.5	49.7	22.0	12.7	9.8
50～59歳	147	1.4	6.8	58.5	15.0	6.8	11.6	1.4	8.2	63.3	9.5	6.1	11.6	1.4	2.7	55.1	15.0	14.3	11.6
60～69歳	203	1.0	9.4	52.7	15.8	3.9	17.2	1.5	9.4	53.7	14.8	2.5	18.2	0.5	2.5	45.3	22.2	12.3	17.2
70歳以上	253	0.8	10.3	40.3	12.6	5.5	30.4	1.2	9.9	41.9	13.0	3.2	30.8	1.2	2.8	41.1	15.8	9.1	30.0

「ス イベントの開催などの賑わい創出」について性・年齢別にみると、『満足』は男性 18～29 歳 (21.6%) で約 2 割と最も多く、『不満』は男性 50～59 歳 (24.5%) で 2 割半ばと最も多くなっている。

「セ 景観・街並み整備に対する取組み (商店街のアーケードやのぼり旗等の装飾、店先の看板・外観整備など)」について性・年齢別にみると、『満足』は男性 18～29 歳 (21.6%) で約 2 割と最も多く、『不満』は女性 50～59 歳 (25.7%)、男性 60～69 歳 (24.1%) で 2 割半ばと多くなっている。

図表 15-3-6 性・年齢別 商店街の満足度 ス～セ

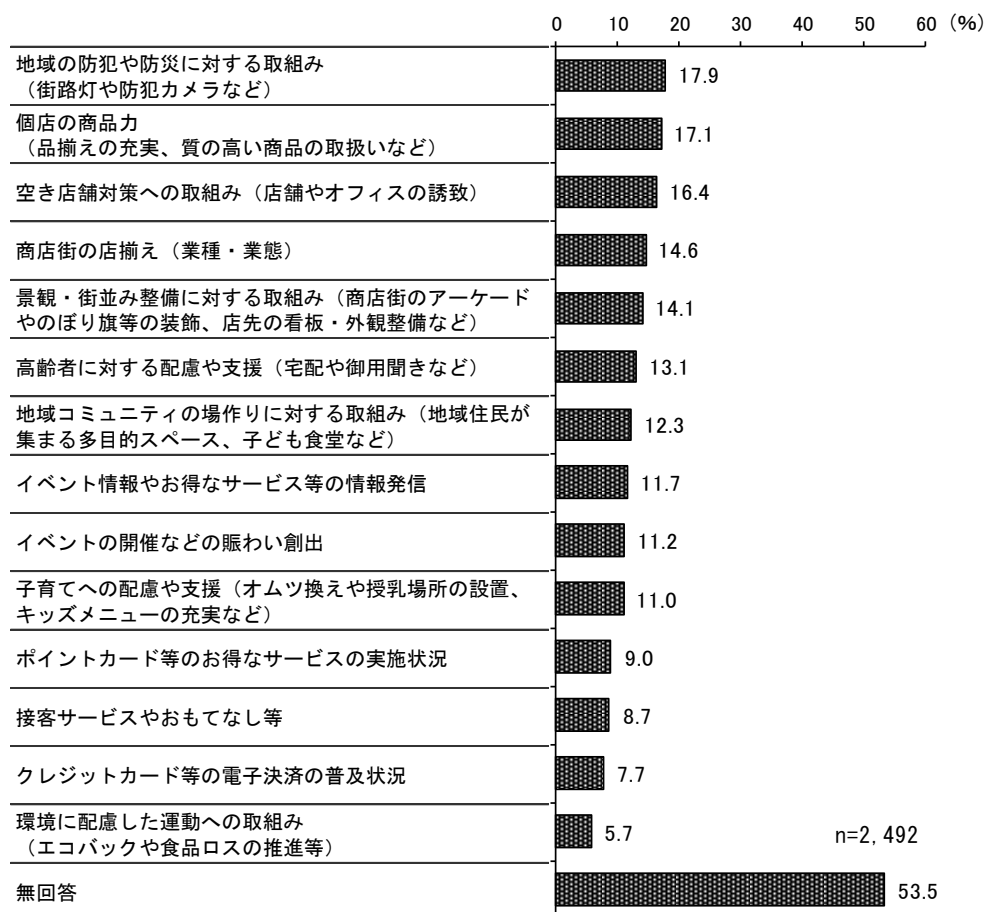
		ス イベントの開催などの賑わい創出						セ 景観・街並み整備に対する取組み					
		満足	やや満足	いど えち なら とも	やや 不満	不満	無 回 答	満足	やや 満足	いど えち なら とも	やや 不満	不満	無 回 答
		調査 数 (人)	(%)										
全体	2,492	1.5	8.2	51.6	10.9	6.5	21.3	1.6	7.8	50.5	11.9	8.0	20.2
女性全体	1,304	1.2	8.5	53.4	10.0	6.2	20.7	1.3	8.1	51.2	12.0	7.5	20.0
18～29歳	101	4.0	7.9	61.4	6.9	4.0	15.8	3.0	6.9	65.3	7.9	2.0	14.9
30～39歳	185	1.1	11.9	62.7	9.2	4.3	10.8	1.1	8.6	60.5	14.1	5.4	10.3
40～49歳	228	0.9	10.5	59.2	10.5	8.8	10.1	1.8	11.0	55.3	12.7	9.2	10.1
50～59歳	210	-	6.2	65.2	10.5	6.7	11.4	-	6.2	56.7	15.2	10.5	11.4
60～69歳	251	0.8	6.4	51.0	13.1	8.4	20.3	1.2	8.0	48.6	13.9	10.0	18.3
70歳以上	323	1.9	8.7	35.6	8.4	4.3	41.2	1.5	7.4	37.5	7.7	5.6	40.2
男性全体	996	2.0	8.7	51.6	12.8	7.5	17.4	2.0	8.1	52.3	11.9	9.5	16.1
18～29歳	97	8.2	13.4	59.8	7.2	4.1	7.2	10.3	11.3	57.7	5.2	8.2	7.2
30～39歳	116	0.9	7.8	62.1	6.9	11.2	11.2	0.9	8.6	61.2	10.3	8.6	10.3
40～49歳	173	3.5	8.7	57.2	12.1	8.7	9.8	2.9	9.8	54.9	12.7	11.0	8.7
50～59歳	147	0.7	9.5	53.1	13.6	10.9	12.2	0.7	4.1	61.2	12.9	9.5	11.6
60～69歳	203	1.0	9.9	49.8	15.8	5.9	17.7	1.0	7.9	49.8	13.8	10.3	17.2
70歳以上	253	0.8	6.3	40.3	15.4	5.5	31.6	0.4	8.3	41.5	13.0	8.3	28.5

(4) 商店街に期待すること

◇「地域の防犯や防災に対する取組み（街路灯や防犯カメラなど）」が最も多く、2割弱

問45. また、あなたが商店街に期待することについて、教えてください。(複数回答可)

図表 15-4-1 商店街に期待すること



商店街に期待することについては、「地域の防犯や防災に対する取組み（街路灯や防犯カメラなど）」(17.9%)が最も多く、次いで、「個店の商品力（品揃えの充実、質の高い商品の取扱いなど）」(17.1%)、「空き店舗対策への取組み(店舗やオフィスの誘致)」(16.4%)、「商店街の店揃え(業種・業態)」(14.6%)、「景観・街並み整備に対する取組み（商店街のアーケードやのぼり旗等の装飾、店先の看板・外観整備など）」(14.1%)の順となっている。

性別でみると、「地域コミュニティの場作りに対する取組み（地域住民が集まる多目的スペース、子ども食堂など）」は女性（14.8%）が男性（10.7%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「子育てへの配慮や支援（オムツ換えや授乳場所の設置、キッズメニューの充実など）」は女性30～39歳（38.4%）で4割弱と最も多くなっている。また、「空き店舗対策への取組み（店舗やオフィスの誘致）」は女性40～49歳（30.3%）、男性40～49歳（28.9%）で約3割、「地域の防犯や防災に対する取組み（街路灯や防犯カメラなど）」は女性30～39歳（28.6%）、女性18～29歳（27.7%）、女性40～49歳（26.8%）で2割半ば以上と多くなっている。「個店の商品力（品揃えの充実、質の高い商品の取扱いなど）」は女性30～39歳（29.2%）、男性30～39歳（27.6%）で3割近く、「地域コミュニティの場作りに対する取組み（地域住民が集まる多目的スペース、子ども食堂など）」は女性30～39歳（27.6%）で3割弱と多くなっている。

図表 15-4-2 性・年齢別 商店街に期待すること

(%)

	調査数（人）	個店の商品力（品揃えの充実、質の高い商品の取扱いなど）	接客サービスやおもてなし等	イベント情報やお得なサービス等の情報発信	商店街の店舗（業種・業態）	クレジットカード等の電子決済の普及状況	ポイントカード等のお得なサービスの実施状況	高齢者に対する配慮や支援（宅配や御用聞きなど）	子育てへの配慮や支援（オムツ換えや授乳場所の設置、キッズメニューの充実など）	地域の防犯や防災に対する取組み（街路灯や防犯カメラなど）	地域コミュニティの場作りに対する取組み（地域住民が集まる多目的スペース、子ども食堂など）	環境に配慮した運動への取組み（エコバックや食品ロスの推進等）	空き店舗対策への取組み（店舗やオフィスの誘致）	イベントの開催などの賑わい創出	景観・街並み整備に対する取組み（商店街のアーケードやのぼり旗等の装飾、店先の看板・外観整備など）	無回答
全体	2,492	17.1	8.7	11.7	14.6	7.7	9.0	13.1	11.0	17.9	12.3	5.7	16.4	11.2	14.1	53.5
女性全体	1,304	18.6	9.9	14.0	15.3	7.7	10.3	14.6	13.3	20.2	14.8	6.8	17.3	12.0	14.5	50.3
18～29歳	101	22.8	18.8	12.9	19.8	15.8	16.8	13.9	22.8	27.7	16.8	10.9	19.8	19.8	15.8	43.6
30～39歳	185	29.2	14.1	24.3	21.6	16.2	20.5	14.1	38.4	28.6	27.6	7.6	17.3	23.2	17.3	30.8
40～49歳	228	22.4	11.8	16.7	22.8	11.8	11.8	16.7	14.0	26.8	19.3	11.4	30.3	19.3	21.9	35.1
50～59歳	210	23.8	12.4	17.1	16.2	5.7	11.4	15.2	10.0	21.0	14.8	3.8	17.1	9.0	14.8	43.3
60～69歳	251	12.7	7.2	11.6	12.0	4.8	6.4	15.5	8.0	17.1	13.5	5.2	17.1	8.4	13.9	56.2
70歳以上	323	10.2	4.0	6.8	7.1	1.2	3.7	13.0	1.9	10.8	5.0	5.3	7.7	3.1	7.7	73.4
男性全体	996	17.5	8.5	10.4	15.4	8.4	8.2	12.2	9.5	16.9	10.7	4.8	17.1	11.5	15.1	53.1
18～29歳	97	16.5	7.2	8.2	11.3	8.2	5.2	8.2	8.2	8.2	6.2	3.1	8.2	6.2	8.2	57.7
30～39歳	116	27.6	10.3	13.8	19.8	15.5	12.9	7.8	19.0	17.2	11.2	4.3	19.8	15.5	12.9	42.2
40～49歳	173	23.1	9.2	16.2	20.8	12.7	12.7	13.3	15.6	22.0	12.1	5.2	28.9	15.6	18.5	35.3
50～59歳	147	18.4	10.2	10.2	21.8	8.8	8.2	16.3	6.8	19.7	17.0	6.8	19.7	16.3	19.7	43.5
60～69歳	203	13.8	10.3	9.9	16.7	6.4	6.9	17.2	7.9	20.2	10.3	5.9	18.7	10.8	21.7	57.6
70歳以上	253	11.9	5.5	6.7	6.3	4.0	5.1	9.1	4.7	12.6	8.3	3.6	8.7	7.1	8.7	70.0

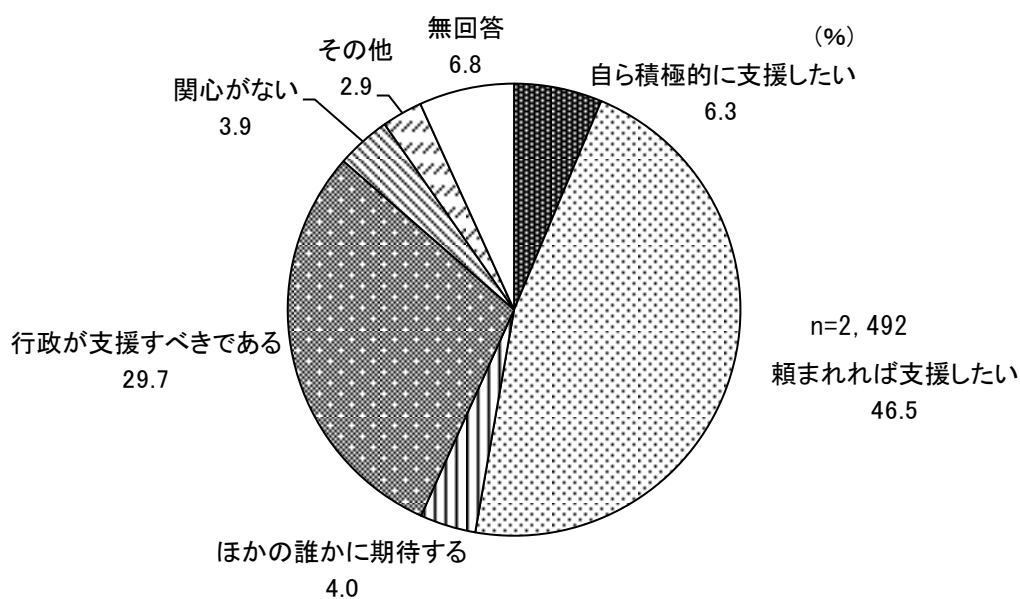
16. 地域福祉（地域で支え合うしくみづくり）について

(1) 地域で困っている人がいた場合

◇『支援したい』が5割強

問46. 少子高齢化や核家族化などにより、地域で支え合うことが求められています。地域で何か困っている方がいた場合、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

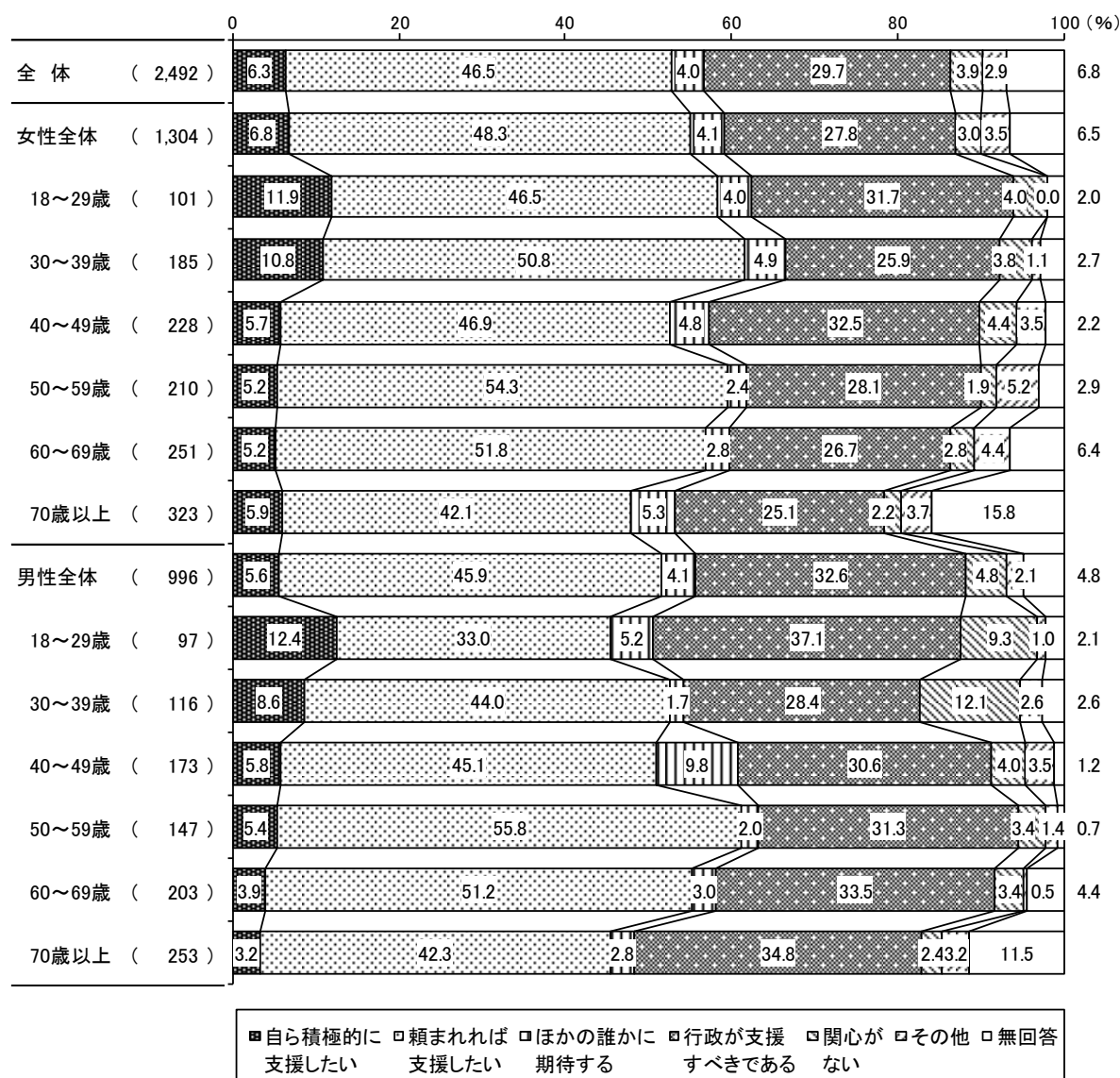
図表 16-1-1 地域で困っている人がいた場合



地域で困っている人がいた場合については、「頼まれれば支援したい」(46.5%)が最も多く、「自ら積極的に支援したい」(6.3%)を合わせた『支援したい』(52.8%)は5割強となっている。また、「その他」として「自分にできることなら支援したい」「状況による」等が挙げられた。

性別でみると、『支援したい』は女性（55.1%）が男性（51.5%）より3.6ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、「自ら積極的に支援したい」は男性18～29歳（12.4%）、女性18～29歳（11.9%）、
 女性30～39歳（10.8%）で1割以上と多く、「頼まれれば支援したい」は男性50～59歳（55.8%）、女
 性50～59歳（54.3%）で5割半ばと多くなっている。

図表 16-1-2 性・年齢別 地域で困っている人がいた場合

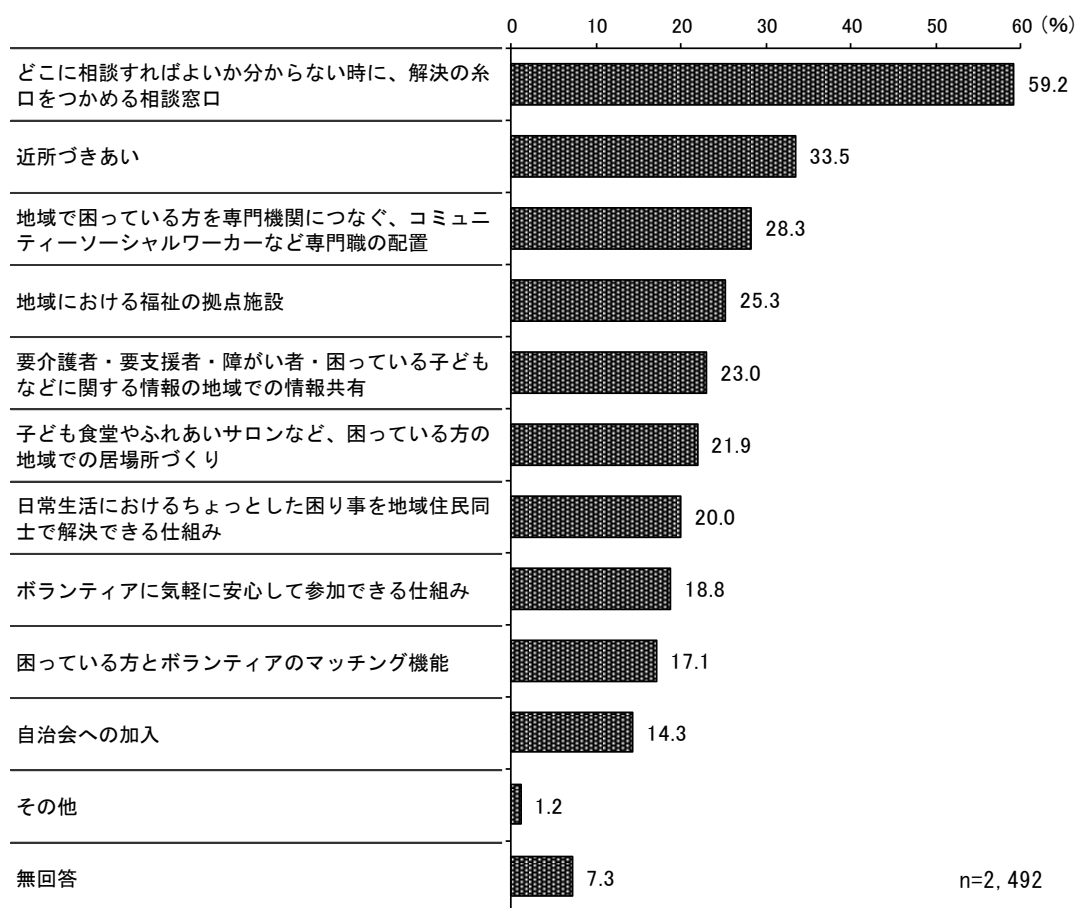


(2) 地域で助け合うしくみに必要なもの

◇「どこに相談すればよいか分からない時に、解決の糸口をつかめる相談窓口」が最も多く、約6割

問47. あなたの地域で何か困っている方がいた場合、地域で助け合うしくみに必要なものは何ですか。(複数回答可)

図表 16-2-1 地域で助け合うしくみに必要なもの



地域で助け合うしくみに必要なものについては、「どこに相談すればよいか分からない時に、解決の糸口をつかめる相談窓口」(59.2%)が最も多く、次いで、「近所づきあい」(33.5%)、「地域で困っている方を専門機関につなぐ、コミュニティーソーシャルワーカーなど専門職の配置」(28.3%)、「地域における福祉の拠点施設」(25.3%)、「要介護者・要支援者・障がい者・困っている子どもなどに関する情報の地域での情報共有」(23.0%)の順となっている。また、「その他」として「SNSの活用」「警察の巡回」「こころくばり、やさしさ」等が挙げられた。

性別でみると、「子ども食堂やふれあいサロンなど、困っている方の地域での居場所づくり」は女性(26.8%)が男性(18.0%)より8.8ポイント高く、「どこに相談すればよいか分からない時に、解決の糸口をつかめる相談窓口」でも女性(63.0%)が男性(57.5%)より5.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「どこに相談すればよいか分からない時に、解決の糸口をつかめる相談窓口」は女性30～39歳(71.9%)、女性40～49歳(71.1%)で約7割と多くなっている。また、「子ども食堂やふれあいサロンなど、困っている方の地域での居場所づくり」は女性30～39歳(47.6%)で5割弱と多く、「地域で困っている方を専門機関につなぐ、コミュニティソーシャルワーカーなど専門職の配置」は女性40～49歳(42.5%)で4割強と多くなっている。

図表 16-2-2 性・年齢別 地域で助け合うしくみに必要なもの

	調査数(人)	地域における福祉の拠点施設	どこに相談すればよいか分からない時に、解決の糸口をつかめる相談窓口	日常生活におけるちよつとした困り事を地域住民同士で解決できる仕組み	地域で困っている方を専門機関につなぐ、コミュニティソーシャルワーカーなど専門職の配置	ボランティアに気軽に安心して参加できる仕組み	子ども食堂やふれあいサロンなど、困っている方の地域での居場所づくり	も介護者・要支援者・障がい者・困っている子どもなどに関する情報の地域での情報共有	困っている方とボランティアのマッチング機能	自治会への加入	近所づきあい	その他	無回答
全体	2,492	25.3	59.2	20.0	28.3	18.8	21.9	23.0	17.1	14.3	33.5	1.2	7.3
女性全体	1,304	25.4	63.0	20.7	31.0	19.8	26.8	25.4	18.7	12.5	34.5	0.8	6.2
18～29歳	101	37.6	56.4	29.7	25.7	33.7	39.6	27.7	25.7	8.9	41.6	1.0	3.0
30～39歳	185	26.5	71.9	27.0	33.0	16.2	47.6	28.1	21.1	12.4	32.4	-	2.7
40～49歳	228	24.6	71.1	20.2	42.5	21.1	25.9	25.9	28.1	11.0	29.8	2.2	1.3
50～59歳	210	31.4	68.6	18.1	33.8	17.1	26.2	26.7	18.1	4.8	28.1	-	2.9
60～69歳	251	23.5	65.3	18.3	30.7	24.3	24.7	23.9	17.1	14.3	35.5	0.8	5.6
70歳以上	323	19.2	49.2	18.3	22.0	15.2	14.2	23.2	10.5	18.6	39.9	0.6	15.5
男性全体	996	27.4	57.5	20.3	26.6	18.7	18.0	20.6	16.6	16.7	33.2	1.7	5.6
18～29歳	97	32.0	57.7	11.3	14.4	25.8	16.5	6.2	21.6	7.2	23.7	3.1	2.1
30～39歳	116	22.4	52.6	24.1	22.4	16.4	25.9	12.9	18.1	13.8	32.8	1.7	2.6
40～49歳	173	24.9	63.6	23.7	31.8	26.0	22.5	19.7	18.5	16.8	41.0	1.7	2.3
50～59歳	147	27.2	59.9	23.8	34.7	20.4	20.4	28.6	21.8	15.6	28.6	2.0	1.4
60～69歳	203	31.0	61.1	21.2	33.0	16.3	14.3	22.2	10.8	19.2	28.6	1.0	5.4
70歳以上	253	26.5	51.8	17.4	20.2	13.4	13.0	24.1	14.2	20.6	38.3	1.6	12.6

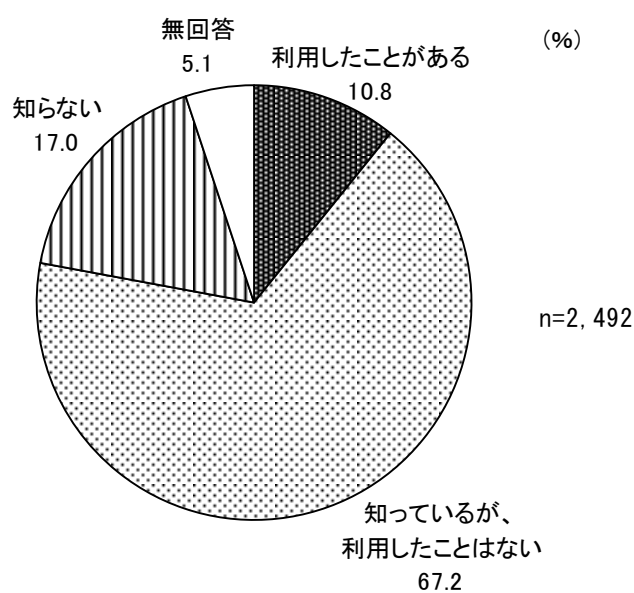
17. 老人福祉センターについて

(1) 老人福祉センターの認知度

◇『知っている』が8割弱

問48. あなたは、高齢者の健康増進や教養の向上などの機会を提供する場である、老人福祉センター「けやき荘」「くすのき荘」「ゆりのき荘」「ひのき荘」を知っていますか。(○は1つ)

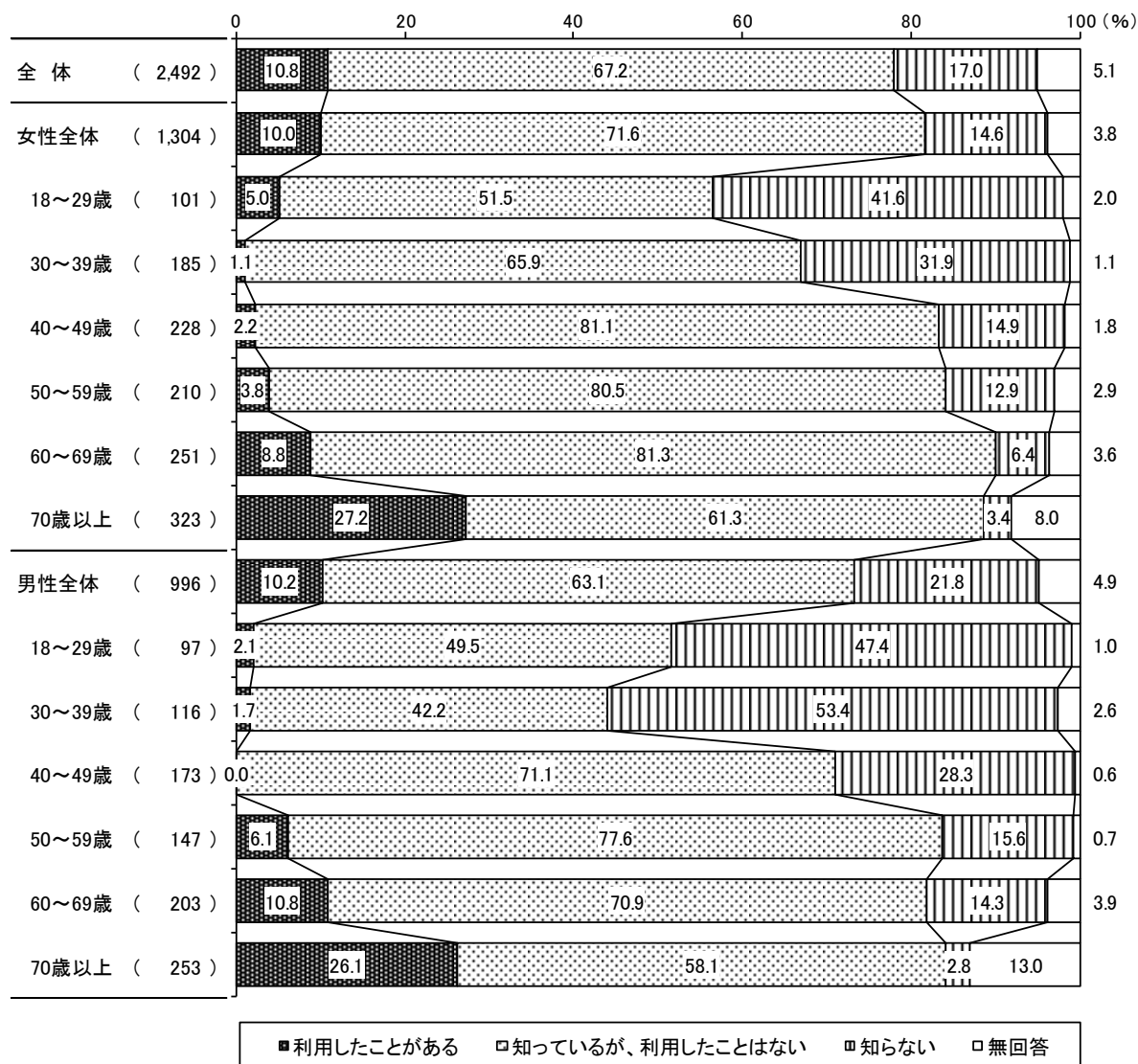
図表 17-1-1 老人福祉センターの認知度



老人福祉センターの認知度については、「利用したことがある」(10.8%)と「知っているが、利用したことはない」(67.2%)を合わせた『知っている』(78.0%)は8割弱となっている。なお、「利用したことがある」(10.8%)は約1割となっている。

性別で見ると、『知っている』は女性（81.6%）が男性（73.3%）より8.3ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『知っている』は女性60～69歳（90.1%）で約9割、女性70歳以上（88.5%）
 で9割弱と多くなっている。また、「利用したことがある」では女性70歳以上（27.2%）、男性70歳以
 上（26.1%）で2割半ば以上と多くなっている。

図表 17-1-2 性・年齢別 老人福祉センターの認知度

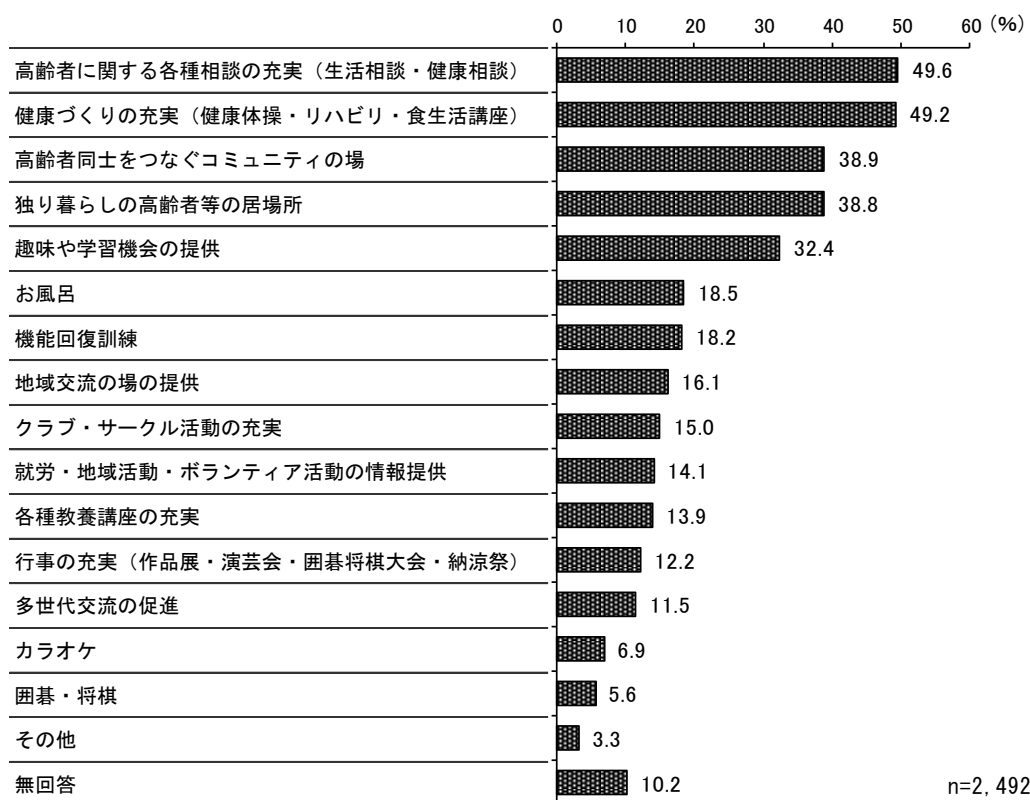


(2) 老人福祉センターに期待すること

◇「高齢者に関する各種相談の充実（生活相談・健康相談）」「健康づくりの充実（健康体操・リハビリ・食生活講座）」が約5割

問49. あなたは、老人福祉センターにどのようなことを期待しますか。(複数回答可)

図表 17-2-1 老人福祉センターに期待すること



老人福祉センターに期待することについては、「高齢者に関する各種相談の充実（生活相談・健康相談）」(49.6%) が最も多く、次いで、「健康づくりの充実（健康体操・リハビリ・食生活講座）」(49.2%)、「高齢者同士をつなぐコミュニティの場」(38.9%)、「ひとり暮らしの高齢者等の居場所」(38.8%)、「趣味や学習機会の提供」(32.4%) の順となっている。また、「その他」として「公共交通手段の充実」「プール」「就業支援」「終活のアドバイス」等が挙げられた。

性別で見ると、「独り暮らしの高齢者等の居場所」は女性（45.2%）が男性（33.9%）より11.3ポイント、「高齢者同士をつなぐコミュニティの場」は女性（44.7%）が男性（34.6%）より10.1ポイント、「健康づくりの充実（健康体操・リハビリ・食生活講座）」は女性（53.0%）が男性（47.4%）より5.6ポイント、「趣味や学習機会の提供」は女性（35.4%）が男性（31.0%）より4.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「健康づくりの充実（健康体操・リハビリ・食生活講座）」は女性18～29歳（64.4%）、女性30～39歳（60.0%）で6割以上と多く、「高齢者に関する各種相談の充実（生活相談・健康相談）」は女性40～49歳（61.8%）、男性50～59歳（61.2%）、女性30～39歳（60.5%）で約6割と多くなっている。また、「高齢者同士をつなぐコミュニティの場」は女性30～39歳（59.5%）、女性18～29歳（59.4%）で約6割と多く、「独り暮らしの高齢者等の居場所」は女性18～29歳（56.4%）、女性30～39歳（54.6%）で5割半ばと多くなっている。

図表 17-2-2 性・年齢別 老人福祉センターに期待すること

	調査数（人）	高齢者に関する各種相談の充実 （生活相談・健康相談）	健康づくりの充実（健康体操・リハビリ・食生活講座）	各種教養講座の充実	趣味や学習機会の提供	碁将棋大会・納涼祭）	行事の充実（作品展・演芸会・囲碁・将棋）	就労・地域活動・ボランティア活動の情報提供	クラブ・サークル活動の充実	高齢者同士をつなぐコミュニティの場	カラオケ	囲碁・将棋	お風呂	機能回復訓練	地域交流の場の提供	独り暮らしの高齢者等の居場所	多世代交流の促進	その他	無回答
全体	2,492	49.6	49.2	13.9	32.4	12.2	14.1	15.0	38.9	6.9	5.6	18.5	18.2	16.1	38.8	11.5	3.3	10.2	
女性全体	1,304	51.1	53.0	15.2	35.4	13.1	15.1	15.6	44.7	6.6	4.3	19.5	20.6	18.0	45.2	13.2	2.9	8.8	
18～29歳	101	52.5	64.4	11.9	44.6	27.7	17.8	21.8	59.4	12.9	12.9	31.7	26.7	24.8	56.4	15.8	4.0	5.0	
30～39歳	185	60.5	60.0	15.1	40.5	18.9	18.9	20.5	59.5	8.6	7.6	24.3	24.3	25.9	54.6	18.4	1.1	7.0	
40～49歳	228	61.8	56.6	15.8	43.4	16.7	21.5	19.3	54.4	4.8	3.5	28.9	31.6	18.0	53.5	14.0	2.2	4.4	
50～59歳	210	54.3	54.8	14.3	35.2	15.2	20.0	17.6	44.8	6.2	3.8	18.1	18.6	21.0	44.8	14.3	1.9	7.1	
60～69歳	251	52.2	56.6	21.9	39.0	8.4	15.1	12.0	37.8	4.8	3.6	13.5	21.1	18.3	43.8	11.6	2.8	8.0	
70歳以上	323	35.0	39.3	11.5	21.7	5.3	4.6	9.9	29.7	6.5	1.2	12.1	10.2	9.6	32.2	9.6	5.0	16.1	
男性全体	996	50.4	47.4	13.8	31.0	12.7	14.7	15.8	34.6	7.2	7.6	17.8	16.7	15.7	33.9	10.6	3.7	9.3	
18～29歳	97	33.0	49.5	7.2	29.9	12.4	14.4	17.5	37.1	9.3	11.3	17.5	14.4	20.6	34.0	10.3	5.2	9.3	
30～39歳	116	54.3	51.7	12.1	31.0	13.8	11.2	15.5	50.9	9.5	8.6	22.4	23.3	17.2	39.7	12.1	3.4	6.9	
40～49歳	173	57.8	50.3	8.7	31.8	12.1	16.8	19.1	43.9	3.5	7.5	20.8	16.8	11.6	40.5	14.5	4.0	6.9	
50～59歳	147	61.2	56.5	22.4	37.4	15.0	20.4	20.4	36.7	3.4	6.8	19.0	22.4	17.7	41.5	17.0	3.4	3.4	
60～69歳	203	54.2	43.8	17.7	34.5	12.3	15.8	11.8	27.1	6.4	6.4	17.2	14.8	18.7	32.5	8.9	2.5	7.9	
70歳以上	253	41.1	40.3	12.6	25.3	11.9	11.1	13.4	24.9	11.1	7.5	13.4	12.6	12.3	24.1	5.5	4.3	16.2	

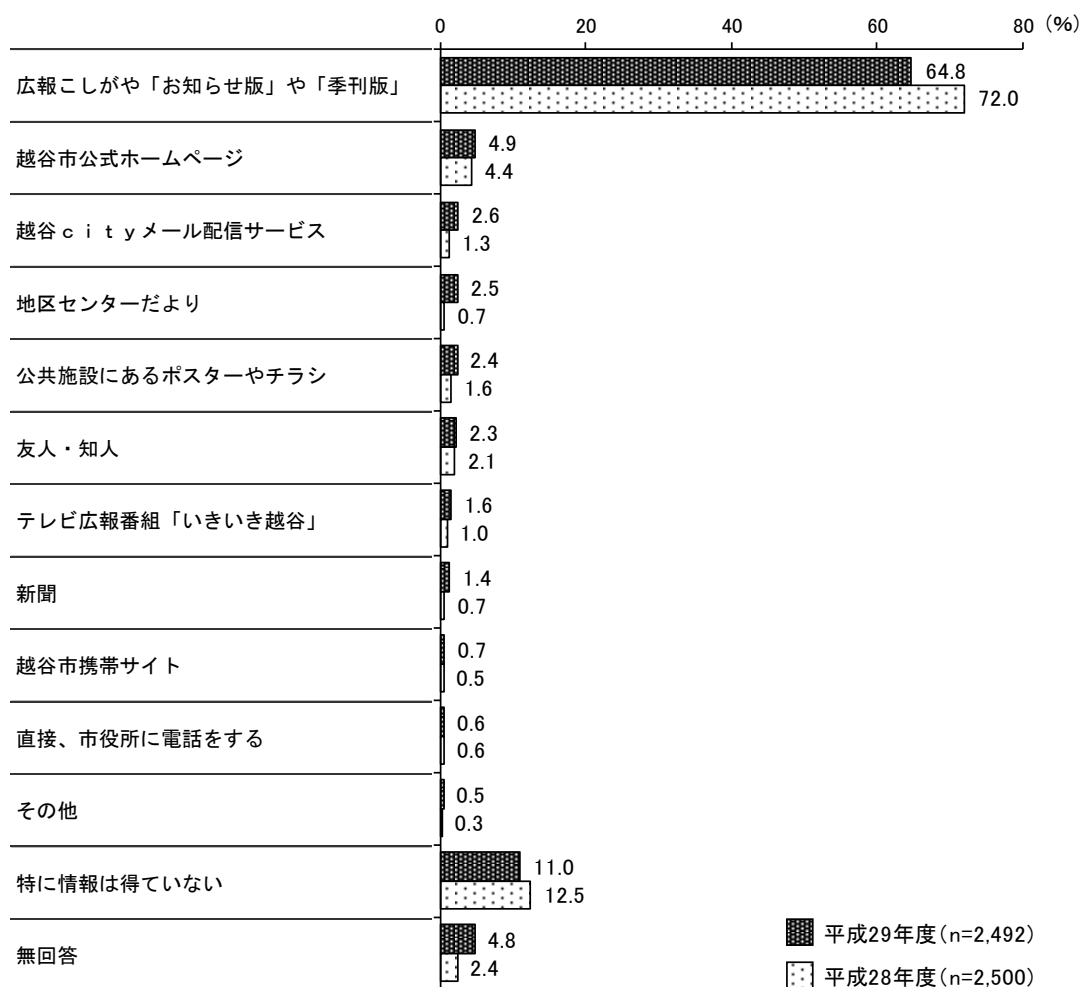
18. 広報について

(1) 市政情報を得ているもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が6割半ば

問50. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(○は1つ)

図表 18-1-1 市政情報を得ているもの



市政情報を主に得ているものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(64.8%)が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」(4.9%)、「越谷cityメール配信サービス」(2.6%)、「地区センターだより」(2.5%)、「公共施設にあるポスターやチラシ」(2.4%)の順となっている。また、「その他」として「ツイッター」「SNS」「エフエムこしがや」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(64.8%)は平成28年度調査(72.0%)と比べ7.2ポイント減少している。

性別で見ると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（66.1%）が男性（63.7%）より2.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性60～69歳（78.5%）、男性70歳以上（77.1%）で8割弱と多く、女性50～59歳（72.9%）、男性60～69歳（70.9%）で7割以上と多くなっている。また、「越谷市公式ホームページ」は女性30～39歳（10.8%）、男性18～29歳、男性30～39歳（ともに10.3%）、男性40～49歳（9.2%）で約1割と多く、「越谷cityメール配信サービス」は女性30～39歳（9.2%）で約1割と多くなっている。

図表 18-1-2 性・年齢別 市政情報を得ているもの

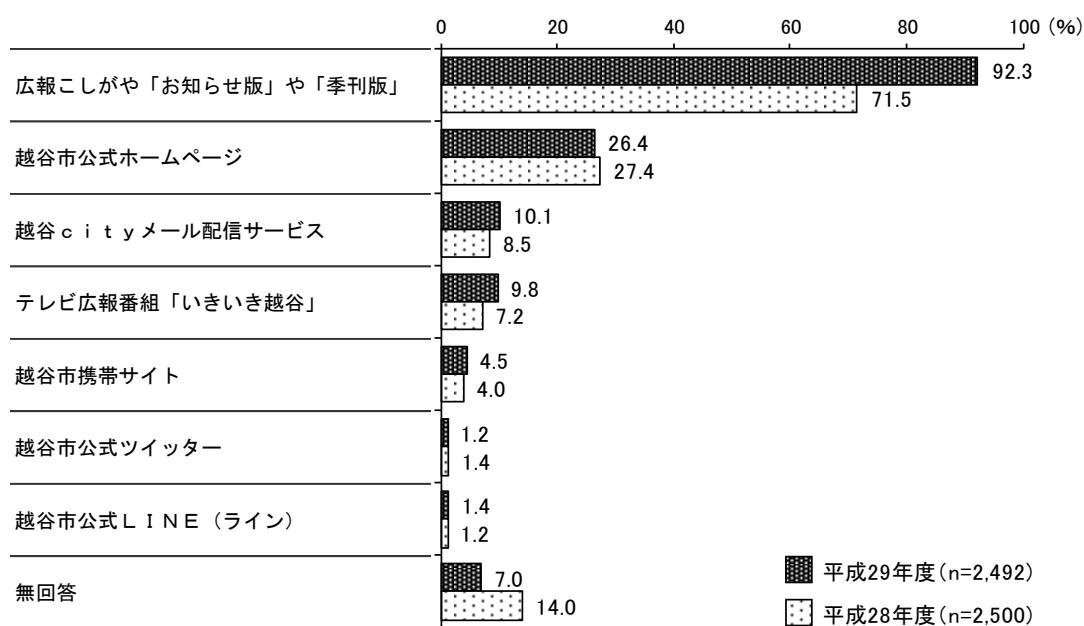
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』」	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	地区センターだより	公共施設にあるポスターやチラシ	直接、市役所に電話をする	友人・知人	新聞	その他	特に情報は得ていない	無回答	(%)
全 体	2,492	64.8	1.6	4.9	0.7	2.6	2.5	2.4	0.6	2.3	1.4	0.5	11.0	4.8	
女性全体	1,304	66.1	1.7	4.4	1.1	3.8	3.5	2.3	0.5	2.7	0.6	0.7	8.8	3.9	
18～29歳	101	39.6	3.0	7.9	2.0	1.0	-	5.9	-	4.0	-	2.0	32.7	2.0	
30～39歳	185	56.2	-	10.8	1.1	9.2	2.7	1.6	0.5	4.3	0.5	1.1	10.8	1.1	
40～49歳	228	61.0	3.1	4.4	3.1	7.9	3.5	3.9	-	2.6	-	0.4	8.3	1.8	
50～59歳	210	72.9	1.4	6.2	0.5	4.3	3.3	1.4	-	1.0	-	1.0	5.7	2.4	
60～69歳	251	78.5	1.6	1.6	0.4	-	3.2	1.2	0.8	3.2	0.8	-	4.8	4.0	
70歳以上	323	69.7	1.5	0.6	0.3	1.5	5.0	1.5	0.9	2.2	1.5	0.6	5.9	8.7	
男性全体	996	63.7	1.5	5.6	0.4	1.3	1.5	2.4	0.4	1.8	2.2	0.4	14.9	3.9	
18～29歳	97	29.9	3.1	10.3	-	-	-	5.2	-	3.1	3.1	2.1	42.3	1.0	
30～39歳	116	43.1	-	10.3	-	2.6	-	6.9	-	4.3	2.6	0.9	27.6	1.7	
40～49歳	173	64.2	2.3	9.2	0.6	2.3	1.7	-	0.6	1.2	-	0.6	16.2	1.2	
50～59歳	147	68.7	2.0	2.7	0.7	3.4	2.7	2.7	-	1.4	2.0	-	12.9	0.7	
60～69歳	203	70.9	1.5	6.4	1.0	-	1.5	2.0	1.0	1.0	3.4	-	8.4	3.0	
70歳以上	253	77.1	0.8	0.4	-	0.4	2.0	1.2	0.4	1.6	2.4	-	4.0	9.9	

(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が9割強

問51. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。
(複数回答可)

図表 18-2-1 市政情報を得るために活用したことがあるもの



市政情報を得るために活用したことがあるものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(92.3%)が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」(26.4%)、「越谷cityメール配信サービス」(10.1%)、「テレビ広報番組『いきいき越谷』」(9.8%)、「越谷市携帯サイト」(4.5%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(92.3%)で平成28年度調査(71.5%)と比べ20.8ポイント増加している。

性別でみると、「越谷cityメール配信サービス」は女性（13.1%）が男性（7.3%）より5.8ポイント高くなっている。一方、「越谷市公式ホームページ」は男性（28.8%）が女性（26.5%）より2.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性30～39歳（97.3%）で最も多く、いずれの年代でも9割弱以上となっている。また、「越谷市公式ホームページ」は女性30～39歳（52.4%）で5割強と最も多く、男性40～49歳（46.8%）で4割半ばと多くなっている。「越谷cityメール配信サービス」は女性40～49歳（32.9%）で3割強と最も多くなっている。

図表 18-2-2 性・年齢別 市政情報を得るために活用したことがあるもの

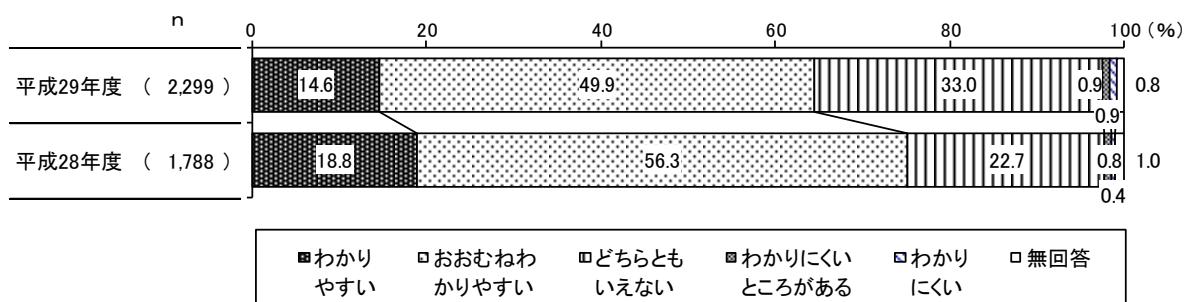
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』や『お知らせ版』」	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	越谷市公式ツイッター	越谷市公式LINE（ライン）	無回答
全体	2,492	92.3	9.8	26.4	4.5	10.1	1.2	1.4	7.0
女性全体	1,304	93.6	8.7	26.5	5.5	13.1	1.0	1.6	5.8
18～29歳	101	87.1	5.9	41.6	11.9	5.9	4.0	1.0	8.9
30～39歳	185	97.3	3.8	52.4	10.3	27.6	2.2	3.8	1.6
40～49歳	228	96.5	10.1	39.0	11.8	32.9	0.9	3.1	3.1
50～59歳	210	95.7	8.1	33.3	4.8	11.0	1.4	2.4	4.3
60～69歳	251	94.4	9.2	15.5	1.6	1.6	-	-	5.6
70歳以上	323	89.2	11.8	2.5	-	3.7	-	0.3	10.5
男性全体	996	92.1	10.5	28.8	3.6	7.3	1.8	1.2	6.9
18～29歳	97	89.7	11.3	27.8	4.1	4.1	7.2	7.2	7.2
30～39歳	116	94.0	6.0	40.5	8.6	12.1	2.6	0.9	4.3
40～49歳	173	95.4	10.4	46.8	6.4	13.3	2.3	1.7	4.0
50～59歳	147	94.6	16.3	34.7	3.4	12.2	1.4	0.7	4.8
60～69歳	203	92.6	6.9	29.1	3.0	3.9	0.5	-	6.9
70歳以上	253	88.5	11.9	8.3	-	2.4	0.4	-	10.7

(3) 広報こしがや「お知らせ版」の感想

◇『わかりやすい』が6割半ば

問52. 広報こしがや「お知らせ版」について伺います。「お知らせ版」の感想を選んでください。(○は1つ)

図表 18-3-1 広報こしがや「お知らせ版」の感想

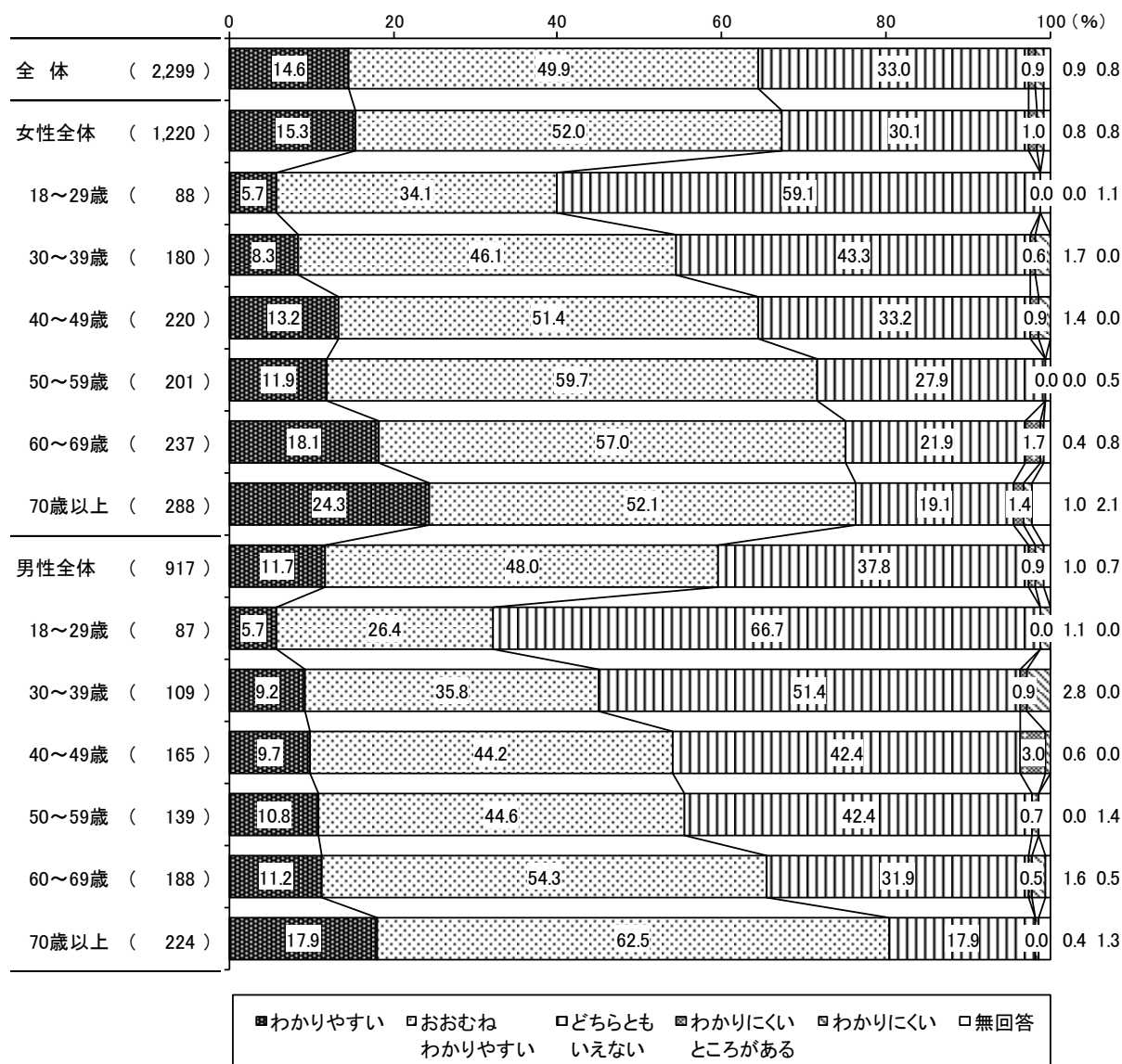


広報こしがや「お知らせ版」の感想については、「わかりやすい」(14.6%)と「おおむねわかりやすい」(49.9%)を合わせた『わかりやすい』(64.5%)が6割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『わかりやすい』(64.5%)は平成28年度調査(75.1%)と比べ10.6ポイント減少している。

性別でみると、『わかりやすい』は女性(67.3%)が男性(59.7%)より7.6ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『わかりやすい』は男性70歳以上(80.4%)で約8割と最も多く、女性70歳以上(76.4%)、女性60~69歳(75.1%)で7割半ばと多くなっている。

図表 18-3-2 性・年齢別 広報こしがや「お知らせ版」の感想



(4) 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点

◇「知りたい情報が少ない」が最も多い

問52-2. 問52で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。

図表 18-4-1 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点

内 容	件数
知りたい情報が少ない	6
文字が小さい、詰まっている	5
見づらい、読みづらい	4
見出しやレイアウトがわかりづらい	3
情報、内容が多すぎる	3
文章がかたい、理解しにくい	2
その他	6
計	29

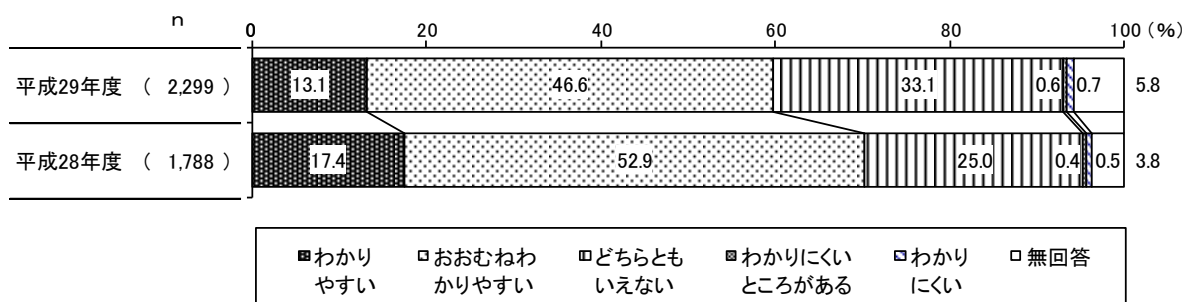
広報こしがや「お知らせ版」が『わかりにくい』と回答した40人に、そう感じた理由を聞いたところ、回答のあった意見数29件のうち「知りたい情報が少ない」(6件)が最も多く、次いで、「文字が小さい、詰まっている」(5件)、「見づらい、読みづらい」(4件)などの順となっている。また、「その他」として「字数が多い」「ページ数が少ない」「変わりばえしない」等があげられた

(5) 広報こしがや「季刊版」の感想

◇『わかりやすい』が約6割

問53. 広報こしがや「季刊版」について伺います。「季刊版」の感想を選んでください。
(○は1つ)

図表 18-5-1 広報こしがや「季刊版」の感想

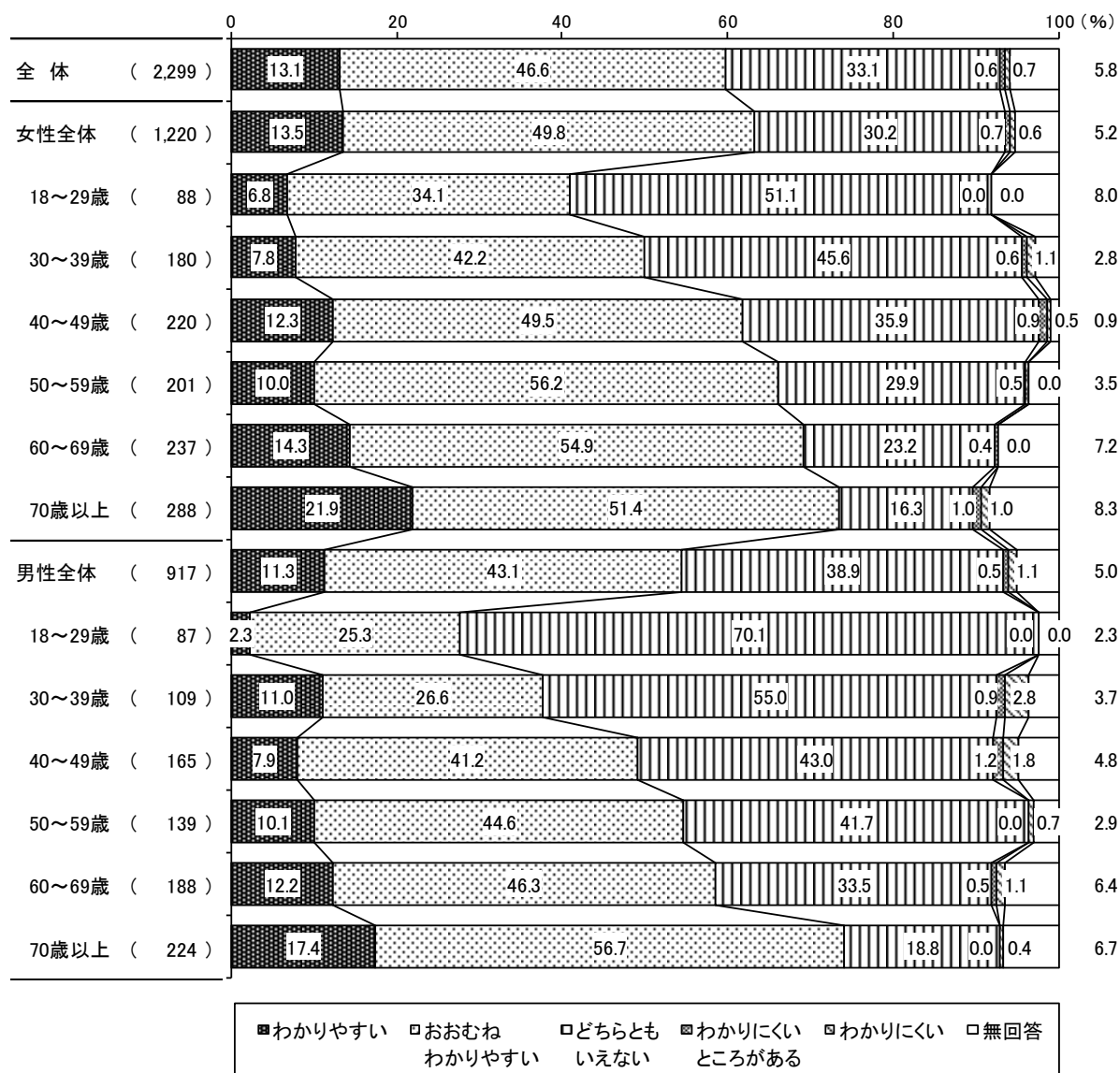


広報こしがや「季刊版」の感想については、「わかりやすい」(13.1%)と「おおむねわかりやすい」(46.6%)を合わせた『わかりやすい』(59.7%)が約6割となっている。

前回の調査と比較すると、『わかりやすい』(59.7%)は平成28年度調査(70.3%)と比べ10.6ポイント減少している。

性別で見ると、『わかりやすい』は女性(63.3%)が男性(54.4%)より8.9ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『わかりやすい』は男性70歳以上(74.1%)、女性70歳以上(73.3%)、女性60～69歳(69.2%)でおよそ7割以上と多くなっている。

図表 18-5-2 性・年齢別 広報こしがや「季刊版」の感想



(6) 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点

◇「知りたい情報が少ない」が最も多い

問53-2. 問53で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。

図表 18-6-1 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点

内 容	件数
知りたい情報が少ない	3
文字が小さい、詰まっている	2
見づらい、読みづらい	2
見出しやレイアウトがわかりづらい	2
情報、内容が多すぎる	2
その他	7
計	18

広報こしがや「季刊版」が『わかりにくい』と回答した31人に、そう感じた理由を聞いたところ、回答のあった意見数18件のうち「知りたい情報が少ない」(3件)が最も多く、「文字が小さい、詰まっている」、「見づらい、読みづらい」、「見出しやレイアウトがわかりづらい」、「情報、内容が多すぎる」(いずれも2件)などの順となっている。また、「その他」として「字数が多い」「変わりばえしない」「ホチキス止めしてほしい」等が挙げられた。

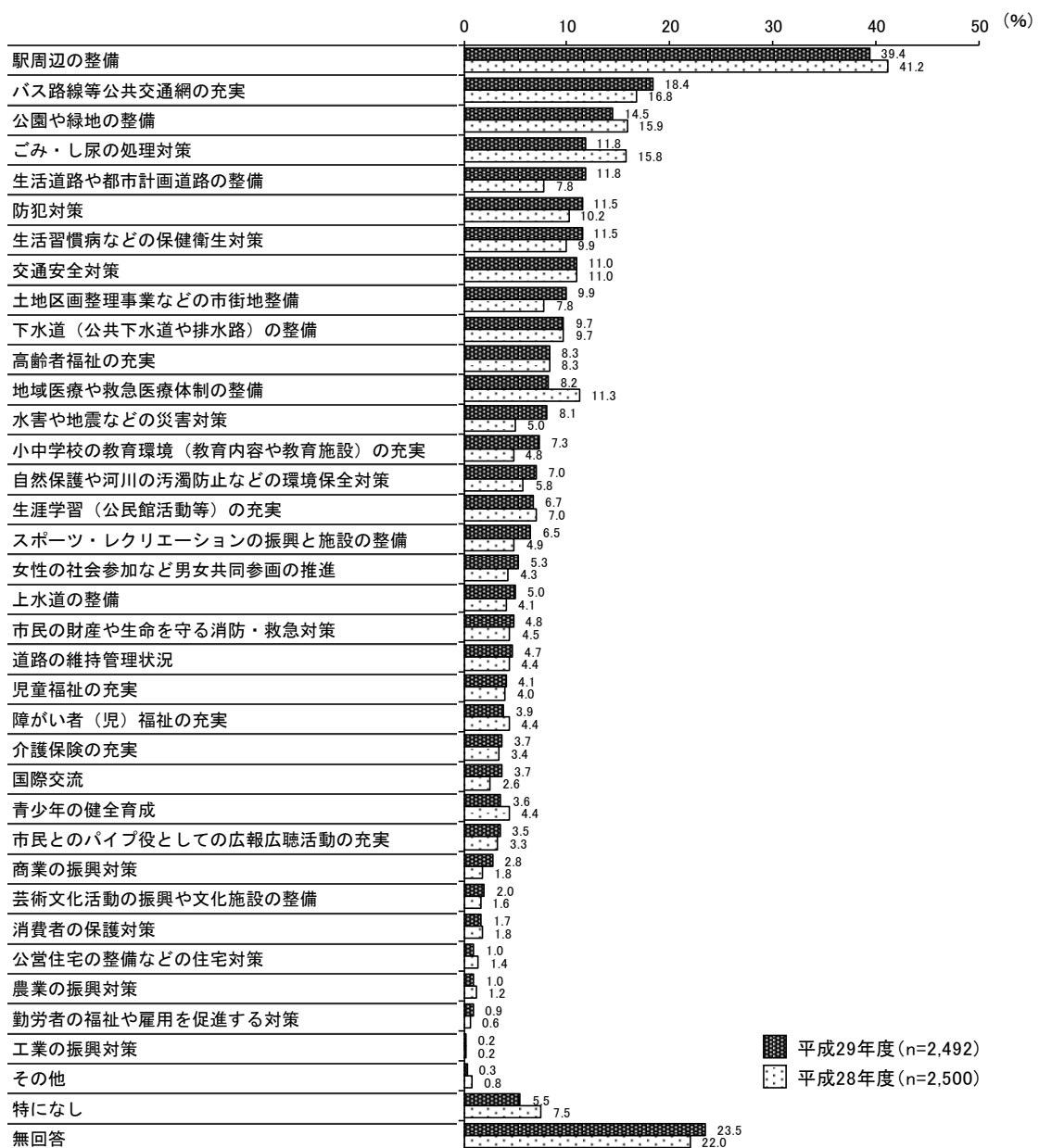
19. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が約4割

問54. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 19-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」については、「駅周辺の整備」(39.4%)が最も多く、次いで、「バス路線等公共交通網の充実」(18.4%)、「公園や緑地の整備」(14.5%)、「ごみ・し尿の処理対策」「生活道路や都市計画道路の整備」(ともに11.8%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「生活道路や都市計画道路の整備」(11.8%)は平成28年度調査(7.8%)と比べ4.0ポイント増加している。

性別でみると、4位は女性が「生活習慣病などの保健衛生対策」(11.7%)、男性が「生活道路や都市計画道路の整備」(14.0%)、5位は女性が「ごみ・し尿の処理対策」(11.3%)、男性が「防犯対策」(13.7%)となっている。

性・年齢別でみると、「駅周辺の整備」はすべての性・年齢で1位となっており、男性40～49歳(47.4%)で5割弱と最も多くなっている。

図表 19-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全 体 (2,492)	駅周辺の整備 39.4	バス路線等公共交通網の充実 18.4	公園や緑地の整備 14.5	生活道路や都市計画道路の整備 ごみ・し尿の処理対策 11.8		
女性全体 (1,304)	駅周辺の整備 40.1	バス路線等公共交通網の充実 19.2	公園や緑地の整備 13.4	生活習慣病などの保健衛生対策 11.7	ごみ・し尿の処理対策 11.3	
18～29歳 (101)	駅周辺の整備 44.6	バス路線等公共交通網の充実 13.9	土地区画整理事業などの市街地整備 12.9	生活道路や都市計画道路の整備 公園や緑地の整備		11.9
30～39歳 (185)	駅周辺の整備 40.5	公園や緑地の整備 17.3	土地区画整理事業などの市街地整備 14.1	バス路線等公共交通網の充実 13.5	交通安全対策 12.4	
40～49歳 (228)	駅周辺の整備 42.5	バス路線等公共交通網の充実 19.3	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設) 16.7	公園や緑地の整備 13.2	水害や地震などの災害対策 11.8	
50～59歳 (210)	駅周辺の整備 44.3	バス路線等公共交通網の充実 18.1	公園や緑地の整備 13.8	生活道路や都市計画道路の整備 13.3	ごみ・し尿の処理対策 11.4	
60～69歳 (251)	駅周辺の整備 39.0	バス路線等公共交通網の充実 27.9	生活習慣病などの保健衛生対策 17.9	ごみ・し尿の処理対策 15.1	公園や緑地の整備 14.7	
70歳以上 (323)	駅周辺の整備 35.3	バス路線等公共交通網の充実 18.3	生活習慣病などの保健衛生対策 16.1	ごみ・し尿の処理対策 15.2	高齢者福祉の充実 13.9	
男性全体 (996)	駅周辺の整備 40.4	バス路線等公共交通網の充実 18.2	公園や緑地の整備 16.3	生活道路や都市計画道路の整備 14.0	防犯対策 13.7	
18～29歳 (97)	駅周辺の整備 37.1	防犯対策 21.6	交通安全対策 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設) 19.6		バス路線等公共交通網の充実 14.4	
30～39歳 (116)	駅周辺の整備 39.7	土地区画整理事業などの市街地整備 公園や緑地の整備 17.2		生活道路や都市計画道路の整備 14.7	商業の振興対策 14.7	
40～49歳 (173)	駅周辺の整備 47.4	生活道路や都市計画道路の整備 21.4	バス路線等公共交通網の充実 19.7	土地区画整理事業などの市街地整備 公園や緑地の整備		17.3
50～59歳 (147)	駅周辺の整備 43.5	バス路線等公共交通網の充実 17.7	土地区画整理事業などの市街地整備 16.3	公園や緑地の整備 15.6	防犯対策 15.0	
60～69歳 (203)	駅周辺の整備 43.3	公園や緑地の整備 19.7	バス路線等公共交通網の充実 18.2	交通安全対策 17.2	防犯対策 16.7	
70歳以上 (253)	駅周辺の整備 33.2	バス路線等公共交通網の充実 ごみ・し尿の処理対策 21.7		生活習慣病などの保健衛生対策 17.8	高齢者福祉の充実 15.0	

居住地別でみると、「駅周辺の整備」はすべての地区で1位となっており、越ヶ谷地区（44.8%）、増林地区（44.4%）で4割半ばと多くなっている。

図表 19-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

(%)

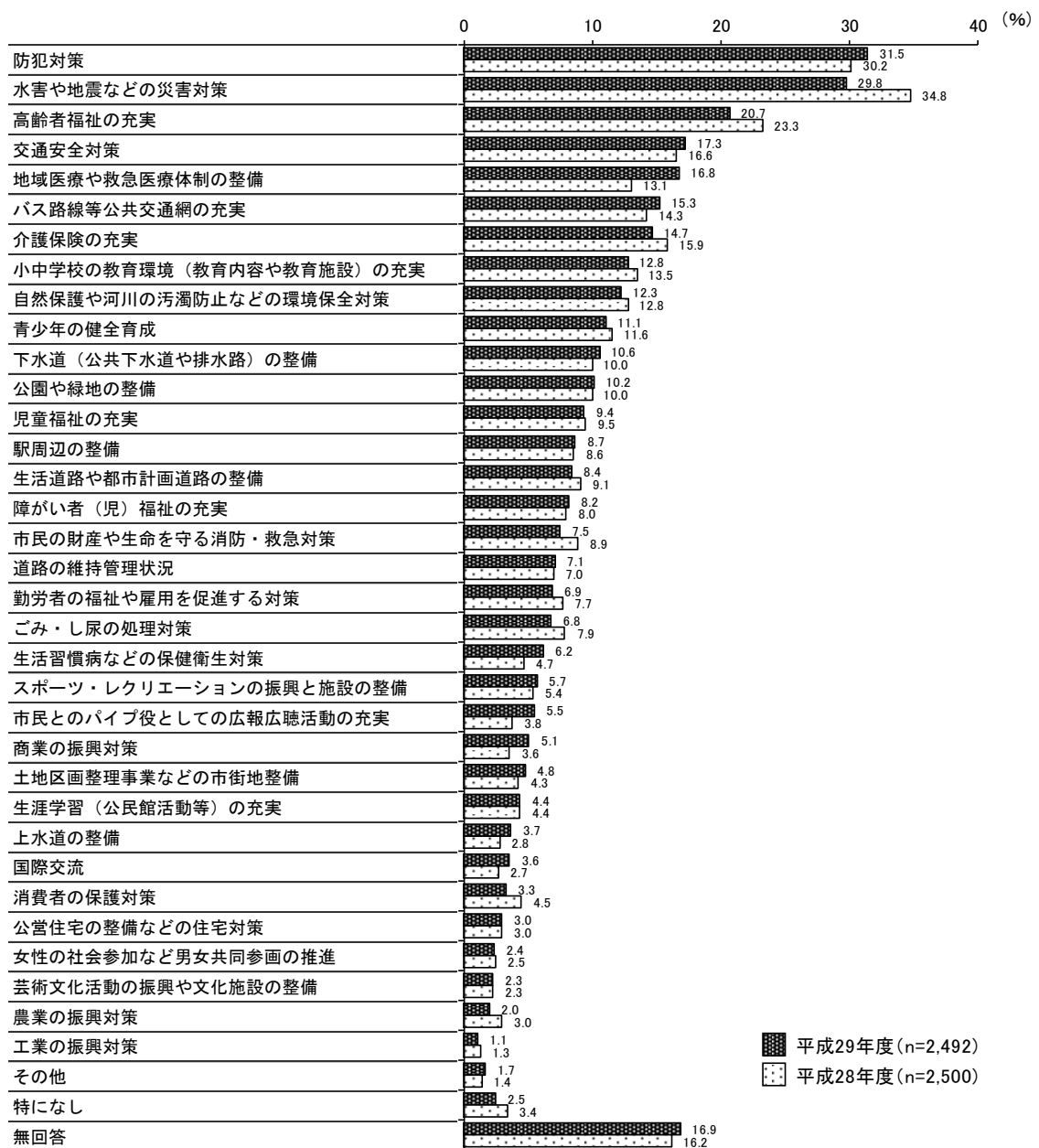
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,492)	駅周辺の整備 39.4	バス路線等公共交通網の充実 18.4	公園や緑地の整備 14.5	生活道路や都市計画道路の整備 ごみ・し尿の処理対策 11.8	
桜井地区 (277)	駅周辺の整備 34.3	バス路線等公共交通網の充実 19.5	ごみ・し尿の処理対策 15.2	下水道（公共下水道や排水路） の整備 14.8	生活習慣病などの保健衛生対策 13.7
新方地区 (130)	駅周辺の整備 37.7	バス路線等公共交通網の充実 30.0	防犯対策 16.9	高齢者福祉の充実 水害や地震などの災害対策 16.9	
増林地区 (189)	駅周辺の整備 44.4	バス路線等公共交通網の充実 32.8	公園や緑地の整備 20.1	生活道路や都市計画道路の整備 14.3	土地区画整理事業などの市街地 整備 13.8
大袋地区 (361)	駅周辺の整備 42.1	土地区画整理事業などの市街地 整備 15.5	公園や緑地の整備 13.9	生活道路や都市計画道路の整備 13.3	交通安全対策 11.6
荻島地区 (86)	駅周辺の整備 38.4	ごみ・し尿の処理対策 17.4	公園や緑地の整備 15.1	生活習慣病などの保健衛生対策 14.0	生活道路や都市計画道路の整備 12.8
出羽地区 (183)	駅周辺の整備 40.4	バス路線等公共交通網の充実 16.9	防犯対策 13.7	交通安全対策 12.6	生活習慣病などの保健衛生対策 11.5
蒲生地区 (292)	駅周辺の整備 39.4	バス路線等公共交通網の充実 20.5	ごみ・し尿の処理対策 13.4	公園や緑地の整備 12.7	交通安全対策 12.0
川柳地区 (56)	駅周辺の整備 30.4	バス路線等公共交通網の充実 25.0	交通安全対策 12.5	高齢者福祉の充実 公園や緑地の整備 10.7	
大相模地区 (199)	駅周辺の整備 36.2	公園や緑地の整備 25.1	土地区画整理事業などの市街地 整備 20.6	生活道路や都市計画道路の整備 16.6	バス路線等公共交通網の充実 14.1
大沢地区 (168)	駅周辺の整備 43.5	バス路線等公共交通網の充実 16.1	公園や緑地の整備 14.9	ごみ・し尿の処理対策 13.1	防犯対策 11.9
北越谷地区 (90)	駅周辺の整備 30.0	公園や緑地の整備 ごみ・し尿の処理対策 16.7		小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設） 14.4	バス路線等公共交通網の充実 12.2
越ヶ谷地区 (261)	駅周辺の整備 44.8	バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備 14.9		防犯対策 12.3	生活道路や都市計画道路の整備 11.1
南越谷地区 (176)	駅周辺の整備 39.8	バス路線等公共交通網の充実 23.3	生活習慣病などの保健衛生対策 公園や緑地の整備 14.8		防犯対策 12.5

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「防犯対策」が約3割

問54. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 19-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



市の施策に対して、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」については、「防犯対策」(31.5%)が最も多く、次いで、「水害や地震などの災害対策」(29.8%)「高齢者福祉の充実」(20.7%)、「交通安全対策」(17.3%)、「地域医療や救急医療体制の整備」(16.8%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「地域医療や救急医療体制の整備」(16.8%)は平成28年度調査(13.1%)と比べ3.7ポイント増加している。

性別でみると、3位は女性が「高齢者福祉の充実」(22.1%)、男性が「交通安全対策」(19.8%)、4位は女性が「地域医療や救急医療体制の整備」(17.6%)、男性が「高齢者福祉の充実」(19.6%)、5位は女性が「介護保険の充実」(16.4%)、男性が「地域医療や救急医療体制の整備」(16.5%)となっている。

性・年齢別でみると、「防犯対策」は女性40～49歳(43.9%)、女性30～39歳(42.2%)で4割強と多くなっている。また、「水害や地震などの災害対策」は女性50～59歳(37.1%)で4割弱と多くなっている。

図表 19-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (2,492)	防犯対策 31.5	水害や地震などの災害対策 29.8	高齢者福祉の充実 20.7	交通安全対策 17.3	地域医療や救急医療体制の整備 16.8
女性全体 (1,304)	防犯対策 33.6	水害や地震などの災害対策 31.4	高齢者福祉の充実 22.1	地域医療や救急医療体制の整備 17.6	介護保険の充実 16.4
18～29歳 (101)	防犯対策 31.7	水害や地震などの災害対策 19.8	交通安全対策 18.8	児童福祉の充実 14.9	障がい者(児)福祉の充実の充実 高齢者福祉の充実 小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設) 13.9
30～39歳 (185)	防犯対策 42.2	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設) 37.8	水害や地震などの災害対策 25.9	児童福祉の充実 23.8	交通安全対策 バス路線等公共交通網の充実 18.9
40～49歳 (228)	防犯対策 43.9	水害や地震などの災害対策 29.4	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設) 23.7	高齢者福祉の充実 22.4	地域医療や救急医療体制の整備 21.5
50～59歳 (210)	水害や地震などの災害対策 37.1	防犯対策 34.8	高齢者福祉の充実 21.0	地域医療や救急医療体制の整備 介護保険の充実 20.5	
60～69歳 (251)	水害や地震などの災害対策 32.3	防犯対策 31.9	高齢者福祉の充実 30.7	介護保険の充実 21.5	地域医療や救急医療体制の整備 20.7
70歳以上 (323)	水害や地震などの災害対策 34.7	高齢者福祉の充実 23.5	防犯対策 22.9	介護保険の充実 20.1	バス路線等公共交通網の充実 16.4
男性全体 (996)	防犯対策 31.1	水害や地震などの災害対策 29.4	交通安全対策 19.8	高齢者福祉の充実 19.6	地域医療や救急医療体制の整備 16.5
18～29歳 (97)	交通安全対策 24.7	防犯対策 20.6	バス路線等公共交通網の充実 水害や地震などの災害対策 16.5		青少年の健全育成 15.5
30～39歳 (116)	防犯対策 31.9	水害や地震などの災害対策 29.3	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設) 19.8	児童福祉の充実 19.0	交通安全対策 18.1
40～49歳 (173)	防犯対策 39.3	水害や地震などの災害対策 30.1	交通安全対策 20.8	高齢者福祉の充実 駅周辺の整備 16.2	
50～59歳 (147)	防犯対策 36.7	水害や地震などの災害対策 33.3	交通安全対策 22.4	地域医療や救急医療体制の整備 17.7	高齢者福祉の充実 17.0
60～69歳 (203)	水害や地震などの災害対策 30.0	防犯対策 29.6	高齢者福祉の充実 27.1	地域医療や救急医療体制の整備 18.2	介護保険の充実 17.2
70歳以上 (253)	水害や地震などの災害対策 31.2	防犯対策 26.9	高齢者福祉の充実 25.3	地域医療や救急医療体制の整備 19.8	交通安全対策 19.0

居住地区別でみると、「水害や地震などの災害対策」は新方地区（42.3%）、北越谷地区（40.0%）で4割以上と多くなっている。また、「防犯対策」は増林地区（36.5%）、南越谷地区（35.2%）、北越谷地区（34.4%）、蒲生地区、大相模地区（ともに34.2%）で3割半ばと多くなっている。

図表 19-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,492)	防犯対策 31.5	水害や地震などの災害対策 29.8	高齢者福祉の充実 20.7	交通安全対策 17.3	地域医療や救急医療体制の整備 16.8
桜井地区 (277)	水害や地震などの災害対策 34.7	防犯対策 27.8	高齢者福祉の充実 21.7	バス路線等公共交通網の充実 18.8	交通安全対策 介護保険の充実 17.7
新方地区 (130)	水害や地震などの災害対策 42.3	防犯対策 33.1	バス路線等公共交通網の充実 25.4	高齢者福祉の充実 23.8	地域医療や救急医療体制の整備 21.5
増林地区 (189)	防犯対策 36.5	水害や地震などの災害対策 33.9	高齢者福祉の充実 22.8	交通安全対策 20.6	地域医療や救急医療体制の整備 15.9
大袋地区 (361)	水害や地震などの災害対策 31.9	防犯対策 29.9	高齢者福祉の充実 21.3	地域医療や救急医療体制の整備 16.9	バス路線等公共交通網の充実 16.3
荻島地区 (86)	水害や地震などの災害対策 31.4	防犯対策 26.7	バス路線等公共交通網の充実 24.4	下水道（公共下水道や排水路） の整備 22.1	地域医療や救急医療体制の整備 自然保護や河川の汚濁防止などの 環境保全対策 16.3
出羽地区 (183)	防犯対策 28.4	水害や地震などの災害対策 27.3	高齢者福祉の充実 21.9	バス路線等公共交通網の充実 19.7	交通安全対策 下水道（公共下水道や排水路） の整備 18.0
蒲生地区 (292)	防犯対策 34.2	水害や地震などの災害対策 27.1	高齢者福祉の充実 24.0	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備	19.5
川柳地区 (56)	防犯対策 23.2	交通安全対策 19.6	高齢者福祉の充実 19.6	下水道（公共下水道や排水路） の整備 自然保護や河川の汚濁防止などの 環境保全対策	17.9
大相模地区 (199)	防犯対策 34.2	水害や地震などの災害対策 28.1	小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設） 22.6	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備	20.1
大沢地区 (168)	防犯対策 33.3	水害や地震などの災害対策 26.8	高齢者福祉の充実 23.2	介護保険の充実 16.1	交通安全対策 15.5
北越谷地区 (90)	水害や地震などの災害対策 40.0	防犯対策 34.4	公園や緑地の整備 18.9	高齢者福祉の充実 17.8	バス路線等公共交通網の充実 自然保護や河川の汚濁防止などの 環境保全対策 16.7
越ヶ谷地区 (261)	防犯対策 30.3	水害や地震などの災害対策 24.5	高齢者福祉の充実 19.9	交通安全対策 16.9	青少年の健全育成 介護保険の充実 15.3
南越谷地区 (176)	防犯対策 35.2	水害や地震などの災害対策 23.9	交通安全対策 19.3	地域医療や救急医療体制の整備 16.5	介護保険の充実 小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設） 15.3

(96)

(3) 自由回答

問55. 問54で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応（対策）を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は1,109件（意見等合計2,392件）であった。

これを下記のとおり「第4次越谷市総合振興計画後期基本計画」の項目ごとに整理した。

図表 19-3-1 自由回答

		件数
大綱1. 市民とつくる住みよい自治のまちづくり	市民参加と協働による市政を進める	102
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	36
	健全で開かれた都市経営を進める	78
大綱2. だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	24
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	90
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	156
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	59
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	178
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	42
大綱3. 自然と調和し質の高い都市機能を備えたまちづくり	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	133
	越谷らしい景観をつくる	27
	地域を支える道路・交通環境をつくる	282
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	125
	安全で良好な水環境をつくる	169
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	19
大綱4. 人や環境にやさしく安全・安心な生活を育むまちづくり	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	147
	安全・安心に暮らせるまちにする	344
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	55
大綱5. 安心して働ける環境を育む持続的で躍動するまちづくり	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	5
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	60
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	1
	持続的に農業が行われる環境をつくる	14
	地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	19
大綱6. いきいきとだれもが学べる心豊かなまちづくり	生きる力を育む学校教育を進める	85
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	27
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	34
その他		81

総計 2,392

大綱	区分	内容	件数
1	市民参加と協働による市政を進める	市政への市民参加を進める	4
		市民との協働のまちづくりを進める	33
		情報を提供し、市民との共有を図る	65
		計	102
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	相手を思いやる人権意識を高める	3
		人権教育を進める	5
		男女共同参画社会を進める	10
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	18
		平和への意識を高める	0
	計	36	
	健全で開かれた都市経営を進める	効率的かつ効果的な行政運営を進める	41
		行財政運営の健全化を進める	36
		都市間の連携強化を進める	1
		計	78

大綱	区分	内容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	24
		計	24
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	地域医療体制の充実を図る	66
		市民の健康づくりを推進する	22
		保健衛生体制の充実を図る	2
		計	90
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	地域の中で子育てを支える	28
		地域の中で子どもが自ら育つ環境をつくる	49
		次世代を担う子どもたちのために育てやすい環境をつくる	79
		計	156
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	11
		在宅サービスを受ける人、支える人のすべてを支援し、自立できる社会をつくる	26
		地域生活を支え社会参加を促進する	5
		円滑な移動を可能とする人にやさしい環境をつくる	17
		計	59
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	15
		健康づくりと介護予防を進める	10
		介護保険制度の充実を図る	25
		高齢者を支える地域をつくる	128
		計	178
市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方へのサポート体制の充実に努める	20	
	医療保険制度の充実を図る	12	
	安定した生活を送るため年金制度を支援する	10	
	計	42	

大綱	区分	内容	件数
3	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	総合的な土地利用を進める	33
		活気ある市街地をつくる	75
		災害に強い都市をつくる	25
		計	133
	越谷らしい景観をつくる	景観に配慮したまちづくりを推進する	23
		協働による景観創造の仕組みをつくる	4
		計	27
	地域を支える道路・交通環境をつくる	道路の整備を図る	122
		道路施設等の適正管理を行う	31
		公共交通網の充実を図る	129
		計	282
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	23
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	58
		水辺を活かした快適な空間をつくる	44
		計	125
	安全で良好な水環境をつくる	雨水災害の対策を進める	89
		水質を保全し快適な生活環境をつくる	74
		安全な水を安定して確保する	6
		計	169
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	14
住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る		5	
計		19	

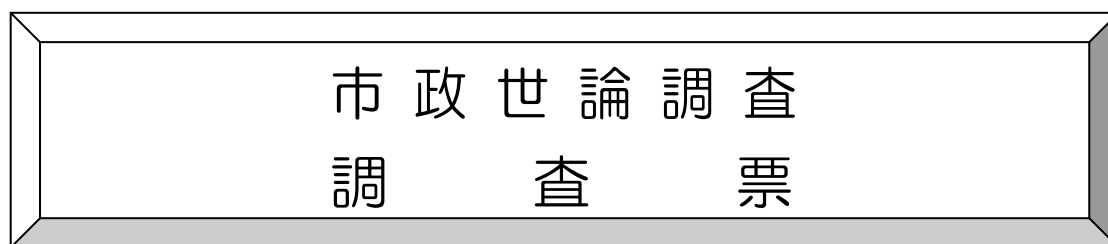
大綱	区分	内容	件数
4	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	環境に配慮した仕組みをつくる	32
		廃棄物の減量と適正な処理を進める	35
		やすらぎとうるおいのある環境を守り育てる	80
		計	147
	安全・安心に暮らせるまちにする	危機管理対策の充実を図る	29
		災害対策を進める	48
		地域の防犯力を高める	184
		交通事故防止対策を進める	77
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	6
		計	344
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動を展開する	4
		消防力の充実・強化を図る	6
		災害への対応力を強化する	11
		救急体制を充実させる	33
		消防団の充実・強化を図る	1
	計	55	

大綱	区分	内 容	件数
5	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	既存産業の活性化を図る	2
		新たな産業を育成する	3
		計	5
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	魅力ある商店街の振興を図る	40
		にぎわいを生み出す観光を進める	20
		計	60
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	魅力あるものづくりを育て継承する	1
		計	1
	持続的に農業が行われる環境をつくる	首都近郊という地理的優位性を活かした都市農業の展開を支援する	2
		豊かな実りを生む農業の基盤を整える	6
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	4
		市民が農業を支える仕組みをつくる	2
		計	14
	地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	雇用対策の充実を図る	15
勤労者福利厚生を支援する		4	
計		19	

大綱	区分	内 容	件数
6	生きる力を育む学校教育を進める	自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む	9
		自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む	12
		信頼される、質の高い教育環境をつくる	64
		計	85
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	生涯を通じた学習活動を推進する	10
		芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する	17
		計	27
	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	4
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実を図る	14
		スポーツ・レクリエーション施設の充実を図る	16
		計	34

大綱	区分	内 容	件数
その他		アンケートについての意見・要望・感謝	16
		市政への激励	12
		市政へ関心を持つとうという自覚の再認識	1
		住みよい街でうれしい・感謝	20
		その他	32
		計	81

第5章 調査票



平成29年6月

●ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません。)

ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。

2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。

3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。

お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。

4. 「その他〔 〕」に○をつけたときは、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れて **7月7日(金)**までに、郵便ポストにご投函ください。(切手は不要です。)

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市長公室 広報広聴課

電話 048-963-9117(直通)

FAX 048-965-0943

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 十分満足している | 4. まだまだ不満だ |
| 2. 十分とはいえないが、一応満足している | 5. 極めて不満だ |
| 3. ふつう | 6. わからない |

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. ずっと住み続けたい | 4. 引っ越したい |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば引っ越したい | |

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 商業や事業に不利なので | 8. 買い物が不便なので |
| 2. 交通の便が悪いので | 9. 医療機関が近くにない |
| 3. 現在、住んでいる住宅が狭いので | 10. このまちに愛着がないから |
| 4. 付近の生活環境が悪いので | 11. 地域になじめないから |
| 5. 仕事の関係で | 12. 家族の介護の関係で |
| 6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため | 13. その他 [] |
| 7. こどもの教育のため | 14. 特に理由はない |

人権全般に関する意識についておたずねします。

問10. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。

(〇は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分尊重されている | 3. あまり尊重されていない |
| 2. やや尊重されている | 4. 尊重されていない |

問11. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1. 非常に高くなっている | 3. 変わっていない | 5. 低くなっている |
| 2. やや高くなっている | 4. やや低くなっている | |

問12. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。

(複数回答可)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 9. 刑を終えて出所した人々の人権問題 |
| 2. 子どもの人権問題 | 10. 犯罪被害者やその家族の人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 11. インターネット上における人権問題 |
| 4. 障がい者の人権問題 | 12. 北朝鮮当局による拉致問題 |
| 5. 同和問題 | 13. ホームレスの人々の人権問題 |
| 6. アイヌ民族の人権問題 | 14. L G B Tなど性的少数者の人権問題 |
| 7. 外国人の人権問題 | 15. 大規模災害時の避難生活などにおける人権問題 |
| 8. エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題 | 16. その他 [] |

問25. あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナー・恋人から、次のような行為をされたことがありますか。 (それぞれ〇は1つつ)

ア 殴る・蹴る・物を投げつける・突き飛ばす等の、身体に対する暴力を受けた

1. 何度もあった	2. 1～2度あった	3. まったくない
-----------	------------	-----------

イ あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

1. 何度もあった	2. 1～2度あった	3. まったくない
-----------	------------	-----------

ウ 暴言・人格否定・長期間の無視・交友関係や行き先など細かく監視等の、精神的な嫌がらせを受けた

1. 何度もあった	2. 1～2度あった	3. まったくない
-----------	------------	-----------

エ 嫌がっているのに、性的な行為を強要された

1. 何度もあった	2. 1～2度あった	3. まったくない
-----------	------------	-----------

問26. 問25の**ア～エ**のうち、1つでも「1」または「2」(そのような行為があった)と答えた方に伺います。あなたは、その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(〇は1つ)

1. 相談した	2. 相談できなかった	3. 相談しようとは思わなかった
---------	-------------	------------------

問26-2. 問26で「1. 相談した」と答えた方に伺います。あなたが相談した人(場所)について、次の中から当てはまるものを選んでください。 (複数回答可)

1. 家族・親せき	7. その他の公的機関
2. 友人・知人	[具体的に:]
3. 警察署	8. 弁護士
4. 越谷市女性・DV相談支援センターの相談窓口	9. 民間の相談機関(NPO含む)
5. 越谷市男女共同参画支援センター 「ほっと越谷」の相談窓口	10. 医療機関・医療従事者
6. 市区町村の窓口	11. 人権擁護委員
	12. その他 []

問26-3. 問26で「2」または「3」(相談できなかった、相談しようとは思わなかった)と答えた方に伺います。あなたが誰(どこ)にも相談しなかった理由は、次のうちどれですか。当てはまるものを選んでください。

(複数回答可)

1. 相談するほどのことではないと思ったから	8. 誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから
2. 相談しても無駄だと思ったから	9. 他人を巻き込みたくないから
3. 自分に悪いところがあると思ったから	10. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
4. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから	11. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
5. 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	12. その他 []
6. 思い出したくないから	13. 特になし
7. 世間体が悪いから	

自治基本条例についておたずねします。

問 31. あなたは市民参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

1. よく知っている	3. 聞いたことがある
2. まあまあ知っている	4. 知らない

問 31-2. 問 31 で「1. よく知っている」「2. まあまあ知っている」または「3. 聞いたことがある」と答えた方に

伺います。どのようにして「越谷市自治基本条例」のことを知り(聞き)ましたか。(複数回答可)

1. 広報こしがや	7. 友人・知人
2. テレビ広報番組「いきいき越谷」	8. 自治会やコミ協を通じて
3. 越谷市公式ホームページ	9. 市民活動団体やボランティア団体を通じて
4. 越谷市携帯サイト	10. 自治基本条例関連のイベント(シンポジウム、パネル展示等)
5. 越谷cityメール配信サービス	11. その他 []
6. パンフレット等の啓発物	

問 32. あなたは市政に関心がありますか。(〇は1つ)

1. とても関心がある	3. あまり関心がない
2. まあまあ関心がある	4. 関心がない

問 33. 多くの市民に市政に関心を持ってもらうためには、何が必要だと思いますか。(複数回答可)

1. 市政に関する情報をわかりやすく公開する	4. 市政への意見を出せる方法・手段等を増やす
2. 市政に関する情報を公開する機会を増やす	5. その他 []
3. 市民参加や協働に関する制度のPRを行う	

医療費適正化(医療費通知)についておたずねします。

問 34. あなたご自身の加入保険を教えてください。(〇は1つ)

1. 越谷市国民健康保険	3. 国民健康保険組合	5. その他 []
2. 被用者保険*	4. 後期高齢者医療制度	6. わからない

※被用者保険：全国健康保険協会・組合管掌健康保険・共済組合等

問 35. あなたは、健康保険から届く医療費通知*の内容を確認していますか。(〇は1つ)

1. 確認している	2. 確認していない
-----------	------------

※医療費通知：健康保険加入者に治療等にかかった医療費をお知らせするもの

問 35-2. 問 35 で「1. 確認している」と答えた方に伺います。あなたは、医療費通知を受け取ってどのように思いますか。

(ア～イ それぞれ横に〇は1つずつ)	思う	どちらとも いえない	思わない
ア 健康な身体づくりを意識しようと思う	1	2	3
イ 医療機関への適正な受診を心がけようと思う	1	2	3

市民農園についておたずねします。

問 36. あなたは「市民農園」で、畑を借りて野菜づくりをしたいと思いませんか。(〇は1つ)

1. 思う	2. 思わない
-------	---------

問 36-2. **問 36 で「1. 思う」と答えた方**に伺います。

「市民農園」を利用するうえで、どのような点を重視しますか。(複数回答可)

1. 利用料金	4. 場所
2. 設備 (駐車場・水道施設等)	5. その他 []
3. サービス (栽培指導等)	

問 36-3. **問 36 で「1. 思う」と答えた方**に伺います。

「市民農園」にどのような設備やサービスを求めますか。(複数回答可)

1. 駐車場	5. 栽培指導
2. 水道施設	6. 利用者間の交流イベント
3. 農機具の貸出	7. 特になし
4. 休憩施設	8. その他 []

問 36-4. **問 36 で「1. 思う」と答えた方**に伺います。「市民農園」を利用する場合、どの程度の利用料金であれば、利用したいと思いますか。(〇は1つ)

1. 年間 10,000 円～20,000 円未満	3. 年間 30,000 円～40,000 円未満
2. 年間 20,000 円～30,000 円未満	4. 年間 40,000 円以上

越谷市への愛着度についておたずねします。

問 41. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(〇は1つ)

1. とても愛着がある	4. 愛着がない
2. 愛着がある	5. どちらともいえない
3. やや愛着がある	

問 41-2. 問41で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。

その理由は何ですか。(複数回答可)

1. 交通の利便性がよく、都内等に近い	6. おいしい食事がある
2. 自然(水辺空間、農地等)が多く残されている	7. 地域の特産品(土産品)がある
3. ショッピング施設や商店街が豊富	8. 誇れる産業(企業)がある
4. イベント、祭り、伝統芸能が豊富	9. 誇れる著名人がいる
5. 歴史的建造物や誇れる街並みがある	10. その他 []

問 42. 越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

1. イオンレイクタウン	8. 花田苑・こしがや能楽堂
2. 田んぼアート	9. 日光街道宿場町としての蔵のある街並み
3. 越谷花火大会	10. だるまやせんべい等の伝統的手工芸品
4. 南越谷阿波踊り	11. こしがや鴨ねぎ鍋
5. 5本の1級河川等による水辺空間	12. 宮内庁埼玉鴨場
6. イチゴ狩り	13. その他 []
7. 越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物	

越谷市フィルムコミッション事業についておたずねします。

問 43. あなたは、フィルムコミッション事業(映画、CM、テレビなどの撮影の誘致・支援)が、地域活性化に貢献すると思いますか。(〇は1つ)

1. 思う	2. 少し思う	3. 思わない	4. わからない
-------	---------	---------	----------

問 43-2. 問43で「1. 思う」「2. 少し思う」と答えた方に伺います。

あなたは、具体的にどのような内容で地域活性化に貢献することを期待しますか。(複数回答可)

1. 市の知名度向上	4. 地域資源(魅力)の再発見
2. 地元への愛着度や地域一体感の醸成	5. 地域経済効果
3. 来訪者(観光客)の増加	6. その他 []

問 43-3. 問43で「1. 思う」「2. 少し思う」と答えた方に伺います。

あなたは、越谷市内のどこで映像(映画、テレビ番組、CM、プロモーションビデオなど)の撮影が行われると、地域活性化に貢献すると思いますか。(複数回答可)

1. 充実した公共施設(中央市民会館・こしがや能楽堂・市民球場・しらこぼと陸上競技場など)
2. 水や緑の豊かな景観(花田苑・キャンベルタウン野鳥の森・大相模調節池・元荒川土手・田園風景など)
3. 商業施設(商店街・イオンレイクタウン・越谷ツインシティなど)
4. 歴史ある街並み(越ヶ谷宿の面影を残す古民家など)
5. 寺社仏閣(久伊豆神社、大聖寺、浄山寺など)
6. その他 []

越谷市の商店街についておたずねします。

問 44. あなたは、商店街[※]主催のイベント等のうち、「知っている」または「参加したことのある」イベントや利用したことがある事業はありますか。

(ア～コ それぞれ横に○は1つずつ)

	利用・参加したことがある	利用・参加したことはないが知っている	知らない
ア 商店街の中元福引	1	2	3
イ 商店街の歳末福引	1	2	3
ウ 商店街のポイントカード事業	1	2	3
エ 商店街発行のガイドブックやマップ等	1	2	3
オ まちゼミ (越谷駅東口周辺、蒲生駅東口周辺)	1	2	3
カ 街バル (越谷駅周辺、北越谷駅周辺)	1	2	3
キ 雛めぐり・甲冑めぐり (越谷駅東口周辺)	1	2	3
ク 宿場まつり (越谷駅東口周辺)	1	2	3
ケ まるななマーケット (越谷駅東口周辺)	1	2	3
コ その他の商店街のイベント	1	2	3

※商店街…ショッピングモールなどの大型商業施設等ではなく、駅周辺などの複数の個店が集まった地域

問 44-2. あなたは、上記のイベント等が、商店街の利用にどのように影響していると思いますか。

(○は1つ)

1. 普段から商店街を利用しており、さらに利用したいと思う
2. 普段から商店街を利用しており、イベントの実施の有無はあまり影響がない
3. イベントをきっかけに商店街を利用し、今後も利用したい
4. イベントをきっかけに商店街を利用したが、今後利用したいと思わない
5. イベント等に参加していないが、今後商店街を利用したい
6. イベント等に参加していないし、今後商店街を利用したいとも思わない

問45. あなたの身近な商店街の満足度について、教えてください。(それぞれ〇は1つつ)

また、あなたが商店街に期待することについて、教えてください。(複数回答可)

(満足度については、ア～セにそれぞれ〇は1つつ)

(期待することについては、複数回答可)

	満足	やや満足	いえない どちらとも	やや不満	不満	期待すること
ア 個店の商品力 (品揃えの充実、質の高い商品の取扱いなど)	1	2	3	4	5	1
イ 接客サービスやおもてなし等	1	2	3	4	5	2
ウ イベント情報やお得なサービス等の情報発信	1	2	3	4	5	3
エ 商店街の店揃え (業種・業態)	1	2	3	4	5	4
オ クレジットカード等の電子決済の普及状況	1	2	3	4	5	5
カ ポイントカード等のお得なサービスの実施状況	1	2	3	4	5	6
キ 高齢者に対する配慮や支援 (宅配や御用聞きなど)	1	2	3	4	5	7
ク 子育てへの配慮や支援 (オムツ換えや授乳場所の設置、キッズメニューの充実など)	1	2	3	4	5	8
ケ 地域の防犯や防災に対する取組み (街路灯や防犯カメラなど)	1	2	3	4	5	9
コ 地域コミュニティの場作りに対する取組み (地域住民が集まる多目的スペース、子ども食堂など)	1	2	3	4	5	10
サ 環境に配慮した運動への取組み (エコバックや食品ロスの推進等)	1	2	3	4	5	11
シ 空き店舗対策への取組み (店舗やオフィスの誘致)	1	2	3	4	5	12
ス イベントの開催などの賑わい創出	1	2	3	4	5	13
セ 景観・街並み整備に対する取組み (商店街のアーケードやのぼり旗等の装飾、店先の看板・外観整備など)	1	2	3	4	5	14

越谷市の施策についておたずねします。

問 54. 市では様々な施策を進めています。ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中から**それぞれ5つまで**選び、下の□内に番号をご記入ください。

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					



1. 青少年の健全育成	21. ごみ・し尿の処理対策
2. 防犯対策	22. 公営住宅の整備などの住宅対策
3. 交通安全対策	23. 水害や地震などの災害対策
4. 消費者の保護対策	24. 市民の財産や生命を守る消防・救急対策
5. 女性の社会参加など男女共同参画の推進	25. 工業の振興対策
6. 国際交流	26. 商業の振興対策
7. 生活習慣病などの保健衛生対策	27. 農業の振興対策
8. 地域医療や救急医療体制の整備	28. 勤労者の福祉や雇用を促進する対策
9. 児童福祉の充実	29. 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実
10. 障がい者(児)福祉の充実	30. 生涯学習(公民館活動等)の充実
11. 高齢者福祉の充実	31. 芸術文化活動の振興や文化施設の整備
12. 介護保険の充実	32. スポーツ・レクリエーションの振興と施設の整備
13. 駅周辺の整備	33. 市民とのパイプ役としての広報広聴活動の充実
14. 土地区画整理事業などの市街地整備	34. 上水道の整備
15. 生活道路や都市計画道路の整備	35. その他 []
16. 道路の維持管理状況	36. 特になし
17. バス路線等公共交通網の充実	
18. 公園や緑地の整備	
19. 下水道(公共下水道や排水路)の整備	
20. 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策	

問 55. **問 64 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」**について、どのような対応(対策)を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて **7月7日(金)**までにご投函ください。

平成29年度 市政世論調査結果報告書

発行年月：平成29年11月

発行：越谷市 市長公室 広報広聴課

〒343-8501

埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

電話 048-963-9117（直通）